(財)米子市教育文化事業団
文化財発掘調査報告書 51

鳥取県米子市

吉谷亀尾前遺跡
古市六反田遺跡

2006.3

財団法人　米子市教育文化事業団

吉谷亀尾前遺跡・古市六反田遺跡発掘調査報告書正誤表

頁	名称	誤	正
66p	遺物番号	5	7
66p	遺物番号	6	5
66p	遺物番号	7	8
66p	遺物番号	8	6
66p	遺物番号	21	24
66p	遺物番号	22	25
66p	遺物番号	23	21
66p	遺物番号	25	22
66p	遺物番号	26	27
66p	遺物番号	27	23
66p	遺物番号	34	35
66p	遺物番号	35	37
66p	遺物番号	36	34
66p	遺物番号	37	36
67p	遺物番号	72	73
67p	遺物番号	73	72
67p	遺物番号	85	86
67p	遺物番号	86	85
68p	遺物番号	119	120
68p	遺物番号	120	119
68p	遺物番号	124	125
68p	遺物番号	125	124
68p	遺物番号	136	137
68p	遺物番号	137	136
69p	遺物番号	163	164
69p	遺物番号	164	163
69p	遺物番号	190	193
69p	遺物番号	191	190
69p	遺物番号	193	191
70p	遺物番号	210	211
70p	遺物番号	211	210
70p	遺物番号	212	213
70p	遺物番号	213	212
70p	遺物番号	224	225
70p	遺物番号	225	224
70p	遺物番号	226	227
70p	遺物番号	227	226
70p	遺物番号	230	231
70p	遺物番号	231	230
71p	遺物番号	266	267
71p	遺物番号	267	266
71p	遺物番号	268	269
71p	遺物番号	269	268
71p	遺物番号	284	286
71p	遺物番号	285	284
71p	遺物番号	286	287
71p	遺物番号	287	288
71p	遺物番号	288	285
72p	遺物番号	301	302
72p	遺物番号	302	301

頁	名称	誤	正
73p	遺物番号	376	379
73p	遺物番号	377	376
73p	遺物番号	378	377
73p	遺物番号	379	378
73p	遺物番号	384	385
73p	遺物番号	385	384
73p	遺物番号	388	389
73p	遺物番号	389	388
73p	遺物番号	392	393
73p	遺物番号	393	392
73p	遺物番号	394	397
73p	遺物番号	395	394
73p	遺物番号	396	395
73p	遺物番号	397	396
74p	遺物番号	402	403
74p	遺物番号	403	402
74p	遺物番号	411	412
74p	遺物番号	412	413
74p	遺物番号	413	411
74p	遺物番号	414	415
74p	遺物番号	415	414
74p	遺物番号	433	435
74p	遺物番号	434	436
74p	遺物番号	435	433
74p	遺物番号	436	437
74p	遺物番号	437	434
75p	遺物番号	449	451
75p	遺物番号	450	449
75p	遺物番号	451	450
75p	遺物番号	469	471
75p	遺物番号	470	469
75p	遺物番号	471	470
図版4	遺物番号	21	24
図版4	遺物番号	22	25
図版4	遺物番号	23	21
図版4	遺物番号	24	26
図版4	遺物番号	25	22
図版4	遺物番号	26	27
図版4	遺物番号	27	23
図版4	遺物番号	34	35
図版4	遺物番号	35	34
図版5	遺物番号	47	60
図版5	遺物番号	60	47
図版5	遺物番号	72	73
図版5	遺物番号	73	72
図版6	遺物番号	119	120
図版6	遺物番号	120	119
図版6	遺物番号	124	125
図版6	遺物番号	125	124
図版7	遺物番号	136	137

頁	名称	誤	正
図版7	遺物番号	137	136
図版9	遺物番号	210	211
図版10	遺物番号	224	225
図版10	遺物番号	225	224
図版10	遺物番号	227	226
図版10	遺物番号	230	231
図版10	遺物番号	231	230
図版10	遺物番号	226	227
図版11	遺物番号	266	267
図版11	遺物番号	267	266
図版12	遺物番号	284	286
図版12	遺物番号	285	284
図版12	遺物番号	286	287
図版12	遺物番号	287	288
図版12	遺物番号	288	285
図版12	遺物番号	302	301
図版15	遺物番号	375	376
図版15	遺物番号	378	375
図版15	遺物番号	379	378
図版15	遺物番号	384	385
図版15	遺物番号	385	384
図版15	遺物番号	388	389
図版15	遺物番号	389	388
図版15	遺物番号	392	393
図版15	遺物番号	393	392
図版15	遺物番号	394	397
図版15	遺物番号	395	394
図版15	遺物番号	396	395
図版15	遺物番号	397	396
図版15	遺物番号	402	403
図版15	遺物番号	403	402
図版15	遺物番号	412	413
図版15	遺物番号	413	411
図版15	遺物番号	414	415
図版15	遺物番号	415	414
図版16	遺物番号	411	412
図版16	遺物番号	433	435
図版16	遺物番号	434	436
図版16	遺物番号	436	437
図版16	遺物番号	435	433
図版16	遺物番号	437	434
図版17	遺物番号	449	451
図版17	遺物番号	450	449
図版17	遺物番号	451	450
図版17	遺物番号	456	457
図版17	遺物番号	469	471
図版17	遺物番号	470	469
図版17	遺物番号	471	470
図版18	遺物番号	503	505

頁・名称	遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm)				焼成	色調	胎土	調整	備考
					口径	残存高	底径	径					
76p	503	53	坏	—	11.8	3.0			良好	暗青灰色	緻密	ナデ	
76p	513	53	甕	D	28.0	3.8			良好	内)灰褐色 外)灰色	密1mmの砂粒含む	ナデ	

序

米子市は平成17年の春、隣接する淀江町と合併し、大山の麓に広大な自然と歴史・文化を有する都市に変わりました。

合併に伴って当市では、歴史・文化を踏まえたプロジェクトとして、「伯耆の国よなご文化創造計画」を掲げ、豊かな心を育む教育と文化のまちづくりを、市民・行政が一体になって取り組んでいこうとしています。その中において、文化財の保護と活用も基本計画に掲げられています。

今回、鳥取県から委託を受けて実施した「吉谷亀尾前遺跡、古市六反田遺跡」の発掘調査報告書を刊行することになりました。調査では、主に弥生時代から古墳時代末までの遺物が多く発見されました。この報告書が、今後さまざまな分野で広く活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、今回の調査に当たって多くの方々にお世話になりました。指導、ご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

平成18年3月

財団法人　米子市教育文化事業団

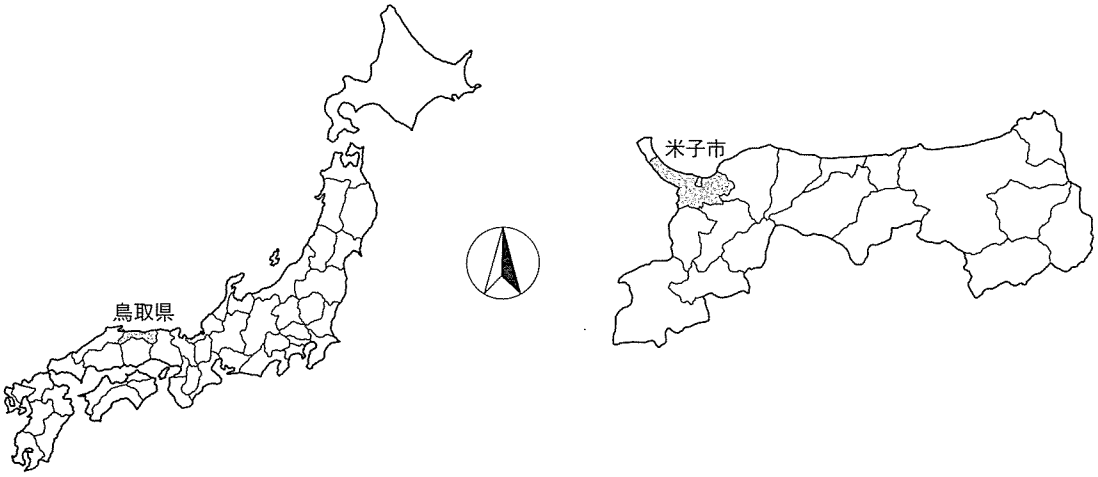
理事長　**足　立　　操**

例　　言

1　本書は鳥取県西部総合事務所の依頼を受けて、財団法人米子市教育文化事業団が平成16年度と平成17年度に実施した、一般県道米子岸本線地方道路交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2　本書の図中の方位は磁北で、表記した座標値は国土座標第Ｖ系の座標地である。またレベルは海抜標高を示す。
3　本書に記載した第２図の地形図は平成４年11月１日、国土地理院発行の２万５千分の１地形図「母里」、平成９年３月１日、国土地理院発行の２万５千分の１地形図「伯耆溝口」、第４図の地形図は平成17年１月１日、国土地理院発行の５万分の１地形図「米子」を加筆して使用した。
4　本書に記載した第３図の地形図は昭和63年10月修正米子境港都市計画地図（米子市）を複写して掲載している。
5　調査に当たって、出土遺物の保存処理を吉田生物研究所に、自然科学分析を文化財調査コンサルタント㈱・吉田生物研究所及び古環境研究所に委託した。
6　発掘調査によって出土した遺物は、米子市教育委員会が保管している。
7　本書の執筆及び編集は（財）米子市教育文化事業団が行った。

凡　　例

1　遺物実測のうち、須恵器は断面を黒塗り、その他の遺物は断面を白抜きで示した。
2　遺跡の略称は、吉谷亀尾前遺跡をＹＴＫＭ，古市六反田遺跡をＦＩＲＴとした。
3　遺物実測図の縮尺は土器・石器を１/３、木器１/４を基本とし、それぞれ大型、小型のものについては適度な縮尺で掲載している。
4　本文、挿図及び写真図版中の番号は一致する。
5　石器の重量測定には、新光電子社製ＤＪ－３０００を使用した。



第１図　米子市位置図

目　　次

序
例言
凡例
目次
第１章　調査の経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の体制 …… 2
第２章　位置と環境 …… 3
　第１節　位置 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　吉谷亀尾前遺跡の調査 …… 7
　第１節　調査の経過と方法 …… 7
　第２節　調査区内の堆積 …… 8
　第３節　遺構について …… 10
　第４節　遺物について …… 22

第４章　古市六反田遺跡の調査 …… 77
　第１節　調査の経過と方法 …… 77
　第２節　調査区内の堆積 …… 78
　第３節　遺物について …… 80
第５章　まとめ …… 80
第６章　特論
「吉谷亀尾前遺跡調査における自然科学分析」 …… 85
　　文化財調査コンサルタント株式会社

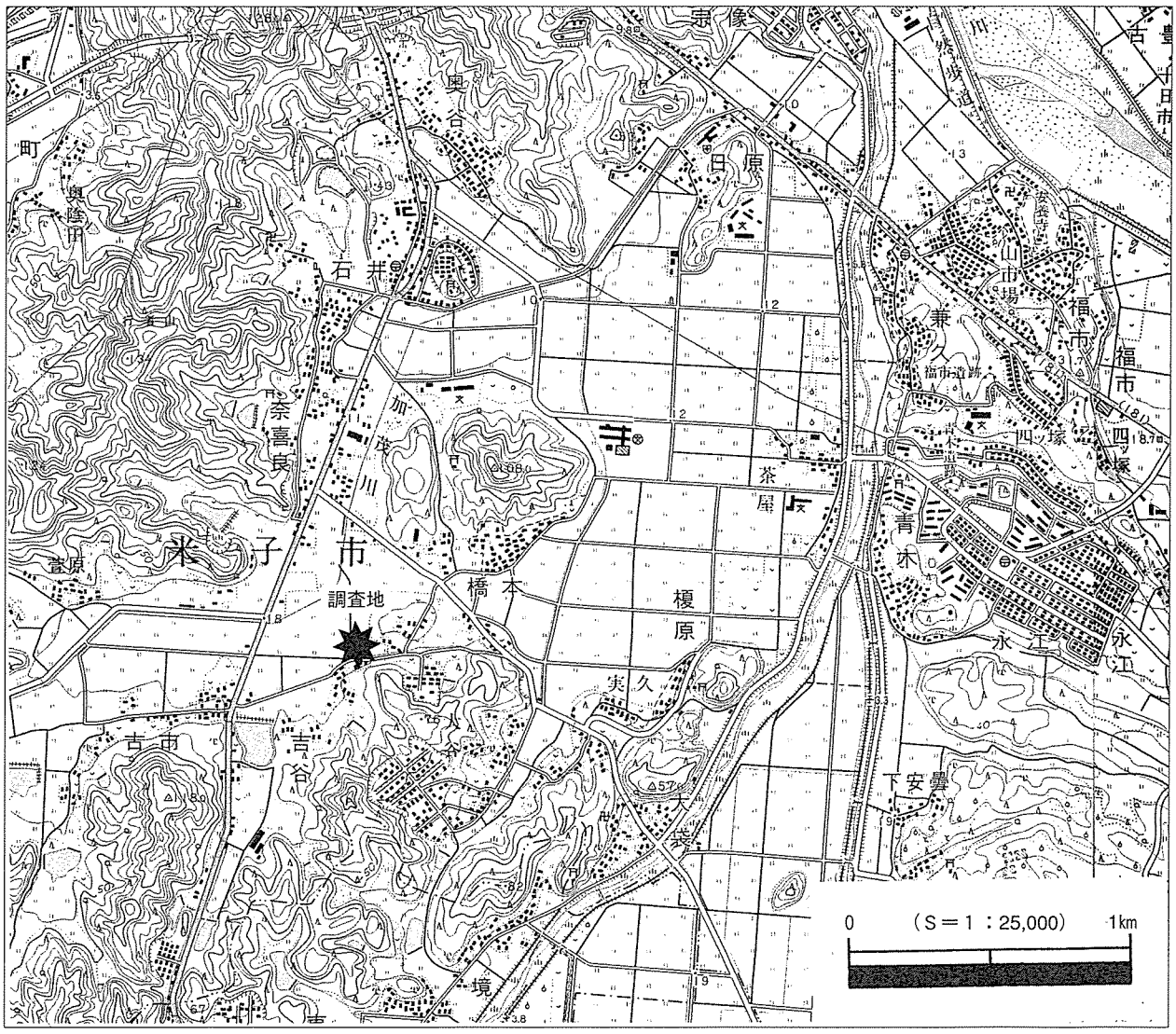
第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は、鳥取県が進める一般県道米子岸本線地方道路交付金工事に伴い、文化財の保護を目的とした調査である。この事業に伴う調査として、当事業団では平成12年度に吉谷亀尾ノ上遺跡・橋本徳道西遺跡１区、平成13年度橋本徳道西遺跡４区・５区の調査[註1]が行われ、弥生時代から奈良時代の遺構と遺物が確認されている。また鳥取県においても平成14年度に橋本漆原山遺跡・橋本徳道遺跡の調査[註2]を行い、弥生時代から近世までの遺構・遺物を確認している。

これを受けて平成15年度に米子市教育委員会が試掘を行った結果、遺物の包含層が確認され、鳥取県との協議の結果、吉谷亀尾前遺跡及び、古市六反田遺跡の道路側溝部分の調査を平成16年度に、残る古市六反田遺跡の調査を平成17年度に行うこととなった。平成16年度調査は、平成16年10月12日から平成17年１月11日まで行い、平成17年度調査は、平成17年６月１日から平成17年６月17日まで行った。

調査の結果、吉谷亀尾前遺跡では溝状遺構１、土壙２の遺構を確認し、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵



第２図　吉谷亀尾前遺跡・古市六反田遺跡位置図

器・石器・木器等が出土した。中でも土師器は集中して出土し、コンテナ約60箱にも及んだ。
古市六反田遺跡では遺構の検出はできなかったが、土師器が多く出土した。

註１　高橋浩樹　「吉谷亀尾ノ上遺跡・橋本徳道西遺跡」『財団法人米子市教育文化事業団』2003
註２　下江健太他　「橋本遺跡群」『財団法人鳥取県教育文化財団』2003

第２節　調査の体制

平成16年度調査

調査主体　財団法人米子市教育文化事業団
　　理　事　長　山岡　　宏
　　埋蔵文化財調査室
　　室　　長　比企　　裕
調査担当　　主　　任　平木　裕子
　　臨時職員　　森田　静香
　　非常勤職員　田中　昌子
調査指導　　米子市教育委員会

平成17年度調査

調査主体　財団法人米子市教育文化事業団
　　理　事　長　山岡　宏（平成17年５月25日まで）
　　理　事　長　足立　操（平成17年５月25日から）
　　埋蔵文化財調査室
　　室　　長　比企　　裕
調査担当　　主　　任　平木　裕子
　　臨時職員　　森田　静香
　　非常勤職員　田中　昌子
調査指導　　米子市教育委員会

作業員
池本　拓　入沢美智子　石塚祐二　植佐知子　梅林明子　浦木　勲　大木宏生
大江由美子　大下醇子　加藤晴己　金築千恵子　木京千尋　桜田孝具　垂水裕之
中原明子　野口　稔　野本　薫　野本次郎　原　孝子　原　満留　福嶋昌子
細田恵美　本田　修　本田勝二郎　本田　昇　本田美雪　宮田紀子　安江満つ美
渡部安子（敬称略）

第２章　位置と環境

第１節　位置

今回調査を行った吉谷亀尾前遺跡と古市六反田遺跡は、米子市の南西部の吉谷・古市地区に広がる弥生時代から古墳時代にかけての遺物散布地である。

米子市は鳥取県の最西端に位置し、古くから「山陰の商都」と称されるように商業で栄えた鳥取県西部の中核都市である。平成17年に東部に隣接する淀江町との合併により総面積132.21㎡、人口約15万人となった。

地形的には、米子市は日野川の沖積作用によって形成された山陰では比較的広い平野である米子平野に広がり、周辺部を東側に大山（標高1,729m）とその造山活動によって形成された火山灰台地、南側から西側には中国山地から続くなだらかな丘陵によって囲まれる。北側には日野川の流出土砂の堆積によって形成された弓ヶ浜半島が島根半島へと延び、これらの半島に囲まれた汽水湖中海に面する。

吉谷亀尾前遺跡と古市六反田遺跡は、米子市街地の南西約４㎞に位置し、南の丘陵を越えると南部町（旧会見町・旧西伯町）、西の丘陵を越えると島根県という県・市町村の境界の地である。母塚山（標高272m）から派生する丘陵地帯の先端部に位置する。東側には法勝寺平野が広がる。

第３図　吉谷亀尾前遺跡・古市六反田遺跡調査範囲図

第４図　周辺遺跡分布図

1	吉谷亀尾前遺跡 古市六反田遺跡
2	吉谷亀尾ノ上遺跡
3	橋本徳道西遺跡
4	吉谷遺跡
5	橋本遺跡
6	橋本七尾城
7	奈喜良遺跡
8	吉谷トコ遺跡
9	吉谷上ノ原山遺跡
10	吉谷中馬場山遺跡
11	吉谷銭神遺跡
12	吉谷屋奈ヶ垰遺跡
13	古市遺跡群
14	新山要害
15	新山遺跡群
16	陰田遺跡群
17	陰田子犬田遺跡 陰田荒神谷遺跡
18	陰田ヒチリザコ遺跡 マヌカンヤマ遺跡
19	陰田第6遺跡
20	陰田第7遺跡
21	口陰田遺跡
22	陰田古墳群
23	陰田第1遺跡
24	石井要害

25	奥谷堀越谷遺跡
26	日原6号墳
27	東宗像古墳群
28	宗像古墳群
29	大垰山横穴墓群
30	長砂第2遺跡
31	長砂第1遺跡
32	水道山古墳
33	長砂第3遺跡
34	池ノ内遺跡
35	目久美遺跡
36	米子城跡
37	四日市町遺跡
38	錦町第1遺跡
39	車尾7丁目西演中遺跡
40	今在家下井ノ上遺跡
41	福市遺跡
42	青木遺跡
43	樋ノ口第4遺跡
44	樋ノ口第3遺跡
45	諏訪1号墳
46	別所中原地下式横穴
47	諏訪西山ノ後遺跡
48	諏訪南山崎遺跡
49	長者原遺跡
50	諏訪チンゴ原遺跡
51	別所遺跡群

52	放レ山遺跡
53	下安曇遺跡群
54	上安曇古墳群
55	大袋丸山遺跡
56	諸木遺跡
57	天万遺跡
58	宮尾遺跡
59	三崎殿山古墳
60	天萬土井前遺跡
61	普段寺1号墳
62	寺内8号墳
63	枇杷谷遺跡
64	福成早里遺跡
65	福成石佛前遺跡
66	福成古墳群
67	清水谷遺跡
68	高姫古墳群
69	天王原遺跡
70	口朝金遺跡
71	越敷山遺跡
72	長者屋敷遺跡
73	坂長廃寺跡
74	大寺廃寺跡
75	越敷ヶ丘遺跡
76	岸本大成遺跡
77	草田遺跡
78	貝田原遺跡

79	久古第3遺跡
80	久古北田山遺跡
81	番原遺跡群
82	林ヶ原遺跡
83	下山南通り遺跡
84	藍野遺跡
85	真野ブヤ原遺跡
86	丸山朝日当遺跡
87	岸本下ノ原遺跡
88	福岡古墳群
89	石州府古墳群
90	日下寺山遺跡
91	日下古墳群
92	日下堂平遺跡
93	石田古墳群
94	尾高浅山遺跡
95	岡成古墳群
96	泉角屋敷遺跡
97	尾高御立山遺跡
98	尾高古墳群
99	中間古墳群
100	坂ノ上遺跡
101	壺瓶山古墳群
102	小波山古墳群
103	大下畑遺跡
104	百塚第1遺跡百塚第2遺跡

105	百塚第4遺跡百塚第6遺跡
106	百塚第5遺跡百塚第8遺跡
107	百塚第7遺跡
108	百塚古墳群
109	西尾原古墳群
110	中西尾古墳群
111	河原田遺跡
112	渡り上り遺跡
113	鮒ヶ口遺跡
114	角田遺跡
115	高井谷古墳群
116	福吉古墳群
117	四十九谷横穴墓群
118	小枝山瓦窯跡
119	城山古墳群
120	小枝山古墳群
121	上淀廃寺跡
122	向山古墳群
123	瓶山古墳群
124	井手袴遺跡
125	福岡遺跡
126	今津岸の上遺跡
127	北尾宮迫遺跡
128	楚利遺跡
129	晩田遺跡
130	晩田山古墳群

131	妻木晩田遺跡
132	妻木山古墳群
133	番田山古墳群
134	源平山古墳群
135	大新田遺跡
136	宮内古墳群
137	仁王堂遺跡
138	平古墳群
139	徳楽方墳
140	長田古墳群
141	宮尾山古墳群
142	塚田遺跡
143	原畑遺跡
144	大道原遺跡
145	新田原遺跡
146	唐王遺跡
147	国信第1遺跡
148	上野遺跡
149	福尾第1遺跡
150	大塚屋敷遺跡
151	大塚塚根遺跡
152	大塚岩田遺跡
153	古御堂遺跡
154	押平天王屋敷遺跡
155	茶畑遺跡
156	茶畑古墳群

第１表　周辺遺跡一覧表

第２節　歴史的環境

この地で人類の痕跡が見られるようになるのは縄文時代になってからで、奈喜良遺跡[7]・陰田宮の谷遺跡[16]でサヌカイト製の有舌尖頭器が出土している。隣接する南部町でも諸木遺跡[56]（旧会見町）・福成石佛前遺跡[65]（旧西伯町）で出土している。その他目久美遺跡[35]では多数の石錘や獣骨、ドングリ貯蔵穴、青木遺跡[42]で落し穴群が検出され、新山山田遺跡[15]、古市遺跡群[13]においても縄文時代の遺構・遺物は出土しているが、集落としての全体像は不明である。この時期の遺跡の分布の中心は日野川の東岸に見られる。旧淀江地区では、多量の石錘・黒耀石剥片とともに木製漁猟具が出土した早期から前期の渡り上り遺跡[112]、隣接する鮒ヶ口遺跡[113]では曽畑式土器が出土している前期の遺跡である。河原田遺跡[111]では、後期から晩期にかけての土器が多量出土しているほか、井手胯遺跡[124]では漆塗櫛・耳環をはじめとする漆製品が出土している。百塚遺跡群[104~107]では住居跡・落し穴が検出されている。その他、縄文時代の遺跡としては上福万遺跡[15]・清水谷遺跡[15]・陰田第１遺跡[15]・陰田第７遺跡[15]・陰田第９遺跡[15]なども知られる。

弥生時代になり海退が進むとともに低湿地が広がり、水田が開かれるようになる。そしてその周辺の微高地では集落が営まれるようになる。前期の遺跡としては、目久美遺跡・池ノ内遺跡[34]・長砂第１・２遺跡[30・31]・錦町第１遺跡[38]などがある。淀江平野の北部の今津岸の上遺跡[126]では前期末の環濠が確認されたほか、初期稲作集落が形成されたことが窺える。

中期になると丘陵にも集落が営まれるようになるが、大規模で長期間継続するものと、小規模で短期間で消滅するものとに分かれる。吉谷周辺でも前期から後期まで断続的に集落が引き続き営まれている。淀江地区においても平地から微高地にかけて晩田遺跡[129]、北尾宮迫遺跡[127]、角田遺跡[114]、福岡遺跡[125]など集落が分散して営まれるようになる。中でも角田遺跡で出土した線刻絵画は、当時の生活様式はもちろん精神世界を知るうえにおいても貴重な資料といえる。福岡遺跡で確認された粘土採掘坑は、土器製作に用いられたものと考えられる。

日野側東岸の拠点的遺跡には、目久美遺跡・青木遺跡・越敷山遺跡群[71]・橋本遺跡群[5]周辺には、吉谷亀尾ノ上遺跡[2]が挙げられる。

後期になるとムラを統括する首長が出現するようなるが、青木遺跡、福市遺跡、越敷山遺跡など中期から引き続き大規模な集落を形成する。一方、尾高浅山遺跡１号墓[94]や日下１号墓[91]で知られる四隅突出型墳丘墓が発達する。

特に淀江地区では国内最大の高地性集落として知られる妻木晩田遺跡[131]が出現する。ここでは集落・環濠および墳丘墓が確認されるなど、国家形成期の地方の様相を示す遺跡として注目される。

古墳時代になるとこの辺りにも勢力をもった集団の存在を裏付けるかのように古墳が築かれるようになる。前期の古墳としては、三角縁神獣鏡が出土した普段寺１号墳[61]・２号墳、石州府29号墳[89]、日原６号墳[26]が知られる。普段寺１号墳は前方後円墳、普段寺２号墳・日原６号墳は方墳、石州府29号墳は円墳である。淀江地区においては晩田山古墳群[130]において墳墓が確認される。

中期の古墳としては三崎殿山古墳[15]などがみられる。また米子平野周辺の丘陵部には多くの古墳群が存在する。周辺部では、陰田・新山遺跡群、新山・古市遺跡群で、数基の古墳が見られのみであるが、日野川西側では、福成早里古墳群[64]、宗像古墳群[28]、東宗像古墳群[27]、日野川東側では、尾高古墳群[98]、日下古墳群[91]、石州府古墳群[89]などの古墳群がみられる。淀江地区においては上ノ山古墳が築造され、ここでは竪穴式石室から、内行花文鏡・滑石製小勾玉・甲冑の出土している。中期後半に

なると向山３号墳[122]や坂ノ上１号墳[100]が築造されるが、盾持人などの形象埴輪が多量に出土した井出挟３号墳[15]や径40mを測る日吉塚古墳[15]などが含まれる中西尾古墳群[15]において、淀江平野を支配した首長墓の系譜が窺がえる。

後期になると米子平野において横穴式石室を主体部とする古墳と、横穴墓の両方が展開するいくつもの古墳群が形成されるようになる。中でも石州府古墳群[15]、東宗像古墳群[15]、宗像古墳群[15]、陰田古墳群[15]などがよく知られる。淀江地区においても古墳の数は増え広く分布するようになるが、首長の系譜は向山古墳群[122]に移ったようで、石馬谷古墳、長者ヶ平古墳、岩屋古墳などが築造される。一方茶畑遺跡[155]、宮内遺跡[136]、平遺跡[138]、長田遺跡[140]、城山遺跡[119]、稲吉遺跡[116]、四十九谷遺跡[117]、高井谷遺跡[115]、中西尾遺跡[110]、西尾原遺跡[109]、百塚遺跡[108]、壺瓶山遺跡[101]、小波上遺跡[120]、中間遺跡[99]など古墳群・横穴墓群などが多く造営される。平野部においては、集落は弥生時代から引き続いて営まれるものの他に、新山山田遺跡・新山砥石山遺跡[15]、古市カワラケ田遺跡[15]などがみられる。

一方集落遺跡は、福市遺跡[41]、青木遺跡など日野川東岸の丘陵上に多く展開するが、吉谷古市周辺においても、奥谷掘越谷遺跡[25]、奈喜良遺跡、吉谷上ノ原山遺跡[9]、吉谷トコ遺跡[8]、新山砥石山遺跡、新山山田遺跡などが知られる。

奈良時代以降の遺跡としては、墨書土器や木簡など官衙に関する遺物が出土している陰田・新山遺跡が知られているが、吉谷銭神遺跡[11]、吉谷中馬場山遺跡[10]でも墨書土器や赤色塗彩土師器などが出土している。その他福市・青木遺跡、淀江地区の百塚遺跡群で集落跡が確認されている。

白鳳期には全国的に多くの寺院が建立されるようになるが、国内最古級の仏教壁画が出土したことで注目された上淀廃寺跡[15]が有名である。

中世遺跡の城館跡としては、中世の拠点であったと思われる尾高城[15]が米子平野の丘陵上にある。吉谷古市周辺では山名氏支配下の国人によって構築されたと思われる新山要害[15]、石井要害[15]、橋本七尾城[15]などがある。そのほか、中世の遺跡としては、青木古墓、諏訪１号墳[45]、別所長峰古墓[51]、長砂経塚、中山経塚などがある。

近世になると米子は中村氏→加藤氏→池田氏→荒尾氏と支配されるようになり、その過程で米子城周辺に城下町が発展する（米子城跡[15]）。

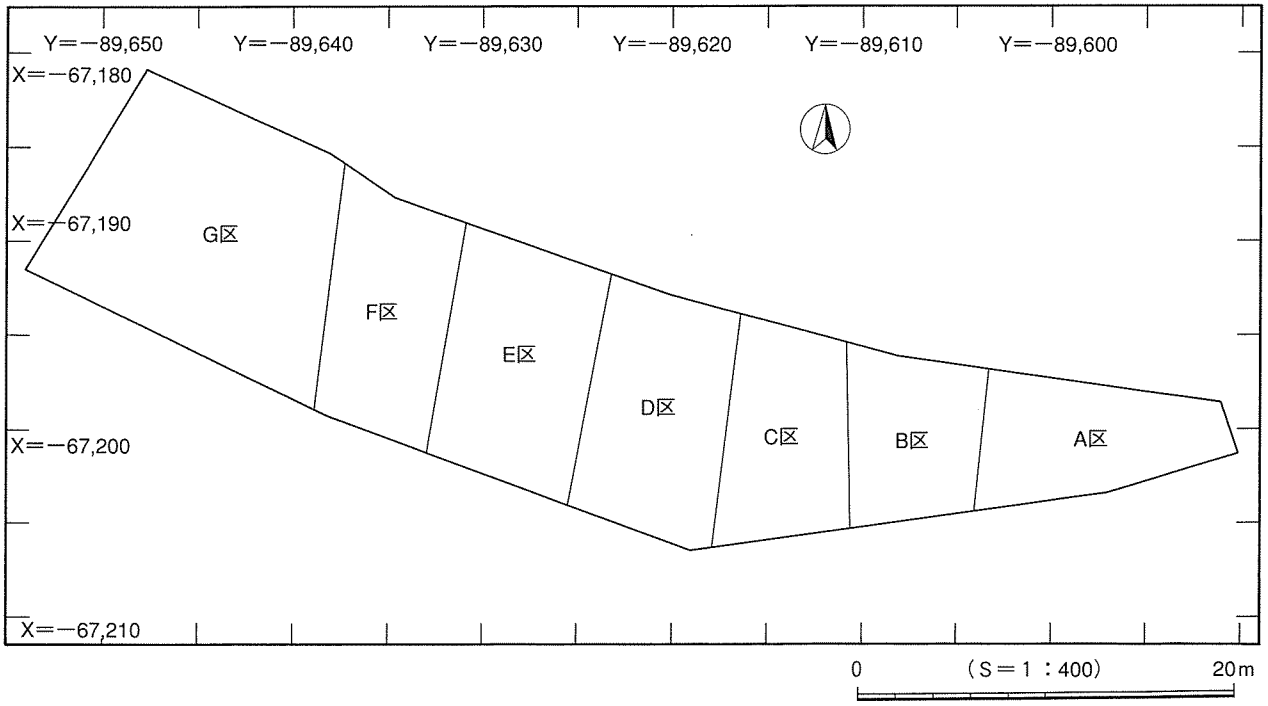
第３章　吉谷亀尾前遺跡の調査

第１節　調査の経過と方法

現地調査は、平成16（2004）年10月12日から開始し、平成16（2004）年12月28日まで行った。調査面積は490㎡で、現地表面から約1.5ｍの深さまで掘り下げた。調査地は南側に位置する丘陵の裾野に当たり、調査地の東側Ａ区では約30㎝掘り下げたところで地山である白色粘土の岩盤が検出され、岩盤は北西方向に向かって緩やかに傾斜する。調査地の東南には平成13年に調査された、吉谷亀尾ノ山遺跡・橋本徳道西遺跡がある。調査地は標高12ｍで水田として利用されていた。

地表面から50～60㎝までの現在の耕作土を重機によって除去した後、かなりの湧水が考えられたため、周囲及び調査地を横断する溝を設定したうえで、人力により１面ずつ掘り下げていった。調査区の区割りは、排水のための横断排水路ごとに７分割し、東端をＡ区とし、西端Ｇ区までを設定した。南側の壁面で土層観察を行い、主だった層では自然化学分析を行った。分析結果については後述する。

遺物の取上げ、遺構の実測については、トータルステーションを使用した。調査の結果、遺構としては平安時代のものと考えられる池状遺構、時期不明の土壙及び溝上遺構を検出した。遺物は大量の土師器のほか、弥生土器、須恵器、陶磁器、木製品、石製品等が出土した。



第５図　吉谷亀尾前遺跡調査区設定図

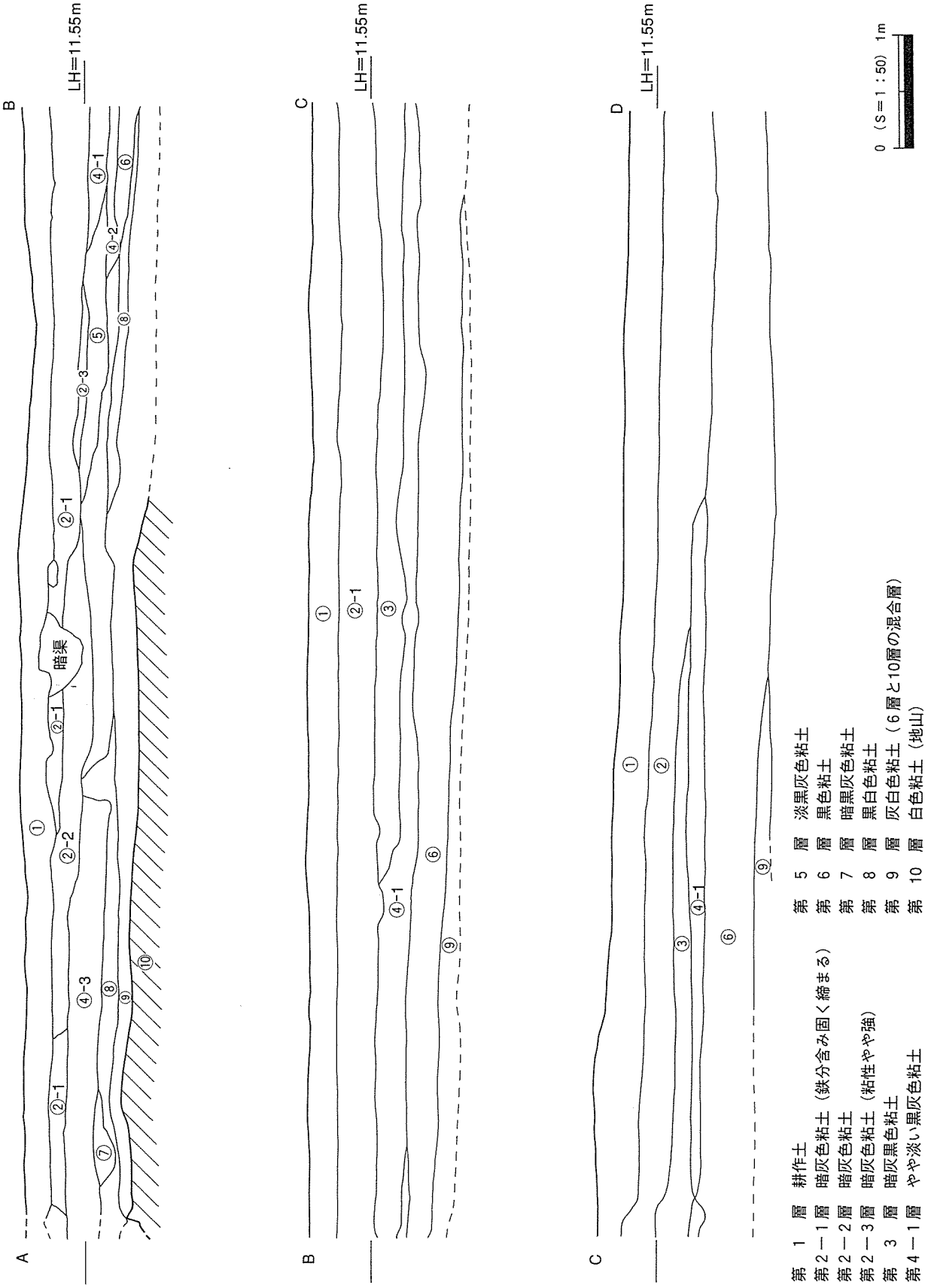
第２節　調査区内の堆積（第６図）

調査地の地形は、母塚山から派生する小丘陵の裾野にあたることから、調査地の南東側から北西側に向けて緩やかに傾斜する。土層観察は調査地の南側壁面で行った。

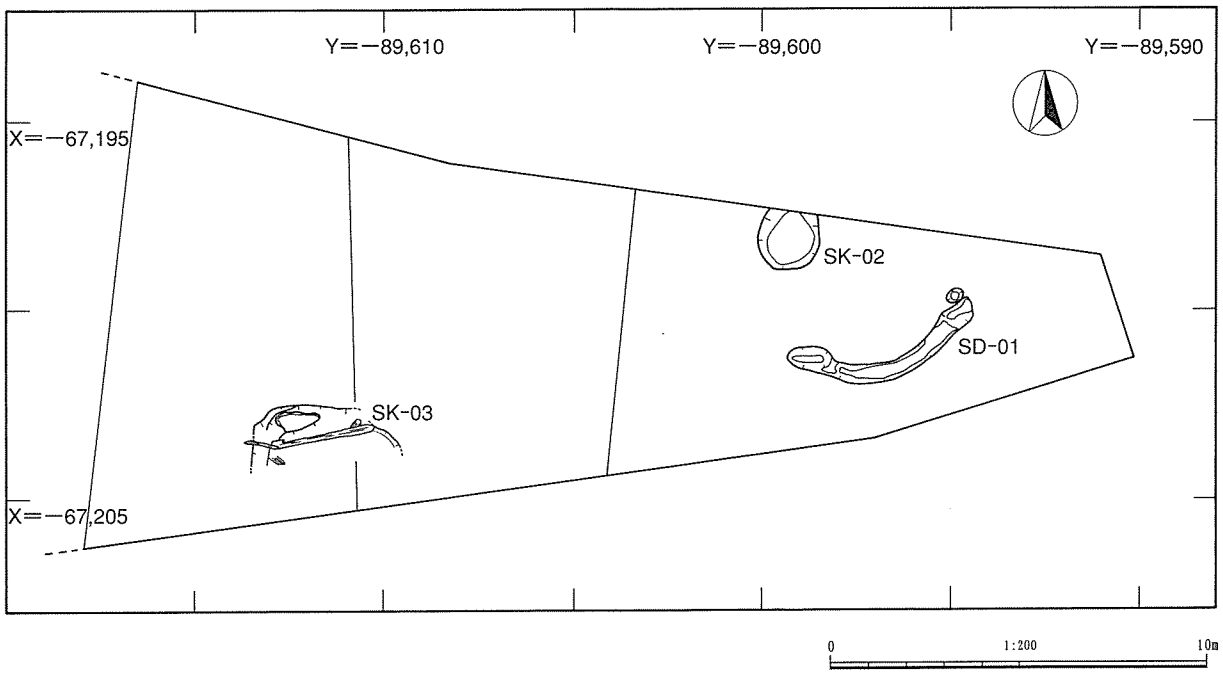
調査区の堆積は、旧耕作土までは水平に堆積している。A区では地山が高い位置で検出され、A区の半分は耕作土の下がすぐ地山であった。その下は傾斜によって厚みは北西側に行くにしたがって次第に厚くはなるが、層序はほぼ同じである。

第　1　層　耕作土
第２－１層　暗灰色粘土（鉄分含み固く締まる）
第２－２層　暗灰色粘土
第２－３層　暗灰色粘土（粘性やや強）
第　3　層　暗灰黒色粘土
第４－１層　やや淡い黒灰色粘土
第４－２層　4-1より粘性強
第４－３層　4-1より黒い
第　5　層　淡黒灰色粘土
第　6　層　黒色粘土
第　7　層　暗黒灰色粘土
第　8　層　黒白色粘土
第　9　層　灰白色粘土（６層と10層の混合層）
第　10　層　白色粘土（地山）

第１層は現在の耕作土、第２層は旧耕作土と思われるが上層部分は鉄分を多く含み大変固い層である。第３層は暗灰黒色粘土で、第４層及び第５層は遺物包含層である。第６層黒色粘土で、第７層暗黒灰色粘土で、第８層と第９層は混じりのない安定した粘土層である。第10層は真白な粘性の大変強い層である。



第6図　吉谷亀尾前遺跡土層断面図



第７図　吉谷亀尾前遺跡遺構配置図

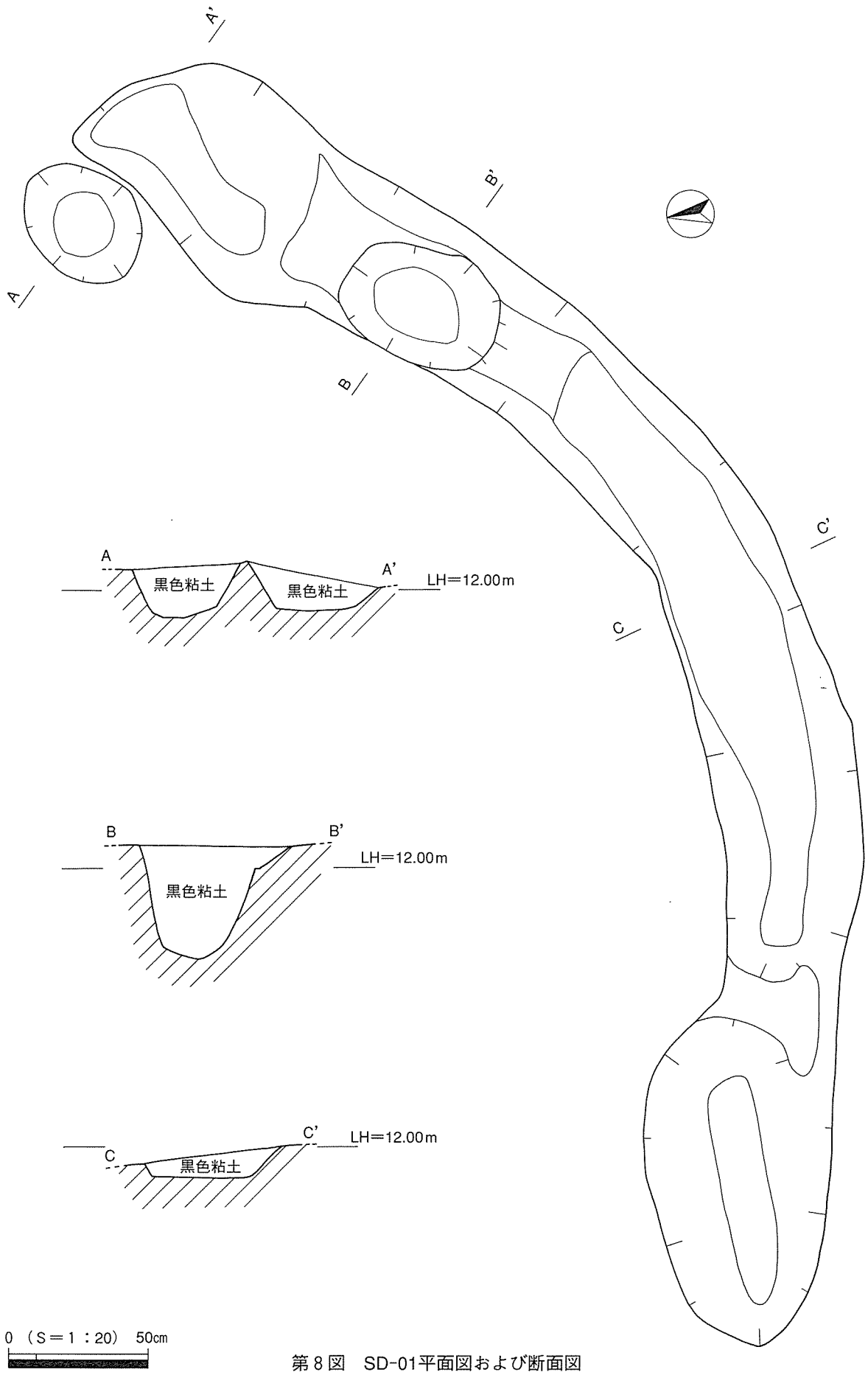
第３節　遺構について

Ａ区で溝状遺構（SD−01）と土壙（SK−02）を１基ずつ、Ｃ区で池状遺構（SK−01）を１基検出した。

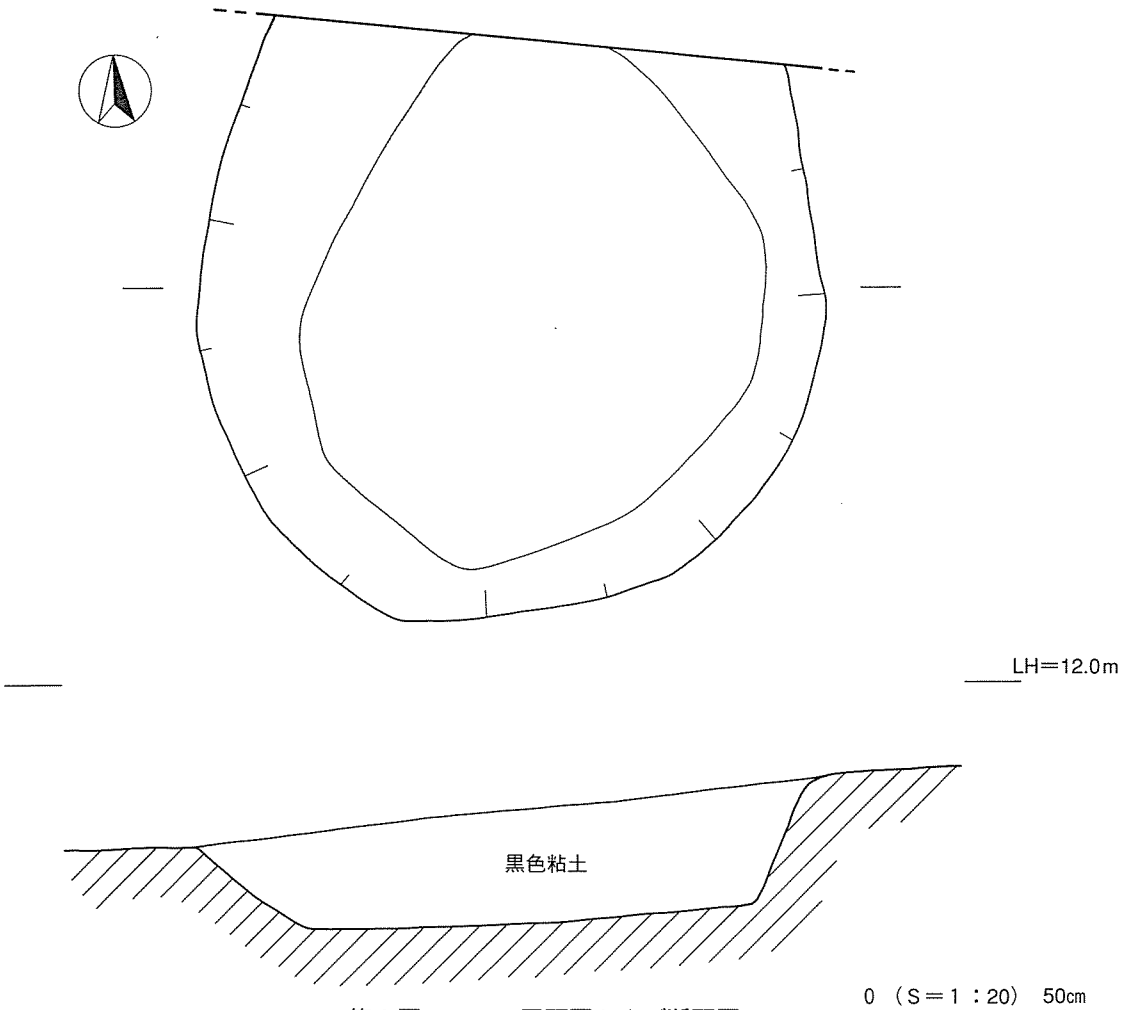
SD−01　Ａ区のほぼ中央にやや弧を描くように地山を掘り込む状態で検出された。幅40cmから70cm・深さ約10cmの断面は逆台形を呈する溝である。溝の西端は自然消滅しており、東端も途中で途切れた状態で、はっきり溝と分かる長さは約5.58mであった。溝の途中には長径60cm・短径42cm・深さ40cmの楕円形を呈するPit状の落込みを、また、溝の北東端には長径50cm・短径38cm・深さ約20cmの楕円形を呈するPit状の落込みを確認した。住居跡等の可能性も考えたが、それに結びつくようなものを確認することはできなかった。溝の東側では多数の小穴を検出したが、直上が水田だったことから恐らく稲穴と考える。遺物としては、須恵器と土師器の小片が溝の中から出土している。

SK−02　Ａ区の溝状遺構の北西側で検出した。北側の一部を溝によって切られているが、径166cm・深さ29cmのほぼ円形を呈する土壙を検出した。中からは何も検出されず、時期及び性格については不明である。

SK−01　Ｂ区・Ｃ区の南端部で検出した。調査区の境界での検出のため全体を調査することができなかったため、その全容を明らかにすることはできなかった。検出最大長は東西方向で3.9m、南北方向は南側が調査区外にかかるが検出長約1.9m・深さ約40cmの不整形な形を呈する土壙状の落込みである。検出時の状況は、壁面に白色粘土を貼り付けた状態で、床面には壁に立掛けるように長さ298cm、幅21cm、厚み５〜10cmの横木（W8）が、杭によって固定されていた。



第８図　SD-01平面図および断面図



第９図　SK-01平面図および断面図

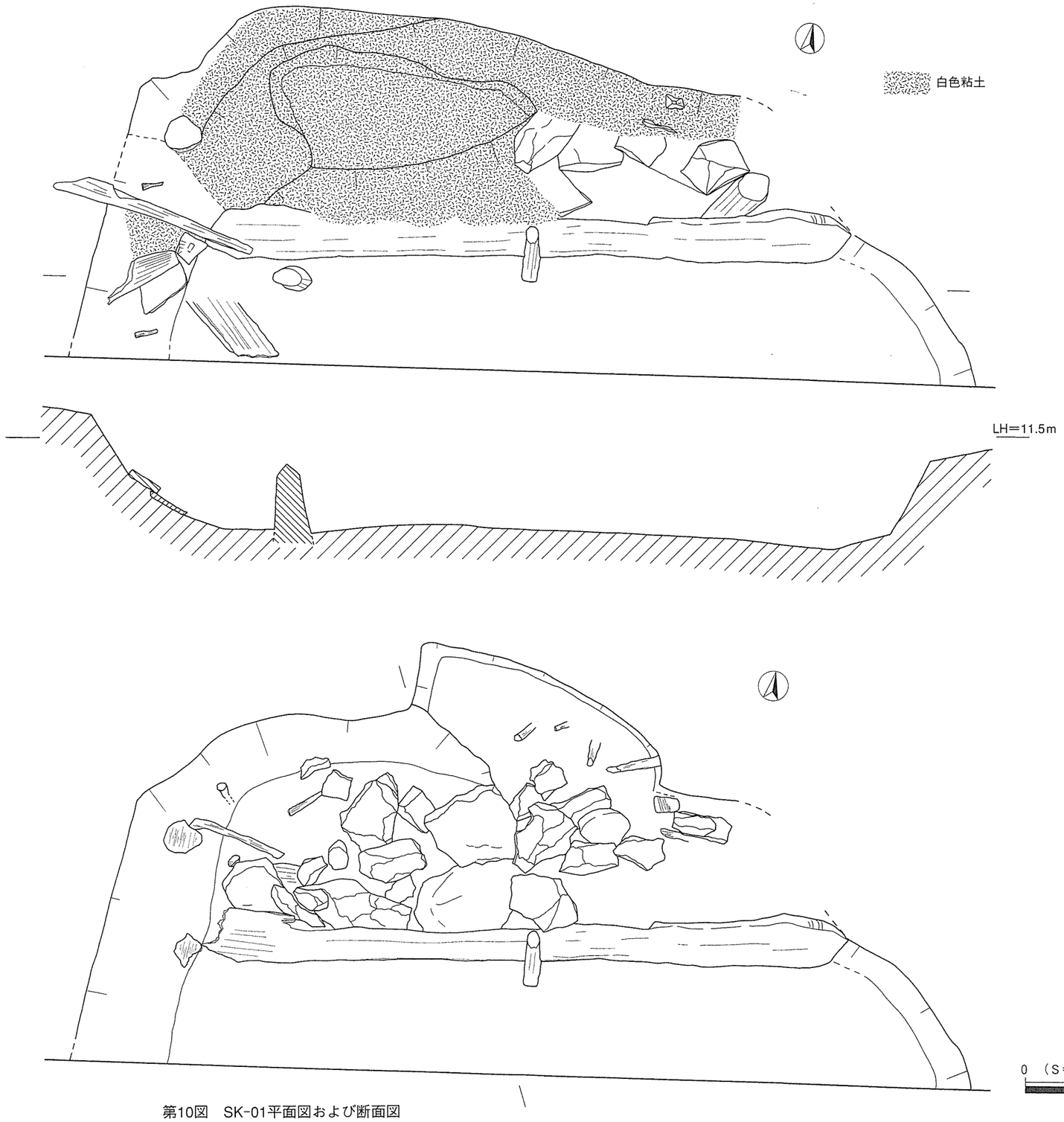
この横木の一方は、丁寧な加工が施されており、建築材の転用と考えられる。次に壁面の粘土を除去すると、30cm前後を中心に、大きいもので50cm位の石が詰め込まれていた。また、北側の一部には上部から15cm付近にテラス状のものが見られた。これがこの土壙を利用するためのものか、次の作業のためのものかは不明であるが、ステップとして使用されていたのではないかと考えられる。白色粘土は、厚いところで５cmも貼り付けるという大変丁寧な作業が施こされている。おそらく水が染み出ないようにするためのものと考えられることから、この土壙は池のような水をためておく施設と考えられる。今回検出したような規模のものは類例を見出せなかったが、神門房下遺跡Ｃ地点[註1]・市谷加賀町二丁目遺跡[註2]において、壁面に粘土を貼り付けた水溜用と思われる土壙が検出されている。また、花粉分析の結果から、この地が水田であった可能性が高いことからも農業用施設の可能性が考えられる。恐らくは山の下がり水であろうが、調査中も絶えず湧き出る水に困難を窮めるほどで、十分な水量は確保されていたのではないだろうか。

時期は木材の年代時期から８世紀から10世紀ごろのものと考えられる。

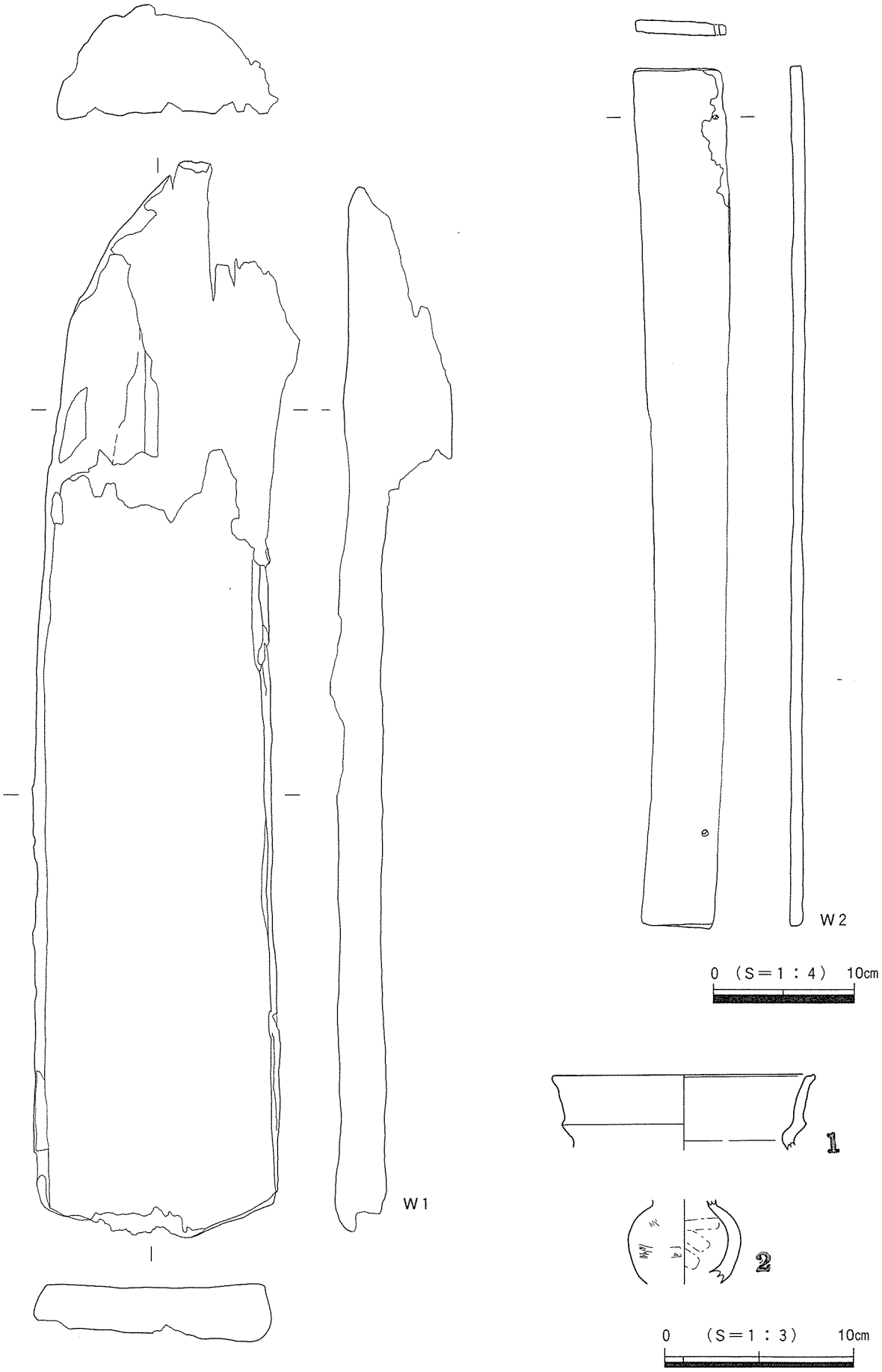
遺物は遺構に伴うものとして、石組みの中からNo.１・No.２を検出したほか数点の土師器小片を検出した。木製品は、Ｗ１～Ｗ４流れ込みか破棄されたもの、Ｗ５・Ｗ６は杭、Ｗ７は石を除去した跡出土したものである。

註１　「神門房下遺跡」『(財) 印旛郡市文化財センター発掘調査報告書』2004.３

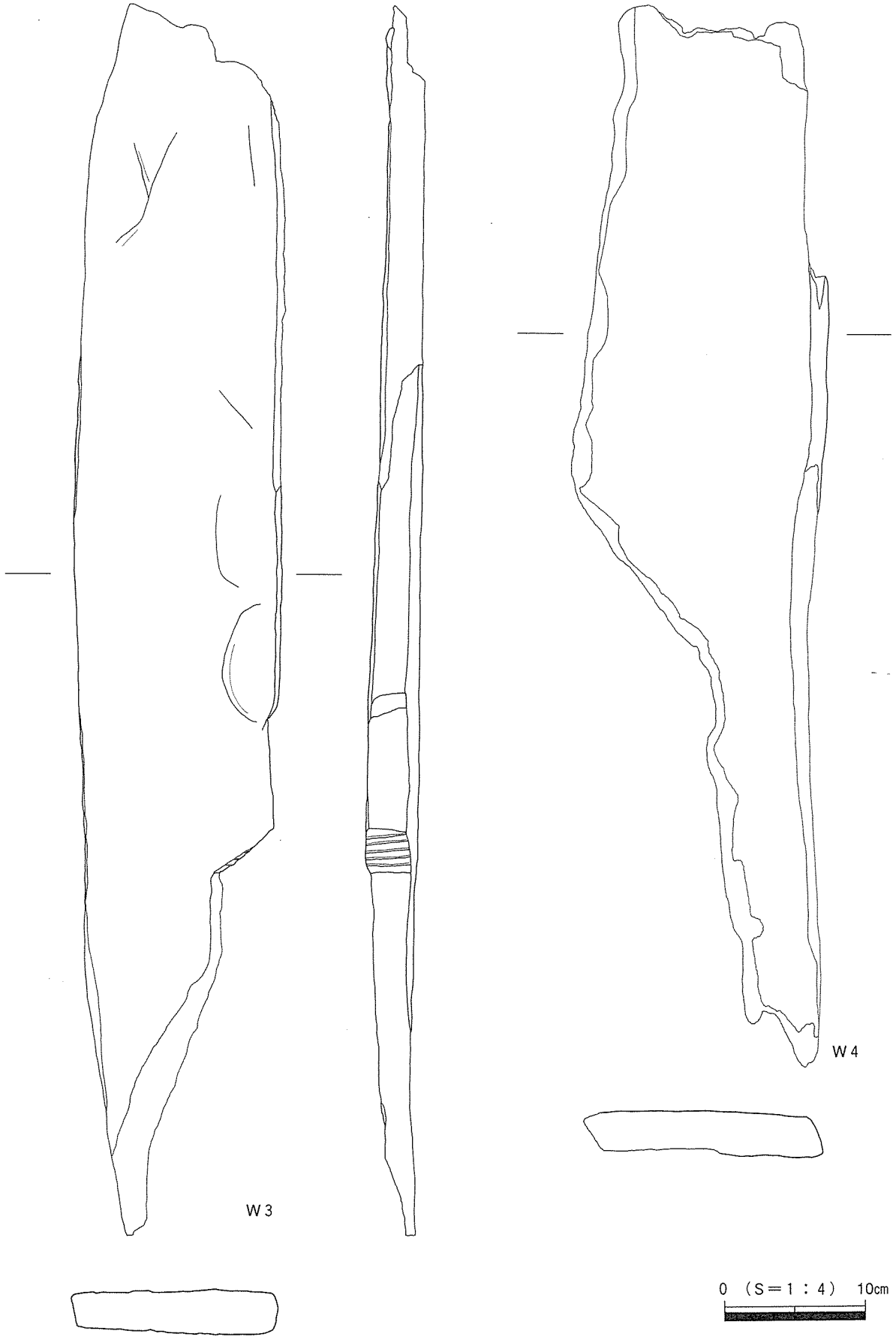
註２　「市谷加賀町二丁目遺跡」平成17年に東京都埋蔵文化財センターによって調査。



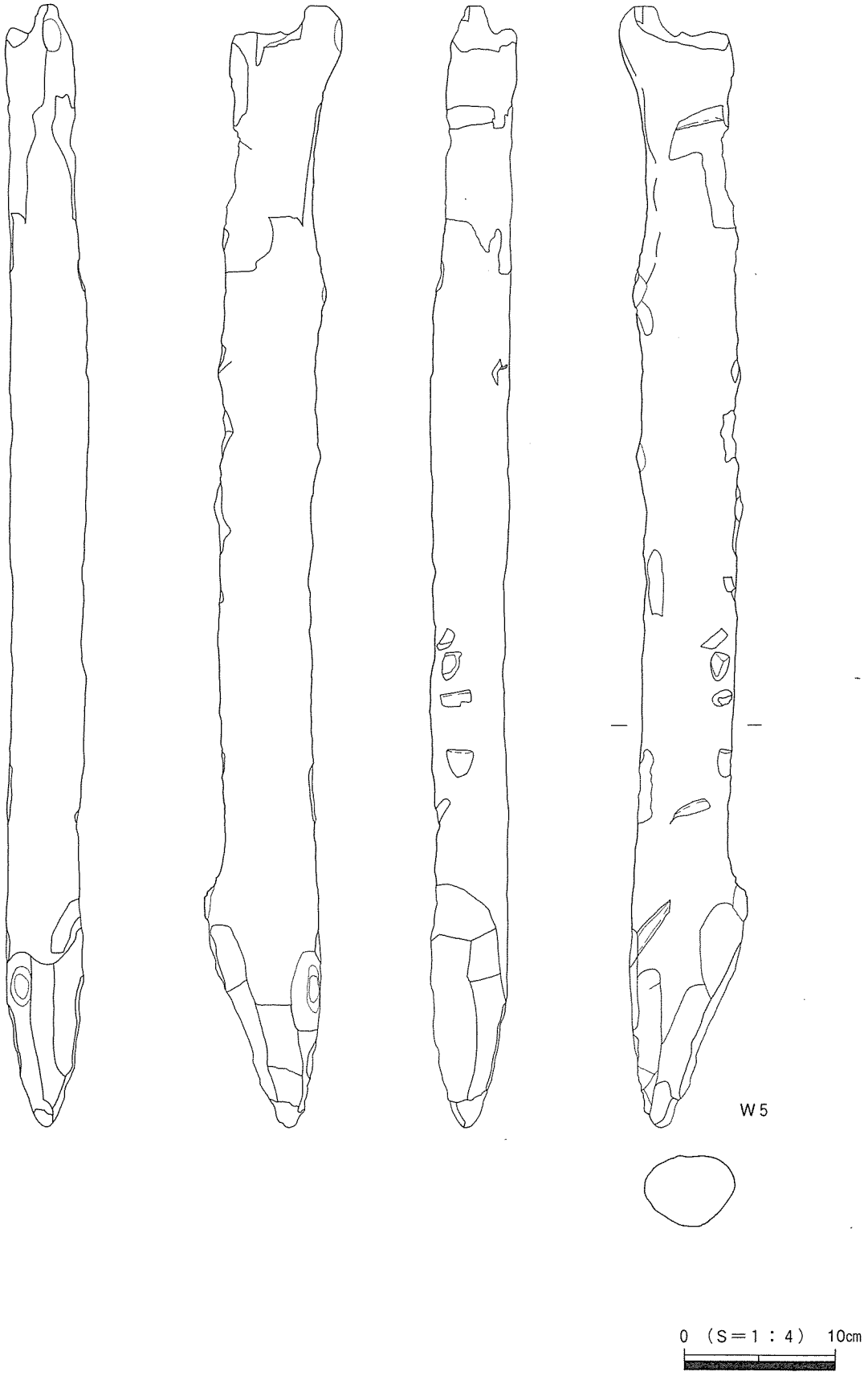
第10図　SK-01平面図および断面図



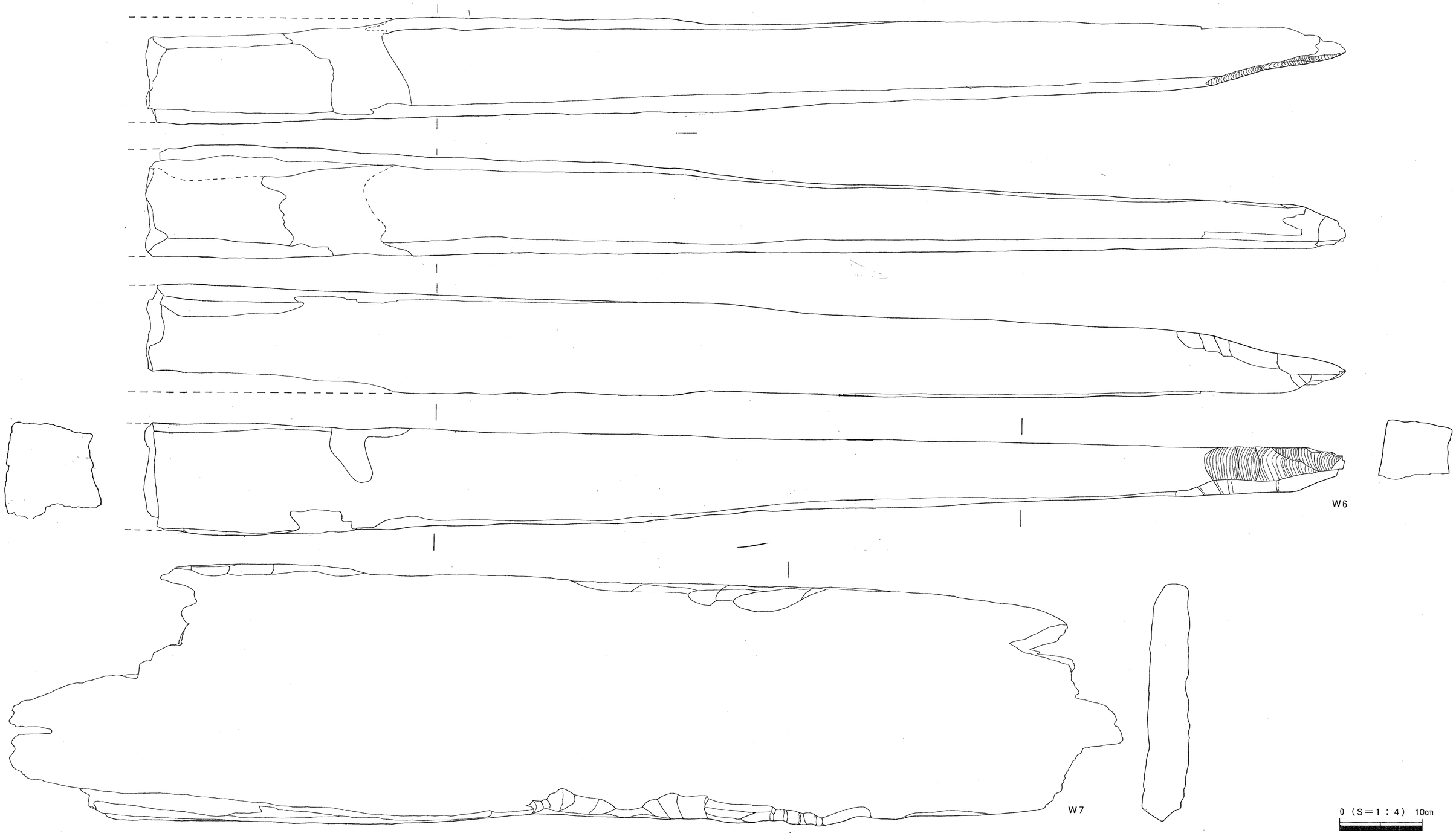
第11図　SK-01出土遺物実測図



第12図　SK-01出土遺物実測図



第13図　SK-01出土遺物実測図

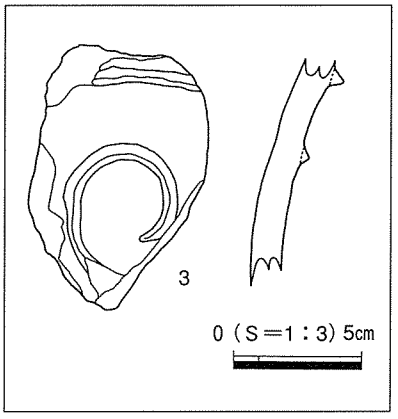


第14図 SK-01　出土遺物実測図

第４節　遺物について

遺物は遺構に伴うものはSK－01から出土したものが若干みられるのみで、他はすべて流れ込みの遺物である。Ｃ区で特に集中して出土しているが、今回調査した範囲では全体的に緩やかな傾斜にはなっているのみで、Ｃ区で集中している地形的な要因等は不明である。遺物は第５図の設定区ごとに取上げ、特に出土量の多いＣ区においては、さらに区画を分けて取上げを行った。

図は各時期一括して器種ごとに掲載しているが、土師器については各設定区において器種ごとに掲載し、各設定区の遺物実測図の前頁にその出土状況を弥生土器とともに、弥生土器■・土師器○で図示した。なおＤ～Ｇ区については、地山まで掘り下げていないため、下場のラインは第９層灰白色粘土で図示している。



第16図　出土遺物実測図１

縄文時代の遺物（第16図）

今回の調査ではＣ区で検出された１点のみで、外面に太い貼付突帯を付した甕形土器の一部である。(No.３)。

弥生時代前期の遺物（第17図・第18図）

壷形土器（No.４～No.９・No.37～No.40）　No.４～No.７は口縁部が緩やかに外反し、頸部にはヘラ描沈線を施し、No.４・No.７はその下方に円形刺突文を施す。No.８・No.９は口縁部がラッパ状に大きく外反する。No.36～No.39は緩やかに「くの字」状に屈曲する口縁部を呈し、全体的に器壁が厚いものである。

甕形土器（No.10～No.36）　No.10からNo.15は口縁部を緩やかに外反させ、端部に刻目を施す。またNo.15以外は口縁部の下方に数条の沈線を施す。No.16～No.19はＬ字に屈曲する口縁を呈し、No.16は端部に刻目を施す。口縁部下方には数条の沈線を施す。No.21～No.33は大きく「くの字」状に屈曲する口縁を呈し、No.21は端部に刺突文を施す。

鉢形土器　No.35・No.36は浅型の鉢形土器である。

弥生時代中期の遺物（第19図～第22図）

壷形土器（No.41～No.76・No.194・No.195）　いずれも口縁部を大きく外反させたもので、No.41～No.62は比較的大型のもので、口縁部端部は肥厚させ、No.50以外はその外面には口縁端部に凹線を施し、さらに刻目を施し、ボタン状・紐状の浮文（No.41・No.42・No.48・No.49・No.55・No.56・No.57）を付す。No.63・No.66は口縁部を上あるいは下方に伸ばし、前者は外面に凹線を施し、後者は格子文およびボタン状の浮文を施す。No.67～No.74は小型のもので、口縁部端部は肥厚させ、凹線・刻目・貝殻文を施す。No.67には指頭圧痕文を付す。No.76・No.194・No.195は無頸壷で、口縁部外面に突帯を施し、更にNo.194・No.195は、円孔を施す。

甕形土器（No.77～No.96）　No.78～No.85は頸部に指頭圧痕文を付すもので、口縁端部はやや肥厚させ、外面には凹線或いは貝殻文を施す。No.86は口縁部をやや肥厚させ端部に貝殻文を施す。No.87～No.91は、口縁部を「くの字」に屈曲させたもので、No.87・No.90・No.91は口縁端部に刻目を施す。

鉢形土器（No.98）　口縁部外面に先刻を施す。

高坏（No.99～No.114）　No.99～No.104は坏部で、口縁端部は平面を成し、No.104以外は刻みを施す。No.105～No.114は脚部である。No.104とNo.105は同一固体である。

弥生時代後期の遺物（第23図・第24図）

壺形土器（No.115～No.120）　No.115・No.116は口縁端部を上部に立ち上げ、No.117～No.120は上下に短く肥厚させ、No.121は複合口縁を呈する。口縁端部外面には数条の凹線を施す。

甕形土器（No.121～No.147）　No.122～No.124は口縁端部を上部に短く、No.125は上下に長く、No.126～No.133は上下に短くそれぞれ肥厚させる。No.134～No.137は口縁端部を短く立ち上げる。その外面には数条の凹線を施す。

弥生時代末～古墳時代以降の遺物

土師器（第26図・第28図～第40図・第42図～第46図・第48図・第50図～第52図）

第26図はＢ区及びＢ・Ｃ間水路、第28図～第40図はＣ区、第40図はＣ・Ｄ区間溝、第42図～第46図はＤ区、第48図・第50図はＥ区、第50図はＦ区・Ｇ区、第51図は南水路、第51図・第52図は北水路から検出された遺物である。

壺形土器　口縁部の形態から次のように分類した。

Ａ　複合口縁を呈し大きく「八」の字に広がる口縁部を呈するもの（No.158～No.173・No.358～No.363・No.432～No.439・No.468・No.479）

Ａ－１　口縁端部は丸くおさめるもの　No.158・No.160・No.169・No.173・No.358、・No.360・No.361・No.433～No.439・No.468

Ａ－２　面取りを施すもの　No.159・No.161～・No.167・No.170～No.172 ・No.359・No.362・No.363・No.432・No.479

また、No.171・No.172・No.173・No.363は頸部、No.360・No.362（同類のものとしてNo.174）は肩部にそれぞれ綾杉文を施したものが見られる。またNo.174・No.362は頸部と肩部の境に突帯をめぐらしている。

Ｂ　複合口縁を呈し短く立ち上がる口縁部を呈するもの（No.176～No.182・No.366・No.480）　口縁部は直立或いはやや内傾し、その端部は丸くおさめるものが多い。No.176～No.178以外は複合口縁がほとんど退化している。

Ｃ　直口壺（No.183～No.188・No.367・No.368・No.369・No.440・No.469）

Ｃ－１　「逆八の字」にやや広がる口縁部を呈するもの　No.183～No.188・No.367・No.440・No.469、端部は丸くおさめるか面取りを施している。No.186は口縁端部を面取りの後沈線を施し、肩部には綾杉文を施している。No.188はほぼ直口に近い口縁部を呈する。

Ｃ－２　外反する口縁部を呈するもの　No.368・No.369

Ｃ－３　複合口縁を呈するもの　No.469

Ｄ　小型壺（No.189～No.193・No.196・No.369・No.370・No.371・No.372・No.441・No.481）　No.189は直口壺で肩部に波状文を施す。No.190・No.193・No.371・No.372・No.441は「くの字」に屈曲し短い口縁部を呈する。No.191・No.192は「逆八の字」に開く口縁部を呈する。No.369・No.370は複合口縁の様相を呈する。

Ｆ　注口土器（No.349No.373）　いずれも注口部分である。

甕形土器　口縁部形態から次のように分類した。

Ａ　複合口縁を呈し「八」の字に広がる口縁部を呈するもの

Ａ－１　口縁端部は丸くおさめるもの　No.148～No.151・No.200～No.232・No.352～No.354・No.374～No.380・No.422・No.442～No.447・No.461・No.462・No.470・No.471・No.482～No.486

Ａ－２　面取りを施すもの　No.155・No.233～No.292・No.381～No.397・No.423・No.463・No.472～No.474・No.487～No.490

Ｂ　複合口縁を呈し直立あるいは内傾して立ち上がる口縁部を呈するもの

Ｂ－１　立ち上がりの長いものNo.152・No.293～No.305・No.398～No.403・No.424・No.464・No.475・No.476・No.491

Ｂ－２　立ち上がりの短いものNo.306～No.312・No.404～No.408・No.425・No.448～No.451・No.477

Ｃ　頸部が「くの字」に屈曲するもの　No.153・No.317～No.327・No.355・No.409～No.413・No.426・No.197～No.199・No.370は壺或いは甕の底部である。

高坏　No.328～No.330・No.356・No.414・No.415は坏部で口縁部は大きく開く。No.331～No.334・No.416・No.455・No.492・No.493は脚部である。

低脚坏　No.335は坏部、No.336～No.339は脚部である。

器台（No.340～No.346・No.419・No.420・No.453・No.454・No.465～No.467・No.478）　いずれも鼓形器台で、器高は低く筒部の短いものである。

坏（No.347・No.417・No.427）　No.427は底部に回転糸切りがみられる。

その他　No.156・No.157・No.459・No.460は甑型土器の取手、No.348は壺の取手、No.350・No.351・No.421・No.429・No.431・No.457手づくね土器、No.430はミニチュア土器、P1・P2・P3は土錘、P4は紡錘車である。

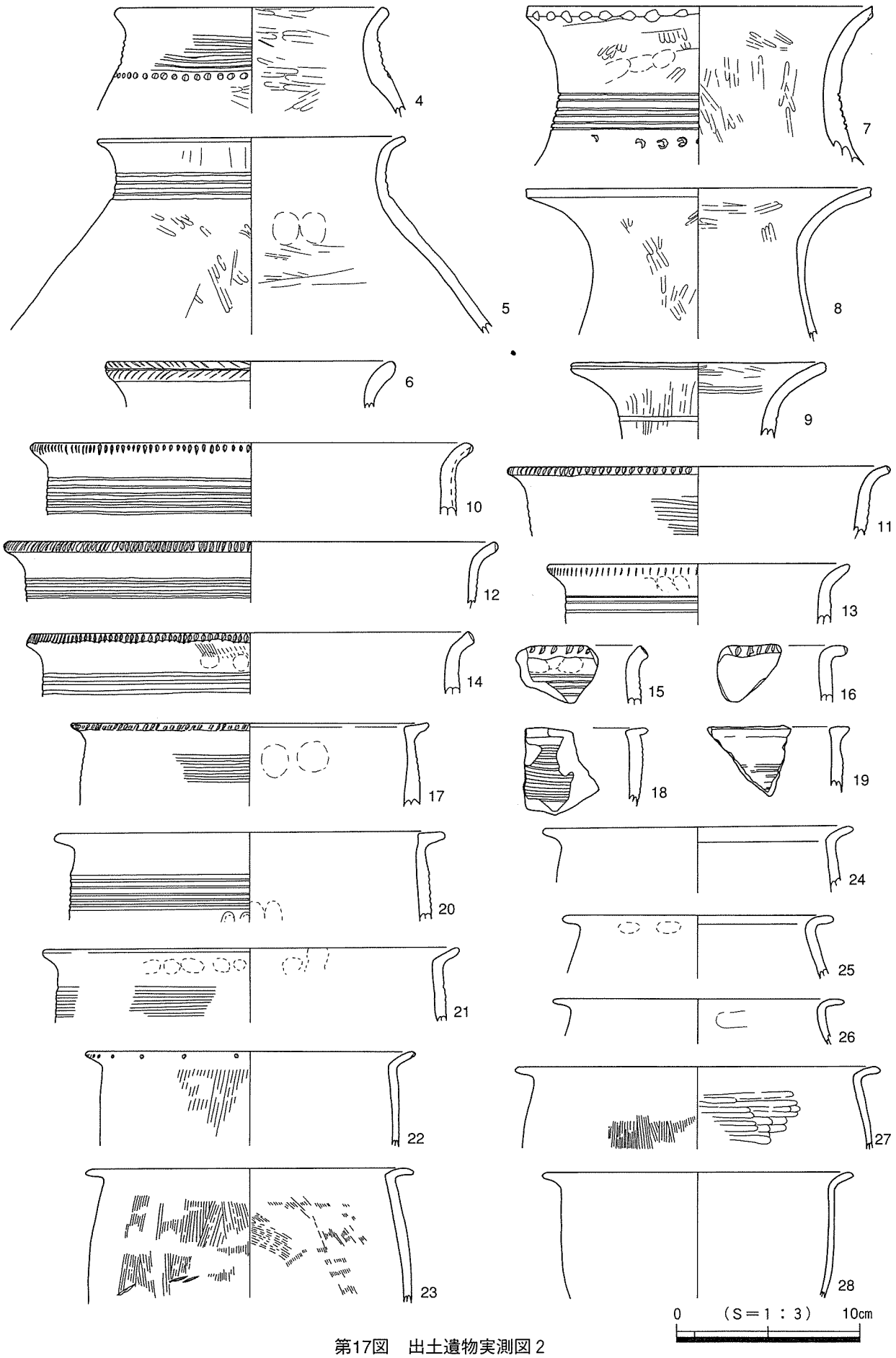
須恵器（第53図）　No.495～No.50・0No.508・No.509は坏蓋で、No.508は擬宝珠のつまみ、No.509は環状つまみである。No.501～No.507・No.510は坏身でNo.501・No.502はかえりの付くもの、No.505～No.507は底部に回転糸きり痕が残る。No.511は小型椀・No.512は小型壺の口縁部、No.513は甕の口縁部、No.514・No.515は横瓶の口縁部である。

瓦質土器（第53図）　No.516・No.517は擂鉢、No.518は高台付坏である。

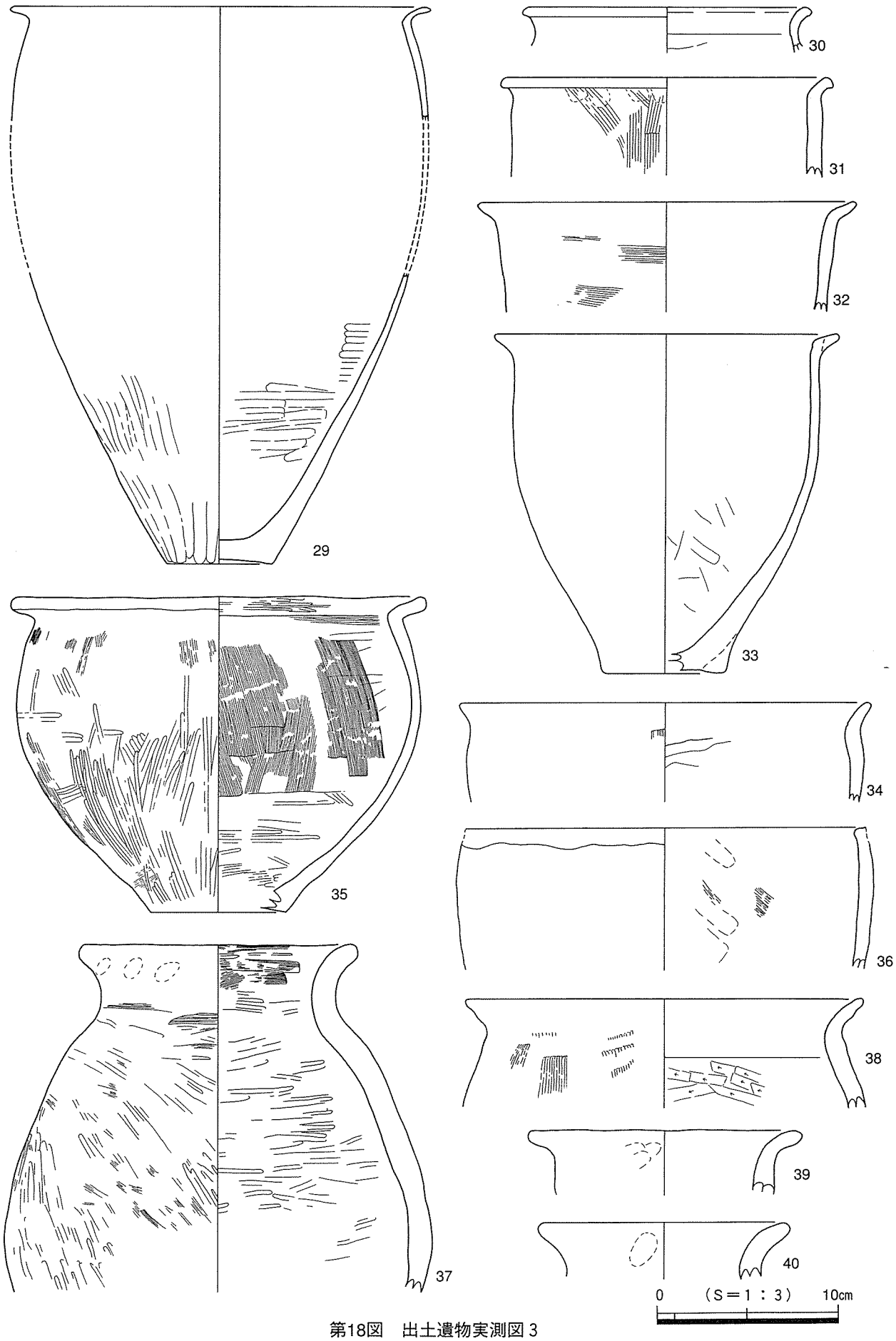
石器（第54図・第55図）　Ｓ１～Ｓ４は石斧で、Ｓ１は無斑晶安山岩製の打製・Ｓ２・Ｓ３は磨製で前者は緑色片岩製で、赤色顔料が付着し、後者は安山岩製である。Ｓ４は安山岩製の環状のものである。Ｓ５は花崗斑岩製の砥石、Ｓ６は安山岩製の石錘、Ｓ７は用途不明で安山岩製である。Ｓ８は砂岩製の石皿、Ｓ９・Ｓ10は敲き石で前者は花崗岩製、後者は安山岩製である。Ｓ11・Ｓ12は黒耀石製の錐である。Ｓ13は斑晶安山岩製の石鏃である。

木製品（第56図・第57 図）　Ｗ９は三角板の側板、W10・W11建築材の一部と思われる。W12・W13・W20は用途不明。W15・W16は漆器の椀、W17・W18は曲物の底、W19は下駄の歯である。

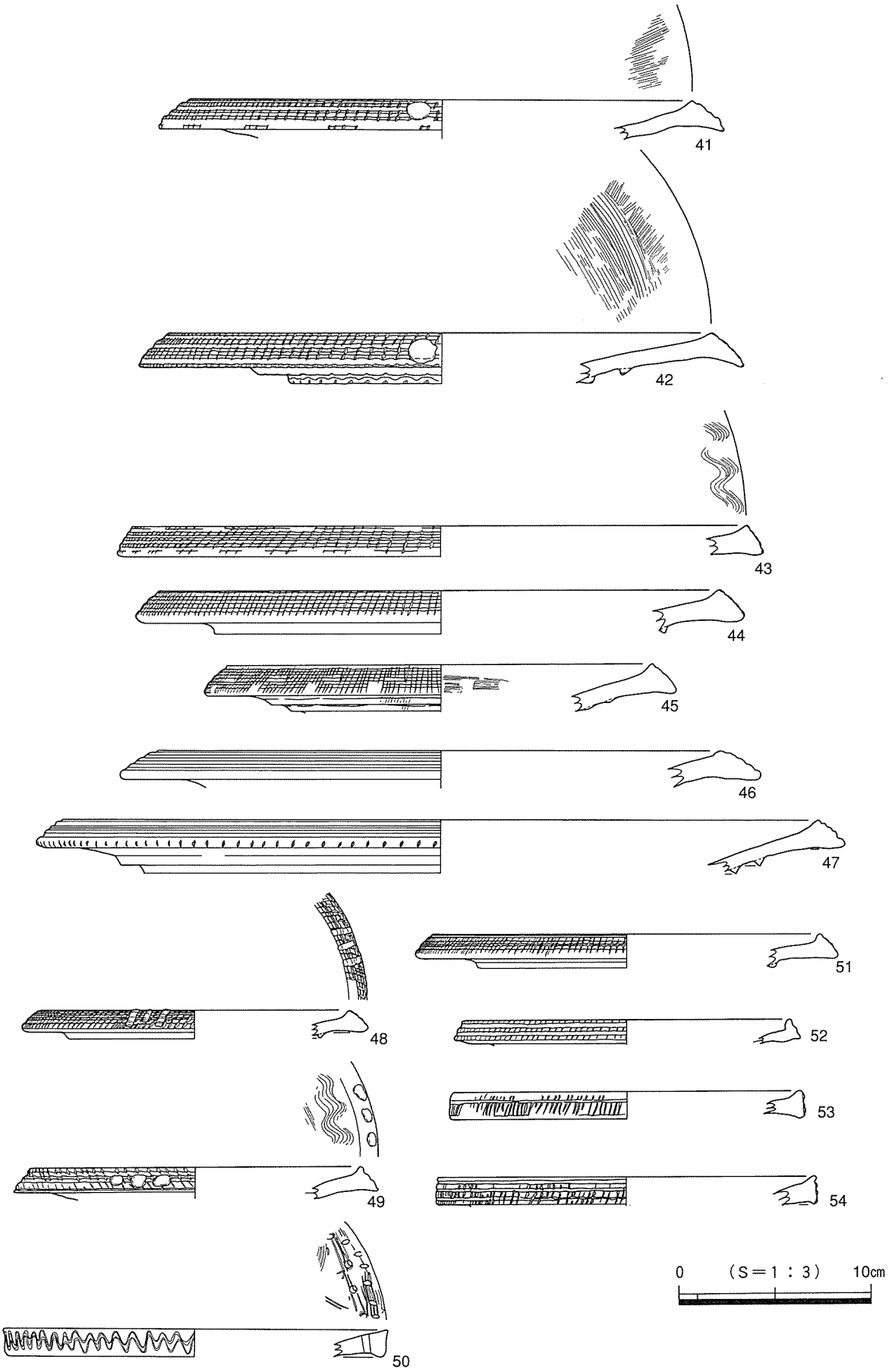
銅銭（第57 図・Ｐ５）　Ｅ区南側壁面精査中検出。「祥符元寶」大中祥符年間（真宗1008～1017年）に鋳工された北宋銭である。



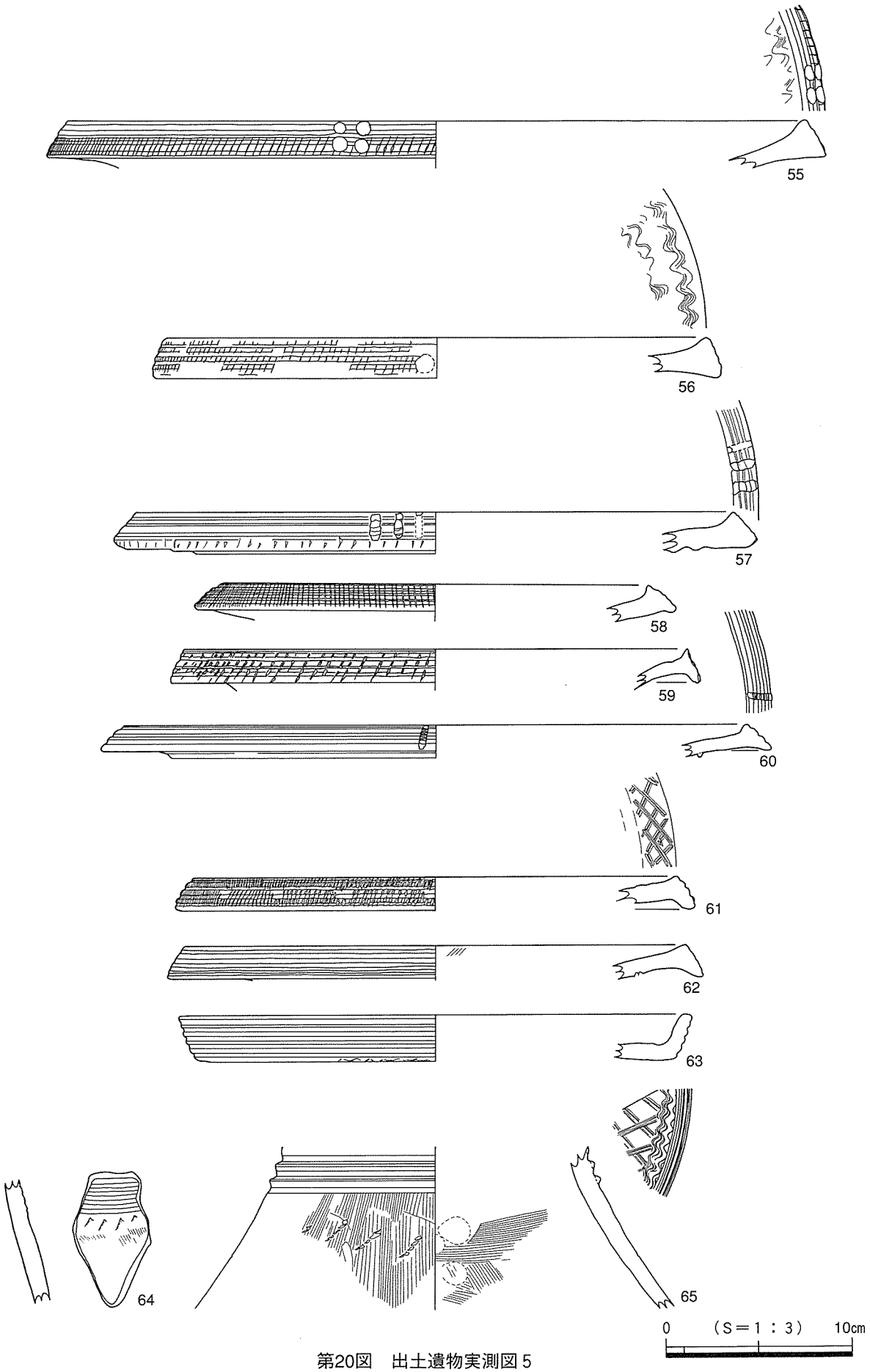
第17図　出土遺物実測図２



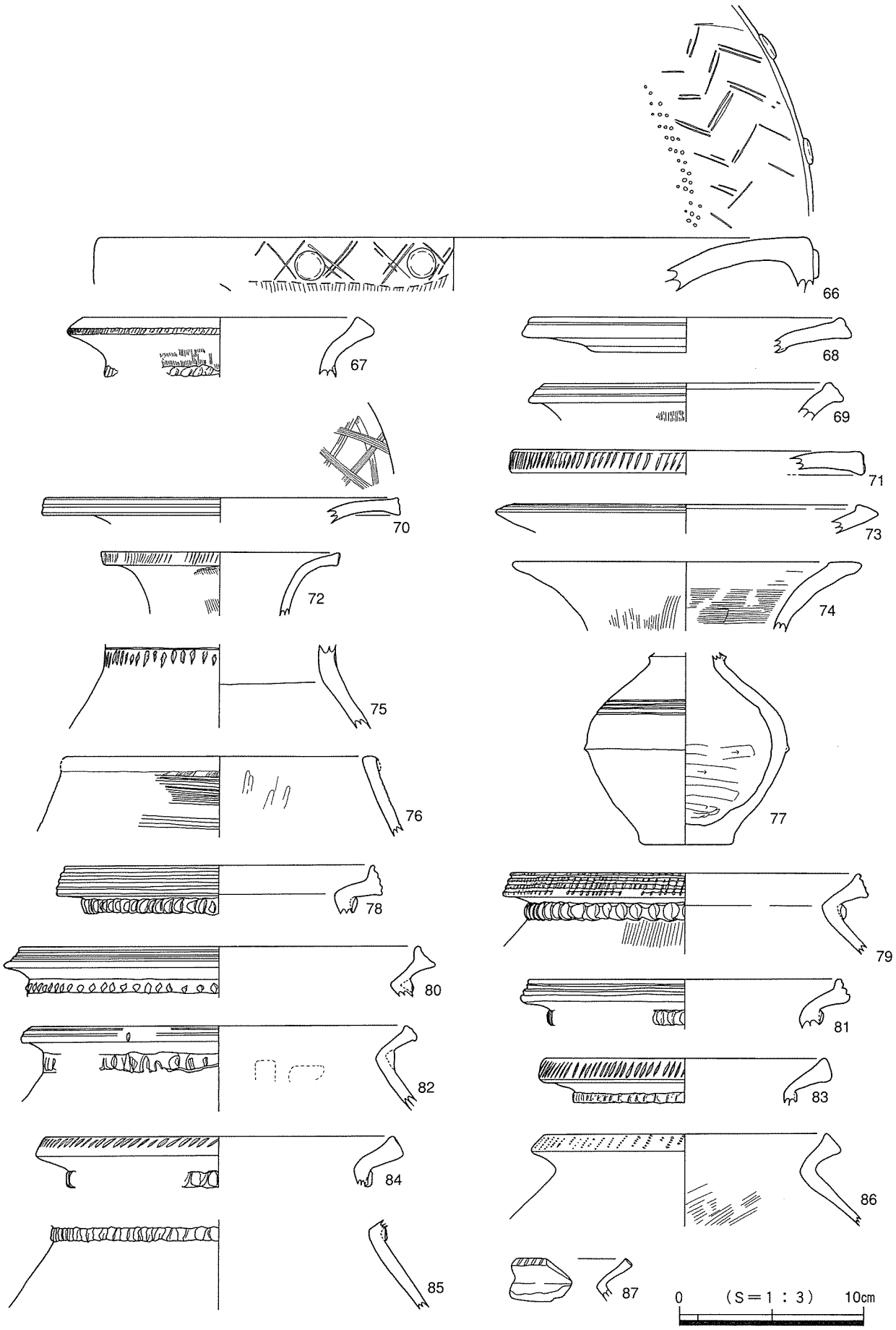
第18図　出土遺物実測図３



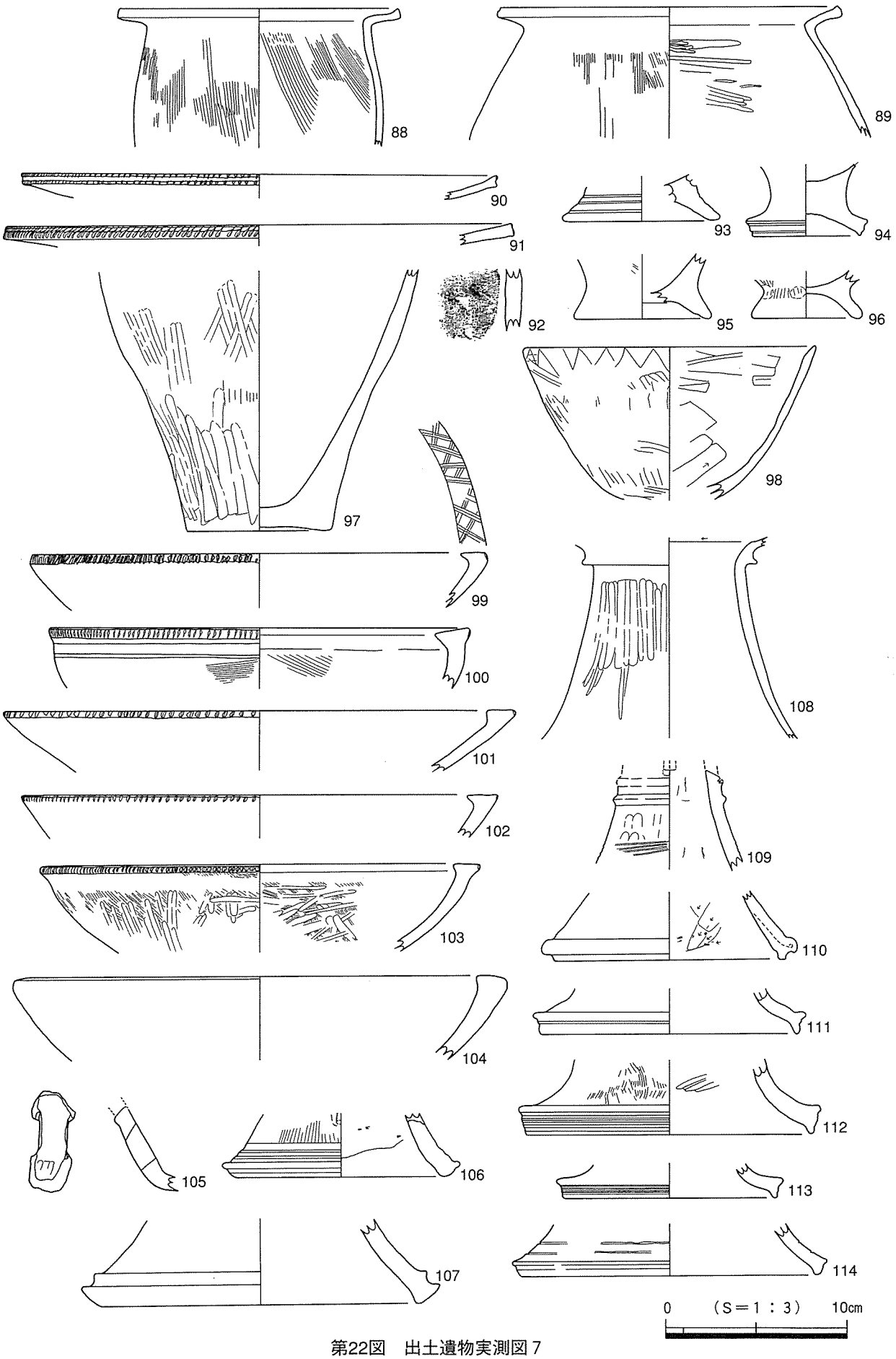
第19図　出土遺物実測図４



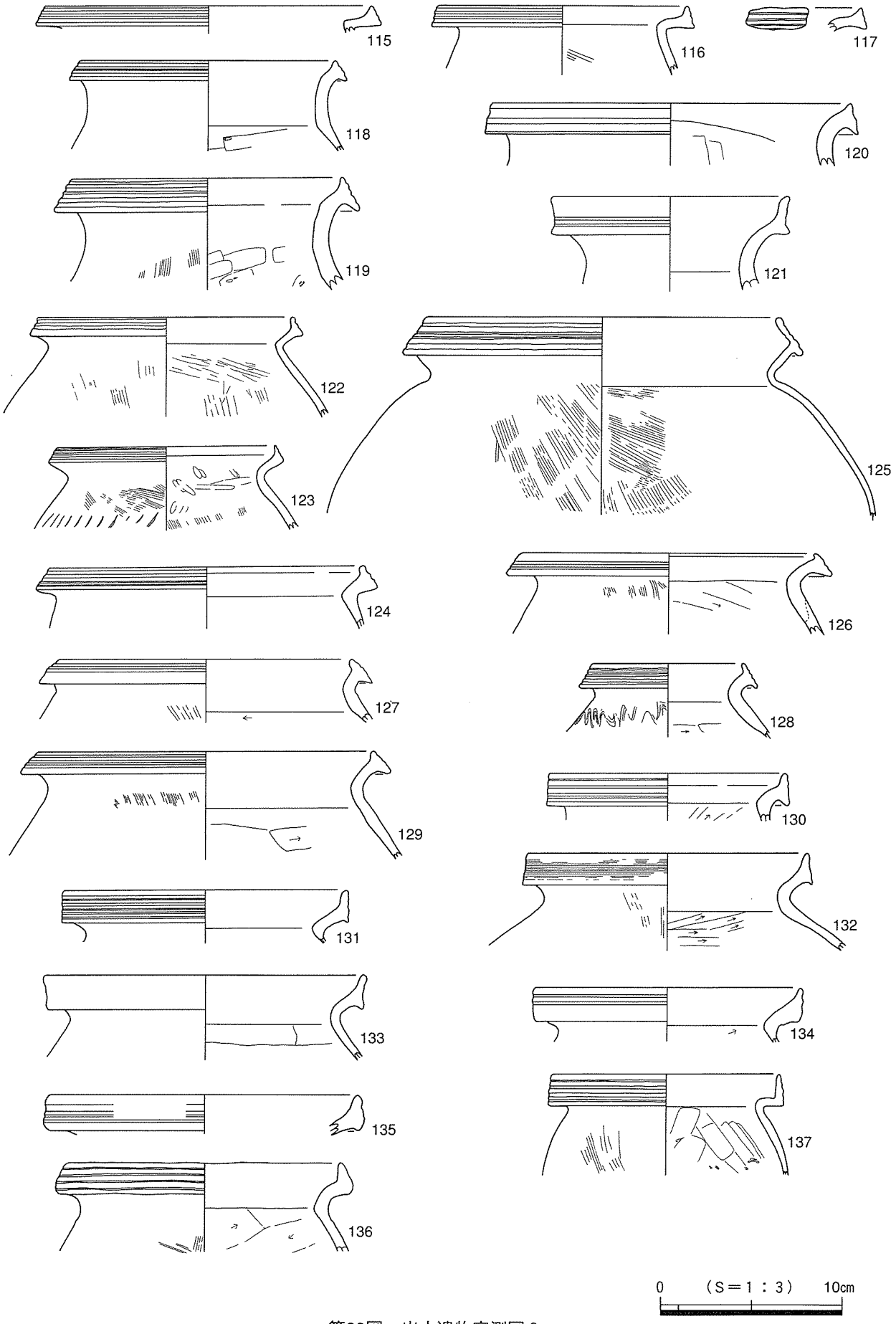
第20図　出土遺物実測図５



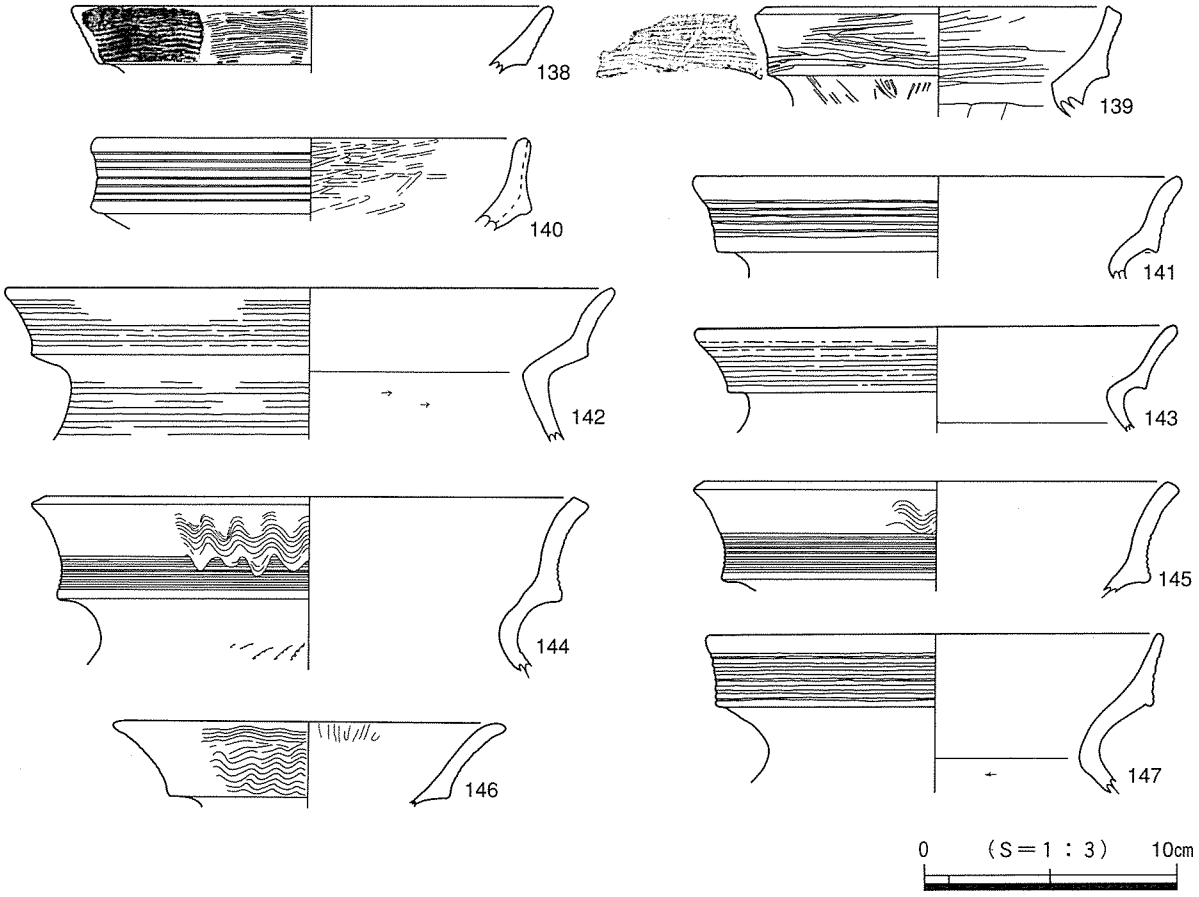
第21図　出土遺物実測図６



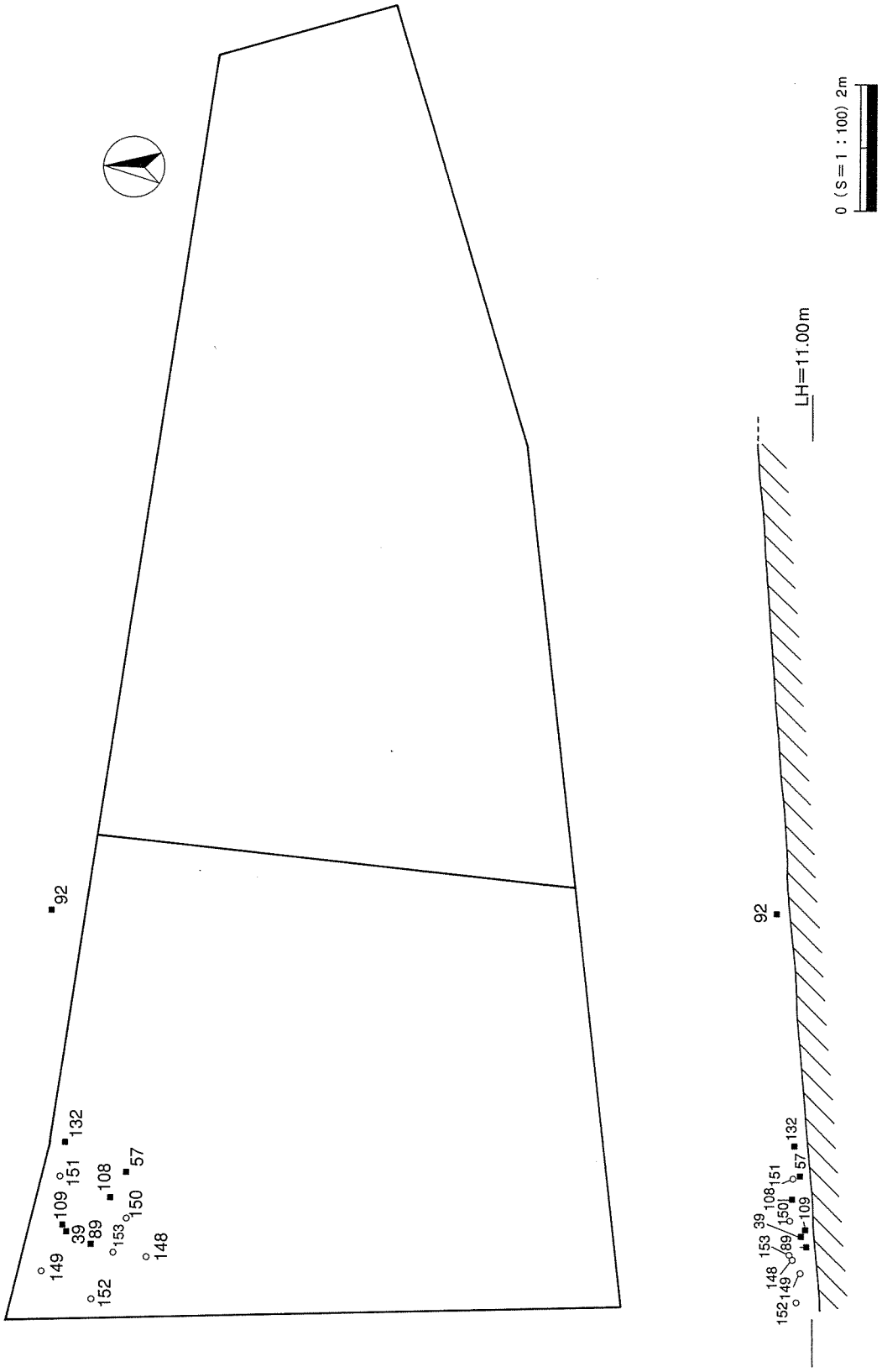
第22図　出土遺物実測図７



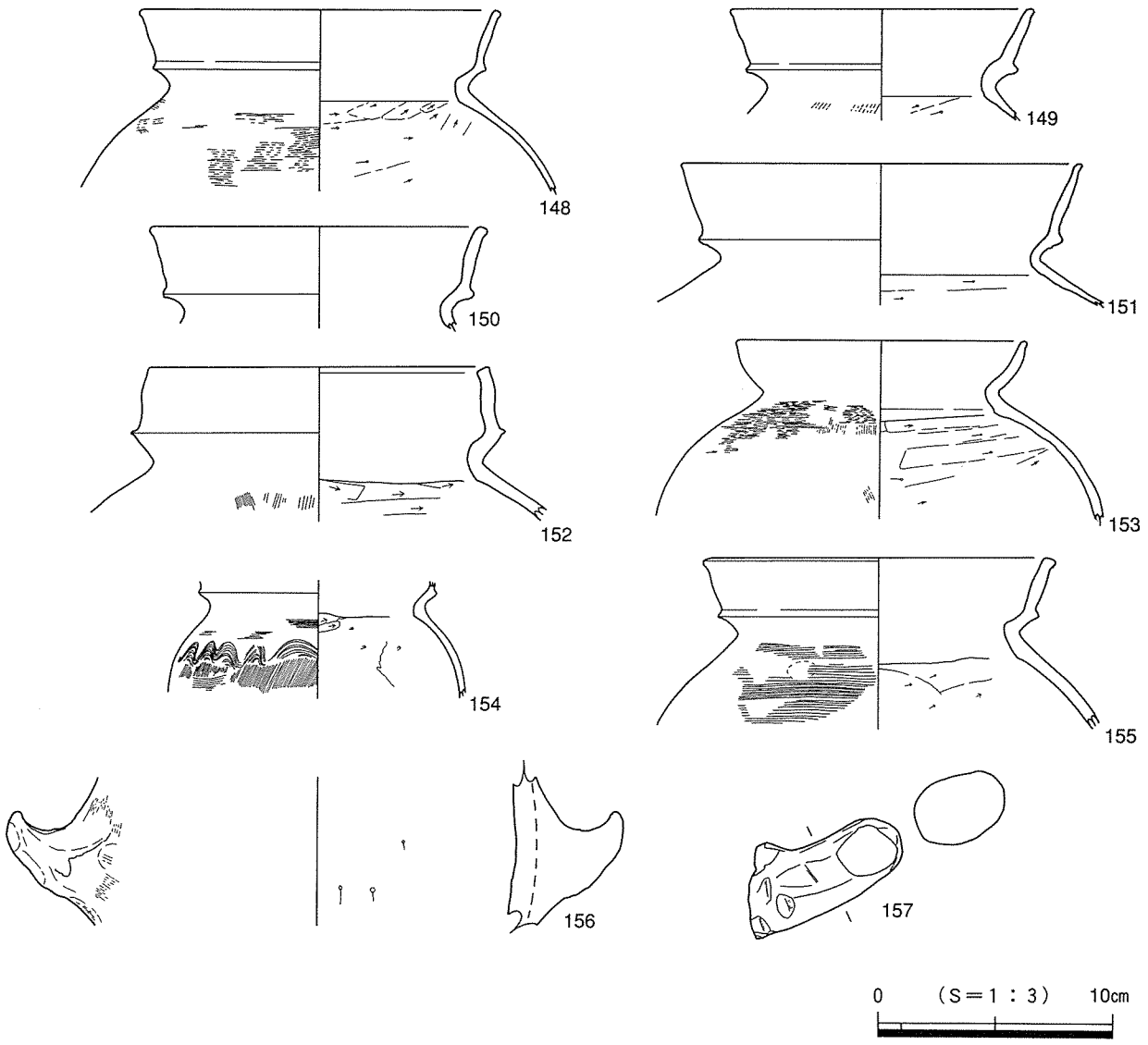
第23図　出土遺物実測図８



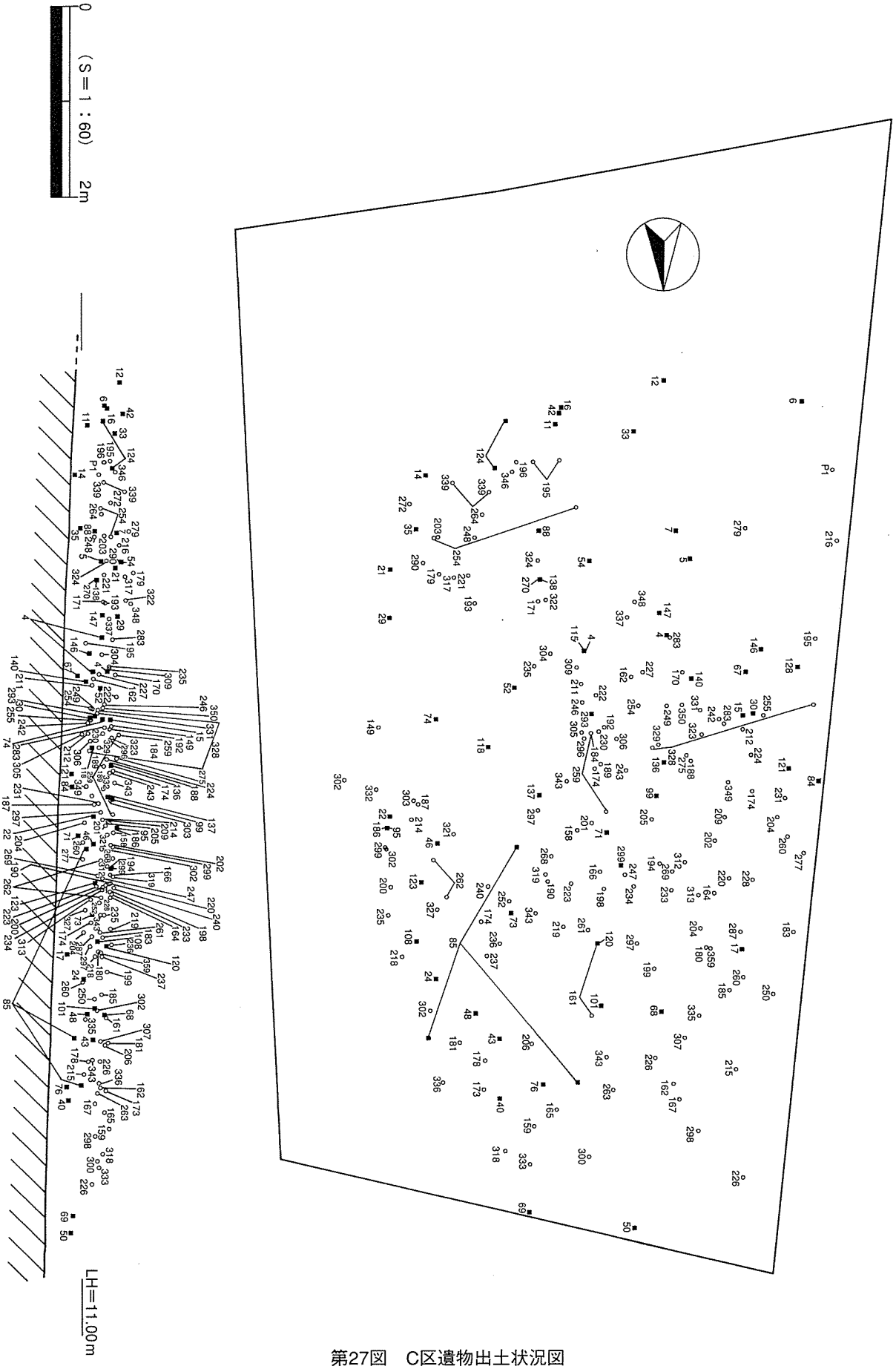
第24図　出土遺物実測図９



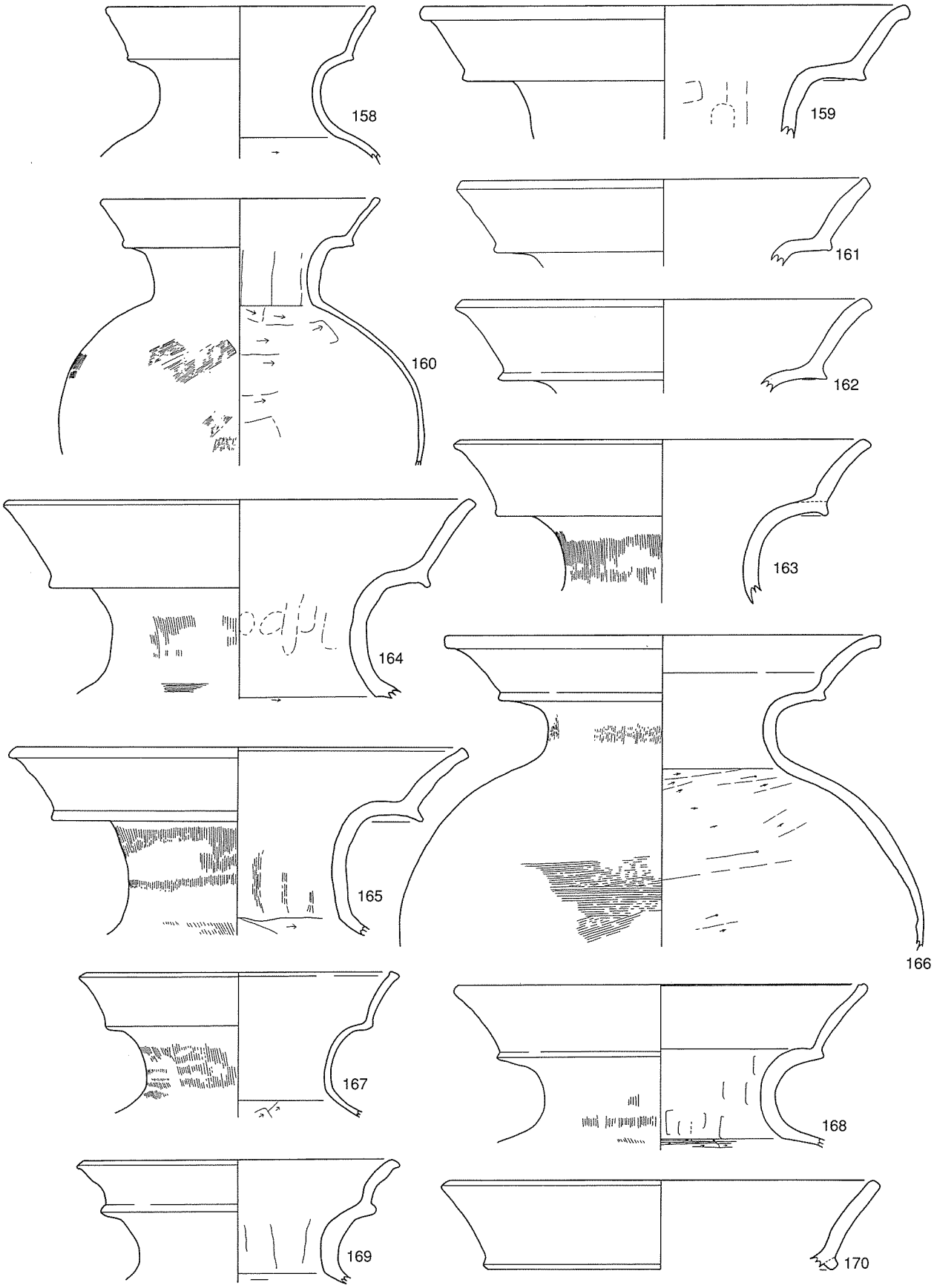
第25図　A区・B区遺跡出土状況図



第26図　出土遺物実測図10（Ｂ区・ＢＣ間溝）

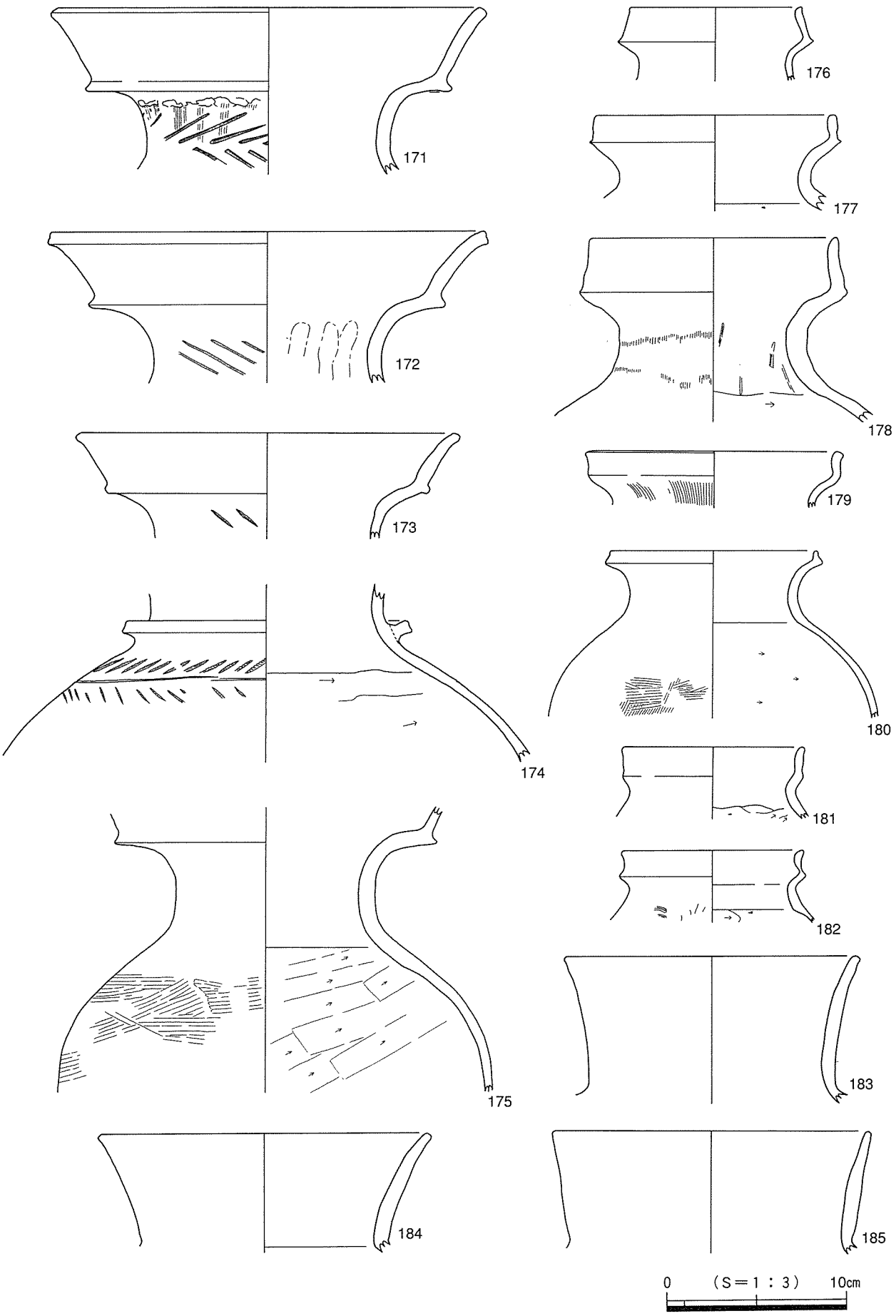


第27図　C区遺物出土状況図

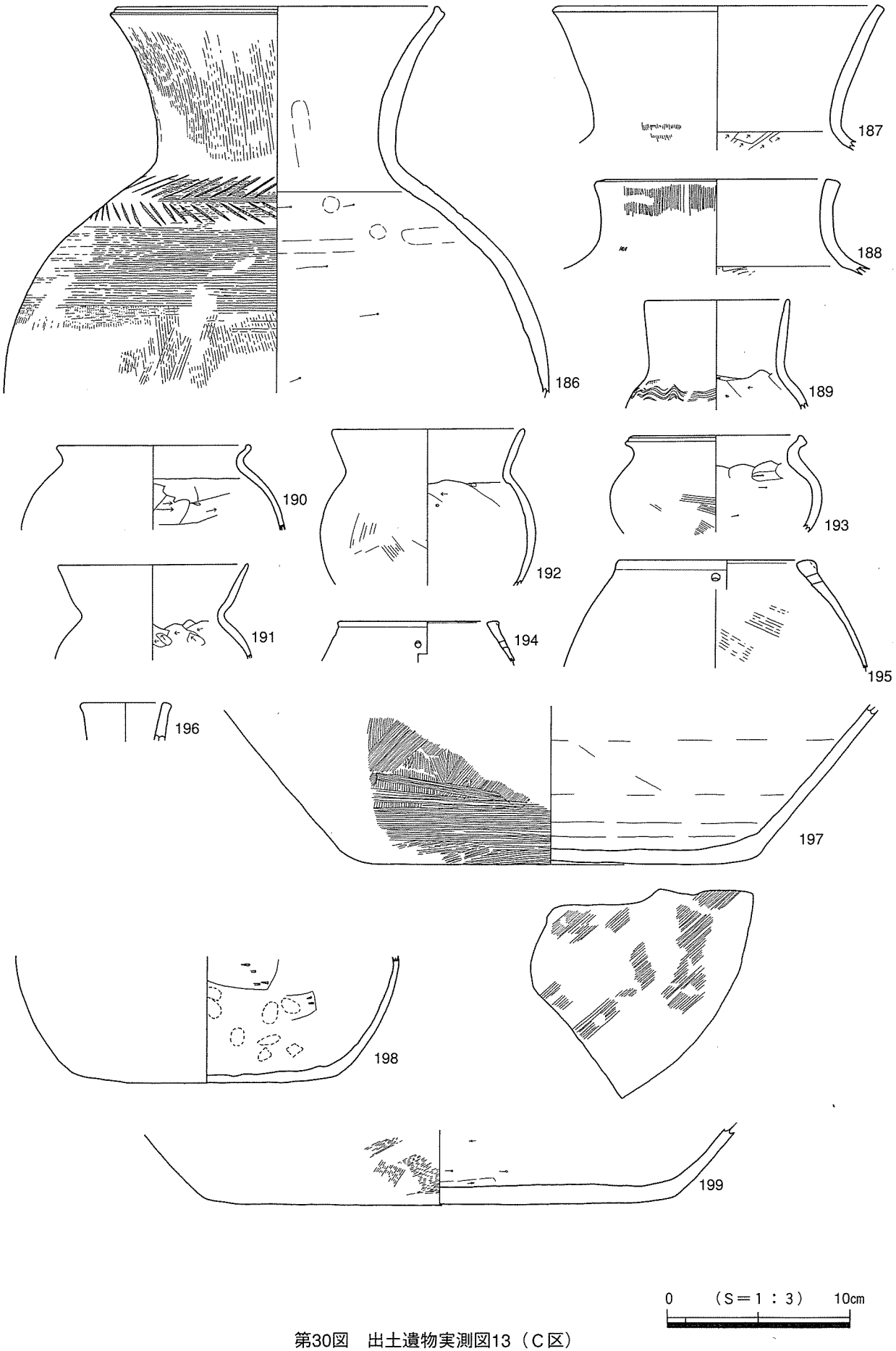


0　（S＝1：3）　10cm

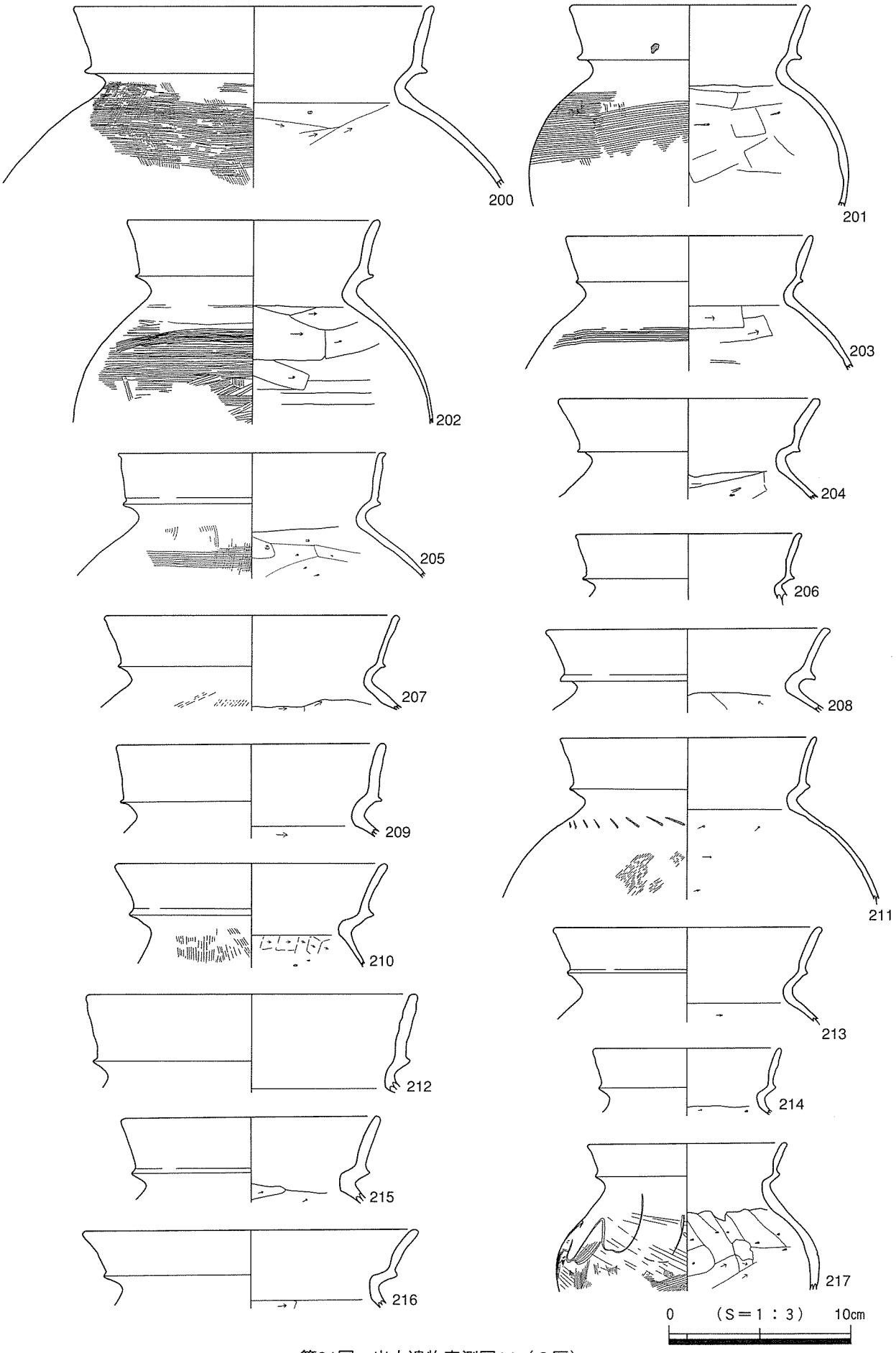
第28図　出土遺物実測図11（C区）



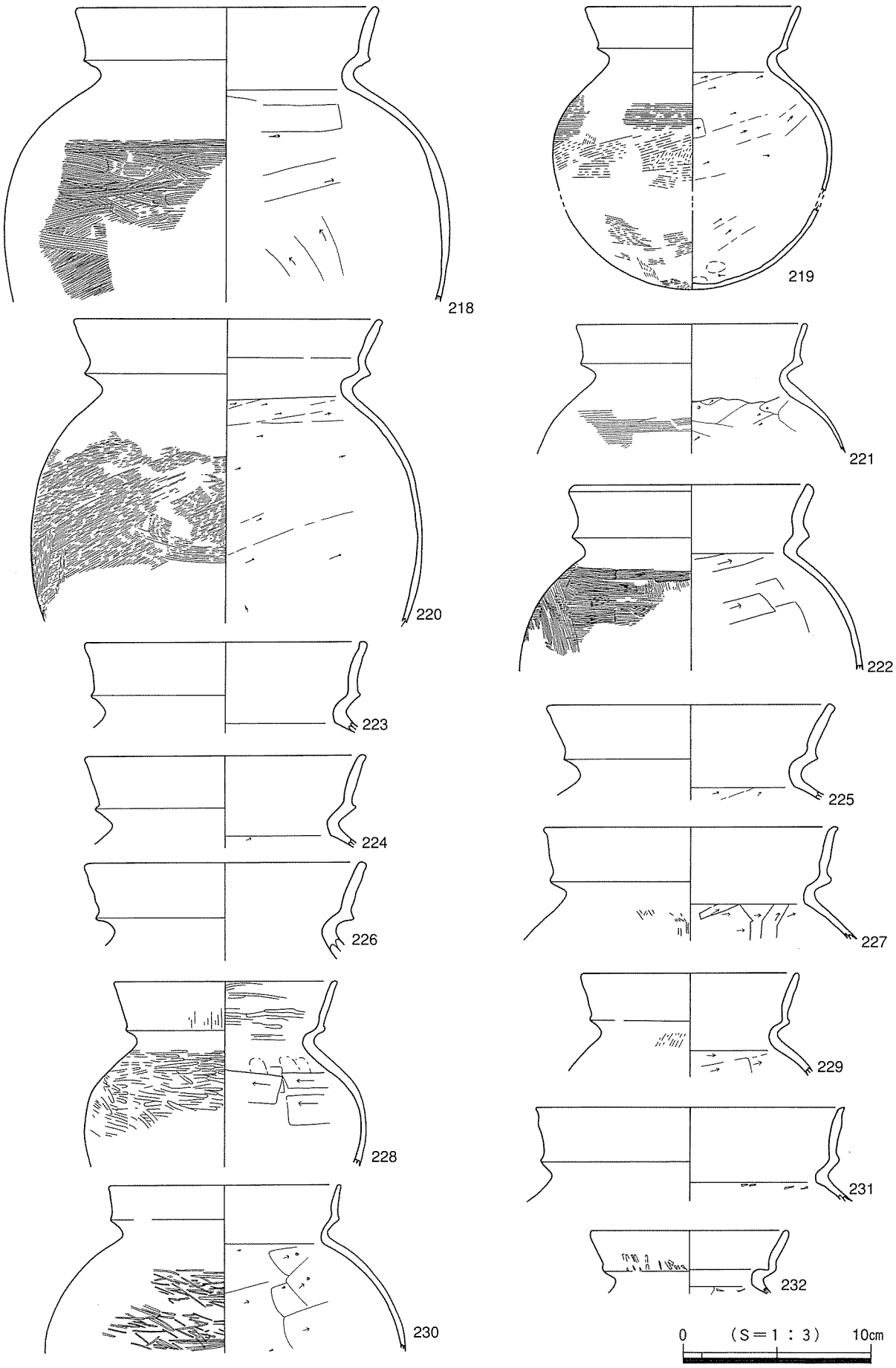
第29図　出土遺物実測図12（C区）



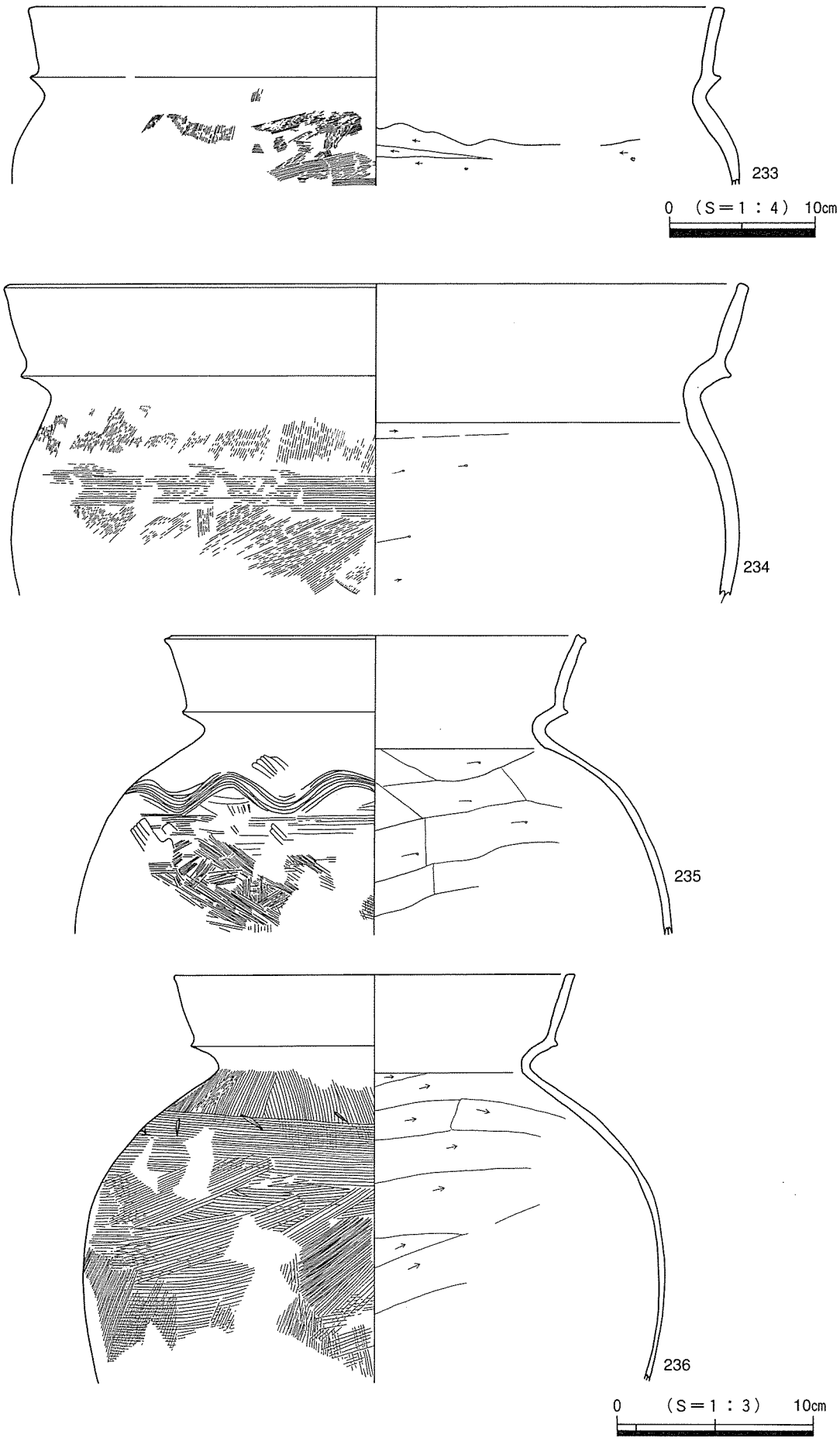
第30図　出土遺物実測図13（C区）



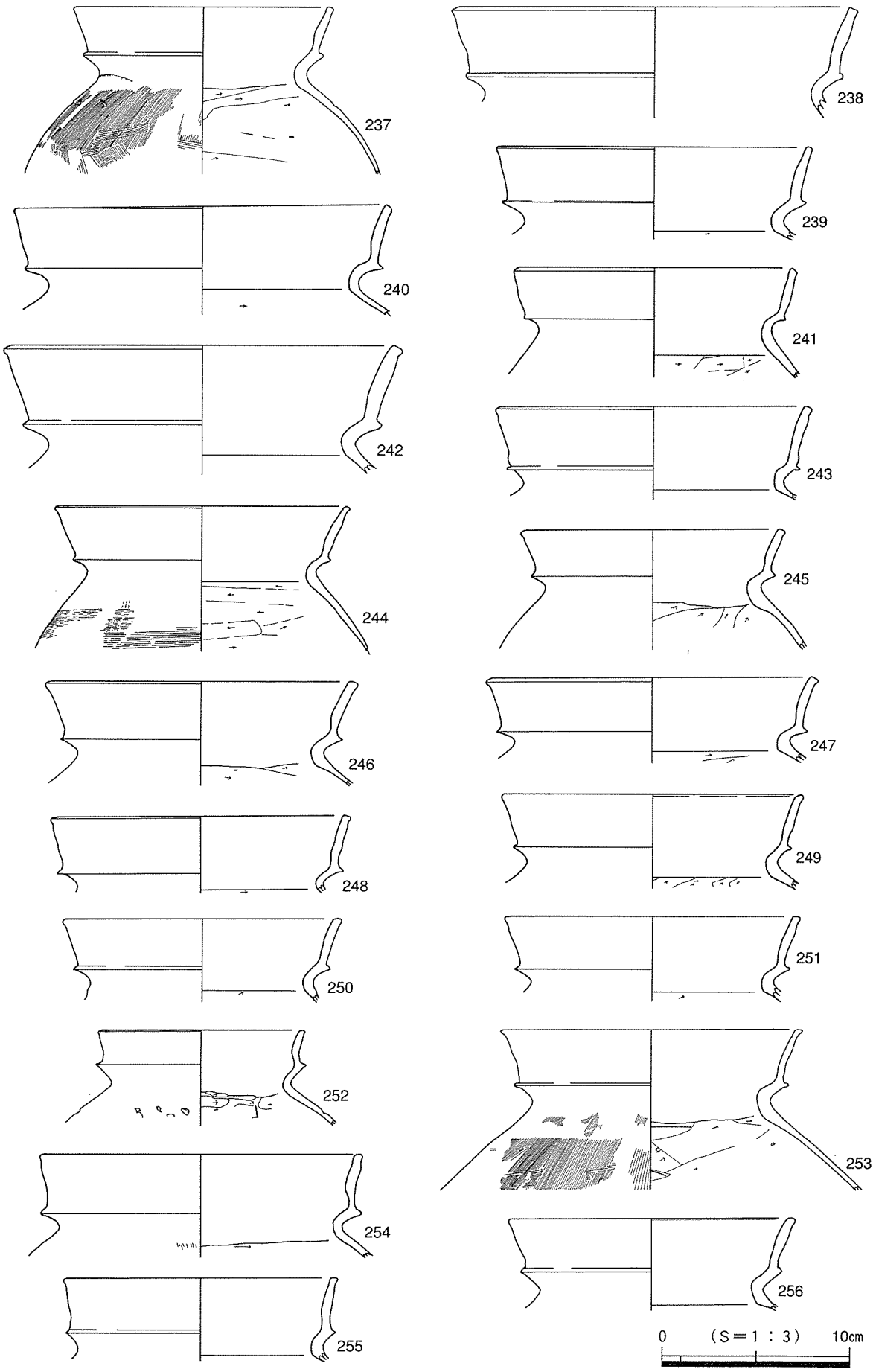
第31図　出土遺物実測図14（C区）



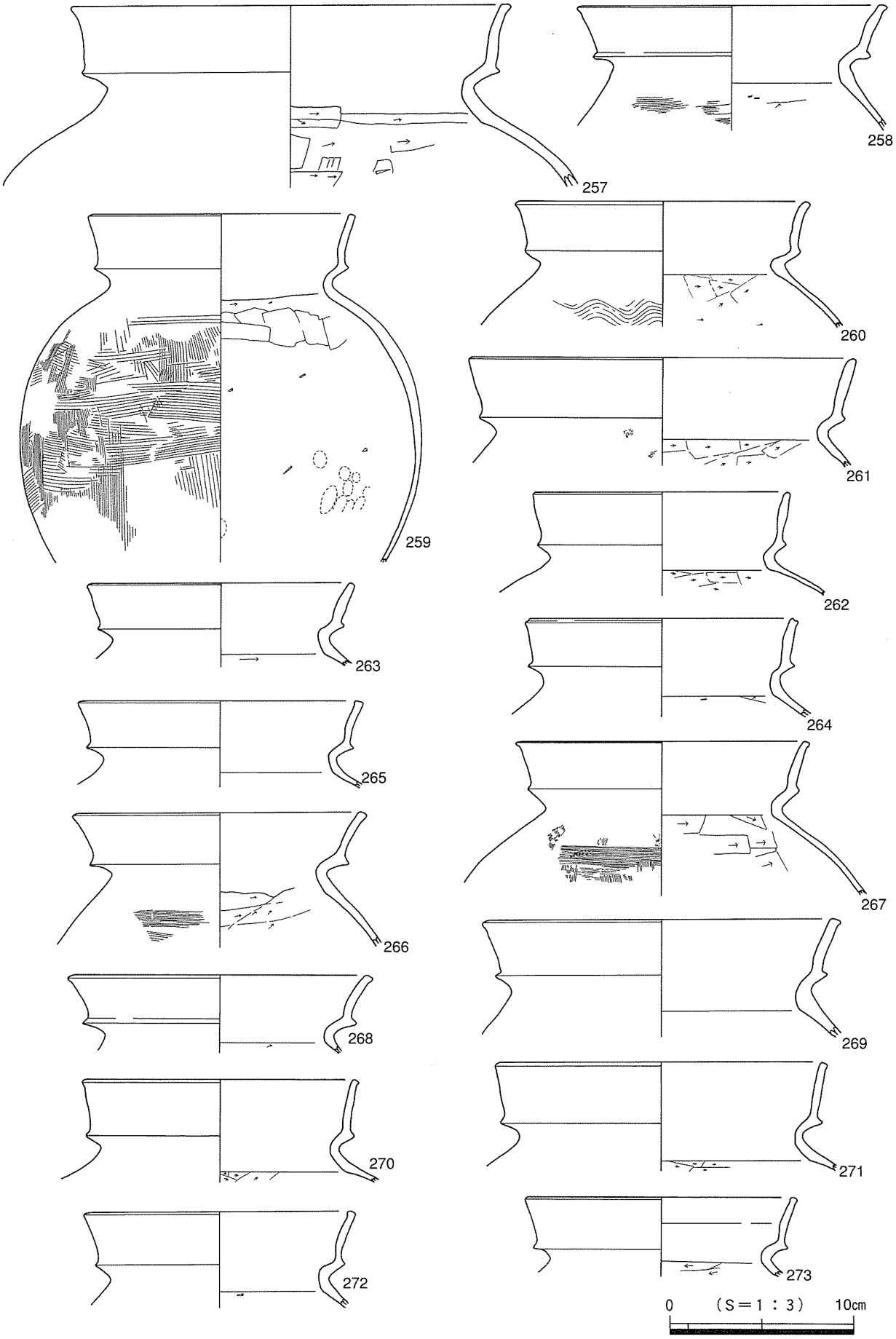
第32図　出土遺物実測図15（C区）



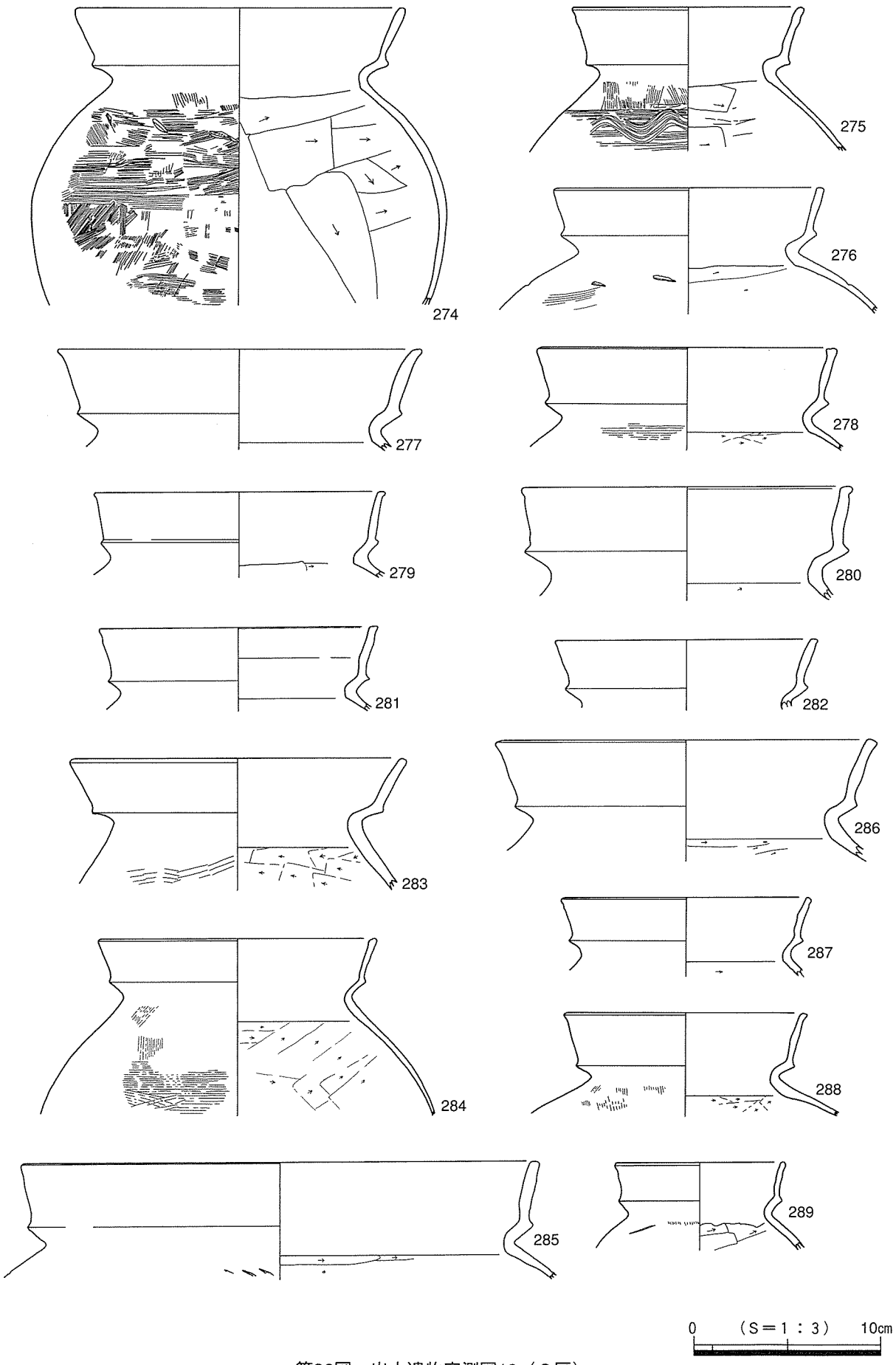
第33図　出土遺物実測図16（C区）



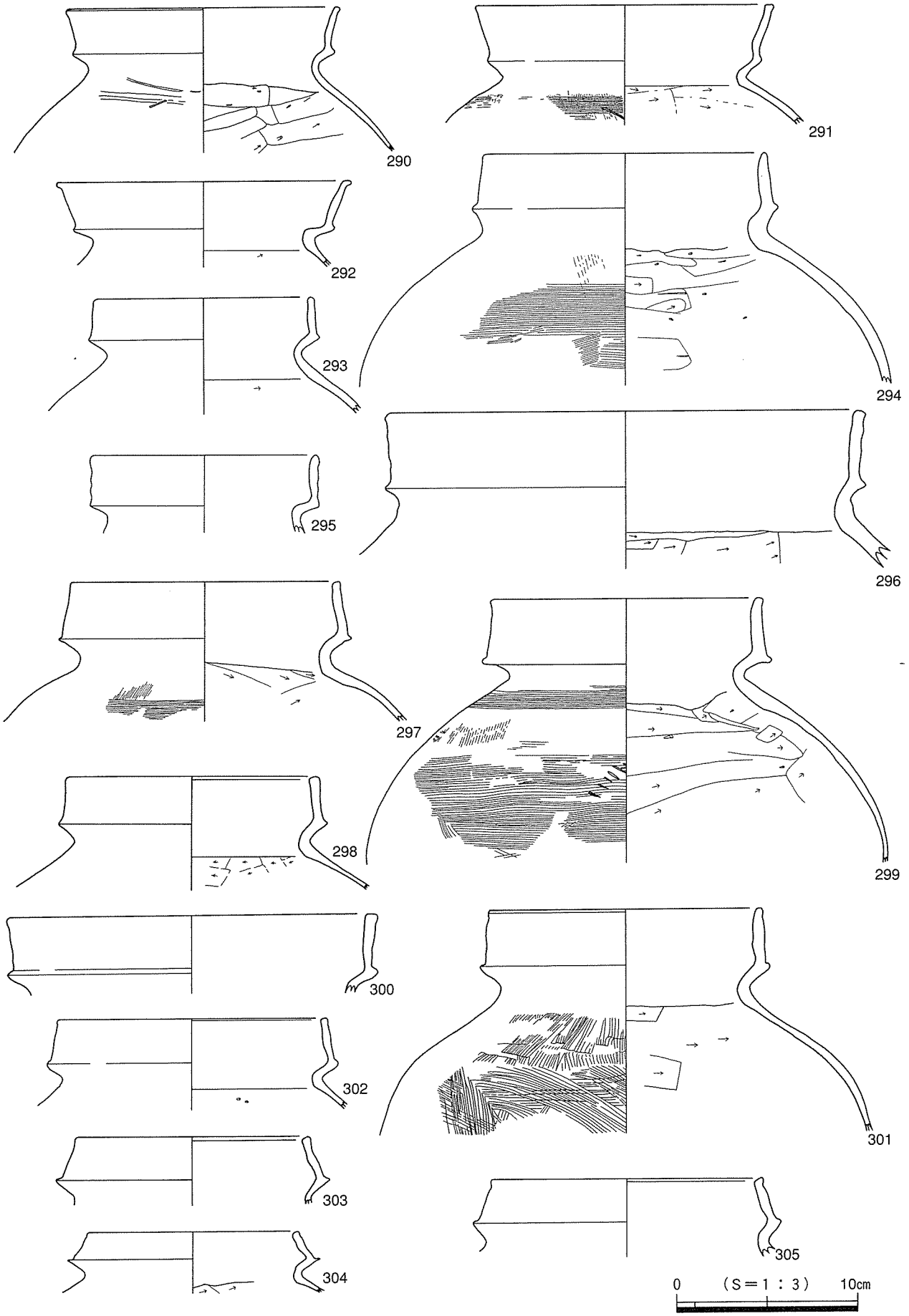
第34図　出土遺物実測図17（C区）



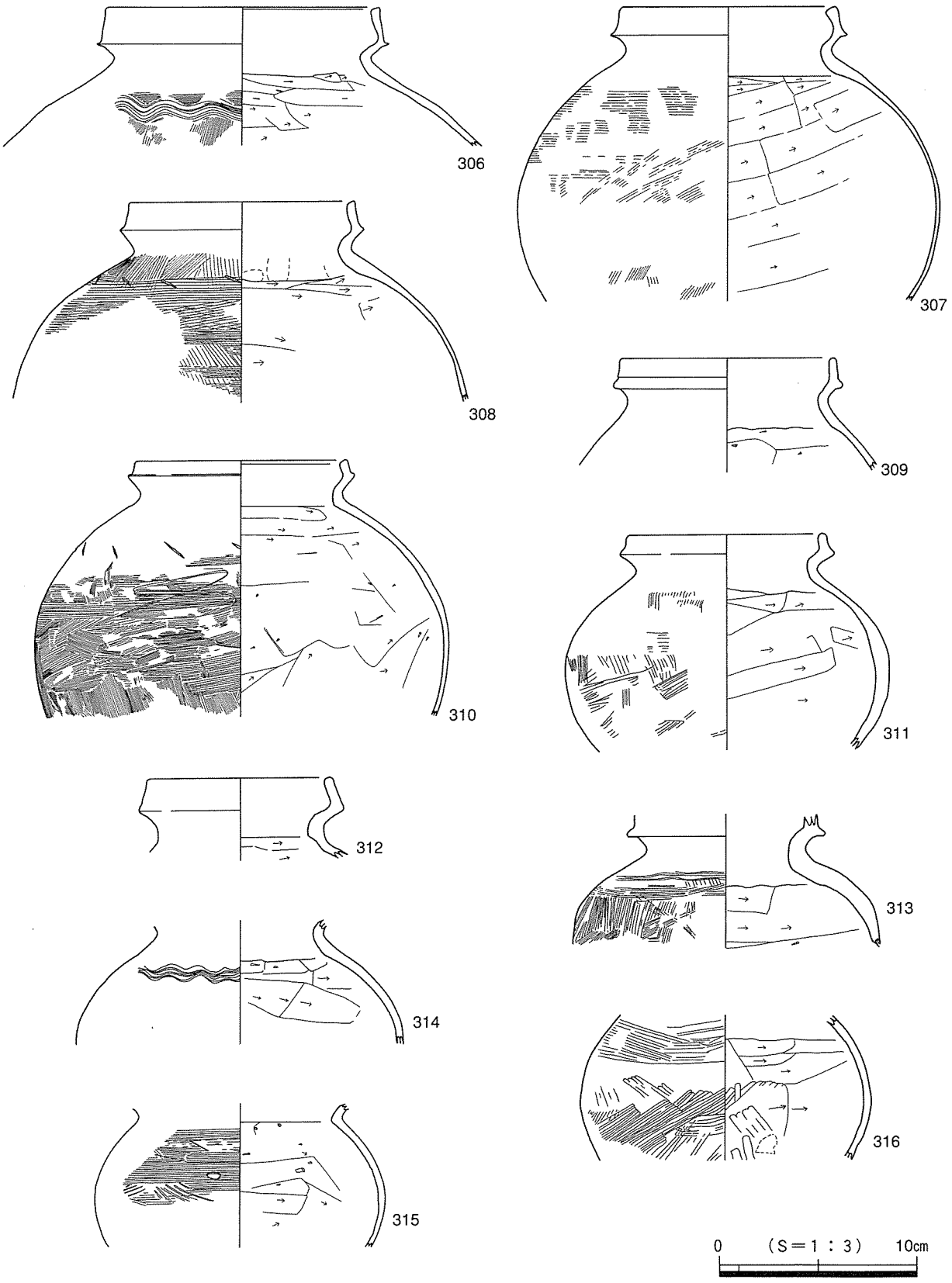
第35図　出土遺物実測図18（C区）



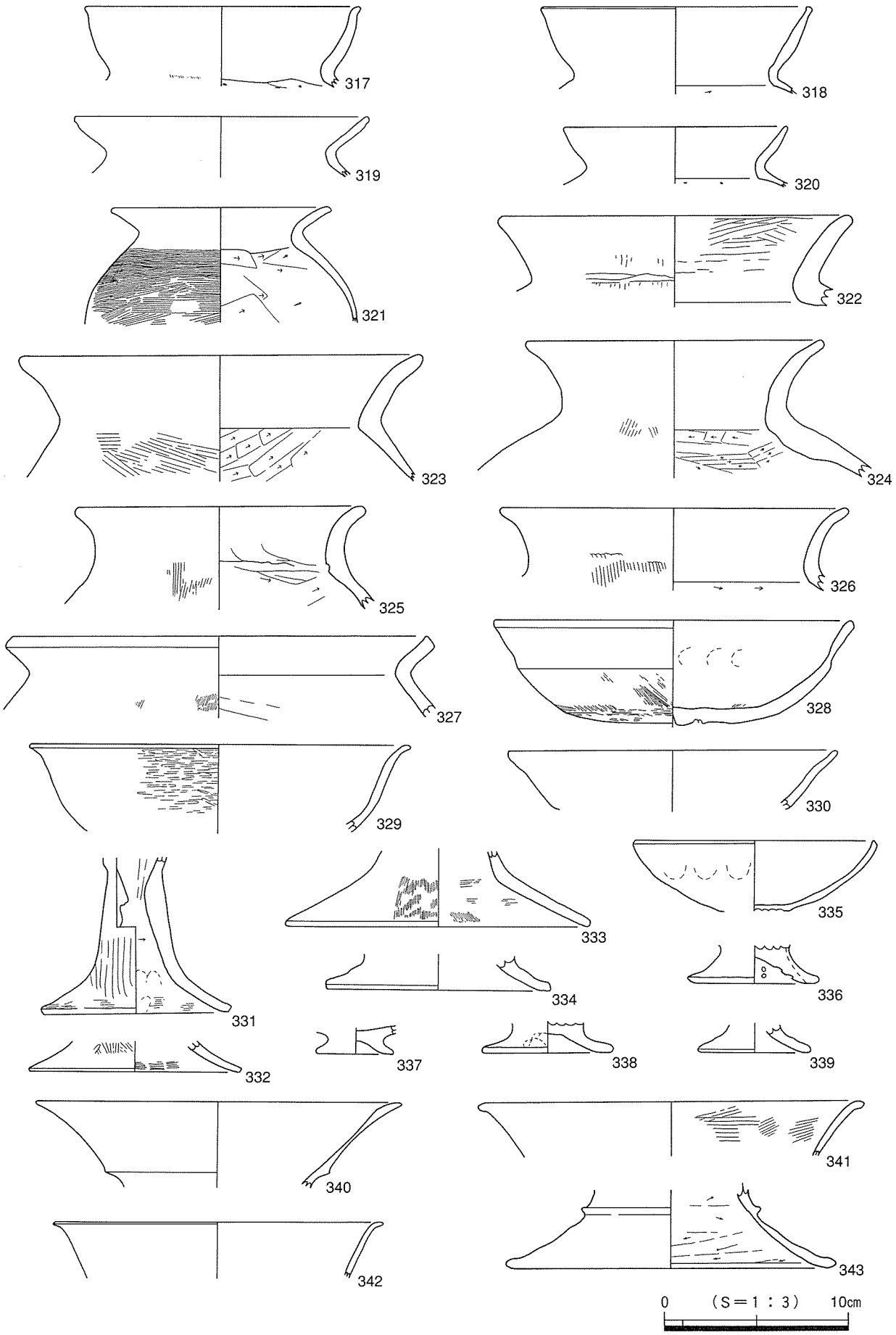
第36図　出土遺物実測図19（C区）



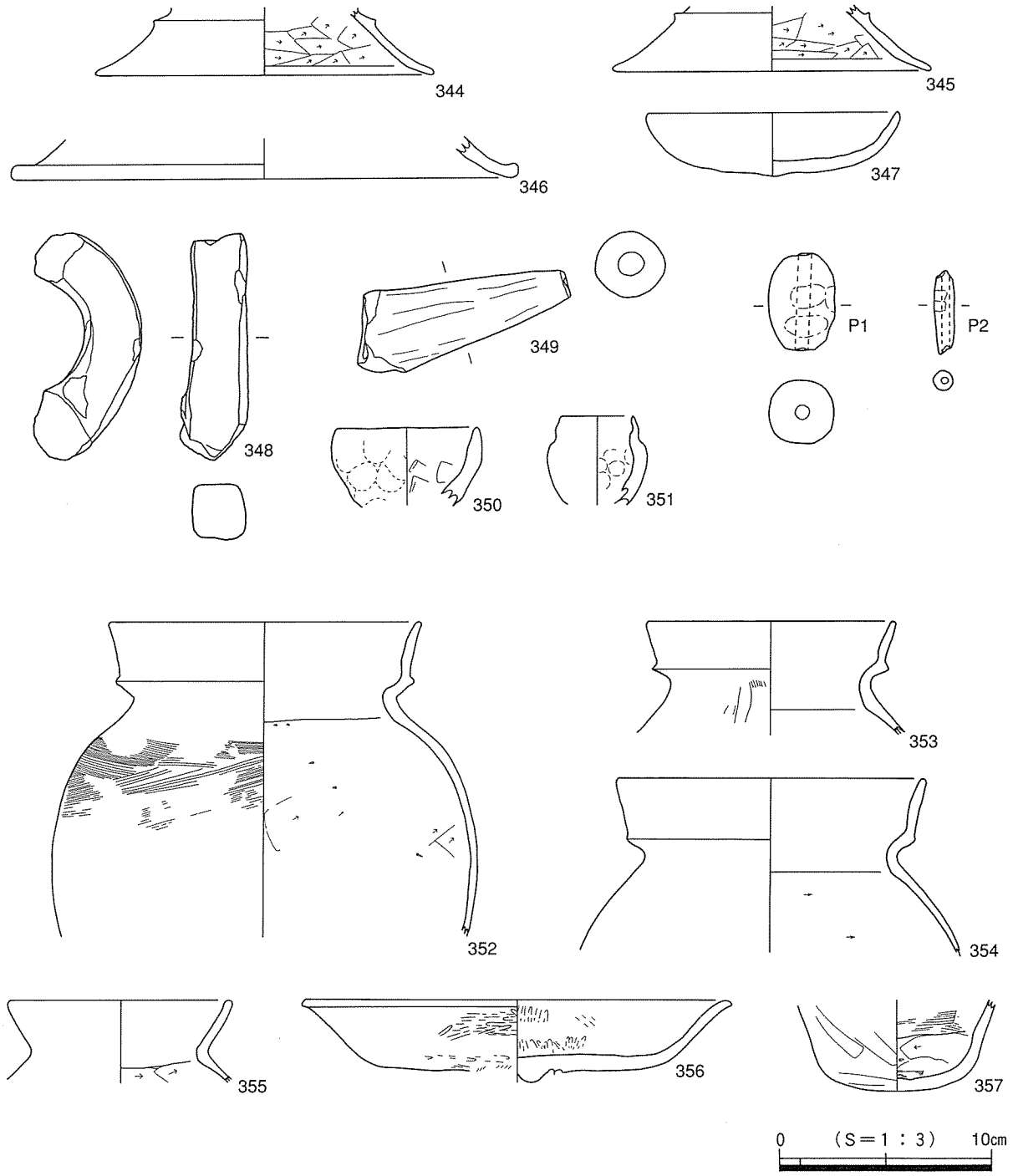
第37図　出土遺物実測図20（C区）



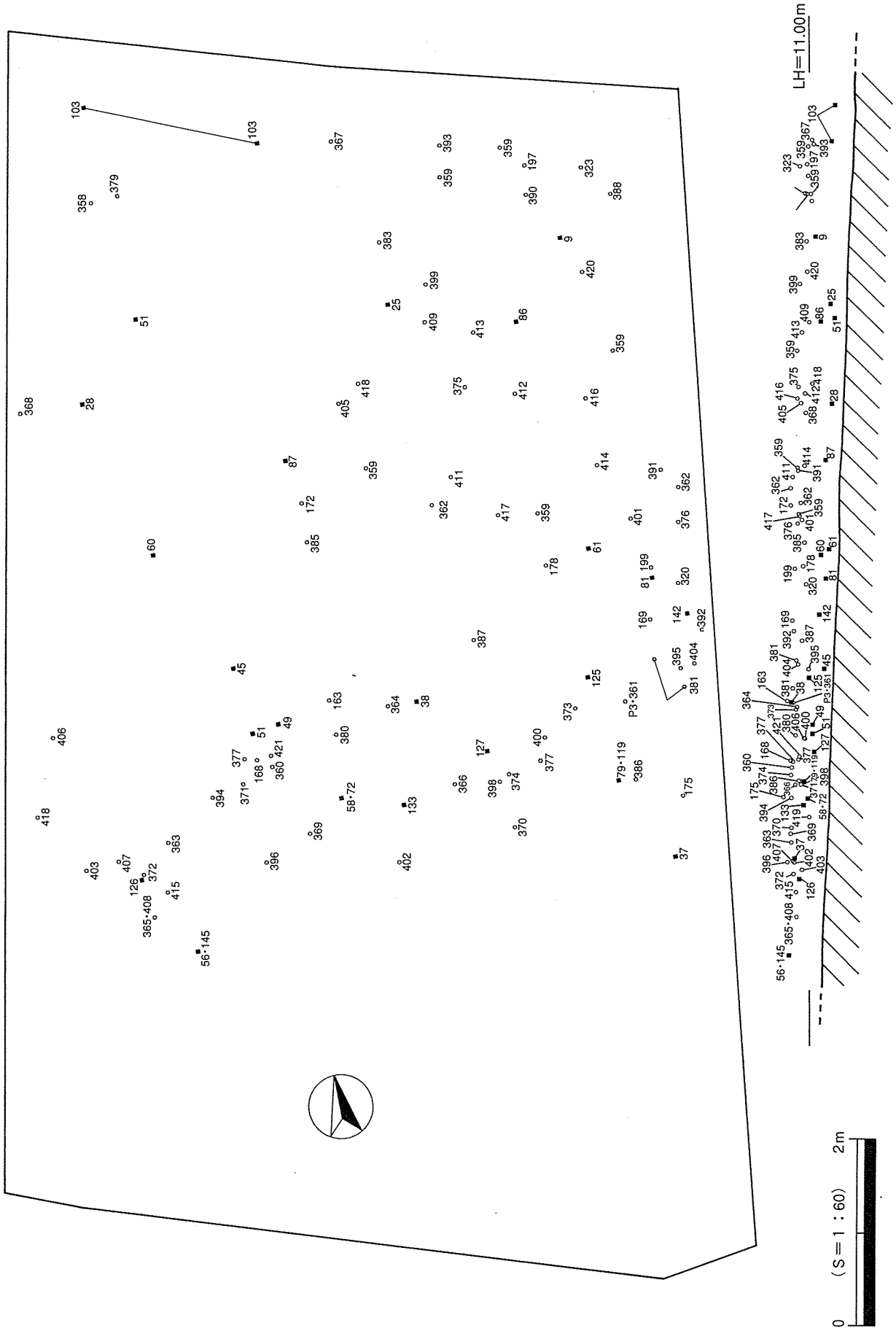
第38図　出土遺物実測図21（C区）



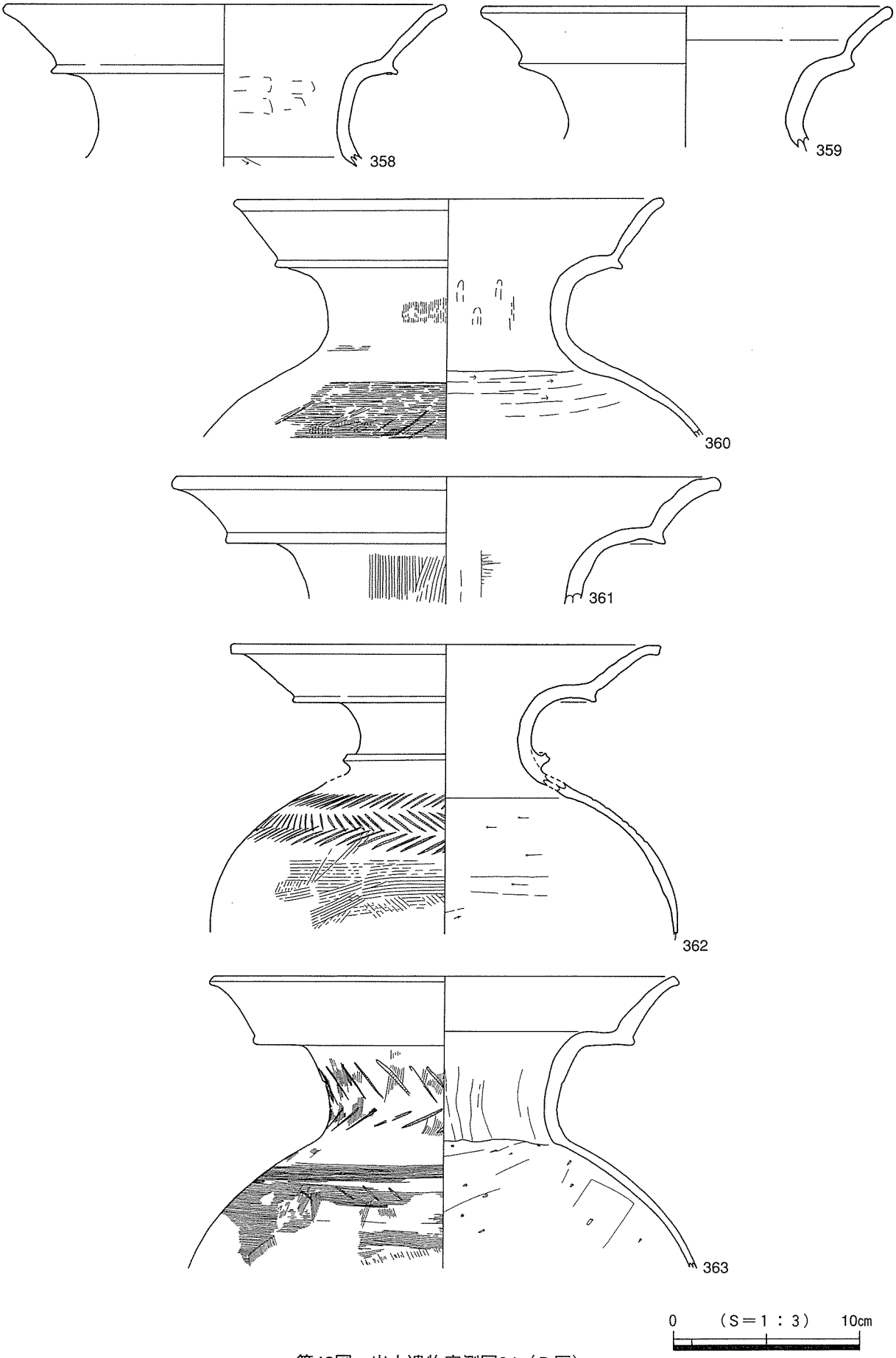
第39図　出土遺物実測図22（C区）



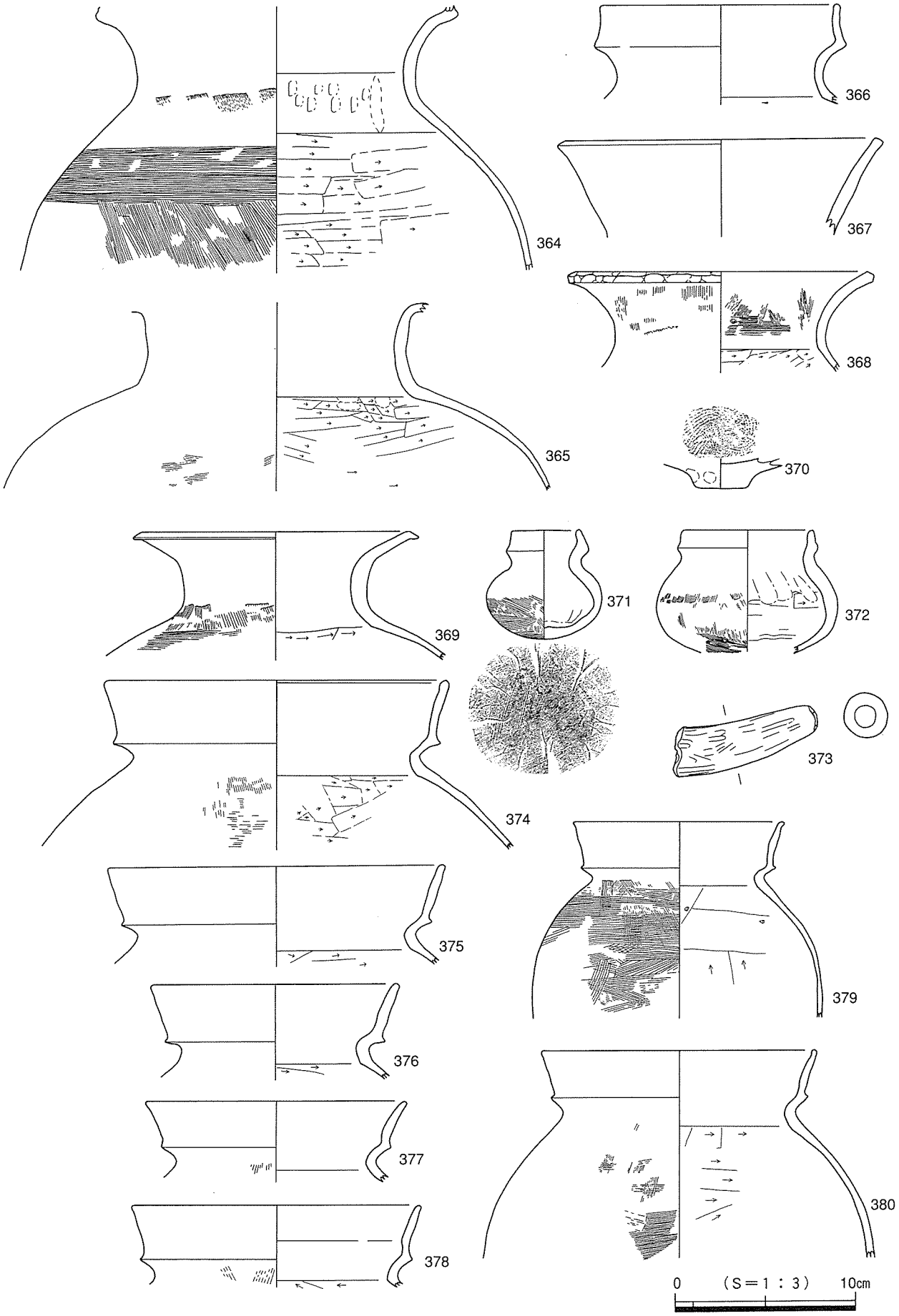
第40図　出土遺物実測図23（C区／C・D間溝）



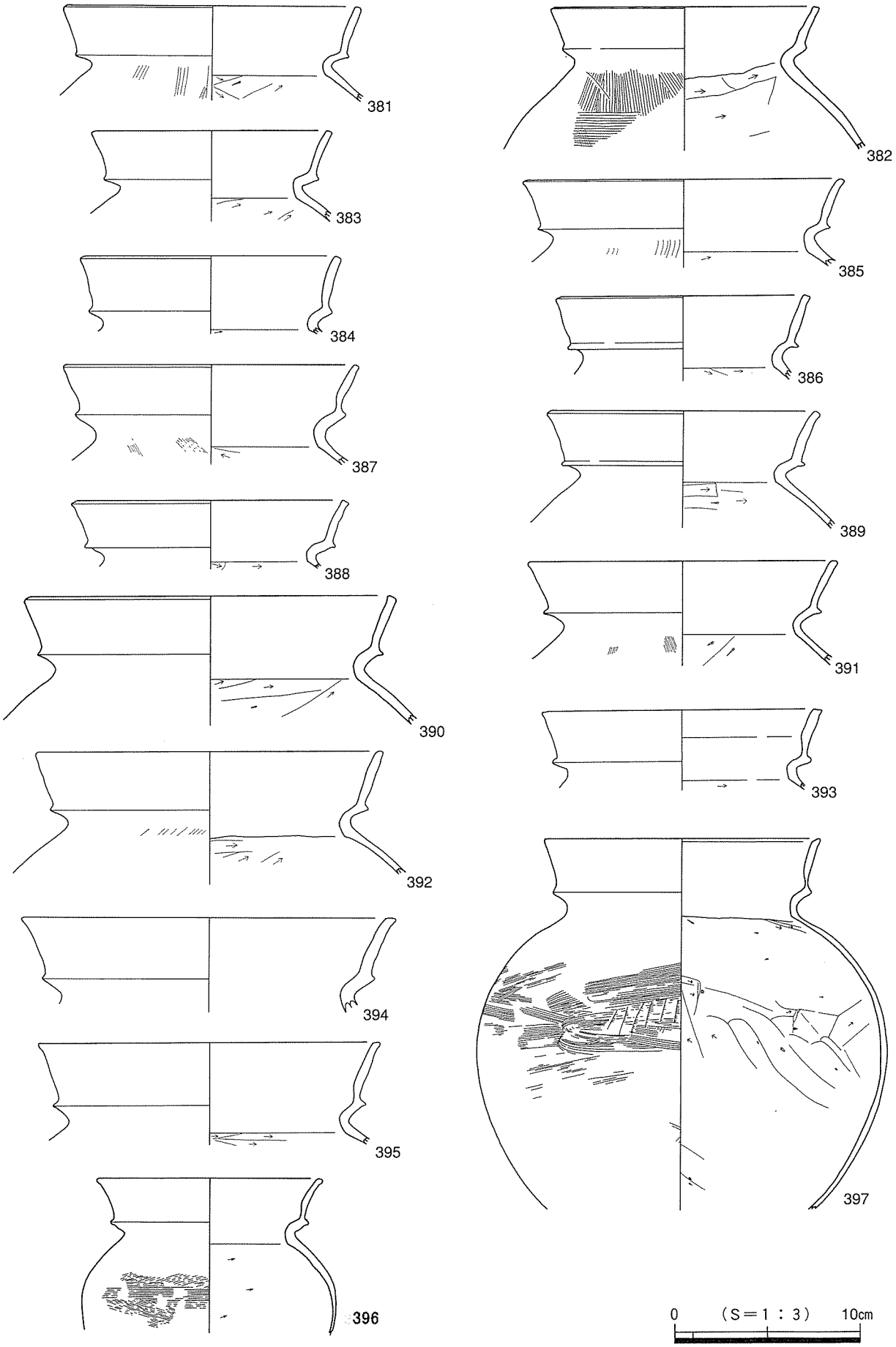
第41図　D区遺物出土状況図



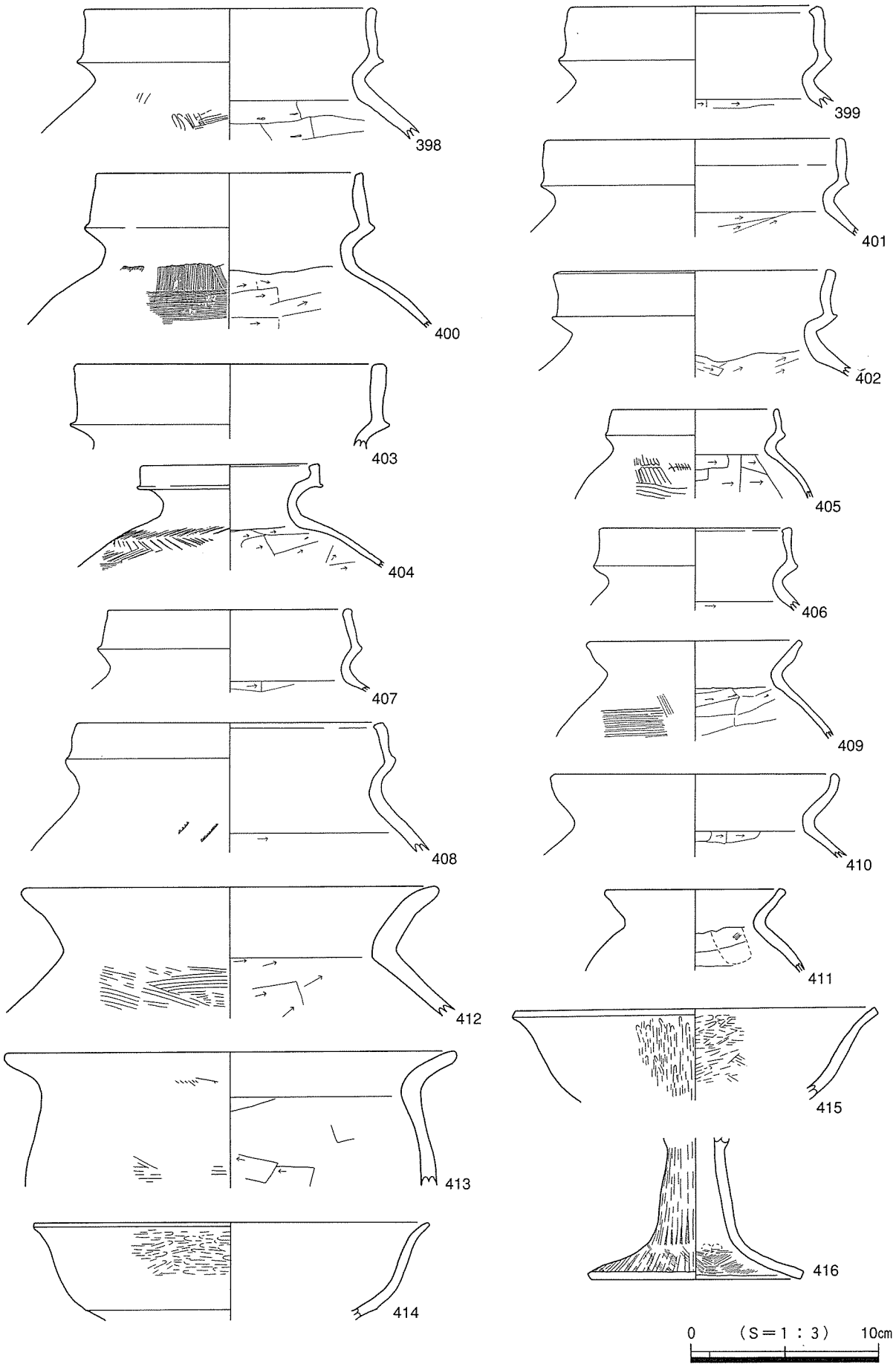
第42図　出土遺物実測図24（D区）



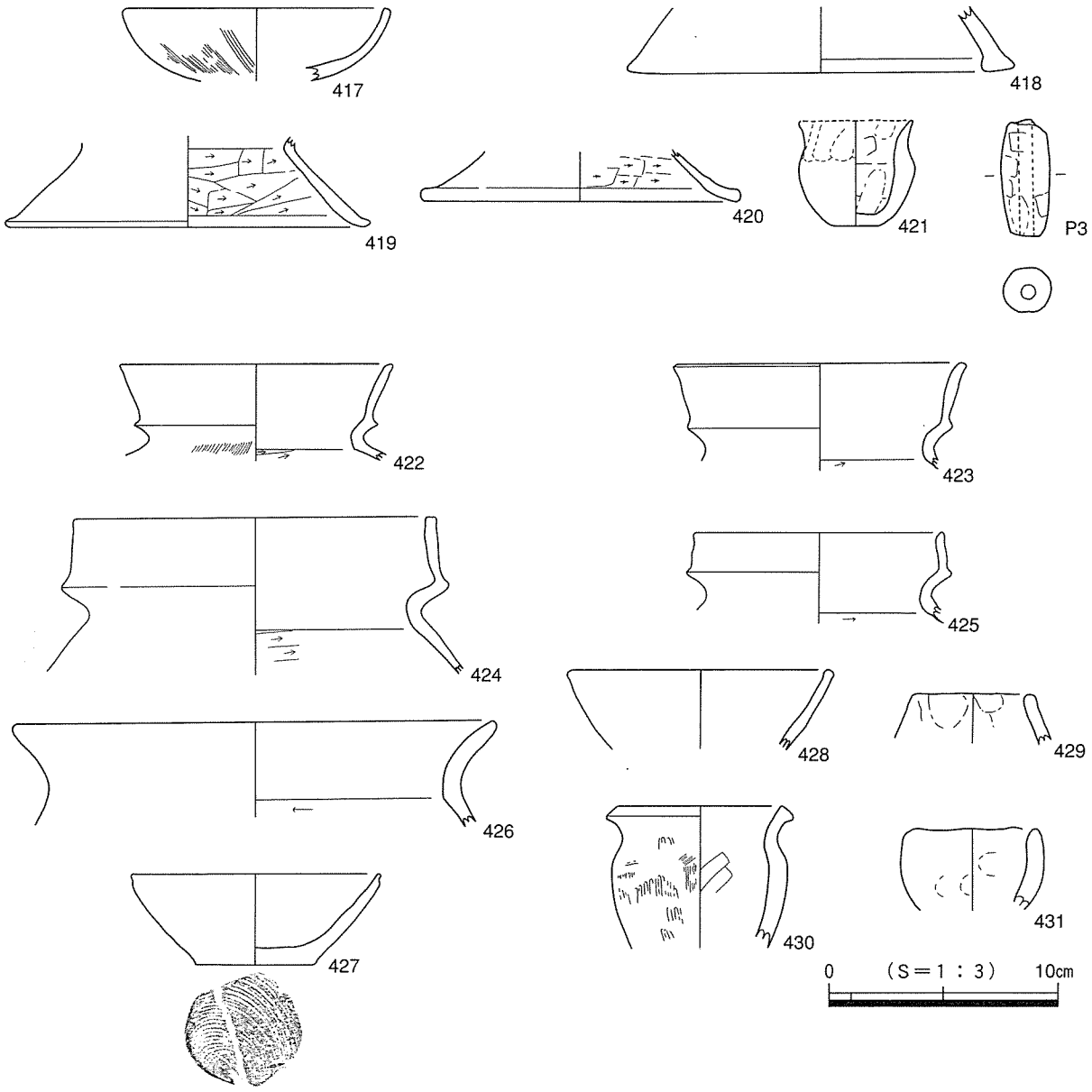
第43図　出土遺物実測図25（D区）



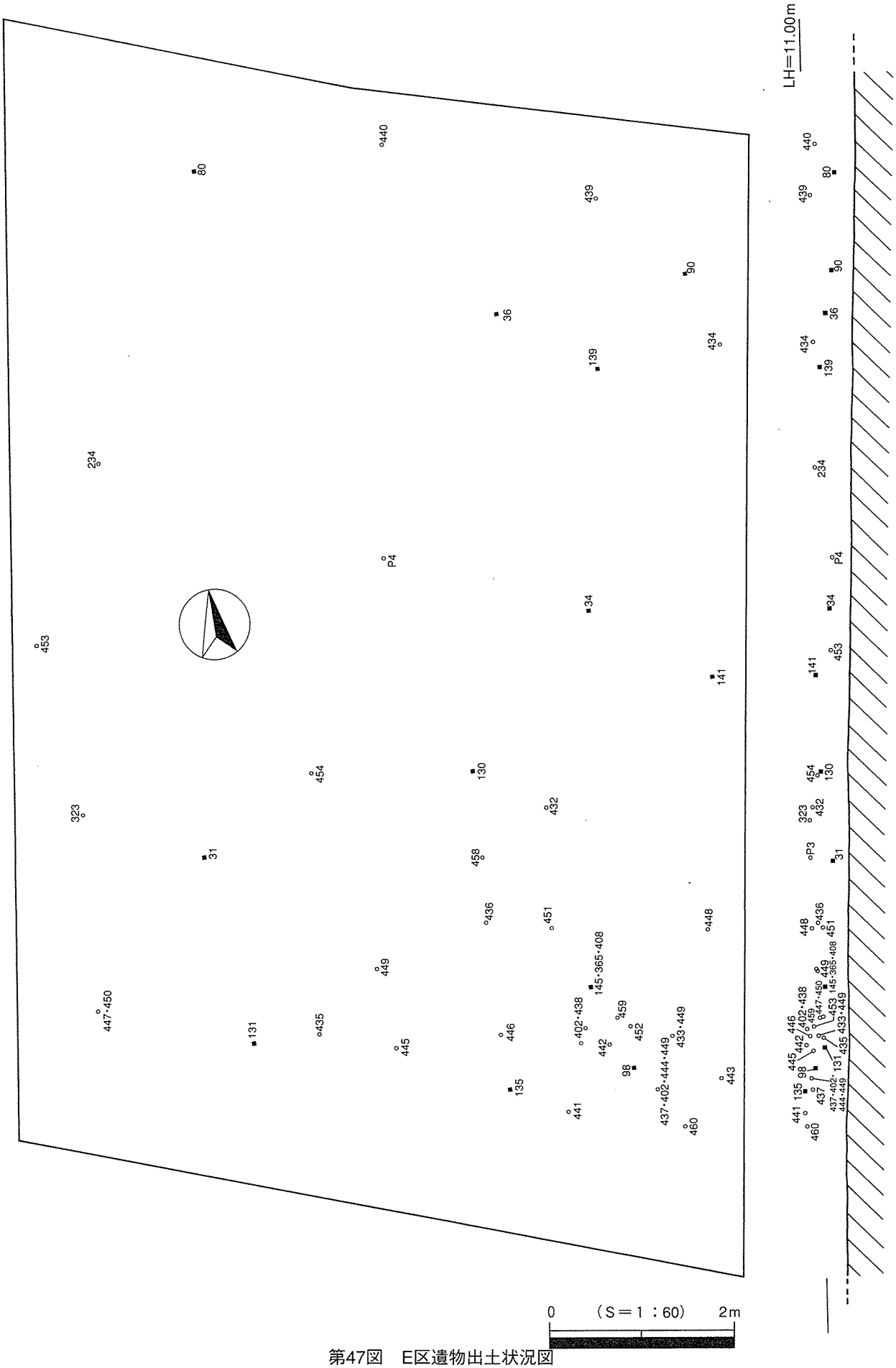
第44図　出土遺物実測図26（D区）



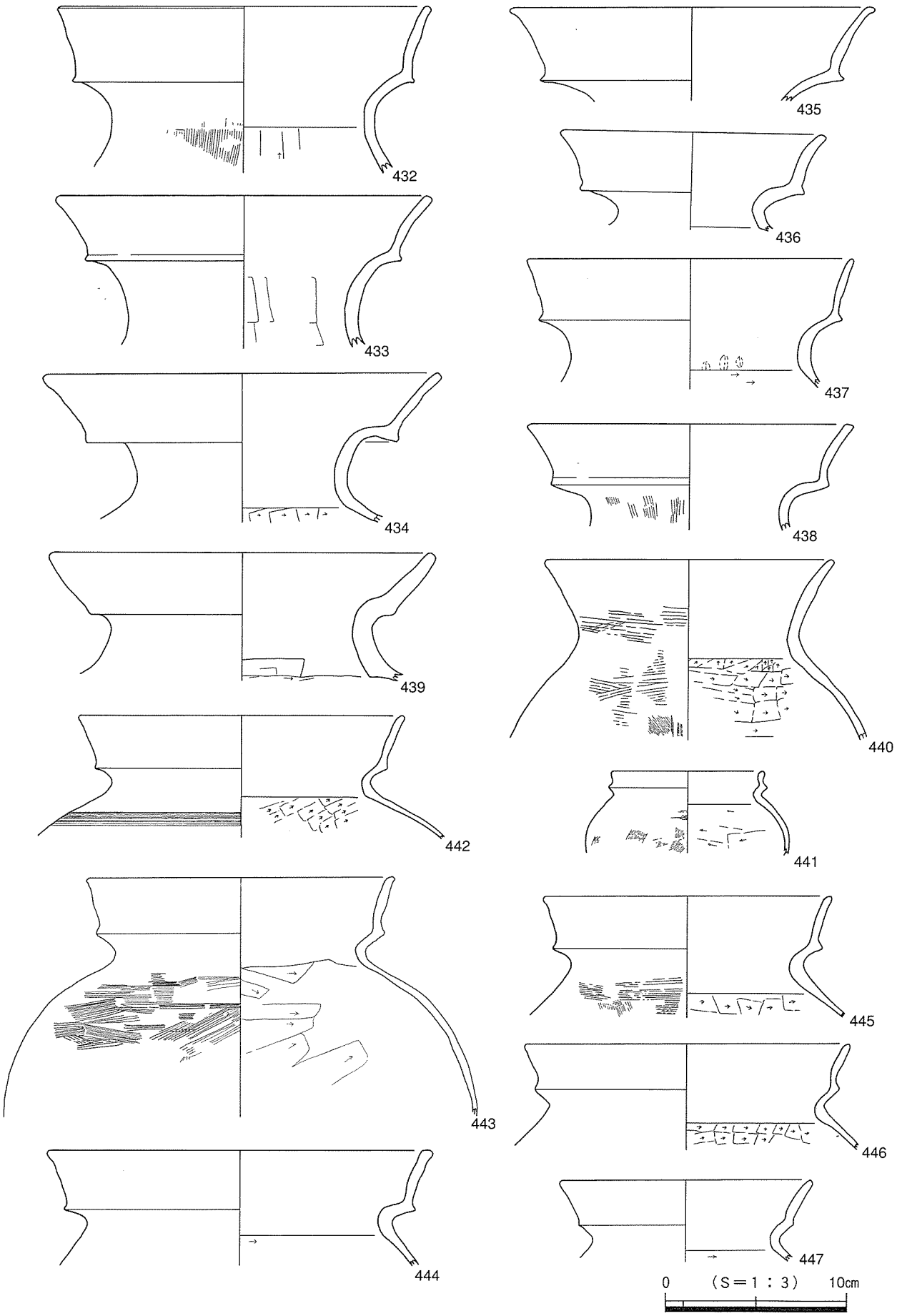
第45図　出土遺物実測図27（D区）



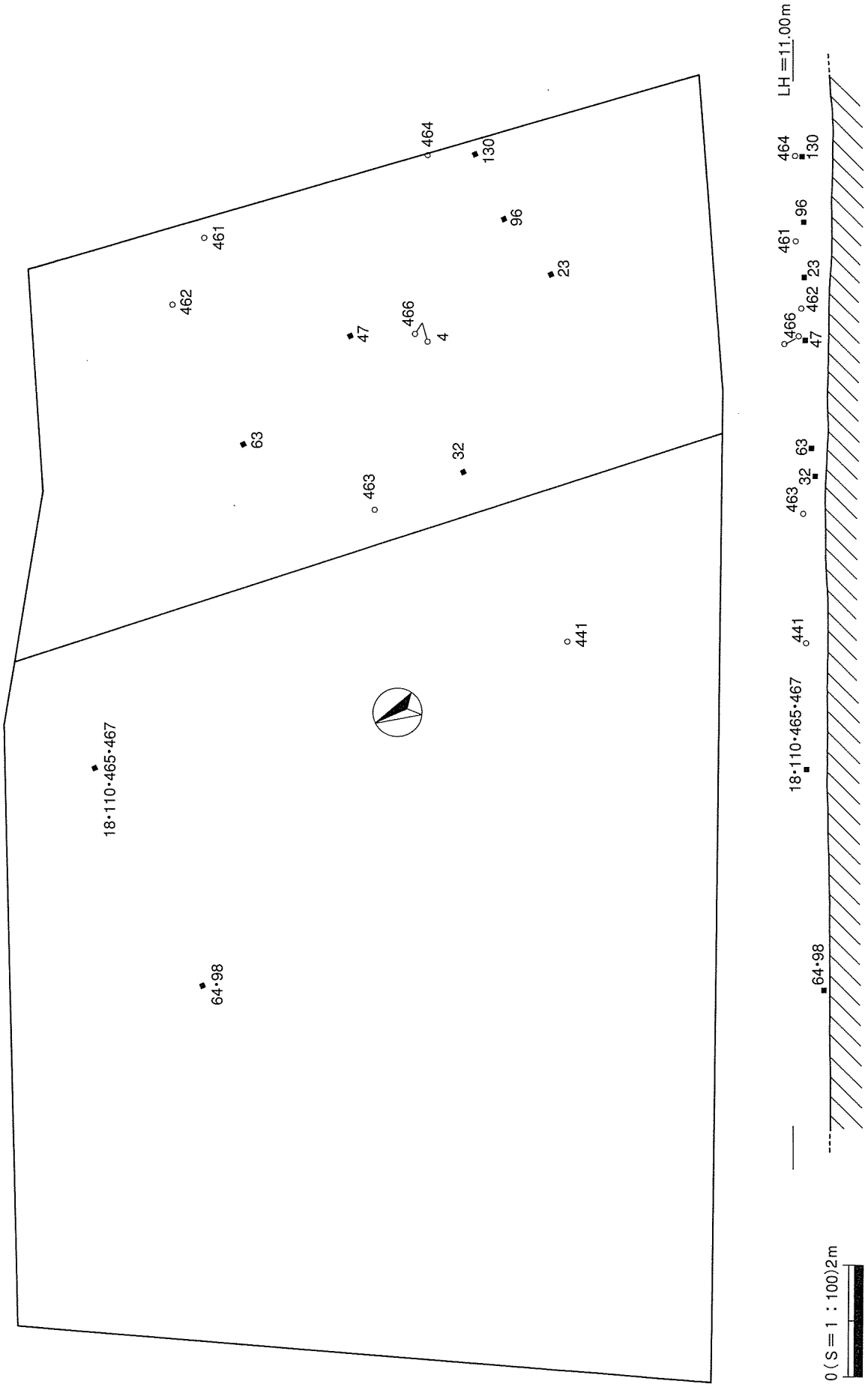
第46図　出土遺物実測図28（D区）



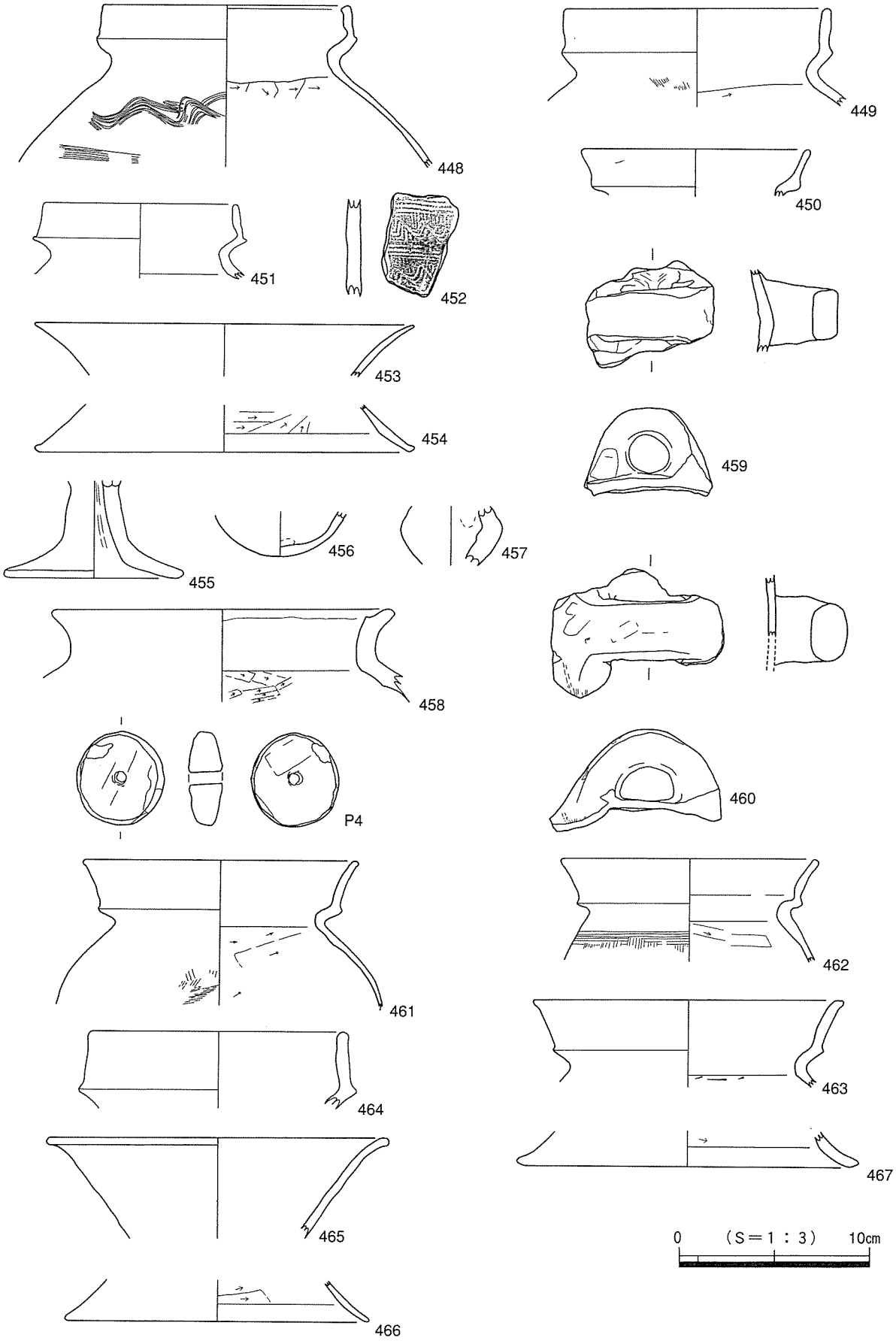
第47図　E区遺物出土状況図



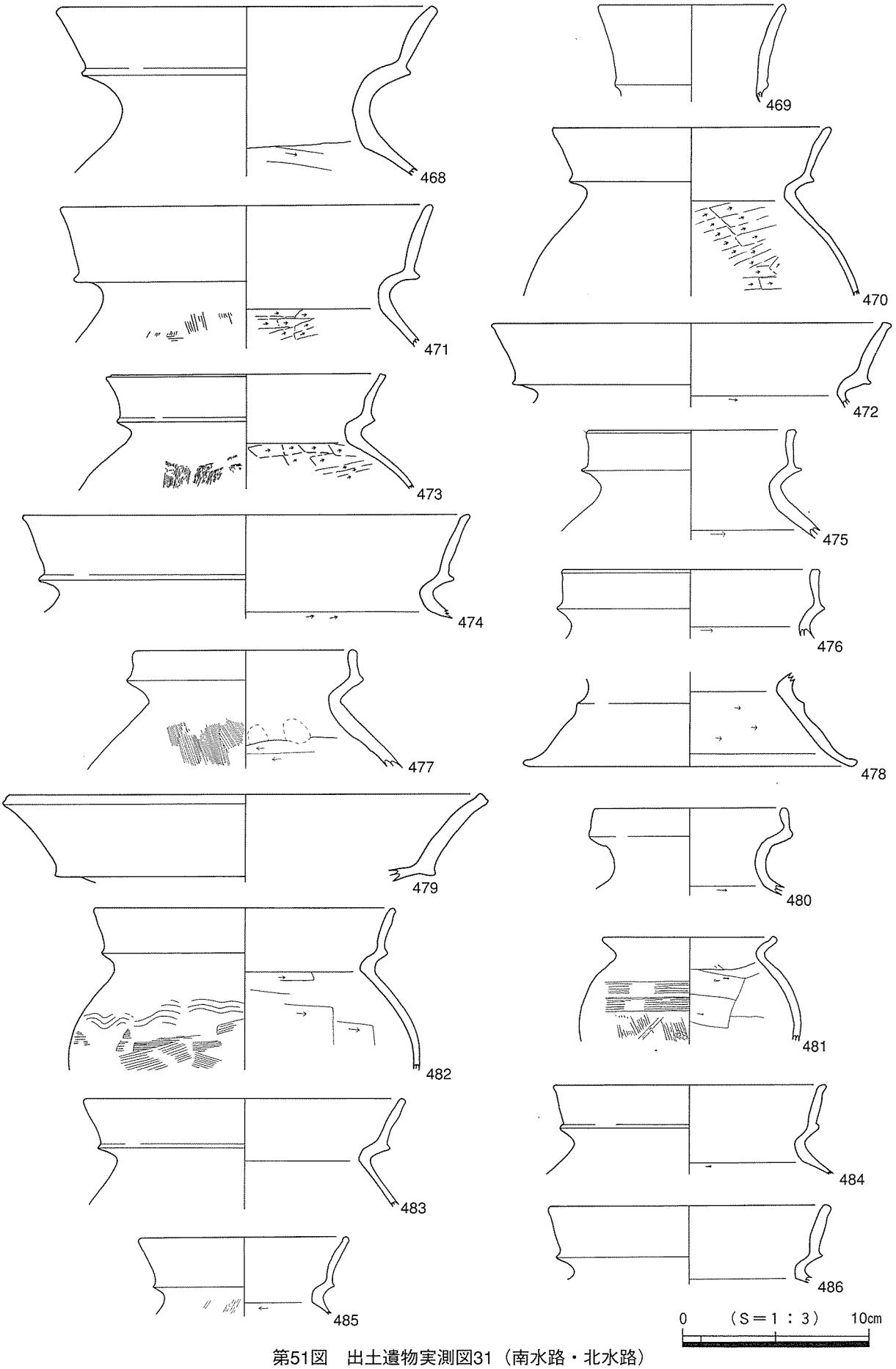
第48図　出土遺物実測図29（E区）



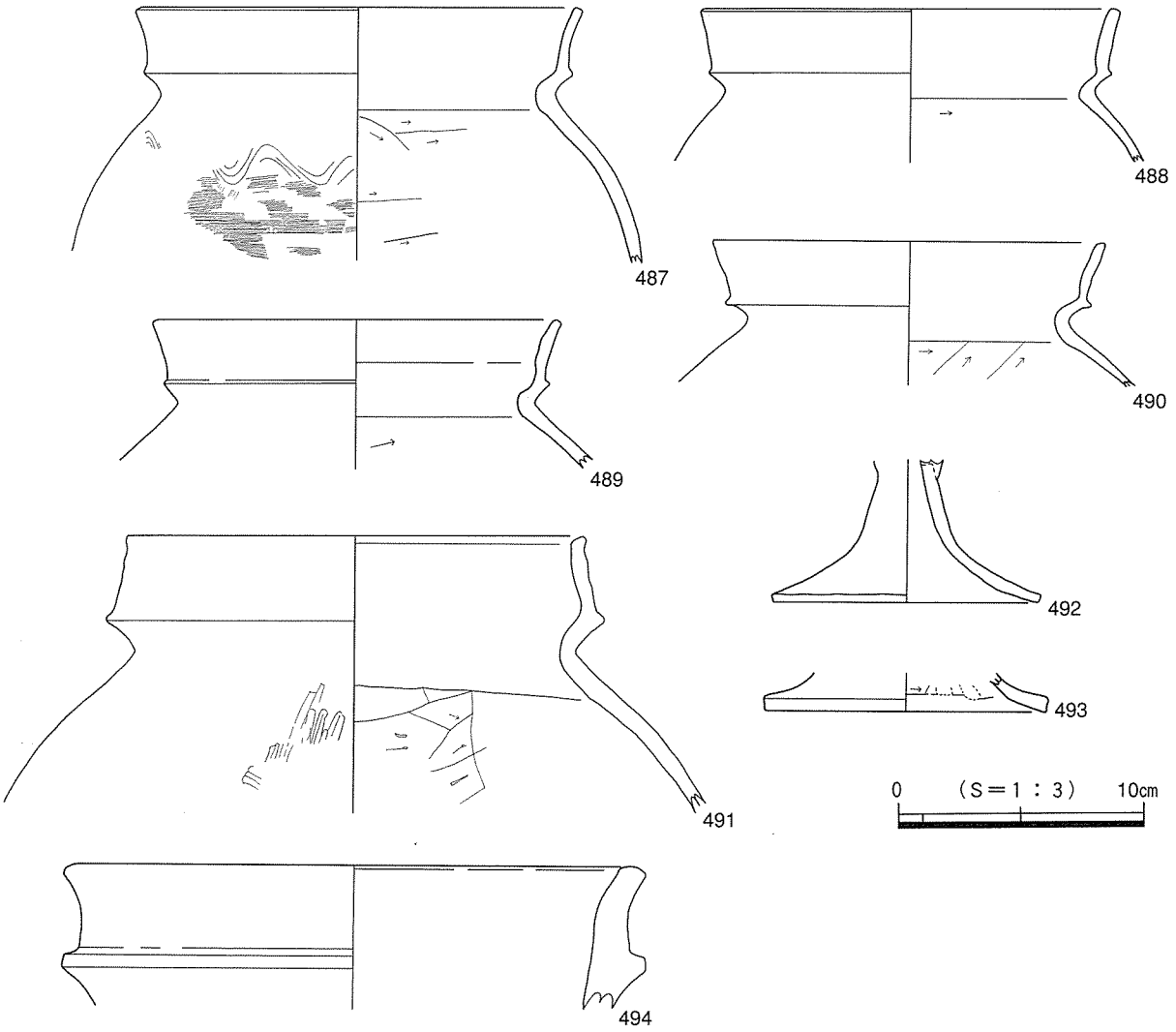
第49図　F区G区遺物出土状況図



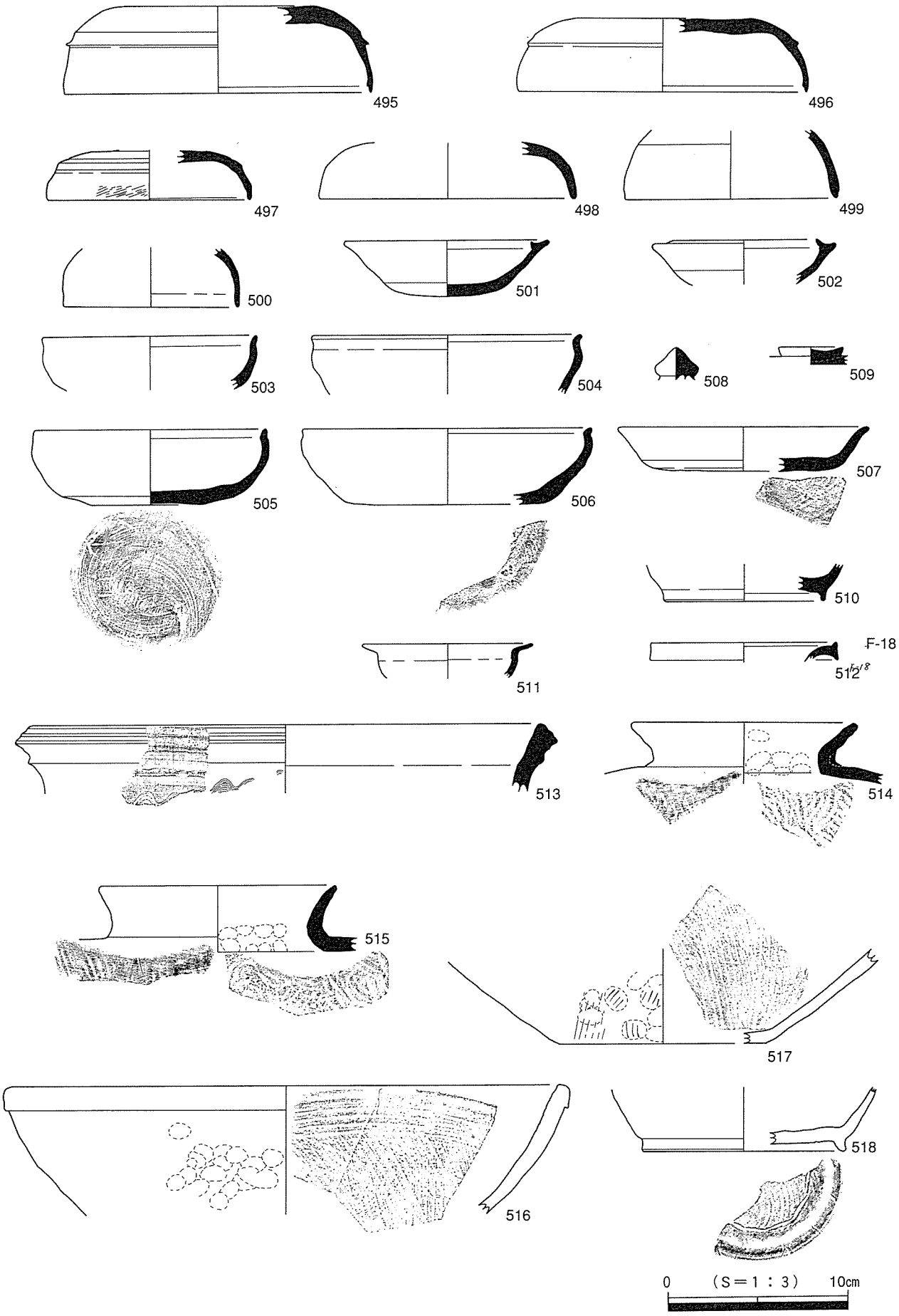
第50図　出土遺物実測図30（E区・F区・G区）



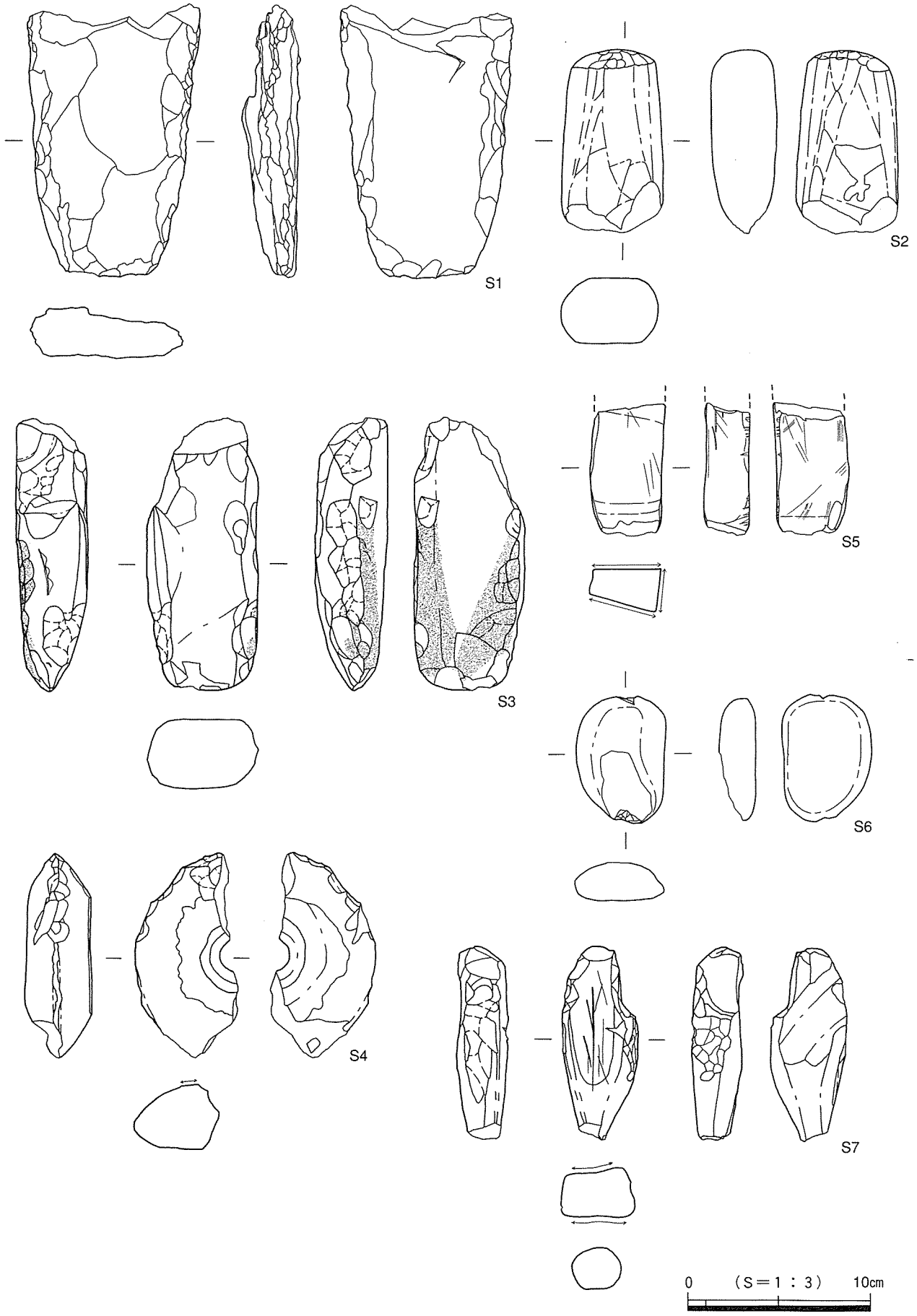
第51図　出土遺物実測図31（南水路・北水路）



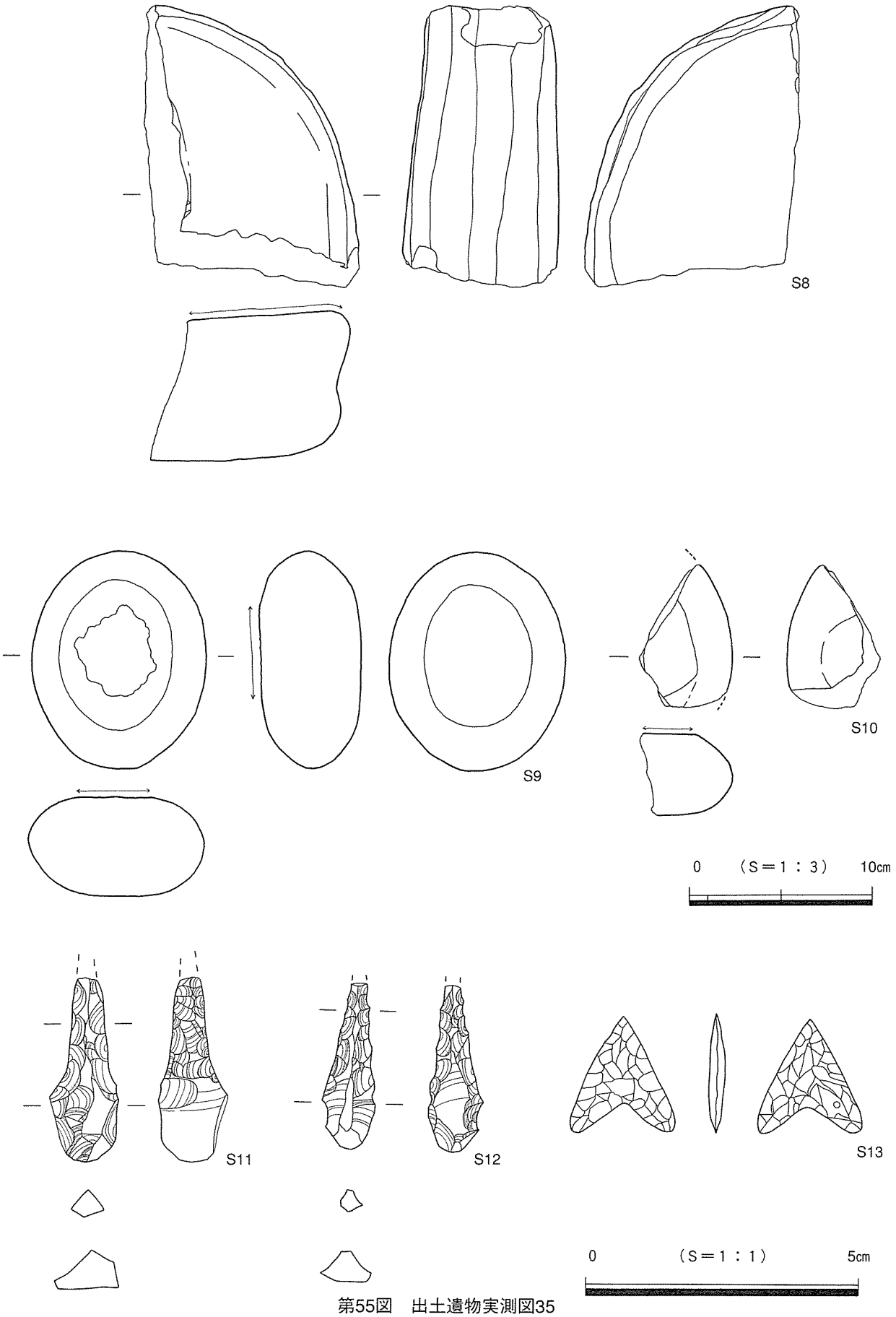
第52図　出土遺物実測図32（北水路）



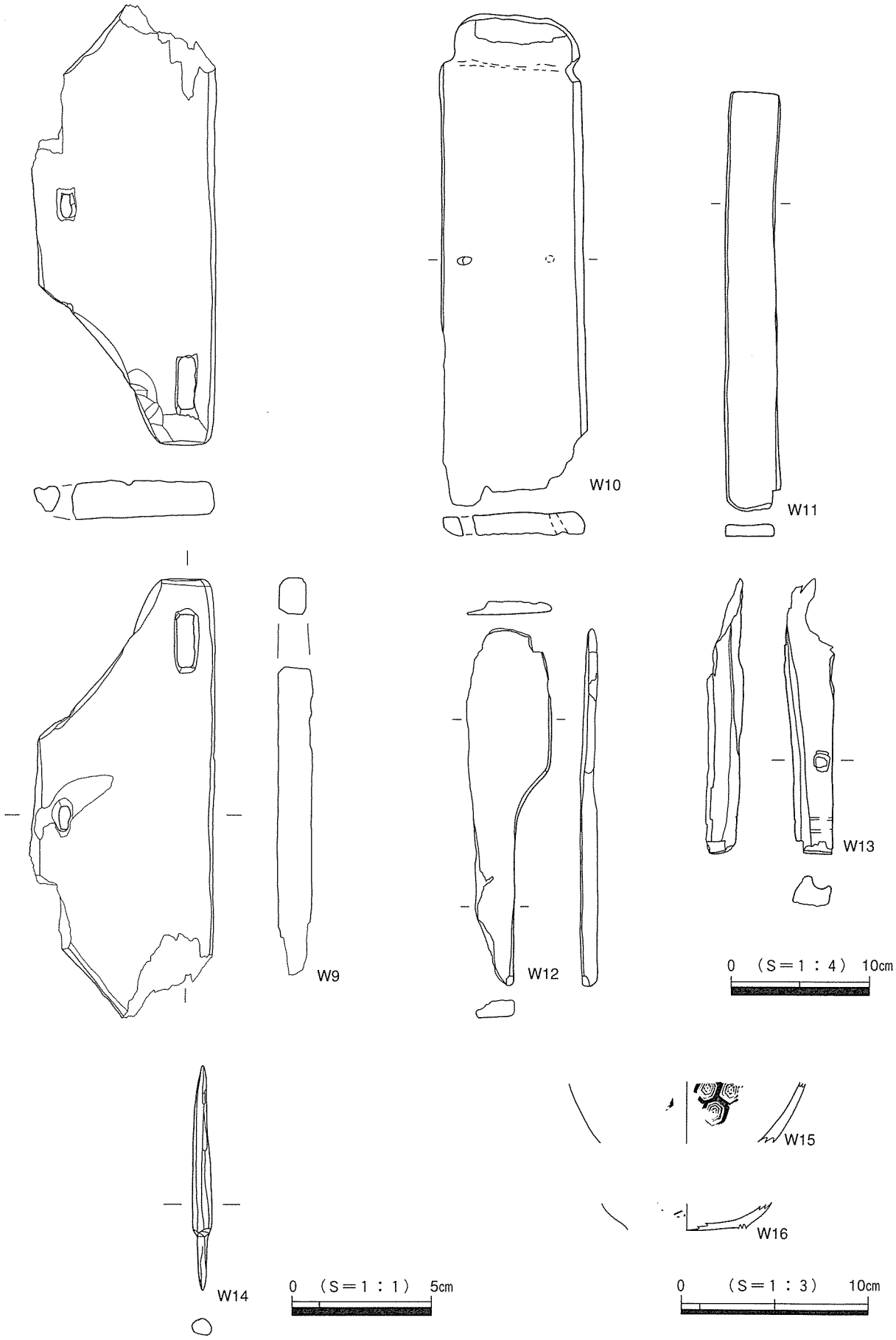
第53図　出土遺物実測図33



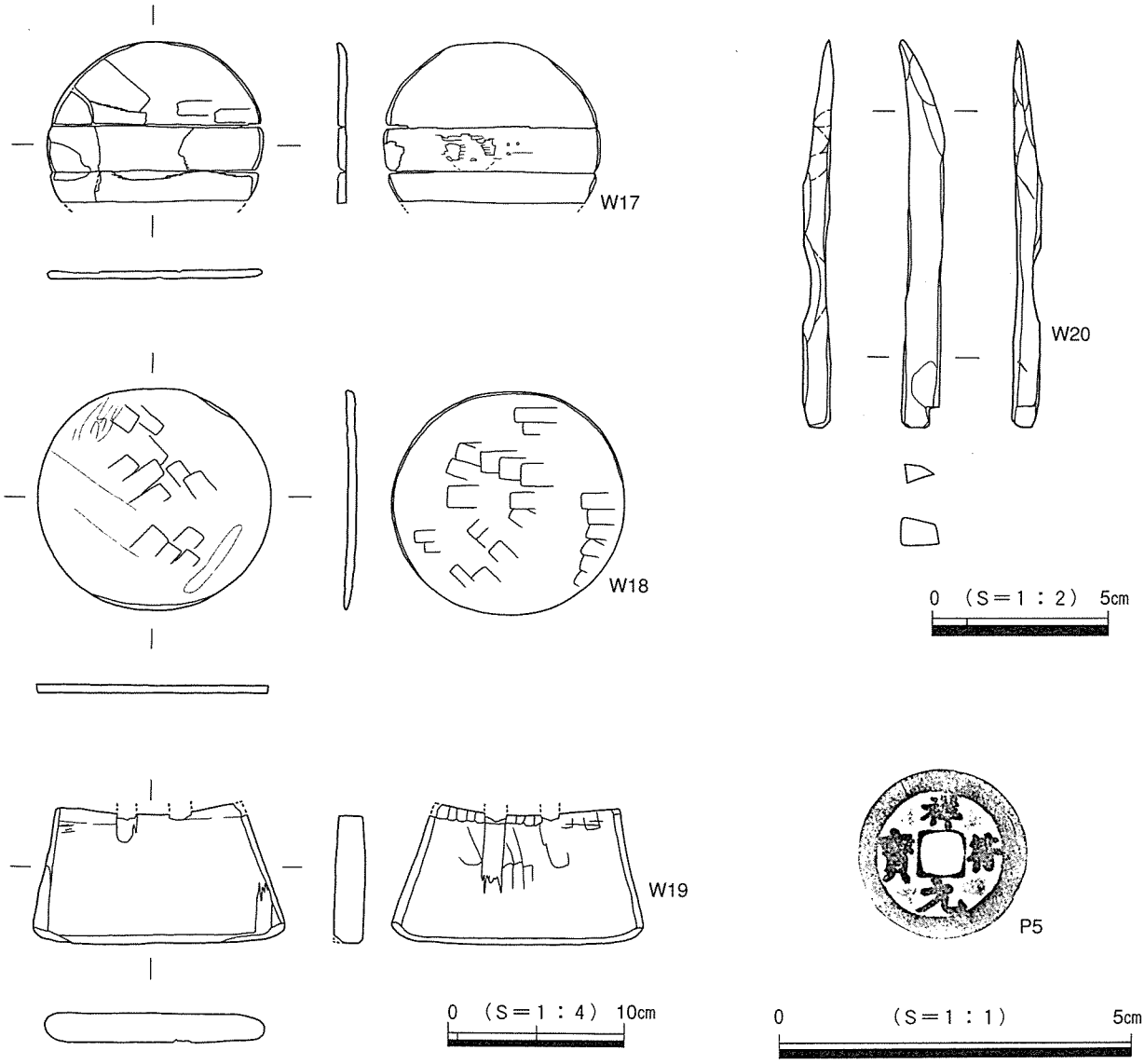
第54図　出土遺物実測図34



第55図　出土遺物実測図35



第56図　出土遺物実測図36



第57図　出土遺物実測図37

遺物観察表（縄文土器・弥生土器）

遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm) 口径	残存高	底径	径	焼成	色調	胎土	調整	備考
1	11	甕	SK−01	13.8	4.0			良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
2	11	小壷	SK−01		4.5			良好	褐色	密	内外面共ナデ	
3	16	甕	C		9.0			良好	淡褐色	密 4mm砂粒含	調整不明	外面に突帯
4	17	壷	C	14.2	5.8			良好	淡褐色	密 1.5mm砂粒含	内)ミガキ 外)ナデ・ミガキ	頸部:6条凹線・刺突文
5	17	壷	C	18.8	8.7			良好	内)暗茶褐色 外)褐色	密 1〜2mm砂粒含	内外面共ナデ・ミガキ	口縁端部:面取・刺突文 頸部:6条凹線・竹管文
6	17	壷	C	16.6	10.8			良好	茶褐色	密 最大2mm砂粒含	内)ナデ・ミガキ・指頭圧痕 外)ハケ目・ナデ	口縁端部:面取
7	17	壷	C	18.8	8.2			良好	淡褐色	密 最大2mm砂粒含	内外面共ナデ後ミガキ	
8	17	壷	C	15.6	2.6			良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁端部:刻目
9	17	壷	D	13.7	4.1			良好	淡褐色	密 3mm砂粒含	内)ハケ目・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
10	17	甕	−	23.2	4.0			良好	淡灰褐色	密 最大2mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁端部:刻目 胴部:6条凹線
11	17	甕	C	20.6	3.8			良好	内)淡褐色 外)暗淡褐色	密 1〜2mm砂粒含	内)ナデ・ハケ目 外)ナデ	胴部:5条凹線
12	17	甕	C	26.6	3.4			良好	暗茶褐色	密 1〜2mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁部:刻目 胴部:4条凹線
13	17	甕	C	16.6	3.3		14.5 (胴径)	良好	内)淡褐色 外)暗褐色	密 0.5〜4mm砂粒含	内)調整不明 外)ナデ	口縁端部:刻目 胴部:3条凹線
14	17	甕	C	23.8	3.4			良	淡褐色	密	内)ナデ 外)ナデ・指頭圧痕	口縁端部刻目 胴部凹線
15	17	甕	C	−	3.2			良	内)淡灰褐色 外)黒色	密 最大2mm砂粒含	内外面共ナデ	
16	17	甕	C	−	3.1			良	内)黒色・淡灰褐色 外)淡灰褐色	密 最大2mm砂粒含	内外面共ナデ	
17	17	甕	C	19.2	4.6			良	淡灰色	やや密 0.1〜0.3mm砂粒含	内)ケズリ・ナデ 外)ナデ	口縁部5条凹線 口縁端部刻目
18	17	甕	G		4.8			良	淡灰褐色	やや密	内外面共ナデ	胴部:10条凹線
19	17	甕	C		3.6			良好	褐色	密 最大3mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁部貼付突帯
20	17	甕	C	20.8	4.9			良	内)褐色 外)黒色	密 最大2mm砂粒含	内)ナデ・指頭圧痕 外)ナデ	胴部6条凹線 スス付着
21	17	甕	C	16.6	3.6			良	淡灰褐色	密	内)ケズリ 外)調整不明	
22	17	甕	C	14.2	3.5			良	淡灰茶褐色	密	内)ケズリ 外)ナデ・指頭圧痕	
23	17	甕	F	22.8	4.1		21.3 (胴径)	良好	淡褐色	密 0.5〜2.5mm砂粒含	内)調整不明・指頭圧痕 外)ナデ・指頭圧痕	胴部:5条凹線
24	17	甕	C	14.4	2.5			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
25	17	甕	D	17.6	5.2			良	淡灰褐色	密	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部:刻目 スス付着
26	17	甕	側溝	19.5	4.5			良	淡灰褐色	密	内)ナデ・ミガキ 外)ナデ・ハケ目	
27	17	甕	側溝	17.4	7.1			良	淡灰褐色	密	内外面共ナデ・ハケ目	刺突文・スス付着
28	17	甕	D	16.6	6.9			良	暗灰褐色	密 0.1mm砂粒含	内外面共ナデ	
29	18	甕	C	22.6	30.7 (推定)	6.0		やや良	淡褐色	密	内外面共ナデ・ミガキ	
30	18	甕	C	15.4	2.6			良	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
31	18	甕	E	17.6	5.5			良好	内)淡褐色 外)黒色	密 2mm砂粒含	内)口縁部ナデ・風化不明 外)ナデ・ハケ目・指頭圧痕	
32	18	甕	F	20.5	6.1			良好	褐色	密 3mm砂粒含	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	
33	18	甕	C	18.6	18.8	6.8		良好	淡褐色	密 1〜2mm砂粒含	内)ナデ・工具痕 外)ナデ	
34	18	甕	E	22.2	17.4	7.4		良好	暗褐色	密 4mm砂粒含	内)ハケ目・ミガキ 外)ナデ・ミガキ	
35	18	壷	C	14.8	19.2			良好	淡褐色	密 最大3mm砂粒含	内)ナデ・ミガキ 外)ハケ目・ミガキ	
36	18	甕	E	22.2	5.6		22.0 (胴径)	良好	内)褐色 外)淡褐色	密 0.5〜3.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	スス付着
37	18	甕	D	22.0	7.9			良	内)淡灰褐色 外)黒色・淡灰褐色	密 0.5〜2mm砂粒含	内)ハケ目・ケズリ 外)ナデ	貼付突帯剥離痕
38	18	甕	D	21.8	6.2			良	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
39	18	甕	B	14.6	3.6			良	淡灰褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ 外)ナデ・指頭圧痕	
40	18	壷	C	13.4	3.2			良好	淡褐色	密 1〜2mm砂粒含	内外面共ナデ	
41	19	壷	側溝	26.0	2.0			良好	暗褐色	密	内)ナデ・ハケ目 外)ナデ	口縁端部:4条凹線・貼付浮文・刻目
42	19	壷	C	28.0	2.7			良好	褐色	密 1mm砂粒含	内)ハケ目 外)ナデ	口縁部・刻目貼付突帯 口縁端部:4条凹線・刻目・貼付浮文
43	19	壷	C	31.8	1.6			良好	褐色	密	内外面共ナデ	口縁部・波状文 口縁端部:4条凹線・刻目
44	19	壷	C	29.0	2.3			良好	灰褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部:4条凹線・刻目
45	19	壷	D	22.0	2.5			良好	内)黒褐色 外)褐色	密	内外面共ハケ目・ナデ	口縁端部:4条凹線・刻目 口縁部:貼付突帯
46	19	壷	C	29.0	1.9			良好	灰褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部:4条凹線
47	19	壷	F	39.2	2.8			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部:4条凹線・刻目 口縁部:貼付突帯
48	19	壷	C	19.9	1.5			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部:3条凹線・貼付浮文・刻目
49	19	甕	D	17.1	1.65			良好	淡灰褐色	密 0.5〜1mm砂粒含	内)ナデ・ハケ目 外)ナデ	口縁部・波状文 口縁端部:刻目・3条凹線・円形浮文

遺物観察表(弥生土器)

遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm) 口径	残存高	底径	径	焼成	色調	胎土	調整	備考
50	19	壷	C	19.8	1.5			良好	淡褐色	密 最大1mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁端部:波状文 口縁部:刺突文・円孔・斜格子文
51	19	壷	D	20.1	1.8			良好	淡褐色	密 0.5砂粒含	内外面共ナデ	口縁端部:刻目・3条凹線 頸部:貼付突帯
52	19	壷	C	17.0	1.3			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部:2条凹線・刻目
53	19	壷	C	18.0	1.4			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:1条凹線・刻目
54	19	壷	C	19.5	1.4			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:3条凹線・刻目
55	20	壷	―	39.4	2.6			良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	調整不明	口縁端部:4条凹線・貼付浮文・刻目 口縁部:波状文
56	20	壷	D	29.0	2.2			良好	灰褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部:4条凹線・貼付浮文・刻目 口縁部:波状文
57	20	壷	B	32.0	2.2			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:3条凹線・刻目
58	20	壷	D	22.8	2.0			良好	灰褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部:4条凹線・刻目
59	20	壷	C	27.0	2.2			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:4条凹線・刻目
60	20	壷	D	32.6	2.9			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部:3条凹線・貼付浮文 口縁部:貼付突帯
61	20	壷	D	25.9	1.8			良好	褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:斜格子文 口縁端部:刻目・4条凹線
62	20	壷	B	26.8	1.9			良好	褐色	密	内外面共ハケ目・ナデ	口縁端部:4条凹線 口縁部:貼付突帯剥離痕
63	20	壷	F	26.8	2.5			良好	淡褐色	密 0.3～2mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁部:斜格子文・波状文・5条凹線
64	20	壺肩部	G		6.8			良	淡灰褐色	やや密	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	4条凹線・刺突文
65	20	壷	側溝		8.8			良好	暗褐色	密 0.5～2mm砂粒含	内)ナデ・ハケ目・指頭圧痕 外)ハケ目	外面貝殻刺突文 貼付突帯
66	21	壷	C	38.6	3.0			良好	淡褐色	密 最大1mm砂粒含	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	口縁部:刺突文・斜格子文 口縁端部:刻目・斜格子文・貼付浮文
67	21	甕	C	15.0	3.3			良	淡灰色	密	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部刻目 頸部貼付突帯
68	21	甕	C	16.8	2.0			良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内外面共ナデ	
69	21	甕	C	15.6	2.1			良	淡灰褐色	密	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	口縁部2条凹線
70	21	壷	側溝	19.2	1.4			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部:2条凹線 口縁部:斜格子文
71	21	甕	C	18.6	1.3			良好	暗褐色	密 砂粒含	内外面共ナデ	口縁端部刻目
72	21	高坏	D	19.0	1.6			良好	灰褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:2条凹線
73	21	壷	C	13.0	3.5			良好	褐色	密	内)ナデ 外)ハケ目・ナデ	口縁端部:1条凹線・刻目
74	21	壷	C	18.7	3.8			良好	淡褐色	密	内)ハケ目 外)ナデ・ハケ目	
75	21	壷	C		4.6			良好	内)暗褐色 外)褐色	密 最大3mm砂粒含	内)ケズリ・ナデ 外)ナデ	頸部刻目
76	21	無頸壷	C	15.7	4.4			良好	暗褐色	密 2mm砂粒含	内)ミガキ 外)ナデ・ハケ目	口縁部:貼付突帯痕
77	21	小型壷			10.5	4.5	11.2 (胴径)	良好	淡褐色	密 3mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	肩部:4条凹線 頸部・胴部:貼付突帯
78	21	甕	C	16.8	2.6			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁部:4条凹線 頸部:貼付突帯
79	21	甕	D	18.9	4.5			良好	淡褐色	密 0.3～1.5mm砂粒含	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部:刻目・3条凹線 頸部:貼付突帯
80	21	甕	E	21.6	2.8			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:3条凹線 頸部:貼付突帯
81	21	甕	D	16.8	2.7			良好	褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:3条凹線 頸部:貼付突帯
82	21	甕		20.4	4.6			良好	淡褐色	密	内)ナデ・指頭圧痕 外)ナデ	頸部:貼付突帯
83	21	甕	C	15.0	2.5			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:刻目 頸部:貼付突帯
84	21	甕	C	18.9	2.8			良好	淡褐色	密 0.3～3mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁端部刻目 頸部貼付突帯
85	21	甕	C	15.2	5.1			良好	淡褐色	密 1.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁部:刺突文
86	21	甕	D		4.8			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	頸部:貼付突帯
87	21	甕	D	―	2.2			良	黒色・褐色	密	内外面共ナデ	黒斑付着
88	22	甕	C	15.2	7.5			良	淡褐色	密	内)ナデ・ハケ目 外)ナデ・ハケ目	
89	22	甕	B	18.2	7.2			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ミガキ 外)ナデ・ハケ目	
90	22	甕	E	25.8	1.3			良好	淡茶褐色	密 1mm砂粒含	内)調整不明 外)ナデ	黒斑付着
91	22	壷	C	27.5	1.2			良好	淡灰褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部刻目
92	22				3.4			良好	褐色	密 砂粒多く含	内外面共ナデ	籾痕
93	22	高坏			2.4	8.2		良	淡黄褐色	密 0.5mm砂粒含	内外面共ナデ	脚部:3条凹線 黒斑付着
94	22	壷	C		3.9	5.8		良	淡黄褐色	やや密 0.2mm砂粒含	内)ケズリ・ナデ 外)ナデ	2条凹線
95	22	甕	C		3.5	7.2		良好	淡褐色	密	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	
96	22	甕	F		2.1	5.65		良	淡灰褐色	密 0.1mm砂粒含	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目・指頭圧痕	
97	22	甕	G		14.2	8.0		良	淡灰褐色	密 砂粒多く含	内)ナデ 外)ナデ・ミガキ	黒斑付着
98	22	碗	E	15.8	8.4			良好	赤褐色・淡褐色	密	内)ケズリ・ミガキ 外)ミガキ後ナデ	口縁部鋸歯文
99	22	高坏	C	24.6	3.0			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:刻目・斜格子文

遺物観察表（弥生土器）

遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm) 口径	残存高	底径	径	焼成	色調	胎土	調整	備考
100	22	高坏	C	22.8	3.3			良好	褐色	密	内）ナデ・ハケ目 外）ハケ目	口縁端部刻目 口縁端部面取
101	22	高坏	C	25.4	3.3			良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁部：刻目
102	22	高坏	C	23.6	2.4			良好	淡褐色	密 0．3～2mm砂粒含	内）ナデ 外）調整不明	口縁端部刻目
103	22	高坏	D	21.4	4.8			良好	淡褐色	密 微砂粒含	内）ナデ・ミガキ 外）ナデ・ミガキ・ハケ目	口縁部：刻目 黒斑付着
104	22	高坏	C	25.0	4.6			良好	淡褐色	密	調整不明	口縁端部面取り
105	22											
106	22	高坏	C		3.5	11.3		良好	暗褐色	密 0．3～1．5mm砂粒含	内）ケズリ・ナデ 外）ハケ目	3条凹線
107	22	高坏	―		4.7	17.2		良好	淡褐色	密	内外面共調整不明	
108	22	高坏	C		11.1			良好	淡褐色	密	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ・ミガキ	頸部：貼付突帯
109	22	高坏	B		5.5			良好	淡灰褐色	密	内）ナデ 外）ナデ・ケズリ	4条沈線
110	22	高坏	G		3.7	12.0		良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	口縁部：1条凹線・刻目
111	22	高坏	側溝		2.5	14.0		良	淡灰褐色	密	内外面共ナデ	
112	22	高坏	側溝		4.1	15.6		良好	淡褐色	密 0．5～2．5mm砂粒含	内）ナデ・ミガキ 外）ナデ・ハケ目	底端部：4条凹線
113	22	高坏	側溝		1.8	11.6		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	底端部4条沈線
114	22	高坏	側溝		2.8	16.2		良好	淡褐色	密 0．5～2．0mm砂粒含	内外面共ナデ	底端部：4条凹線
115	23	甕	C	17.9	1.5			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁部3条凹線
116	23	甕	C	13.6	3.8			良好	淡褐色	密	内）ケズリ・ナデ 外）ナデ	口縁部3条凹線
117	23	壺	側溝	―	1.2			良	淡灰褐色	密	内外面共ナデ	口縁部：3条凹線
118	23	壺	C	13.9	5.0			良好	褐色	密	内）ケズリ・ナデ 外）ナデ	口縁部3条凹線
119	23	壺	D	19.6	3.4			良好	淡褐色	密	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	口縁部：2条凹線
120	23	壺	C	14.8	6.4			良好	淡褐色	密 0.5～1.5mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ・ハケ目	口縁部：4条凹線
121	23	壺	C	13.0	5.2			良	淡灰赤茶褐色	密	内）ケズリ・ナデ 外）ナデ	口縁部2条凹線
122	23	甕	C	13.8	5.6			良好	淡褐色	密 微砂粒含	内外面共ナデ・ハケ目	口縁部：2条凹線
123	23	甕	C	12.0	4.7			良好	淡褐色	密 最大1mm砂粒含	内外共ナデ・ハケ目	口縁部：3条凹線・刻目 肩部：刺突文
124	23	甕	C	19.2	10.9			良好	淡褐色	密 微砂粒含	内外面共ナデ・ハケ目	口縁部：4条凹線
125	23	甕	D	17.4	3.4			良	淡灰褐色	密 0．1～0．5mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	口縁部：5条凹線 スス付着
126	23	甕	D	16.0	4.5			良好	淡褐色	密 微砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ハケ目	口縁部：2条凹線
127	23	甕	D	16.0	3.5			良	淡灰褐色	密 1mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ・ハケ目	
128	23	甕	C	8.2	4.1			良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	口縁部：4条凹線 肩部：4条波状文
129	23	甕	C	18.4	6.0			良好	淡褐色	密	内）ケズリ・ナデ 外）ハケ目	口縁部3条凹線
130	23	甕	E	130.0	2.6			良	褐色	密	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	口縁部：4条凹線
131	23	甕	E	15.7	3.0			良好	淡褐色	密 0．1～1mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	口縁部：5条凹線 スス付着
132	23	甕	B	15.4	5.4			良好	褐色	密 1mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ・ハケ目	口縁部：7条凹線
133	23	甕	D	17.5	4.7			良好	淡褐色	密	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	
134	23	甕	側溝	14.6	3.0			良	淡灰褐色	密 1mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	口縁部：2条凹線
135	23	甕	E	17.0	2.2			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁部：3条凹線
136	23	甕	C	12.4	5.6			良好	淡褐色	密 最大1mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ・ハケ目	口縁部：4条凹線
137	23	甕	C	15.0	4.9			良	淡灰褐色	密	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	口縁部4条凹線 黒斑付着
138	24	甕	C	18.6	2.7			良好	内）淡褐色 外）暗褐色	密	内外面共ナデ	口縁部11条凹線
139	24	甕	E	13.4	4.4			良好	淡褐色	密	内）ミガキ・ケズリ 外）ナデ・ハケ目	口縁端部：面取り 口縁部：多条凹線
140	24	壺	C	16.8	3.6			良	淡灰黄褐色	密	内）ミガキ 外）ナデ	口縁部8条凹線
141	24	甕	E	19.0	4.0			良	内）褐色 外）黒色・褐色	密 0．5～1mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁部：5条凹線 黒斑付着
142	24	甕	D	23.8	6.1			良	淡灰褐色	密 0．5mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	口縁・胴部多条沈線
143	24	甕	側溝	18.7	4.0			良	淡灰褐色	密	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	口縁部多条沈線
144	24	甕	側溝	20.7	6.85			良好	淡灰褐色	密 0．5～1mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁部：波状文・5条沈線 口縁端部面取・肩部貝殻文
145	24	甕	D	18.2	4.35			良	淡灰褐色	密 0．5～1．5mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁部・波状文8条沈線 口縁端部面取
146	24	甕	C	14.6	3.4			良好	淡褐色	密	内）ナデ・ミガキ 外）ナデ	口縁部波状文
147	24	壺	C	17.8	6.3			良好	淡褐色	密 0.5～1.5mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	口縁部：7条沈線
148	26	甕	B	14.9	7.7			良好	淡灰褐色	密 0.5～1．5mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
149	26	甕	B	12.7	4.75			良好	淡灰褐色	密 0.5mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ・ハケ目	黒斑付着
150	26	甕	B	13.8	4.35			良好	淡灰褐色	密 0.5mm砂粒含	内外面共ナデ	
151	26	甕	B	16.9	6.05			良好	淡灰褐色	密 0.5mm砂粒含	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ	
152	26	甕	B	14.4	6.6			良好	褐色	密	内）ナデ・ケズリ 外）ナデ・ハケ目	口縁端部面取り

遺物観察表（土師器）

遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm) 口径	残存高	底径	径	焼成	色調	胎土	調整	備考
153	26	甕	B	12.1	7.6			良好	淡灰褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
154	26	甕	B	―	5.0		12.8 (胴径)	良好	内)褐色 外)暗褐色	密 0.3～1.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	肩部:波状文
155	26	甕	側溝	14.2	7.3			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
156	26	甑	側溝		6.35			良好	黄灰褐色	密 0.5～3mm砂粒含	内)ケズリ 外)ハケ目・ナデ	
157	26	甑	側溝					良好	褐色	密		
158	28	壺	C	14.0	8.1			良好	黄灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
159	28	壺	C	25.4	7.1			良好	褐色	密	内)ナデ・指頭圧痕 外)ナデ・ハケ目	
160	28	壺	C	14.4	14.2			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	内面頸部しぼり痕
161	28	甕	C	21.4	4.6			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
162	28	甕	C	21.2	5.0			良好	褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部面取り
163	28	壺	C	24.4	10.6			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ・指頭圧痕 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
164	28	壺	C	21.4	8.7			良好	褐色	密	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
165	28	壺	C	23.6	10.0			良	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 内面頸部しぼり痕
166	28	壺	C	22.7	16.85			良好	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
167	28	壺	C	16.2	7.8			良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
168	28	壺	C	21.5	8.7			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部凹線
169	28	壺	C	16.2	6.6			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
170	28	甕	C	22.7	4.8			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部面取り
171	29	壺	C	23.2	9.2			良好	褐色	密	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 頸部:波状文
172	29	壺	C	23.8	8.4			良好	褐色	密	内外面共ナデ	頸部:波状文・指頭圧痕
173	29	壺	C	20.5	5.8			良好	褐色	密	内外面共ナデ	頸部:波状文
174	29	壺	C		9.8			良好	褐色	密	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	頸部:貼付突帯 肩部:波状文・沈線
175	29	壺	C		15.8			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
176	29	壺	C	9.4	4.1			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
177	29	壺	C	13.0	5.3			良好	暗褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
178	29	壺	C	13.6	10.2			良	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	内面頸部刺痕
179	29	壺	C	13.5	3.1			良好	淡橙褐色	密	内)ナデ 外)ハケ後ナデ・ナデ	口縁端部面取り
180	29	壺	C	11.4	9.3			やや良	淡橙褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
181	29	甕	C	9.9	4.0			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
182	29	甕	C	9.8	4.0			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
183	29	壺	C	15.8	8.2			良好	褐色	密	内外面共ナデ	
184	29	壺	C	18.0	6.6			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
185	29	壺	C	17.3	6.8			良好	褐色	密	内外面共ナデ	
186	30	壺	C	17.3	21.1		29.7 (胴径)	良好	淡灰褐色	密 0.5～1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ・指頭圧痕 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り1条沈線 肩部綾杉紋
187	30	壺	C	17.2	7.9			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
188	30	壺	C	12.0	5.2			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
189	30	壺	C	7.7	6.0			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	肩部:波状文
190	30	甕	C	9.1	5.3		11.7 (胴径)	良好	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
191	30	甕	C	10.4	4.6			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
192	30	壺	C	10.4	8.5			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
193	30	壺	C	10.2	5.2			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
194	30	壺	C	8.4	2.25			良好	淡灰褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部:面取り 口縁部下突帯・円孔
195	30	壺	C	10.1	5.9			良好	褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁部下突帯・円孔
196	30	壺	C	4.8	2.1			良	淡黄褐色	密	内外面共ナデ	
197	30	甕	C		8.4	22		良	淡灰褐色	密	内)ケズリ 外)ハケ目	
198	30	甕	C		6.9	8.6		良好	暗褐色	密	内)ケズリ・指頭圧痕 外)ナデ	
199	30	甕	C		4.1	25.5		良好	淡灰褐色	密 0.5～1.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
200	31	甕	C	19.6	10.0			良好	褐色	密 4mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
201	31	甕	C	12.8	11.1			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁部:木片状混入痕
202	31	甕	C	13.8	11.2			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
203	31	甕	C	13.4	7.4			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	肩部:4条櫛描

遺物観察表(土師器)

遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm)				焼成	色調	胎土	調整	備考
				口径	残存高	底径	径					
204	31	甕	C	14.2	5.4			良好	暗褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
205	31	甕	C	14.5	7.0			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
206	31	甕	C	12.2	3.6			良好	淡灰褐色	密	内外面共ナデ	
207	31	甕	C	16.0	5.2			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
208	31	甕	C	15.2	4.6			良好	淡褐色	密 2mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
209	31	甕	C	14.4	5.2			良好	内)褐色 外)黒色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
210	31	甕	C	13.8	8.95			良好	淡灰褐色	密 0.5～1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	肩部:刺突文
211	31	甕	C	14.6	5.7			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
212	31	甕	C	14.5	5.2			良好	淡灰褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
213	31	甕	C	17.4	5.4			良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
214	31	甕	C	10.2	3.7			良好	淡橙褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
215	31	甕	C	13.8	4.8			良好	内)暗褐色 外)灰褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
216	31	甕	C	18.0	4.3			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
217	31	甕	C	10.7	8.1	14.5		良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
218	32	甕	C	15.7	15.6			良好	内)淡灰褐色 外)淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
219	32	甕	C	11.2	15.0		14.8 (胴径)	良好	淡灰褐色	密 0.5～1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
220	32	甕	C	16.0	16.1		20.8 (胴径)	良好	淡灰褐色	密 0.5～1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
221	32	甕	C	12.1	6.9			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
222	32	甕	C	12.4	9.8			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
223	32	甕	C	14.2	4.8			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
224	32	甕	C	14.8	5.0			良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
225	32	甕	C	14.3	4.9			良好	暗灰褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
226	32	甕	C	15.4	6.0			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
227	32	甕	C	14.4	5.2			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
228	32	甕	C	11.7	9.9			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ・指頭圧痕 外)ナデ・ミガキ	
229	32	甕	C	11.3	5.6			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
230	32	甕	C	16.3	5.0			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
231	32	甕	C	12.0	8.9		19.1 (胴径)	良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ミガキ	
232	32	甕	C	10.4	4.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
233	33	甕	C	46.2	12.2			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
234	33	甕	C	37.0	15.95			良	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
235	33	甕	C	20.6	15.3			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 肩部:波状文
236	33	甕	C	20.1	20.8		29.6 (胴径)	良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 肩部:刺突文
237	34	甕	C	13.4	8.9			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
238	34	甕	C	20.6	5.9			良好	灰褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部面取り
239	34	甕	C	16.0	4.9			良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
240	34	甕	C	19.45	5.85			良	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
241	34	甕	C	14.4	5.8			良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
242	34	甕	C	20.3	6.8			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
243	34	甕	C	16.0	4.9			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
244	34	甕	C	15.3	7.7			良好	淡灰褐色	密 0.5～1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
245	34	甕	C	13.2	6.4			良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
246	34	甕	C	15.6	5.5			良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
247	34	甕	C	16.8	4.5			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
248	34	甕	C	15.2	4.1			良好	内)褐色 外)黒色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
249	34	甕	C	15.2	5.0			良好	黒灰褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
250	34	甕	C	14.0	4.4			良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り

遺物観察表（土師器）

遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm) 口径	残存高	底径	径	焼成	色調	胎土	調整	備考
251	34	甕	C	14.9	4.5			良好	内)褐色 外)黒色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
252	34	甕	C	10.7	5.1			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り 肩部:刺突文
253	34	甕	C	15.6	8.5			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
254	34	甕	C	16.7	5.5			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
255	34	甕	C	13.8	4.4			良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
256	34	甕	C	14.5	4.9			良好	内)淡褐色 外)淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
257	35	甕	C	23.6	9.8			良好	淡褐色	密 4mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
258	35	甕	C	16.0	6.8			良好	淡褐色	密 1.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
259	35	甕	C	13.9	18.9		21.7 (胴径)	良好	淡橙褐色	密	内)ナデ・ケズリ・指頭圧痕 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
260	35	甕	C	15.4	6.8			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り 肩部波状文
261	35	甕	C	20.6	5.9			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
262	35	甕	C	13.6	5.6			良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
263	35	甕	C	13.9	4.5			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
264	35	甕	C	14.2	5.3			良好	内)淡褐色 外)黒色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
265	35	甕	C	14.6	4.7			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
266	35	甕	C	15.2	8.4			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
267	35	甕	C	15.2	7.3			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
268	35	甕	C	18.3	6.4			良好	内)淡褐色 外)淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
269	35	甕	C	15.7	4.2			良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
270	35	甕	C	14.4	5.5			良好	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
271	35	甕	C	17.4	5.9			良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
272	35	甕	C	13.8	5.2			良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
273	35	甕	C	14.4	4.3			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
274	36	甕	C	17.1	15.9		22.2 (胴径)	良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 肩部:刺突文
275	36	甕	C	12.2	7.7			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 肩部:波状文
276	36	甕	C	14.1	6.8			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
277	36	甕	C	19.2	5.4			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
278	36	甕	C	15.6	5.5			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
279	36	甕	C	15.0	4.6			良好	淡褐色・暗灰色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
280	36	甕	C	16.4	6.1			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
281	36	甕	C	14.2	4.5			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
282	36	甕	C	13.4	3.7			良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁端部面取り
283	36	甕	C	17.4	7.1			良好	淡灰色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
284	36	甕	C	19.4	6.5			良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
285	36	甕	C	14.6	9.5			良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
286	36	甕	C	12.9	4.25			良好	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
287	36	甕	C	12.6	5.5			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
288	36	甕	C	27.0	6.3			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
289	36	甕	C	9.0	4.7			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
290	37	甕	C	14.4	8.0			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
291	37	甕	C	15.6	6.6			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 肩部:刺突文
292	37	甕	C	15.2	4.7			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
293	37	甕	C	11.7	6.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
294	37	甕	C	15.2	12.8			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
295	37	甕	C	12.2	4.3			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
296	37	甕	C	25.6	8.7			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
297	37	甕	C	14.6	7.7			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	

遺物観察表（土師器）

遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm)				焼成	色調	胎土	調整	備考
				口径	残存高	底径	径					
298	37	甕	C	13.6	6.2			良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
299	37	甕	C	14.4	14.6		28.8 (胴径)	良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
300	37	甕	C	20.1	4.3			良好	褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部面取り
301	37	甕	C	14.6	5.0			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
302	37	甕	C	15.0	12.4			良好	内)暗褐色 外)褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
303	37	甕	C	12.7	3.8			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部面取り
304	37	甕	C	11.5	3.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
305	37	甕	C	14.8	4.4			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部面取り
306	38	甕	C	13.7	7.0			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	肩部:波状文
307	38	甕	C	10.6	15.0			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
308	38	甕	C	11.4	10.2			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 肩部:刺突文
309	38	甕	C	10.6	5.8			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
310	38	甕	C	10.6	13.0		21.1 (胴径)	良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 肩部:刺突文
311	38	甕	C	9.7	6.0			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
312	38	甕	C	9.1	4.1			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
313	38	甕	C		6.8			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
314	38	甕	C		6.3			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	肩部:波状文
315	38	甕	C	7.3	14.8			良好	内)褐色 外)暗褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
316	38	甕	C		14.8			良好	淡褐色	密	内)ケズリ・指頭圧痕 外)ナデ・ハケ目	
317	39	甕	C	14.8	4.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
318	39	甕	C	14.4	4.75			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
319	39	甕	C	15.8	3.3			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
320	39	甕	C	12.0	3.3			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
321	39	甕	C	11.3	6.3		14.9 (胴径)	良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
322	39	甕	C	18.7	4.9			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
323	39	甕	C	21.4	6.9			良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
324	39	甕	C	15.8	7.5			良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
325	39	甕	C	15.4	5.6			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
326	39	甕	C	18.6	4.5			良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
327	39	甕	C	22.6	4.4			良	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
328	39	高坏	C	19.4	5.7			良	淡灰褐色	密	内)ナデ・指頭圧痕 外)ナデ・ハケ目	坏部
329	39	高坏	C	20.6	4.7			良	淡灰褐色	密	内)調整不明 外)ミガキ	坏部
330	39	高坏	C	17.8	3.2			良	淡灰赤褐色	密	内外面共ナデ	坏部
331	39	高坏	C		8.5	10		良	淡灰褐色	密	内)ケズリ・ハケ後指押え 外)ナデ後ミガキ	脚部
332	39	高坏	C		1.7	11.4		良	淡灰褐色	密	内)ハケ目 外)ミガキ・ナデ	脚部
333	39	高坏	C		4.1	16		良	淡灰橙黄色	密	内外面共ハケ目	脚部
334	39	高坏	C		1.9	12.1		良	淡灰黄色	密	内外面共ナデ	脚部
335	39	高坏	C	13.0	3.8			良	淡灰褐色	密	内)ナデ 外)ナデ・指頭圧痕	坏部
336	39	高坏	C		2.1	6.6		良	淡黄褐色	密	内外面共ナデ	脚部
337	39	高坏	C		1.6	4.2		良	淡灰褐色	密	内外面共ナデ	脚部
338	39	高坏	C		1.6	6.6		良	淡黄褐色	密	内外面共ナデ	脚部
339	39	高坏	C		1.6	5.8		良	褐色	密 0.5mm砂粒含	内外面共ナデ	脚部
340	39	器台	C	19.4	4.7			良	淡褐色	密	内外面共ナデ	
341	39	器台	C	20.2	3.0			良	淡褐色	密	内)ハケ目 外)ナデ	
342	39	器台	C	17.6	3.1			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
343	39	器台	C		4.3	17		良好	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
344	40	器台	C		3.2	15.6		良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
345	40	器台	C		3.1	14.5		良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
346	40	器台	C		1.9	23.4		良好	褐色	密	内外面共ナデ	
347	40	埦	C	11.8	3.0			良	淡灰褐色・黒色	密	内外面共ナデ	
348	40	取手	C		10.7			良好	淡褐色	密	ナデ	
349	40	注口土器	C		10.4			良好	淡褐色	密	ナデ	
350	40	手捏土器	C	6.5	3.7			良好	褐色	密	内)ケズリ 外)指頭圧痕	
351	40	小壷	C	3.4	4.2		4.8 (胴径)	良好	淡灰褐色	密	内)ナデ・指頭圧痕 外)ナデ	

遺物観察表（土師器）

遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm) 口径	残存高	底径	径	焼成	色調	胎土	調整	備考
352	40	甕	側溝	14.5	14.9		20.1 (胴径)	良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
353	40	甕	側溝	11.6	5.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
354	40	甕	側溝	14.3	8.2			良	黄灰褐色	密 0.5～1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
355	40	甕	側溝	10.2	3.9			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
356	40	高坏	側溝	19.8	3.9			良	内)淡灰褐色 ・黒色 外)淡灰褐色	密	内外面共ミガキ	坏部
357	40	小型壺	側溝		4.3			良好	淡褐色	密	内)ハケ目・ケズリ 外)ケズリ後ナデ	
358	42	壺	D	23.2	8.7			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
359	42	壺	D	21.3	7.55			良好	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
360	42	壺	D	22.8	12.9			良	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 内面頸部しぼり痕
361	42	壺	D	28.8	6.8			良	淡褐色	密	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	内面頸部しぼり痕
362	42	壺	D	22.1	15.7		25.1 (胴径)	良好	淡灰褐色	密 0.5～1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 頸部貼付突帯 肩部綾杉紋
363	42	壺	D	24.6	15.6			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	頸部:波状紋 内面頸部:しぼり痕 肩部刺突痕
364	43	壺	D		14.6			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
365	43	壺	D	—	10.4			良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
366	43	甕	D	12.8	5.5			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
367	43	壺	D	17.0	5.4			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部面取り
368	43	壺	D	16.0	5.5			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
369	43	壺	D	14.6	7.1			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
370	43	壺	D		1.2	3.0		良好	淡灰褐色	密	内)ハケ目 外)ナデ・指頭圧痕	
371	43	小壺	D	3.1	6.0	0.7	6.4 (胴径)	良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
372	43	小壺	D	7.1	6.8			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
373	43	注口土器	D		7.3			良好	淡褐色	密	ミガキ	
374	43	甕	D	18.6	9.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
375	43	甕	D	18.4	5.6			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
376	43	甕	D	11.3	10.9			良好	淡褐色	密 4mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
377	43	甕	D	13.4	5.3			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
378	43	甕	D	14.0	4.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
379	43	甕	D	15.8	4.5			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
380	43	甕	D	15.0	11.5			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
381	44	甕	D	15.4	5.1			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
382	44	甕	D	13.8	7.8			良好	内)褐色 外)黒色・黒褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
383	44	甕	D	12.4	4.9			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
384	44	甕	D	16.6	4.7			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
385	44	甕	D	13.4	4.2			良好	内)褐色 外)黒褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
386	44	甕	D	13.0	4.6			良好	内)褐色 外)黒色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
387	44	甕	D	15.6	5.4			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
388	44	甕	D	14.2	6.3			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
389	44	甕	D	14.2	3.7			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
390	44	甕	D	19.2	7.0			良好	内)褐色 外)黒色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
391	44	甕	D	16.4	5.7			良好	暗褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
392	44	甕	D	14.2	4.4			良好	内)褐色 外)黒色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
393	44	甕	D	18.4	7.2			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
394	44	甕	D	14.7	20.0		22.2 (胴径)	良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り・凹線
395	44	甕	D	20.0	5.2			良好	褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部面取り
396	44	甕	D	18.3	5.5			良好	灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
397	44	甕	D	11.7	8.4		13.7 (胴径)	良好	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り

遺物観察表(土師器)

遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm)				焼成	色調	胎土	調整	備考
				口径	残存高	底径	径					
398	45	甕	D	15.0	6.9			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
399	45	甕	D	13.0	5.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
400	45	甕	D	14.0	8.3			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
401	45	甕	D	15.4	5.2			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
402	45	甕	D	16.0	4.6			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
403	45	甕	D	14.2	5.7			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
404	45	甕	D	9.2	5.6			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 肩部:綾杉文
405	45	甕	D	8.6	4.7			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
406	45	甕	D	10.0	4.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
407	45	甕	D	12.6	4.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
408	45	甕	D	16.0	6.9			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	肩部:貝殻文
409	45	甕	D	11.0	5.3			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
410	45	甕	D	14.8	4.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
411	45	甕	D	21.6	7.0			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
412	45	甕	D	23.6	7.2			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
413	45	甕	D	9.4	4.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
414	45	高坏	D	19.0	4.8			良	茶褐色	密	内外面共ミガキ	坏部
415	45	高坏	D	20.8	5.2			良	淡灰褐色	密	内)ナデ 外)ミガキ	坏部
416	45	高坏	D		7.5	11		良	淡褐色	密	内)ナデ・ハケ目 外)ハケ後ケズリ	脚部
417	46	坏	D	11.4	3.2			良好	褐色	密	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	
418	46	高坏	D		2.9	14.4		良	淡黄褐色	密	内外面共ナデ	脚部
419	46	器台	D		4.0	15.4		良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
420	46	器台	D		2.2	13.7		良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
421	46	小壺	D	4.8	4.6	1.8	5.1 (胴径)	良好	褐色	密 砂粒多く含	内外面共ナデ・指頭圧痕	
	46	土錘	D		5.1		2.0	良好	褐色	密	ナデ・指頭圧痕	
422	46	甕	D	11.9	4.2			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
423	46	甕	D	12.2	4.7			良好	灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
424	46	甕	D	15.7	6.9			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
425	46	甕	D	10.8	4.0			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
426	46	甕	D	20.8	4.6			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
427	46	埦	D	10.8	4.0			良	淡灰褐色	密	内外面共ナデ	底部糸きり
428	46	甕	D	11.4	3.5			良好	内)淡橙褐色 外)淡褐色	密	内外面共ナデ	
429	46	手捏土器	D	4.8	2.3			良好	灰褐色	密	指頭圧痕	
430	46	小壺	D	7.2	6.2			良好	褐色	密 砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
431	46	手捏土器	D	5.6	3.5			良	淡灰褐色・黒色	密 0.5mm砂粒含	内外面共ナデ・指頭圧痕	
432	48	壺	E	20.1	9.2			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
433	48	甕	E	19.4	5.2			良	淡褐色	密	内外面共ナデ	
434	48	甕	E	14.0	5.4			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
435	48	壺	E	20.2	8.4			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
436	48	壺	E	17.6	7.2			良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
437	48	壺	E	21.6	8.3			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
438	48	甕	E	17.2	5.9			良好	淡褐色	密	内)ナデ 外)ナデ・ハケ目	
439	48	壺	E	20.8	7.0			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
440	48	壺	E	15.6	10.0			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
441	48	小型甕	E	8.2	4.55			良好	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
442	48	甕	E	17.6	6.8			良	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	肩部5条凹線
443	48	甕	E	16.6	13.2			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
444	48	甕	E	21.0	6.4			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
445	48	甕	E	15.8	6.7			良	乳灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	

遺物観察表（土師器）

遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm)				焼成	色調	胎土	調整	備考
				口径	残存高	底径	径					
446	48	甕	E	18.8	5.9			良	淡黄褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
447	48	甕	E	13.8	4.5			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
448	50	甕	E	12.8	8.5			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り 肩部:波状文
449	50	甕	E	10.0	3.9			良好	赤褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
450	50	甕	E	13.6	5.1			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
451	50	甕	E	11.6	2.4			良	淡黄褐色	密	内外面共ナデ	
452	50	甕	E		5.5			良好	淡褐色	密	内)調整不	波状文・3条凹線
453	50	器台	E	19.6	2.8			良	淡褐色	密	内外面共ナデ	
454	50	器台	E		2.5	19.6		良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
455	50	高坏	E		5.1	8.8		良	淡褐色	密	内外面共ナデ	脚部
456	50	手捏土器	E		2.4			良	淡灰褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・指頭圧痕 外)ナデ	
457	50	手捏土器	E		3.1			良	淡灰褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・指頭圧痕 外)ナデ	
458	50	甕	E	17.4	4.9			良	暗褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
459	50	甑	E					良好	淡褐色	密		
460	50	甑	E					良好	淡褐色	密		
461	50	甕	F	14.1	7.65			良好	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
462	50	甕	F	13.1	5.4			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
463	50	甕	F	16.0	4.5			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
464	50	甕	F	13.0	4.0			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
465	50	器台	G	17.6	5.3			良好	褐色	密	内外面共ナデ	
466	50	器台	F		2.2	15.8		良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
467	50	器台	G		1.8	17.0		良好	暗褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
468	51	壺	南側溝	19.8	9.1			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
469	51	甕	南側溝	19.6	7.7			良	内)黒褐色 外)淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
470	51	壺	南側溝	10.0	5.2			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
471	51	甕	南側溝	14.8	9.1			良	淡黄褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
472	51	壺	南側溝	29.0	4.5			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
473	51	甕	南側溝	14.4	6.2			良	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部凹線
474	51	甕	南側溝	23.6	5.6			良好	淡黄褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
475	51	甕	南側溝	11.1	5.9			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
476	51	甕	南側溝	13.6	3.7			良好	内)淡褐色 外)灰褐色・淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
477	51	甕	南側溝	11.6	6.4			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
478	51	器台	南側溝		5.1	17.4		良	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
479	51	壺	北側溝	25.4	4.7			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
480	51	壺	北側溝	10.2	4.7			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
481	51	甕	北側溝	9.0	5.7			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
482	51	甕	北側溝	16.0	8.7			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
483	51	甕	北側溝	17.0	5.8			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
484	51	甕	北側溝	14.5	4.8			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
485	51	甕	北側溝	11.0	4.2			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
486	51	甕	北側溝	14.9	4.2			良好	内)褐色 外)黒褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
487	52	甕	北側溝	17.6	10.3			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
488	52	甕	北側溝	16.6	6.2			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
489	52	甕	北側溝	16.2	6.0			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
490	52	甕	北側溝	15.9	5.9			良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
491	52	甕	北側溝	18.4	11.3			良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り
492	52	高坏	北側溝		5.8	10.8		良	淡灰褐色	密	内外面共ナデ	脚部
493	52	高坏	北側溝		1.6	11.3		良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ・指頭圧痕 外)ナデ	
494	52	竈	北側溝	22.6	5.8			良好	褐色	密	内外面共ナデ	

遺物観察表(須恵器・瓦質土器)

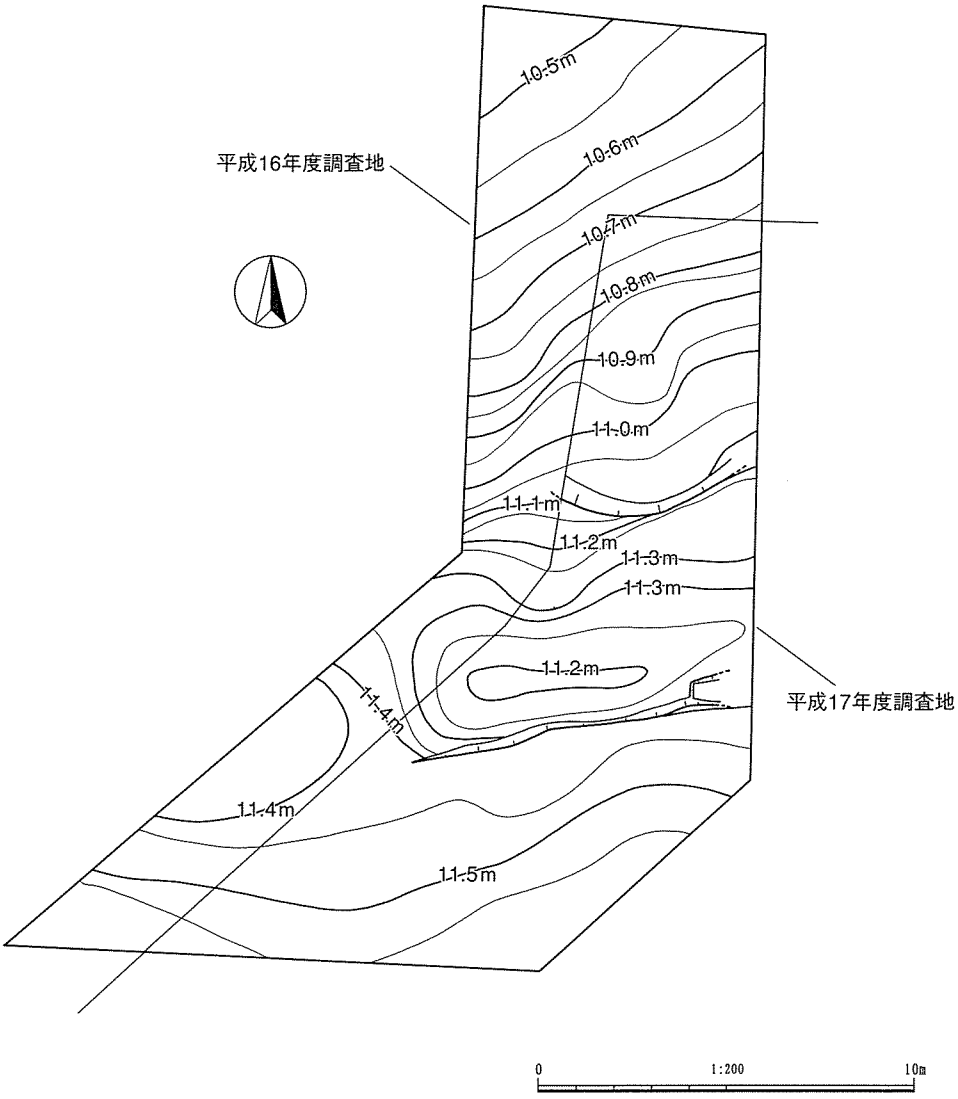
遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm)				焼成	色調	胎土	調整	備考
				口径	残存高	底径	径					
495	53	坏蓋	C	17	4.85			良好	暗青灰色	緻密	ナデ・ケズリ	
496	53	坏蓋	C	16	4.1			良好	内)灰色 外)暗青灰色	緻密	ナデ・ケズリ	暗青緑色自然釉
497	53	坏蓋	D	11.2	2.7							
498	53	坏蓋	C	14	3.2			良好	暗灰色	密	ナデ	
499	53	坏身	E	11.6	3.8			良	内)灰褐色 外)暗灰色	緻密	ナデ・ケズリ	
500	53	坏身	F	9.6	3.2			良	灰褐色	密微細砂粒含む	ナデ	
501	53	坏身	D	11	3.1			良好	内)淡灰色 外)淡灰褐色	密1mmの砂粒含む	ナデ・ケズリ	ヘラ起し
502	53	坏身	BC間溝	7.8	2.5			良好	暗灰色	緻密	ナデ	
503	53											
504	53	坏身	D	14.6	3.3			良好	暗灰色	密1mmの砂粒含む	ナデ	灰色釉
505	53	坏身	C	12.8	4.2			良	内)灰色 外)淡灰褐色	緻密	ナデ・ケズリ	回転糸切
506	53	坏身	C	16	4.3			良好	内)青灰色 外)青灰色一部灰色	緻密	ナデ・ケズリ	回転糸切
507	53	坏身	—	13.6	2.5			良好	内)灰褐色 外)暗灰色	密1mmの砂粒含む	ナデ	静止糸切
508	53	蓋	C		1.9	2.4(つまみ)		良好	青灰色	緻密	ナデ	擬宝珠
509	53	蓋	C		1.2	3.4(つまみ)		良好	内)淡灰褐色 外)灰色	緻密	ナデ	輪状
510	53	高台付坏	F		2.1	8.6		良好	内)赤味がかった暗灰色 外)暗灰色	密1mmの砂粒含む	ナデ	
511	53	埦	B	9.2	1.9			良好	内)灰色 外)淡灰褐色	密1mmの砂粒含む	ナデ	
512	53	壺	F	10.2	1.1			良好		緻密	ナデ	緑色自然釉
513	53	甕	D					良好	内)灰褐色 外)灰色	密1mmの砂粒含む	ナデ	
514	53	横瓶	B	12.2	3.4			良好	暗灰色	密砂粒含む	ナデ・叩き	
515	53	横瓶	B	13	3.7			良好	暗灰褐色	密1mmの砂粒含む	ナデ・叩き	
516	53	すり鉢	C	30.2	7.2			良好	黒色・乳褐色	密	ナデ	
517	53	すり鉢	C		5.2	10.6		良好	内)灰茶褐色・灰色 外)黒色・暗灰色	密1mmの砂粒含む	ハケ目・ナデ	
518	53	高台付坏	D		3.6	11		良好	内)灰茶褐色 外)黒色	緻密	ナデ	底部回転糸きり

遺物観察表(石製品)

遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm)				石材
				長さ	幅	厚み	重量(g)	
S1	54	石斧	C	14.9	9.5	3.1	468	無斑晶安山岩
S2	54	石斧	C	10.0	5.55	3.6	383	緑色片岩
S3	54	石斧	C	15.0	6.0	4.0	560	安山岩
S4	54	環状石斧	F	11.3	4.75	3.7	216	花崗岩
S5	54	砥石	—	7.3	3.9	2.6	108	花崗斑岩
S6	54	石錘	D	7.0	4.8	2.1	109	安山岩
S7	54	用途不明	E	10.6	4.1	2.85	142	安山岩
S8	55	石皿	F	15.5	11.8	8.5	1,860	砂岩
S9	55	敲石	C	11.9	9.5	5.5	952	花崗岩
S10	55	敲石	F	7.9	5.3	4.6	222	安山岩
S11	55	錐	—	3.35	1.2	0.8	2	黒耀石
S12	55	錐	E	3.1	0.95	0.7	1	黒耀石
S13	55	石鏃		2.15	1.9	0.3	1	斑晶安山岩

遺物観察表(木製品)

遺物番号	挿図番号	種別	地区	法量(cm)			木材
				長さ	幅・器高	厚み	
W1	11	建築材	SK-01	95.0	21.6	9.5	ヒノキ科アスナロ属
W2	11	用途不明	SK-01	76.0	8.5	1.5	ヒノキ科アスナロ属
W3	12	用途不明	SK-01	108.0	18.4	4.6	ヒノキ科アスナロ属
W4	12	鍬	SK-01	46.5	11.2	2.0	スギ科スギ属スギ
W5	13	杭	SK-01	19.7	3.6	2.6	ブナ科クリ属クリ
W6	14	杭	SK-01	143.6	13.5	13.0	ブナ科クリ属クリ
W7	14	用途不明	SK-01	133.5	30.5	5.9	スギ科スギ属スギ
W8	15	建築材	SK-01	270.0	22.4	10.4	スギ科スギ属スギ
W9	56	三角板	D	13.2	31.6	2.8	スギ科スギ属スギ
W10	56	用途不明	C	35.2	10.1	1.6	スギ科スギ属スギ
W11	56	用途不明	C	30.1	3.8	0.9	ヒノキ科アスナロ属
W12	56	用途不明	—	25.7	6.0	1.2	
W13	56	用途不明	—	2.2	1.9	0.3	
W14	56	ヤス	側溝	8.1	0.9	0.6	
W15	56	漆器椀	C	—	3.3	—	
W16	56	漆器椀	—	—	1.5	—	
W17	57	曲物	C	12.2		0.5	
W18	57	曲物	C	13.2	12.7	0.5	
W19	57	下駄	—	7.9	14.2	1.8	
W20	57	用途不明	E	11.0	1.1	0.8	



第１図　古市六反田遺跡最終地形測量図

第４章　古市六反田遺跡の調査

第１節　調査の経過と方法

現地調査は、用水路部分を平成16（2004）年12月22日から開始し、平成17（2005）年１月11日、残りの部分を平成17（2005）年６月１日から開始し平成17（2005）年６月17日まで行った。調査面積は250㎡で、調査地の南側では現地表面から約50㎝掘り下げたところで地山である白色粘土の岩盤が検出されたが、深い位置では約1.6mの深さまで掘り下げた。調査地は吉谷亀尾前遺跡の西側に位置し、南側に位置する丘陵の裾野に当たる、標高11.6mの水田地であった。

地表面から約40㎝、現在の耕作土を重機にて除去した後、かなりの湧水が考えられたため、周囲に溝を設定したうえで、人力により１面ずつ掘り下げていった。西側の壁面で土層観察を行った。

遺物の取上げについては、トータルステーションを使用した。調査の結果、遺構は確認できなか

った。遺物は土師器が多く出土しているが、吉谷亀尾前遺跡のものと比較するとかなり状態は悪いものが多かった。

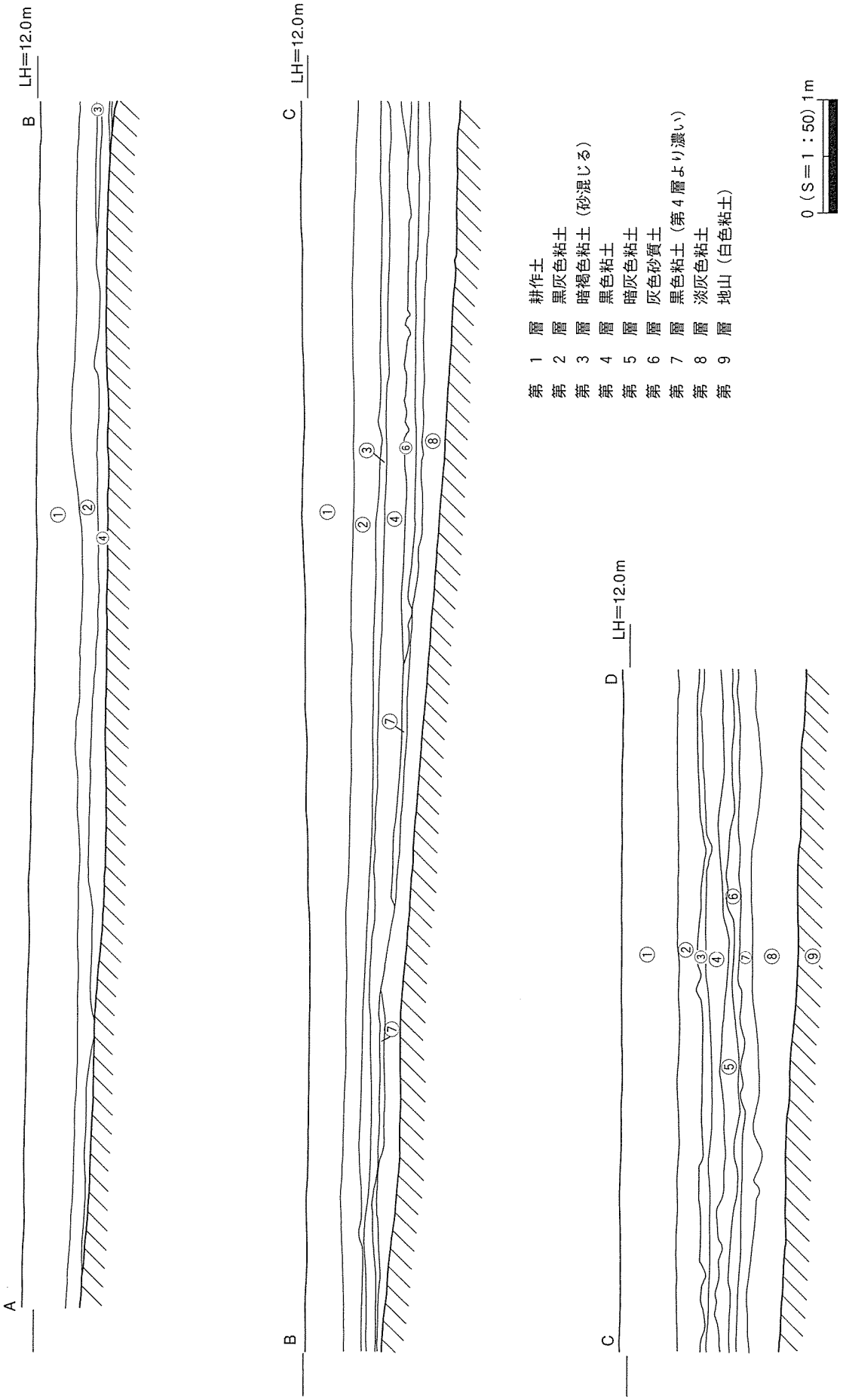
第2節　調査区内の堆積

調査地の地形は、母塚山から派生する小丘陵の裾野にあたることから、調査地の南側から北側に向けて緩やかに傾斜する。土層観察は調査地の西側壁面で行った。

調査区の堆積は、南側では北側に向かって緩やかに傾斜しているが、全体的にはほぼ水平に堆積している。

第　1　層　耕作土
第　2　層　黒灰色粘土
第　3　層　暗褐色粘土（砂混じる）
第　4　層　黒色粘土
第　5　層　暗灰色粘土
第　6　層　灰色砂質土
第　7　層　黒色粘土（第4層より濃い）
第　8　層　淡灰色粘土
第　9　層　地山（白色粘土）

第1層は現在の耕作土、第2層は旧耕作土と思われる層である。第3・6層はそれぞれ暗褐色粘土・灰色砂質土で砂粒を含んでいることからで、流れ込みの層である。第4層及び第7層はほとんど混じりのない安定した粘土層で、第5・8層は暗灰色粘土である。第9層は真白な粘性の大変強い層である。遺物は第4層・第7層及び第8層の上面で出土している。



第 2 図　古市六反田遺跡土層断面図

第３節　遺物について（第３図・第４図・第５図）

遺物は、第４層及び第７層の黒色粘土層において集中して出土した。コンテナに約３箱程度の遺物が出土したが、そのほとんどは風化が著しく図示できるものは少なかった。

弥生時代の遺物

No.１～No.６は中期の土器で、No.１・No.２は頸部が「く」の字に屈曲する甕型土器、No.３は頸部に貼付突帯を付した甕型土器である。No.５は壺型土器の頸部部分で貼付突帯を付す。No.６は高坏の脚部である。No.７・No.８は後期の壺土器で、口縁部を上下に肥厚させ、端部には数条の沈線を施す。No.15は蓋で対応する２箇所に紐を通すための穴を穿つ。

古墳時代以降の遺物

No.９・No.11～No.13は複合口縁の壺型土器で、口縁部は大きく「逆八の字」に開く。No.９・No.12は頸部に綾文を施す。

No.16～No.31はいずれも複合口縁を呈する甕型土器である。No.30・31が直立気味にやや内傾して立ち上がるほかは、「逆八の字」に開く口縁部を呈する。No.16・18・19・20・21は口縁端部に面取りを施し、それ以外は丸くおさめる。

No.32～No.38は鼓型器台、No.14No.39～No.42は高坏、No.43～No.47は低脚坏である。

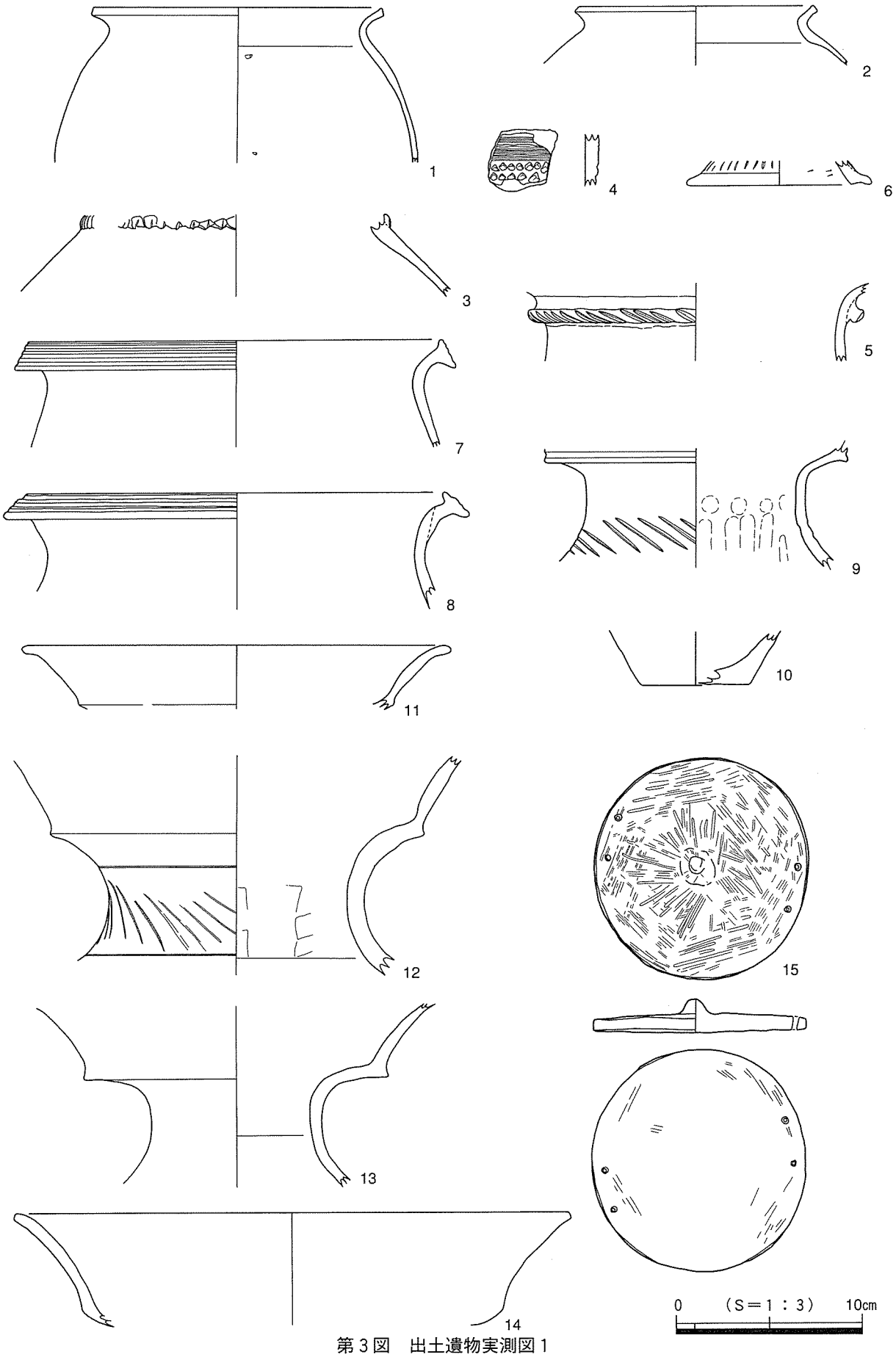
その他No.48は手捏ね土器、No.49は小型壺、No.50は甑、No.51は羽釜、Ｐ１は土製の勾玉である。

第５章　まとめ

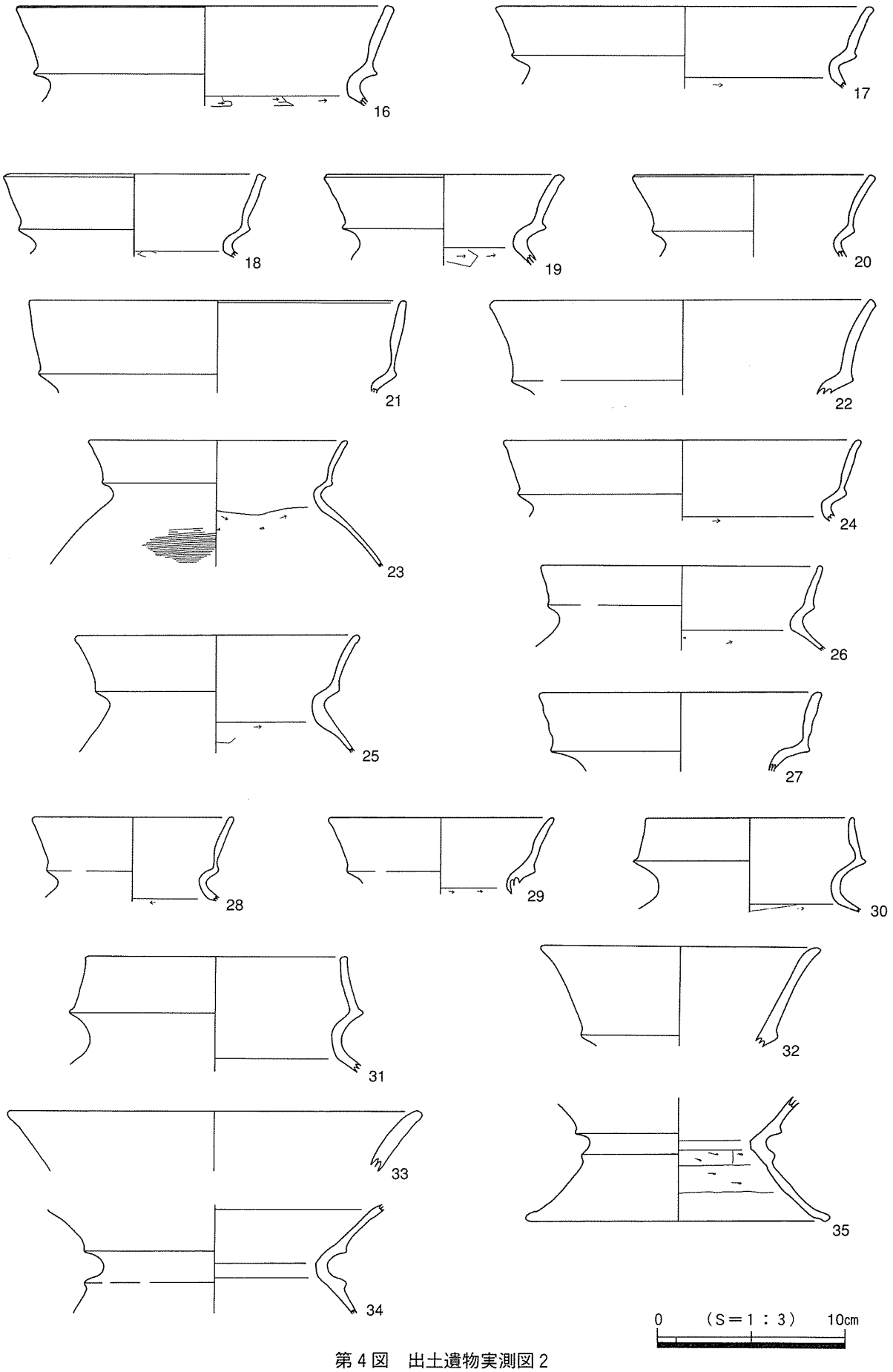
今回の調査では、吉谷亀尾前遺跡において多量の遺物を検出した。一部の木製品を除いてすべてが流れ込みの遺物であった。出土状況からみて、弥生時代中期、弥生時代末から古墳時代前期、古墳時代以降の大きく３時期の遺物の堆積層が考えられる。これらの遺物の時期に該当するもっとも近い遺跡は、平成１２年度に調査が行われた吉谷亀尾ノ上遺跡である。ここでは弥生時代から古墳時代の住居が数棟確認されているが、住居に伴う遺物はあまり出土していない。位置的に見て今回出土した遺物がこれらの住居に伴うものと考えることは十分可能であると思われる。ただし、土器の量から見てかなりの数の住居等が推定されることから、吉谷亀尾ノ上遺跡で確認された以外にもこの周辺には、数多くの住居があったと推定される。住居等の広がりについては今後の調査の機会に委ねることにしたい。

今回の調査で注目したいのが、弥生時代末から古墳時代前期の遺物堆積である。他の時代の遺物が比較的調査区全体に散布しているのに対して、この時代の遺物はＣ区で特に集中して出土している。調査地は、Ａ区からＧ区に向かって緩やかに傾斜しているのだが、Ａ・Ｂ区ではほとんど出土していない。遺物が集中する地形的な要因も見られない。また隣接する古市六反田遺跡で出土した遺物が、かなり摩耗し、小片化しているのと比較してみても、状態のよい遺物が多く、単に流れ込んだものとは考えにくい。後世の人間によって何らかの意図を持ってＣ区付近に一括廃棄され、その遺物がＤ～Ｇ区に散布した可能性が十分考えられるが、その意図を窺い知ることは今回の調査ではできなかった。

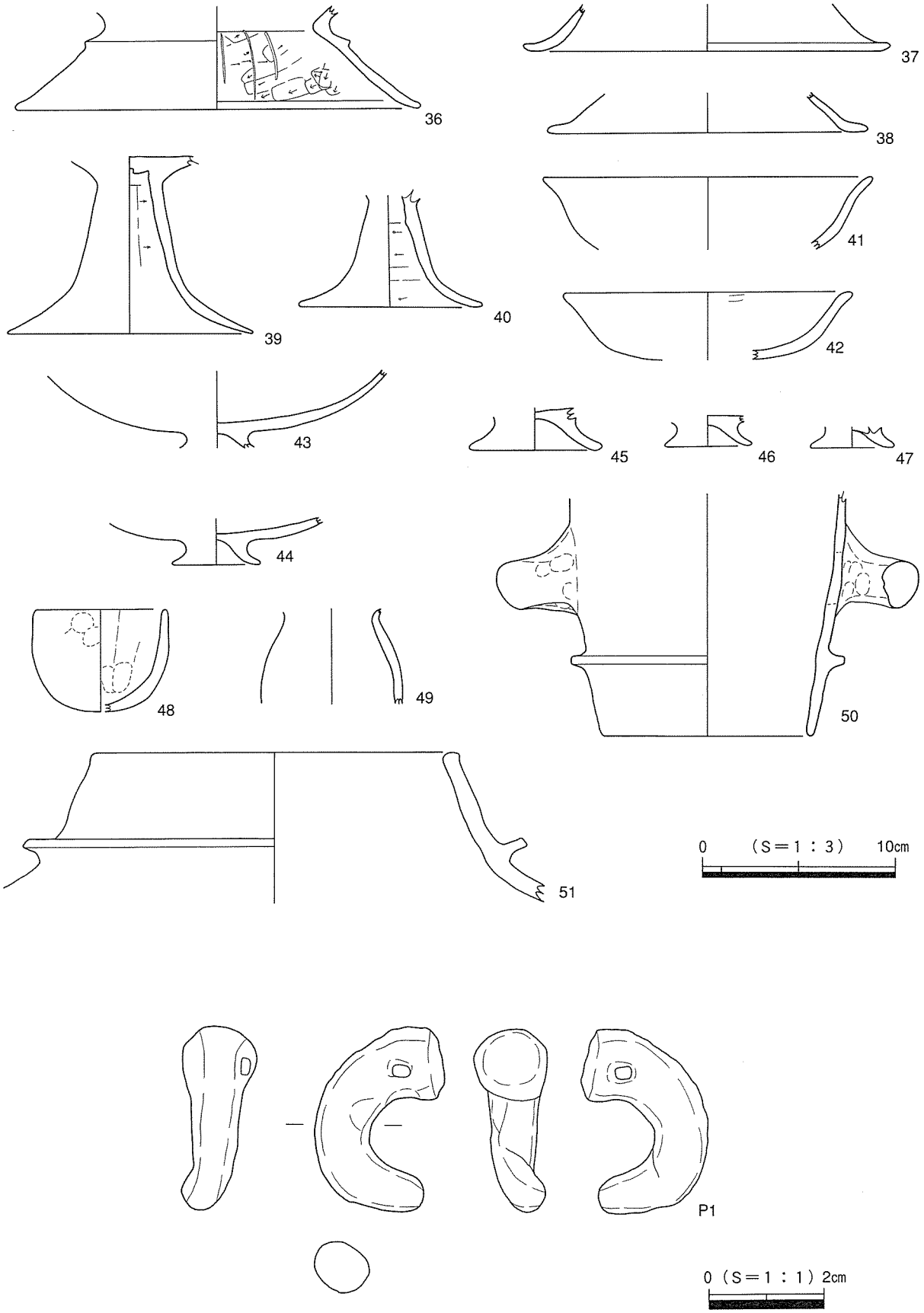
最後になりましたが、今回の調査において多数の方々に協力していただき、末筆ながら記して感謝の意を表します。



第３図　出土遺物実測図１



第４図　出土遺物実測図２



第５図　出土遺物実測図３

遺物観察表(古市六反田遺跡)

遺物番号	挿図番号	種別	法量(cm)			焼成	色調	胎土	調整	備考
			口径	残存高	底径					
1	3	甕	15.4	8.3		良好	褐色	密	内)ケズリ 外)ナデ	
2	3	甕	12.5	3.2		良好	淡黄褐色	密	内)ケズリ 外)調整不明	
3	3	甕		4.4		良好	淡褐色	密	内)ケズリ 外)ナデ	頸部:貼付突帯
4	3	甕		2.8		良好	褐色	密 0.3～3mm砂粒含		沈線・刺突文
5	3	壺		4.2		良好	淡褐色	密	調整不明	貼付突帯
6	3	高坏		1.6	9.6	良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	刺突文
7	3	壺	22.0	5.5		良好	淡黄褐色	やや密 0.3mm砂粒含	内外面共ナデ	4条凹線
8	3	壺	23.1	6.3		良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)一部ナデ後調整不明 外)ナデ	4条凹線
9	3	壺		6.4		良好	淡灰褐色	密 0.5～1mm砂粒含	内)ナデ・指頭圧痕 外)ナデ	凹線
10	3	甕		2.9	5.3	良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
11	3	壺	22.4	3.4		良好	橙褐色	密	内外面共ナデ	
12	3	壺		11.8		良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	頸部:刺突文
13	3	壺		9.8		良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
14	3	高坏	29.4	6.1		良好	橙褐色	密	内外面共ナデ	
15	3	蓋	11.5	1.8		良好	褐色	密 3mm砂粒含	内)調整不明 外)ミガキ	円孔有
16	4	甕	19.2	5.3		良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
17	4	甕	19.2	4.4		良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
18	4	甕	13.2	4.4		良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
19	4	甕	12.4	4.8		良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
20	4	甕	12.4	4.4		良好	褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部面取り
21	4	甕	19.9	4.9		良好	淡褐色	密 1. 5mm砂粒含	内外面共ナデ	口縁端部面取り
22	4	甕	20.0	5.1		良好	暗褐色	密	内外面共ナデ	
23	4	甕	13.6	6.7		良好	淡白褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
24	4	甕	18.4	4.3		良好	暗茶褐色	密 2mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
25	4	甕	14.8	6.3		良好	暗黄褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
26	4	甕	14.7	4.6		良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
27	4	甕	14.6	4.2		良好	褐色	密	内外面共ナデ	
28	4	甕	10.5	4.5		良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
29	4	甕	11.8	4.1		良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
30	4	甕	11.0	5.1		良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
31	4	甕	13.6	6.2		良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
32	4	器台	14.5	5.4		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
33	4	甕	15.4	8.3		良好	褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
33	4	器台	21.2	3.2		良好	褐色	密	内外面共ナデ	
34	4	器台		5.8		良好	淡褐色	やや密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
35	4	器台		6.6	15.3	良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
36	5	器台		5.4	20.6	良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
37	5	器台	17.9	2.4		良好	淡褐色	密	調整不明	
38	5	器台		2.0	15.5	良好	淡褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
39	5	高坏		9.2	12.5	良	淡灰褐色	密	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
40	5	高坏		6.0	9.1	良好	淡灰褐色	密 0.5～1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
41	5	高坏	16.8	3.8		良好	褐色	密	内外面共ナデ	
42	5	低脚坏	14.8	3.5		良好	淡褐色	密 0. 5mm砂粒含	内)ミガキ 外)ナデ	
43	5	低脚坏		4.0		良好	淡褐色	密 2mm砂粒含	内外面共ナデ	
44	5	低脚坏		3.4	4.3	良好	淡褐色	密 1. 5mm砂粒含	内外面共ナデ	
45	5	低脚坏		2.2	5.4	良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
46	5	低脚坏		1.6	4.2	良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
47	5	低脚坏		1.1	4.2	良好	淡褐色	密 微砂粒含	内外面共ナデ	
48	5	手捏土器	6.6	5.3		良好	褐色	密	内外面共ナデ	
49	5	小型壺		4.9		良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ 外)調整不明	
50	5	甑		12.6	10.7	良好	橙茶褐色	密	内外面共ナデ	
51	5	竈	18.4	7.8		良好	淡褐色	密	調整不明	

第６章「吉谷亀尾前遺跡調査における自然科学分析」

文化財調査コンサルタント株式会社

まえがき

吉谷亀尾前遺跡は鳥取県米子市吉谷町地内に立地する遺跡である。

当調査業務は、米子市教育文化事業団が文化財調査コンサルタント株式会社に委託して実施したものである。

当分析調査では、遺跡近辺での古植生復元および堆積環境の推定を目的として、花粉分析およびプラントオパール分析を実施した。

１　分析試料について

平面図・土層図は、米子市教育文化事業団（埋蔵文化財調査室）より提供を受けた原図をもとに作成した。土層の説明は、米子市教育文化事業団（埋蔵文化財調査室）の観察に従った。また、各種分析試料は米子市教育文化事業団（埋蔵文化財調査室）と協議の上、文化財調査コンサルタント（株）が採取したものである。

１－1　調査区配置および試料採取地点

図１－１に試料採取を行った平面図を示す。「●」で分析用試料を採取した。

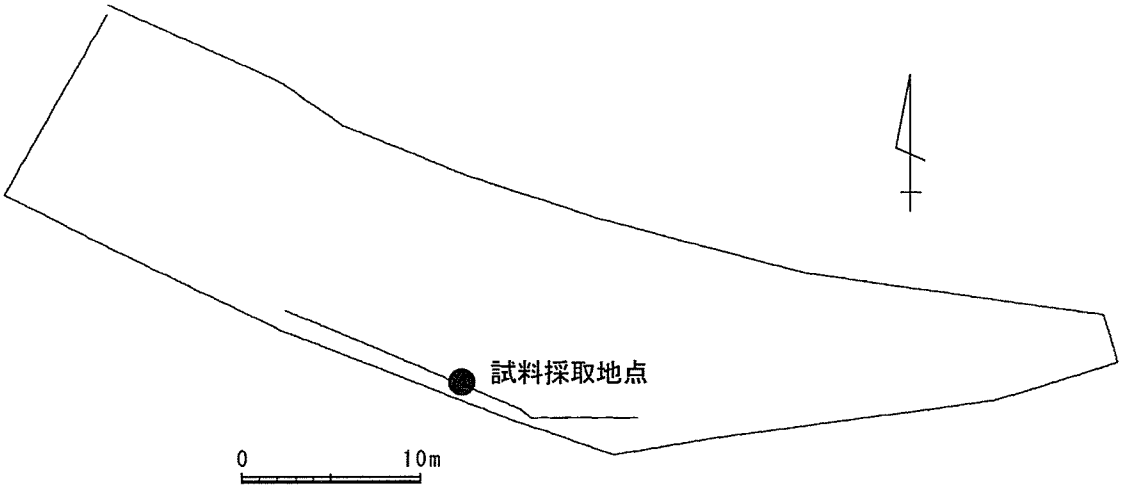
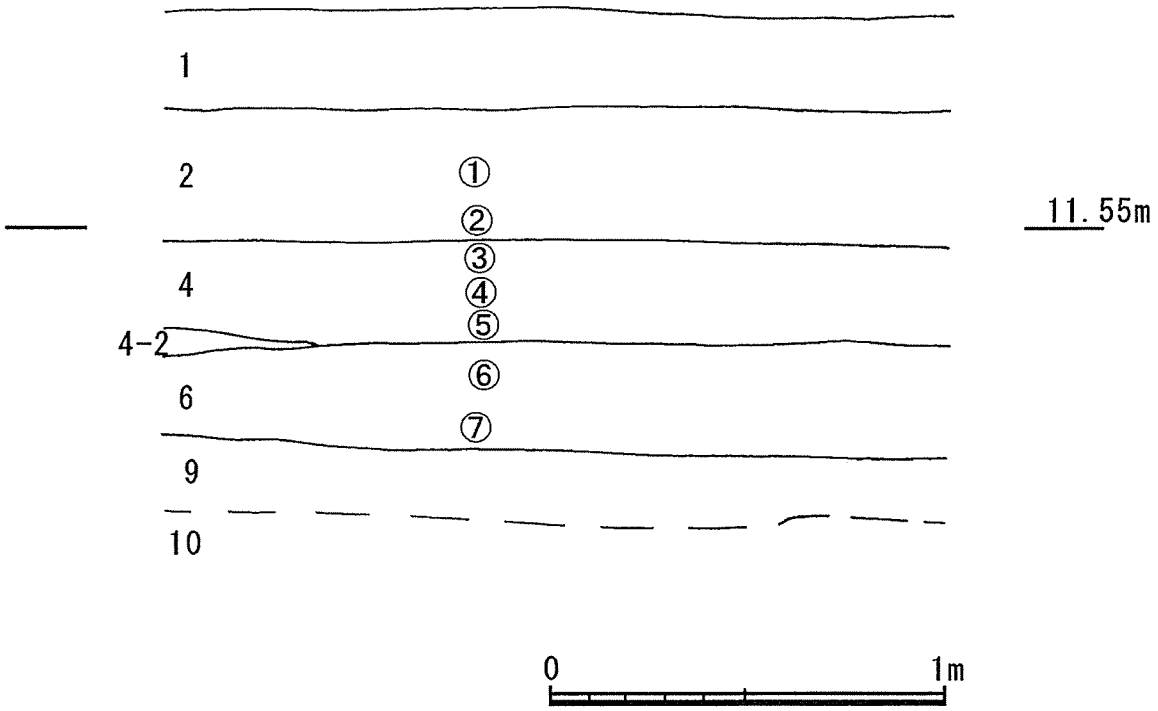


図１－１　試料採取地点

1－2　試料採取層準

図1－2に土層図を示す。①～⑦で試料を採取した。



1：耕作土　2：旧耕作土（暗灰色粘土）鉄分含み固くしまる　4：やや淡い黒灰色粘土
4－2：4より若干粘性強　6：黒色粘土　9：灰白色粘土（6と10の混じり層）

図1－2　1区No.1地点の土層図

2　分析方法

2－1　花粉分析方法

（1）原理

粘土層などの堆積物や遺跡の土壌には、動物性もしくは植物性の微小な化石（＝微化石）が含まれており、それらを物理・化学的処理によって抽出し、顕微鏡で化石の種類や数を検定し、種々の目的にそった調査を行う方法が微化石分析であって、花粉分析はそのひとつである。

堆積物に含まれる花粉化石は、その堆積当時陸上に生育した樹木や草が生産した花粉が、水系や大気系を経由して堆積物粒子とともに埋積したものである。

陸上に生育する樹木や草、つまり“植生”は気候の変化や時代とともに変化し、その変化が堆積物中の花粉化石の構成や量の変化として反映する。

従って、花粉構成や消長データは、地層の識別や対比、古植生の復元に利用することができる。

（2）分析処理法

①分析試料

分析に供する試料は、シルト又は粘土で、その量は10－200ｇ（湿潤重量）である。試料は花粉化石の形状を保持するため湿潤状態のまま使用する。

分析に供する試料の採取間隔は、堆積層の状態と目的によって数センチメートルから数メートルと異なるが、遺跡調査の場合は、一般に遺物に基づく土層区分に対応した採取間隔をとることが多い。

②分析処理

分析処理の手順は図２－１に示す分析フローのとおりである。１ミクロン振動マイクロフィルターを使用することによって、粒径処理を確実にするとともに、処理過程の再現性を高めている。

分析処理に要する薬品・器具設備の概要は以下のとおりである。

１）処理薬品　　：水酸化カリウム、硫酸、フッ化水素、塩化亜鉛　他

２）処理器具、設備：遠心分離機、振動マイクロフィルター、他一般分析器具

③顕微鏡による検定・計数

抽出した花粉化石はグリセリンゼリーと混合してスライドグラス上に滴下し、カバーグラスをかけて封入してプレパラートとする。各試料につき２～３枚のプレパラートを作成する。プレパラートを顕微鏡（バノックスＡＨＢＬＢ１万能顕微鏡）により400－1000倍率で観察し、メカニカルステージによる帯分析で通常木本花粉で100個から250個の検定、計数を行い、同時に出現する草本花粉の検定、計数も行う。

（３）解析法

花粉分析結果の解析は以下の手順で進める。

１）各花粉種類の出現率（パーセント表示）計算と花粉ダイアグラムの作成

２）各地点における花粉消長パターンの読みとりと花粉帯分帯

３）地層対比や古植生・古気候の復元

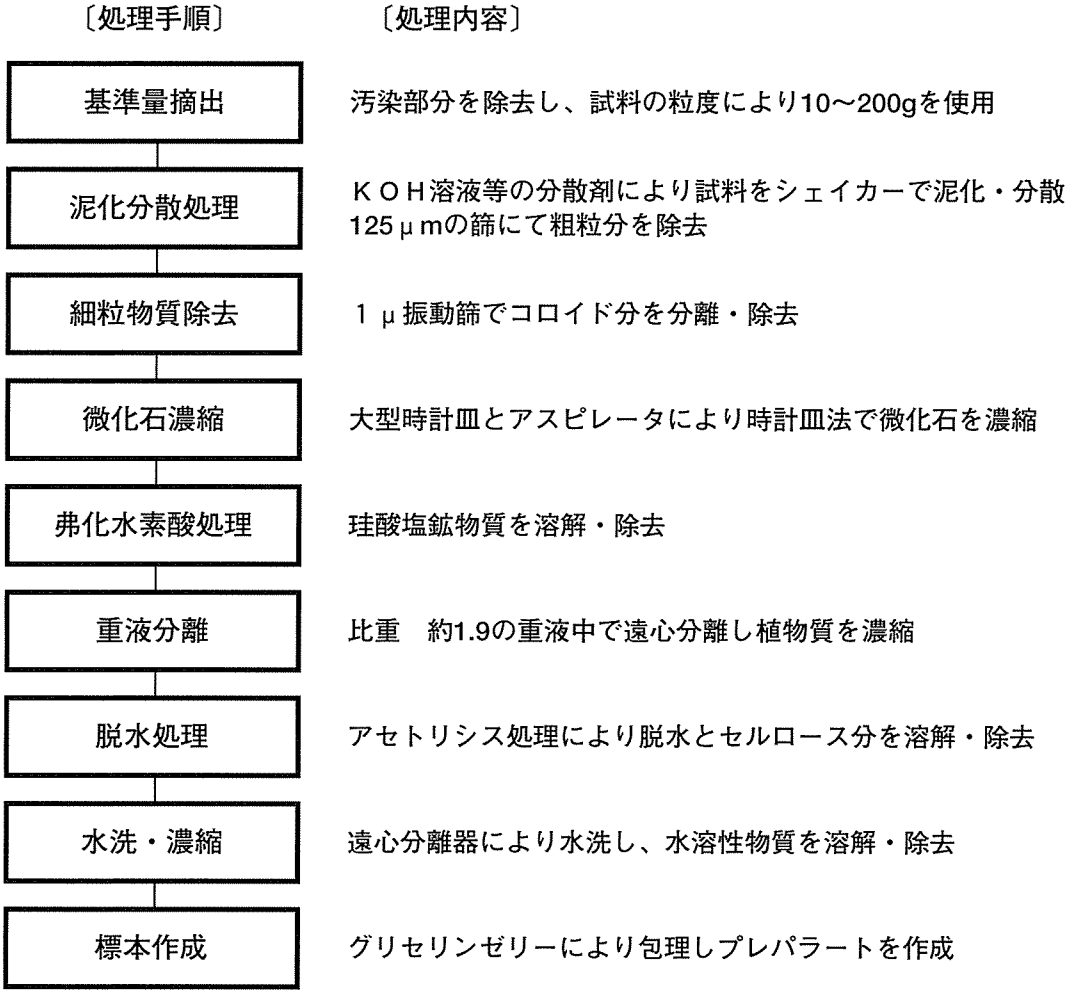


図２－１　花粉分析処理フロー

２－２　プラント・オパール分析方法

（１）分析処理

分析処理の手順は、図２－２に示す分析フローのとおりに行った。

〔処理手順〕	〔処理内容〕
試料の乾燥	105℃・24時間
試料分取	約１ｇを秤量（電子天秤により1/0000gの精度で秤量）
ガラスビーズ添加	直径約40μｍ以下、約0.02g（電子天秤により1/0000gの精度で秤量）
脱有機物処理	電気炉灰化法による
分散処理	超音波洗浄器による（150W・26KHz/15分）
細粒分除去	沈降法による
標本作成	オイキット中に分散しプレパラートを作成

図２－２　プラント・オパール分析処理フロー

（２）顕微鏡による検定・計数

同定はイネ科のうち、イネのほか数種類のプラント・オパールを対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行う。計数は、ガラスビーズ個数が300以上になるまで行った。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１ｇ中のプラント・オパール個数を求める。

3　分析結果

3－1　微化石概査結果

花粉分析用プレパラート、および花粉分析処理残渣を用いた微化石の概査結果は、表3－1とおりである（植物片、炭は花粉分析用プレパラートを観察した。珪藻、火山ガラス、植物珪酸体は、花粉分析処理の残渣を観察した）。

表3－1　微化石概査結果

試料No.	花　粉	炭	植物片	珪　藻	火山ガラス	プラント・オパール
1	◎	△×	△×	○	△	◎
2	◎	△×	△×	◎	△×	◎
3	◎	△	△×	◎	○	◎
4	◎	△	△×	◎	△	◎
5	◎	△×	△×	◎	△	◎
6	◎	○	△×	○	△	◎
7	◎	○	△×	◎	△	◎

凡例　◎　：十分な数量が検出できる
　　○　：少ないが検出できる
　　△　：非常に少ない
　　△×　：極めてまれに検出できる
　　×　：検出できない

3－2　花粉分析結果

（1）花粉化石の含有状況

7試料の花粉分析を行った結果、全ての試料から統計処理に十分な量の花粉化石が検出された。

（2）検出された花粉化石の種類

検出された花粉化石は表3－2に示す52種類であった。これらのうち、全試料を通じて花粉組成を特徴づける種類は、以下に示すようなものであった。

① 卓越木本花粉

マツ属（複維管束亜属）、スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属

② 卓越草本花粉（栽培種および栽培の可能性のあるものを含まない）

カヤツリグサ科、イネ科（40ミクロン未満）、アブラナ科、ヨモギ属

③ 栽培種花粉（栽培の可能性のあるものを含む）

イネ科（40ミクロン以上）、ソバ属、ソラマメ属

表３－２　検出花粉化石の種類一覧表

［樹木花粉種類］

8	Abies	（モミ属）
13	Pinus(Diploxylon)	（マツ属：複維管束亜属）
23	Tsuga	（ツガ属）
24	Sciadopitys	（コウヤマキ属）
26	Cryptomeria	（スギ属）
27	Cupressaceae	（ヒノキ科）
46	Juglans-Pterocarya	（クルミ属ーサワグルミ属）
50	Alnus	（ハンノキ属）
51	Betula	（カバノキ属）
53	Carpinus-Ostrya	（クマシデ属ーアサダ属）
54	Corylus	（ハシバミ属）
58	Castanopsis-Pasania	（シイノキ属ーマテバシイ属）
59	Fagus	（ブナ属）
61	Cyclobalanopsis	（アカガシ亜属）
62	Quercus	（コナラ亜属）
65	Aphananthe-Celtis	（ムクノキ属ーエノキ属）
66	Ulmus-Zelkova	（ニレ属ーケヤキ属）
69	Moraceae-Urticaceae	（クワ科ーイラクサ科）
71	Salix	（ヤナギ属）
93	Zanthoxylum	（サンショウ属）
98	Acer	（カエデ属）
99	Aesculus	（トチノキ属）
100	Ilex	（モチノキ属）
103	Oleaceae	（モクセイ科）
109	Araliaceae	（ウコギ科）
133	Lonicera	（スイカズラ属）

［草本花粉種類］

202	Alisma	（サジオモダカ属）
203	Sagittaria	（オモダカ属）
207	Typha	（ガマ属）
208	Liliaceae	（ユリ科）
223	Aneilema	（イボクサ属）
230	Cyperaceae	（カヤツリグサ科）
232	Gramineae（<40）	（イネ科：４０ミクロン未満）
233	Gramineae（>40）	（イネ科：４０ミクロン以上）
255	Ranunculaceae	（キンポウゲ科）
257	Thalictrum	（カラマツソウ属）
263	Cruciferae	（アブラナ科）
269	Caryophyllaceae	（ナデシコ科）
270	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	（アカザ科ーヒユ科）
276	fagopyrum	（ソバ属）
279	Echinocaulon-Persicaria	（ウナギツカミ節ーサナエタデ節）
282	Rumex	（ギシギシ属）
289	Fabaceae	（マメ科）
292	Vicia	（ソラマメ属）
295	Vitaceae	（ブドウ科）
298	Umbelliferae	（セリ科）
300	Rotala	（キカシグサ属）
322	Patrinia	（オミナエシ属）
340	Lamiaceae	（シソ科）
347	Carduoidae	（キク亜科）
349	Artemisia	（ヨモギ属）
350	Cichorioideae	（タンポポ亜科）

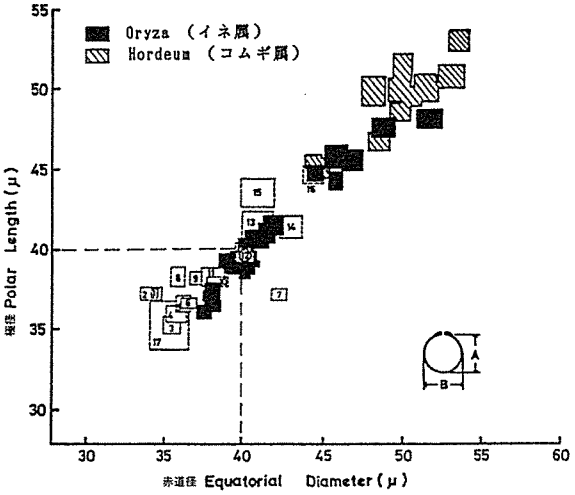
（3）イネ科の細分について

イネ科花粉を粒径から、40ミクロン以上と40ミクロン未満に区分した。

稲作が行われる前の自然堆積物では、イネ科（40ミクロン未満）花粉が高率となることはあるが、イネ科（40ミクロン以上）花粉が高率となることはほとんどない。これに対し、稲作が広範に行われだしたと考えられる弥生時代以降においては、自然堆積物でもイネ科（40ミクロン以上）花粉が高率となることが多くなる。さらに稲作遺構での分析結果では、ほとんどの場合イネ科（40ミクロン以上）花粉が高率で検出される。

一方図３－１に示すように、イネ科（40ミクロン以上）花粉はイネ属（Oryza）を含んでいるが、すべてがイネ属であるわけではない。

これらの状況証拠と事実から、弥生時代以降に高率で検出されるイネ科（40ミクロン以上）花粉について、すべてがイネ属に由来するわけではないが、その多くはイネ属に由来すると推測される。



［図中のイネ・コムギ以外のイネ科］

1. Zizania latifolia （マコモ）
2. Imperata cylindrica var.koenigii （チガヤ）
3. Trisetum bifidum （カニツリグサ）
4. Arthraxon hispidus （コブナグサ）
5. Digitaria adscendens （メヒシバ）
6. Echinochloa crusgalli subsp.edulis
7. Polypogen monspeliensis （ヒエガエリ）
8. Phalaris arundinacea （クサヨシ）
9. Beckmannia syzigachne （カズノコグサ）
10. Echinochloa crusgalli var.longiseta
11. Alopecurus aequalis var.amurensis（スズメノテッポウ）
12. Echinochloa crusgalli
13. Paspalum thunbergii
14. Alopecurus japonicus
15. Echinochloa crusgalli var.oryzicola
16. Agropyron ciliare var.minus （アオカモジグサ）
17. Phragmites communis （アシ）

図３－１　イネ科花粉の粒径比較図（中村,1974）

吉谷亀尾前遺跡

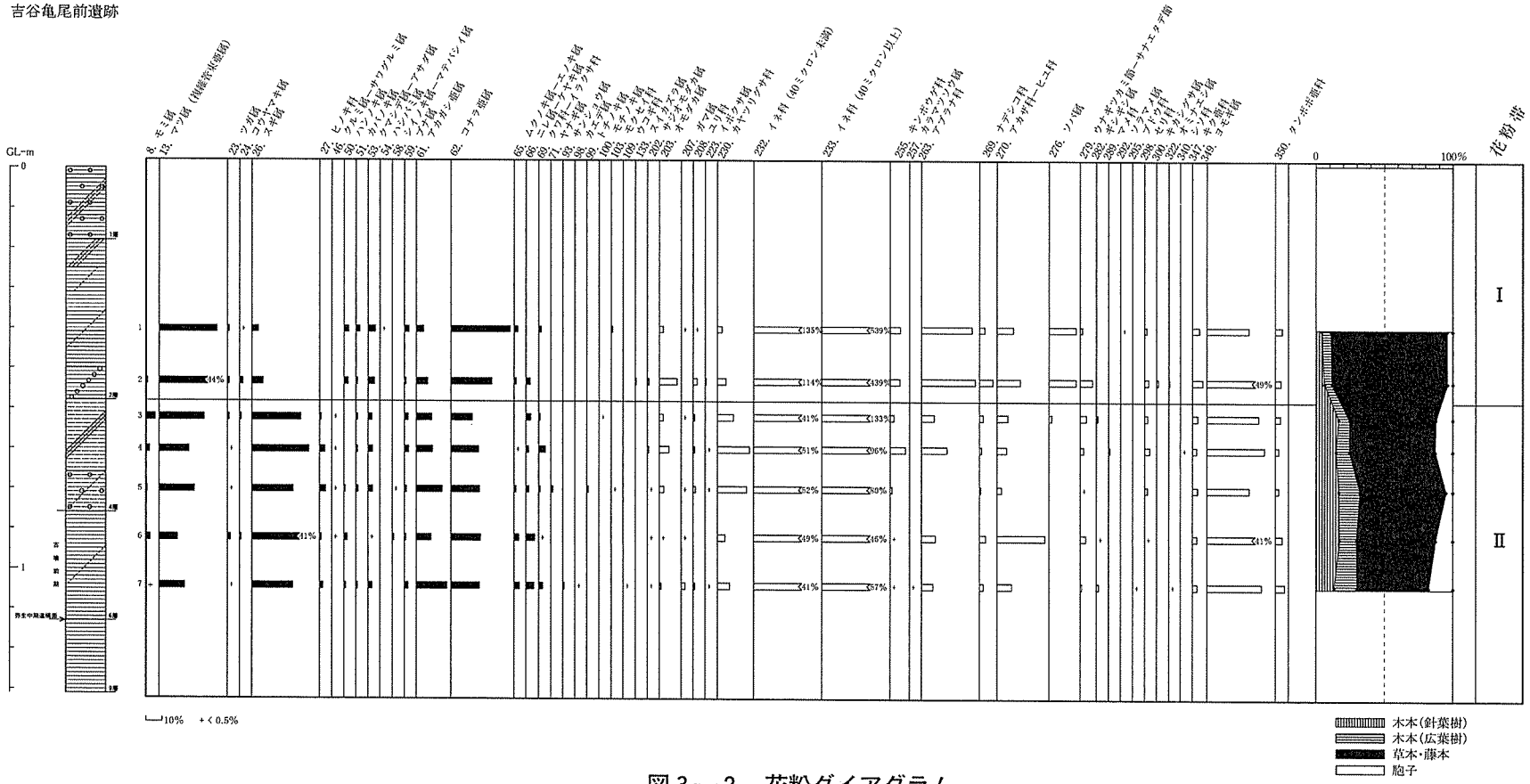


図3—2　花粉ダイアグラム

表３－３　花粉化石組成表

試料番号			1	2	3	4	5	6	7
8	Abies	モミ属		2 1%	12 6%	5 2%	2 1%	5 2%	1 0%
13	Pinus(Diploxylon)	マツ属：複維管束亜属	74 36%	87 44%	59 28%	41 19%	49 22%	23 11%	33 16%
23	Tsuga	ツガ属	2 1%	2 1%	2 1%	1 0%	1 0%	4 2%	1 0%
24	Sciadopitys	コウヤマキ属	1 0%	4 2%	2 1%			2 1%	
26	Cryptomeria	スギ属	8 4%	14 7%	65 31%	79 36%	58 26%	85 41%	54 26%
27	Cupressaceac	ヒノキ科			2 1%	7 3%	8 4%	2 1%	4 2%
46	Juglans-Pterocarya	クルミ属ーサワグルミ属			1 0%	1 0%	1 0%	1 0%	
50	Alnus	ハンノキ属	6 3%	5 3%			2 1%	4 2%	2 1%
51	Betula	カバノキ属	5 2%	2 1%	2 1%	2 1%	3 1%		2 1%
53	Carpinus-Ostrya	クマシデ属ーアサダ属	9 4%	8 4%	5 2%	6 3%	6 3%	1 0%	5 2%
54	Corylus	ハシバミ属	1 0%						
58	Castanopsis-Pasania	シイノキ属ーマテバシイ属					1 0%	2 1%	
59	Fagus	ブナ属	6 3%	2 1%	5 2%	6 3%	3 1%	2 1%	5 2%
61	Cyclobalanopsis	アカガシ亜属	9 4%	14 7%	20 9%	22 10%	36 16%	19 9%	40 19%
62	Quercus	コナラ亜属	76 37%	51 26%	28 13%	38 17%	40 18%	38 18%	37 18%
65	Aphananthe-Celitis	ムクノキ属ーエノキ属	5 2%	3 2%		1 0%	3 1%	6 3%	7 3%
66	Ulmus-Zelkova	ニレ属ーケヤキ属		5 3%	6 3%	3 1%	4 2%	11 5%	10 5%
69	Moraceae-Urticaceae	クワ科ーイラクサ科	3 1%		2 1%	9 4%	2 1%	1 0%	5 2%
71	Salix	ヤナギ属					3 1%		
93	Zanthoxylum	サンショウ属							2 1%
98	Acer	カエデ属							1 0%
99	Aesculus	トチノキ属					2 1%		
100	Ilex	モチノキ属			1 0%				
103	Oleaceae	モクセイ科	2 1%				1 0%		
109	Araliaceae	ウコギ科							1 0%
133	Lonicera	スイカズラ属		1 1%					
202	Alisma	サジオモダカ属		2 1%		2 1%	1 0%	1 0%	1 0%
203	Sagittaria	オモダカ属	5 2%	22 11%	5 2%	13 6%	6 3%	1 0%	2 1%
207	Typha	ガマ属	1 0%		1 0%		1 0%	1 0%	5 2%
208	Liliaceae	ユリ科	1 0%	5 3%	2 1%	2 1%	3 1%		2 1%
223	Aneilema	イボクサ属		1 1%		1 0%	1 0%		1 0%
230	Cyperaceae	カヤツリグサ科	6 3%	11 6%	22 10%	45 20%	42 19%	10 5%	16 8%
232	Gramineae(<40)	イネ科：４０ミクロン未満	279 135%	227 114%	86 41%	113 51%	117 52%	100 49%	86 41%
233	Gramineae(>40)	イネ科：４０ミクロン以上	1116 539%	878 439%	282 133%	212 96%	181 80%	95 46%	119 57%
255	Ranunculaceae	キンポウゲ科	13 6%	12 6%	5 2%	21 10%	3 1%	1 0%	1 0%
257	Thalictrum	カラマツソウ属							1 0%
263	Cruciferae	アブラナ科	65 31%	67 34%	17 8%	35 16%		18 9%	15 7%
269	Caryophyllaceae	ナデシコ科	7 3%	17 9%	5 2%	3 1%	2 1%	8 4%	5 2%
270	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科ーヒユ科	21 10%	29 15%	14 7%	13 6%	6 3%	61 30%	19 9%
276	Fagopyrum	ソバ属	35 17%	34 17%	4 2%				
279	Echinocaulon-Persicaria	ウナギツカミ節ーサナエタデ節	3 1%	15 8%	8 4%	5 2%	1 0%	7 3%	2 1%
282	Rumex	ギシギシ属			2 1%			1 0%	3 1%
289	Fabaceae	マメ科				2 1%			
292	Vicia	ソラマメ属	1 0%						
295	Vitaceae	ブドウ科							1 0%
298	Umbelliferae	セリ科	3 1%	5 3%	4 2%	7 3%	4 2%	1 0%	
300	Rotala	キカシグサ属		2 1%					
322	Patrinia	オミナエシ属		1 1%					1 0%
340	Lamiaceae	シソ科				1 0%			
347	Carduoidae	キク亜科	9 4%	13 7%	7 3%	6 3%	7 3%	6 3%	6 3%
349	Artemisia	ヨモギ属	54 26%	97 49%	68 32%	79 36%	59 26%	84 41%	71 34%
350	Cichorioideae	タンポポ亜科	9 4%	7 4%	7 3%	5 2%	5 2%	9 4%	12 6%
402	MONOLATE-TYPE-SPORE	単条孔胞子	51 25%	39 20%	86 41%	78 35%	19 8%	45 22%	49 23%
403	TRILATE-TYPE-SPORE	三条孔胞子	30 14%	28 14%	21 10%	38 17%	16 7%	43 21%	76 36%
木本花粉総数			207 11%	200 12%	212 25%	221 25%	225 32%	206 30%	210 30%
草本花粉総数			1628 85%	1445 84%	539 63%	565 63%	439 63%	404 58%	369 52%
胞子総数			81 4%	67 4%	107 12%	116 13%	35 5%	88 13%	125 18%

（4）分析結果

花粉分析の結果を、下記の花粉ダイアグラムと花粉化石組成表に示す。

花粉ダイアグラムでは、計数した木本花粉を基数にし、各々の木本花粉、草本花粉について百分率を算出してスペクトルで表した。

右端の花粉総合ダイアグラムでは、木本花粉を針葉樹花粉、広葉樹花粉に細分し、これらに草本花粉、胞子の総数を加えたものを基数として、それぞれの分類群毎に累積百分率として示した。

［花粉ダイアグラム］

図３－２　花粉ダイアグラム

［花粉化石組成表］

表３－３　花粉化石組成表

花粉組成の特徴を以下に示す。また、花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向かって記す。

試料No.７～３では、スギ属が26～41％と高率を示すほか、マツ属（複維管束亜属）が11～28％と増加傾向を示し、アカガシ亜属は19～９％と減少傾向を示すほか、コナラ亜属が13～18％で安定した出現傾向を示す。草本花粉ではイネ科（40ミクロン以上）が46～133％の出現率を示すほか、イネ科（40ミクロン未満）も50％程度の出現率を示す。この他カヤツリグサ科、ヨモギ属が高い出現率を示す。

試料No.２、１では、マツ属（複維管束亜属）が36、44％、コナラ亜属が26、37％と高率を示す。草本花粉ではイネ科（40ミクロン以上）が400％を超えるほか、イネ科（40ミクロン未満）も100％を超える出現率を示す。また栽培種のソバ属も17％と比較的高率を示す。

３－３　プラント・オパール分析結果

（1）プラント・オパール化石の含有状況

５試料のプラント・オパール分析を行った結果、全ての試料から充分な量のプラント・オパール化石が検出された。検出されたプラント・オパール化石は表３－４に示す４種類である。

（2）プラント・オパール分析結果

イネ科の分類可能な種類のうち、水田耕作の推定に重要な４種類について計数を行った。その結果、表３－４に示すとおり４種類全てが検出され、計数を行った。プラント・オパール分析の結果を、下記のプラント・オパールダイアグラムとプラント・オパール分析組成表に示す。

表３－４　検出プラント・オパール化石種類一覧表

2　イ　　ネ
5　ヨ　シ　属
14　ススキ属型
50　タ ケ 亜 科

表３—５　プラント・オパール化石組織表

	2	3	5	6	7
2　イネ	1	3	2	1	
	7	23	12	8	
	0.2	0.67	0.36	0.22	
5　ヨシ属	1	2	1		
	7	15	6		
	0.43	0.95	0.38		
14　ススキ属型	9	12	12	11	7
	61	91	73	84	71
	0.76	1.12	0.9	1.04	0.88
50　タケ亜科	13	28	30	36	13
	88	212	181	274	132
	0.42	1.02	0.87	1.32	0.63
プラント・オパール総数	24	45	45	48	20
カウントガラスビーズ数	450	400	500	400	300
カウント総数	474	445	545	448	320
試料重量（×0.0001g）	7000	7000	6999	6999	6999
ガラスビーズ重量（×0.0001g）	116	115	115	116	116

上段　検出個数
中段　検出密度（単位；×100個/g）
下段　推定生産量（単位；kg/m^2・cm）

（３）プラント・オパール組成の特徴

分析を行った５試料の内、試料No.７を除く４試料でイネが検出できた。ただし、検出量は2300粒/ｇまでと比較的少量であった。

4　考察

4－1　花粉分帯

花粉分析の結果を基に局地花粉帯を設定した。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、本文中では花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料No.も下位から上位に向かって記した。

（1）Ⅱ帯（試料No.7～3）

スギ属が卓越し、マツ属（複維管束亜属）、アカガシ亜属、コナラ亜属を伴う。これらのうちマツ属（複維管束亜属）は増加傾向を示し、アカガシ亜属は減少傾向を示す。

（2）Ⅰ帯（試料No.2、1）

マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属が卓越する。

4－2　各花粉帯の示す年代について

（1）Ⅱ帯

9層上面の弥生時代中期の遺構面を覆う、古墳時代前期の遺物を含む6層と、さらに上位の4層からなる。

Ⅱ帯はスギ属が卓越することから渡辺ほか（2003）のアカガシ亜属－シイノキ属帯スギ亜帯に対比可能である。またアカガシ亜属－シイノキ属帯スギ亜帯は、およそ3000yr.B.P.頃以降、古墳時代から中世の植生を表すと考えられいる。

以上のことから今回のⅡ帯は、弥生時代中期から中世頃までの植生を表していると考えられる。

（2）Ⅰ帯

現地での観察で旧耕作土と推定された2層からなるが、時期について明確でなかった。

Ⅰ帯ではマツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属が卓越し、従来米子市内で得られた花粉組成とは異なる傾向であった。スギ属が低率であることから、アカガシ亜属－シイノキ属帯スギ亜帯より上位に対比される。またアカガシ亜属が低率であることから、コナラ亜属が高率であるもののイネ科花粉帯マツ属亜帯に対比される可能性が高い。イネ科花粉帯マツ属亜帯は中世末から近世にかけての植生を示すと考えられており、Ⅰ帯は中世末から近世にかけての植生を示すと考えられる。

4－3　古環境変遷

（1）Ⅱ帯期（弥生時代中期から中世頃）

①調査地近辺

草本花粉でイネ科（40ミクロン以上）が高率を示し、調査地近辺での稲作が示唆される。

下部の6層は腐植質粘土で、イネ科（40ミクロン未満）、カヤツリグサ科なども高率を示し、イネのプラント・オパールの検出量が少い。これらのことから、6層堆積時に調査地点は湿地であり、周辺に存在した水田からイネ科（40ミクロン以上）花粉が混入した可能性が高い。ただし、調査地点が水田であった可能性も若干残る。

上部の4層は細砂からシルトから成る。下部の6層同様イネ科（40ミクロン未満）、カヤツリグサ科なども高率を示す。一方、イネ科（40ミクロン以上）花粉は増加傾向を示し、イネのプラント・オパールの検出量も少ないものの最上部の試料No.3で小ピークを成す。4層下部の堆積時には、調査地点は引き続き湿地であった可能性が高い。しかし、4層上部堆積時には周辺の開発が進み、調査地点近辺にも水田が広がっていったと考えられる。

②周辺の丘陵

人間活動が活性化することにより、低地ばかりでなく丘陵から山地の開発も進み、従来カシ類、シイ類を主要素としていた照葉樹林が伐採され、アカマツ林やコナラ林などの二次林に変わっていったと考えられる。また、アカマツ林、コナラ林は現在の代表的な里山（薪炭林）の姿であり、中世という時期を考えると、この時期の後半には周辺の丘陵あるいは中国山地縁辺は里山として管理されていた可能性もある。一方この時期のスギ属の卓越傾向は、米子市西部の目久美遺跡（渡辺ほか，2003）、淀江平野でも（渡辺ほか，2000）認められている。この時期（あるいは直前におこった）いわゆる弥生の小海退の影響で砂州あるいは扇状地が急激に発達し、本来山地斜面などに分布するスギが、平地（扇状地上）にも分布するようになったと考えられる。

（2）Ⅱ帯期（弥生時代中期から中世頃）

①調査地近辺

草本花粉でイネ科（40ミクロン以上）花粉の出現率が極めて高い。イネプラント・オパールの検出量は少ないものの、調査地での稲作が示唆される。また、ソバ属花粉も10%を超す出現率を示し、畦や休耕田を利用したソバ栽培が推定できる、その他花粉が検出されることからマメ類（ソラマメ類）、ナタネ類（アブラナ科花粉）についても栽培の可能性が示唆される。

②周辺の丘陵

スギ属花粉が激減しており、前時期に見られた扇状地上のスギ林は伐採・開墾され田畑へと変わった可能性が高い。一方マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属花粉が卓越傾向にあり、周

吉谷亀尾前遺跡

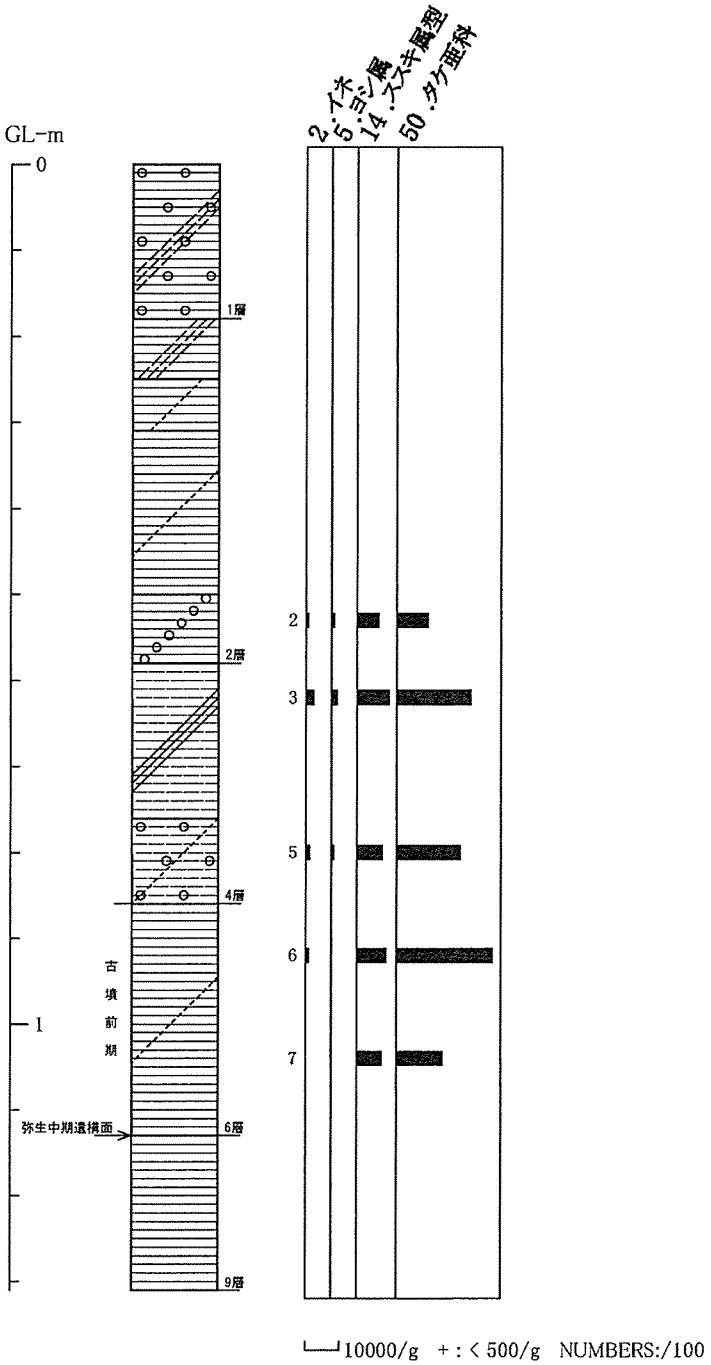


図４－３　プラント・オパールダイアグラム

辺の丘陵から中国山地縁辺にかけてはアカマツ、ナラ類を主要素とする薪炭林（里山）で被われていたと考えられる。

5　まとめ

吉谷亀尾前遺跡発掘調査に伴う自然科学分析（花粉分析、プラント・オパール分析）を基に・遺跡周辺地域の古環堤変遷を推定した。特筆すべき点は以下の事柄である。

①花粉分析結果より、局地花粉帯Ⅱ、Ⅰ帯の２帯を設定した。

②各花粉帯と目久美遺跡の花粉帯の対比を行い、それぞれの花粉帯が示す時期を検討した。

③弥生時代中期以降の古環境変遷を推定した。特筆すべき点は以下の事柄である。

１）調査地点は・Ⅱ帯前半には湿地であったのが、Ⅰ帯後半には水田へと変化したと考えられる。

２）Ⅰ帯期には周辺には水田が広がり、ソバ、マメ類、ナタネ類などが裏作などの形態で栽培されていたと考えられる。

３）中世以降・里山（薪炭林）の要素であるマツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属花粉が卓越した。コナラ亜属花粉を伴うこの花粉組成は、従来の目久美遺跡では認められなかった事柄である。

6　引用文献

中村　純（1974）イネ科花粉について，とくにイネを中心として．第四紀研究，13，187－197.

渡辺正巳・中村唯史・荒川賢丈（2000）淀江平野の完新世古環境変遷．島根大学地球資源環境学研究報告，31－35，島根大学地球資源環境学教室.

渡辺正巳・佐伯純也・平木裕子（2003）目久美遺跡発掘調査における花粉層序の成果．鳥取地学会誌，7，1－9.

図　　版

図版1（吉谷亀尾前遺跡）

調査前風景

遺物出土状況

遺物出土状況

遺物出土状況

遺物出土状況

作業風景

SD-01

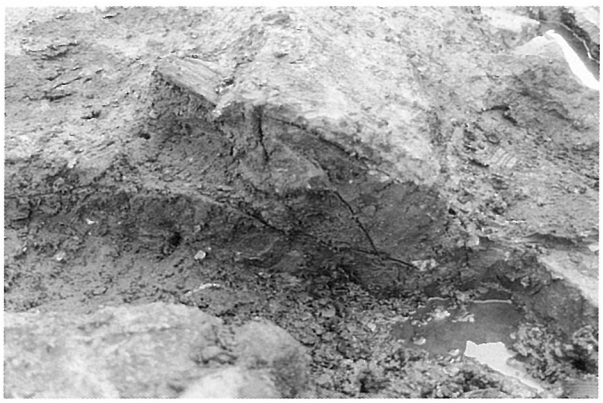
SK-02

図版2（吉谷亀尾前遺跡）

SK-01（南側より）

SK-01（東側より）

SK-01粘土除去後（南側より）



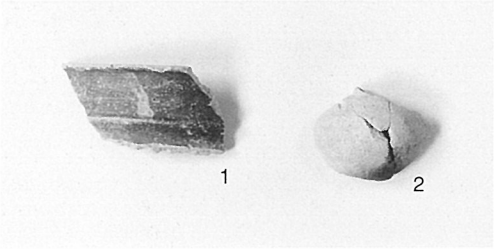
SK-01断面

SK-01粘土除去後（西側より）

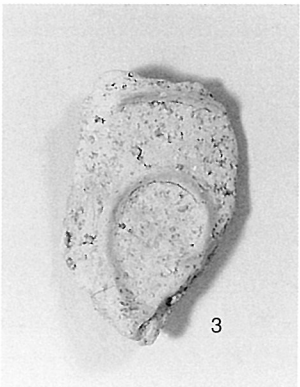
調査後状況（西側より）

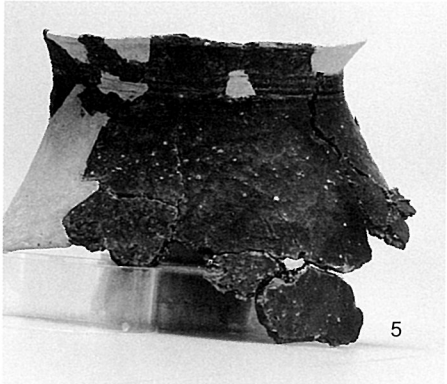
調査後状況（東側より）

図版3（吉谷亀尾前遺跡）



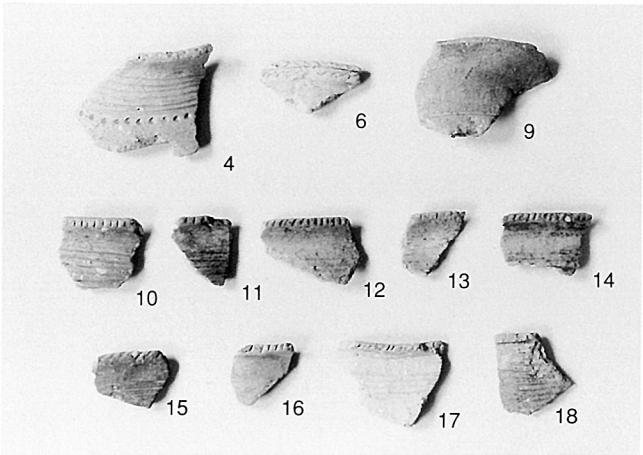
図版4（吉谷亀尾前遺跡）

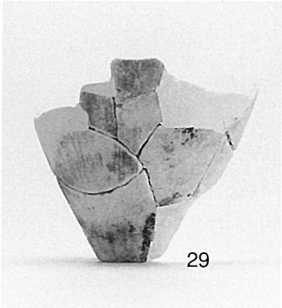

3


5

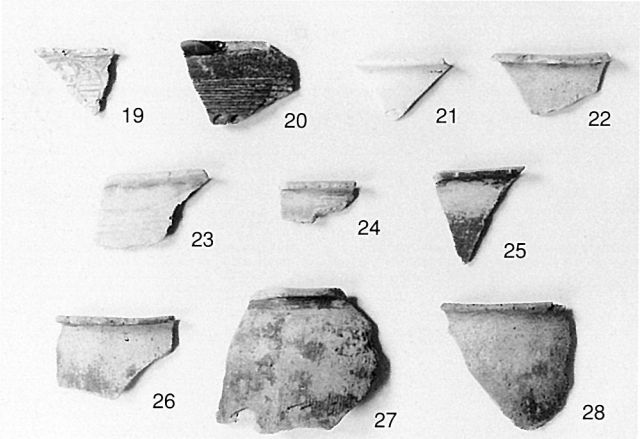
7

8

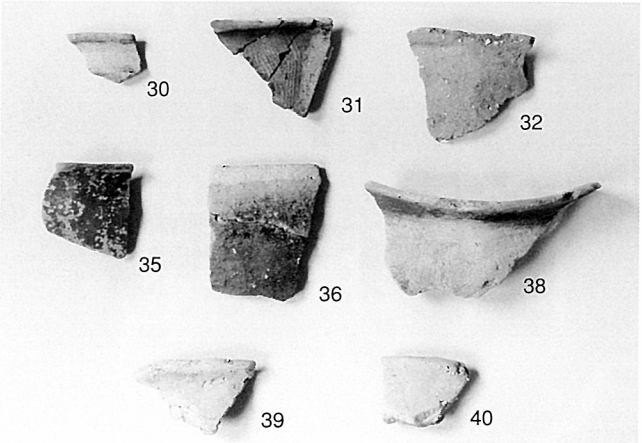

4
6
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18

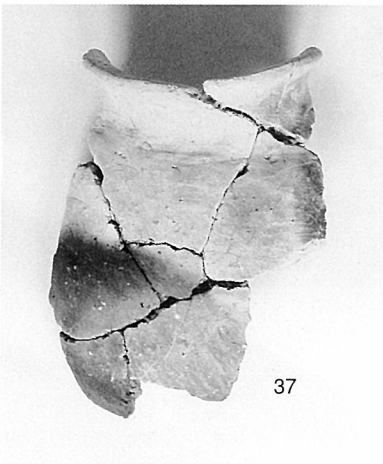

29

33

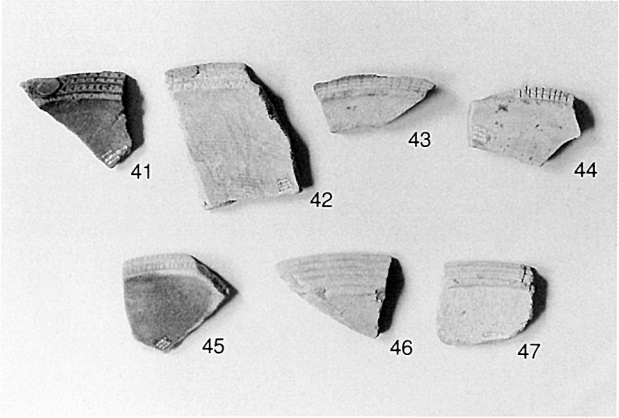

19
20
21
22
23
24
25
26
27
28

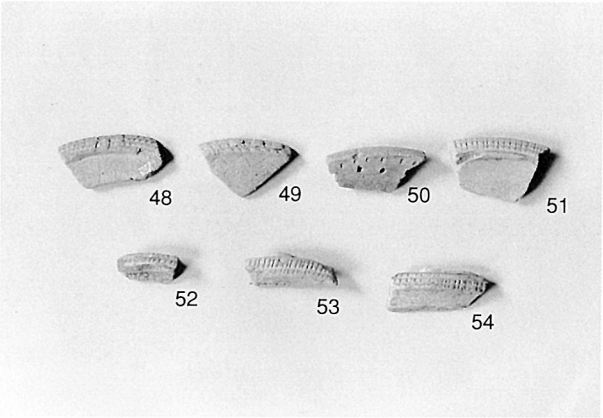
34

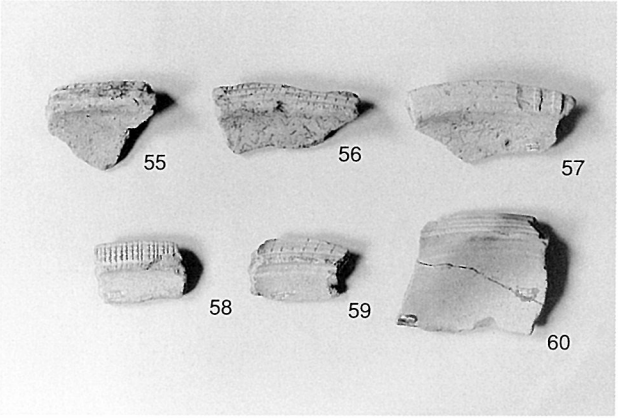

30
31
32
35
36
38
39
40

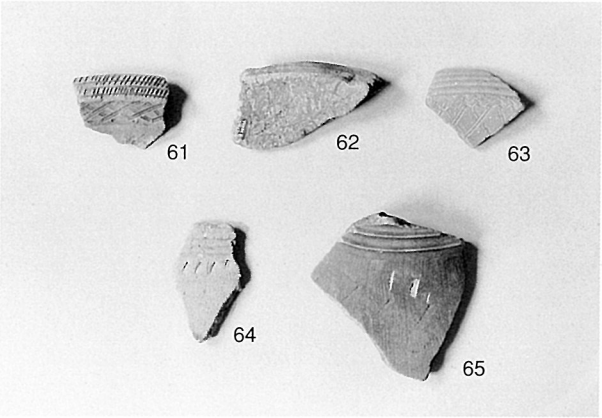

37

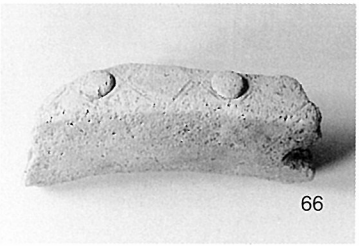
図版5（吉谷亀尾前遺跡）

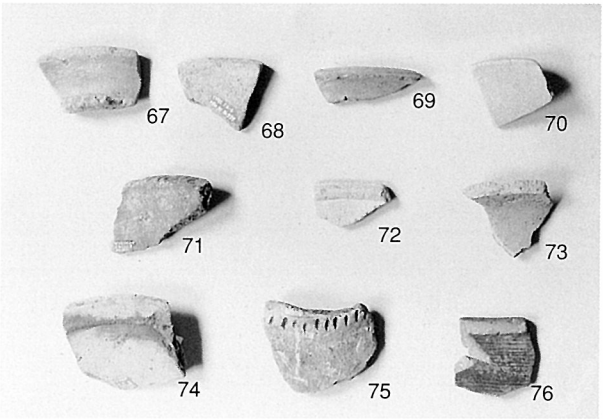

41
42
43
44
45
46
47

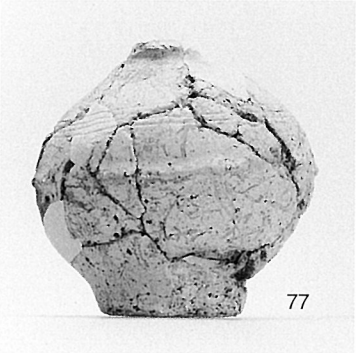

48
49
50
51
52
53
54

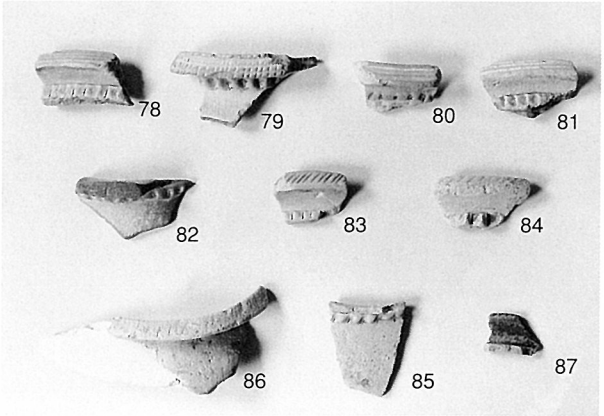

55
56
57
58
59
60

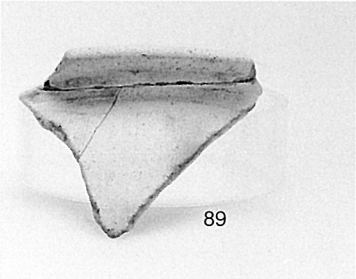

61
62
63
64
65


66

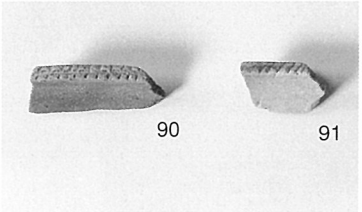

67
68
69
70
71
72
73
74
75
76

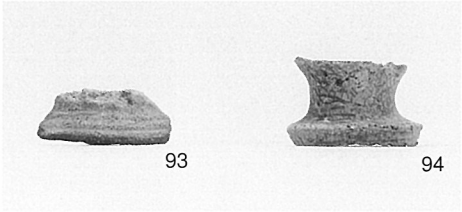

77

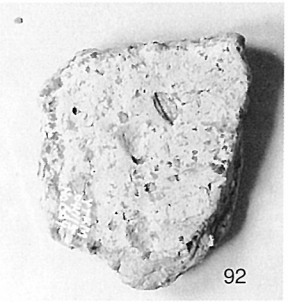

78
79
80
81
82
83
84
86
85
87

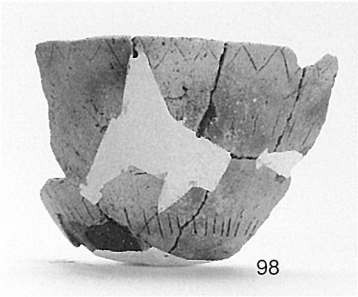

89

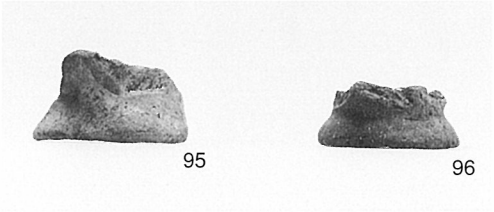
図版6（吉谷亀尾前遺跡）

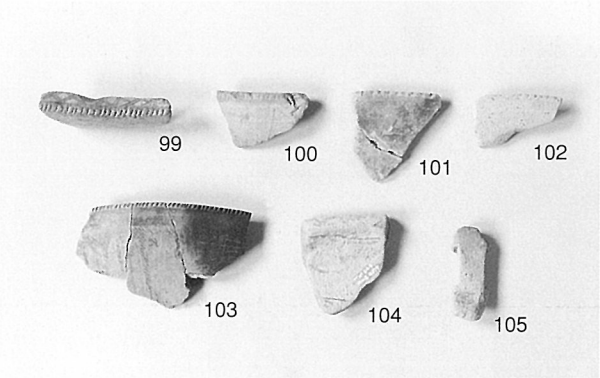

90
91


93
94

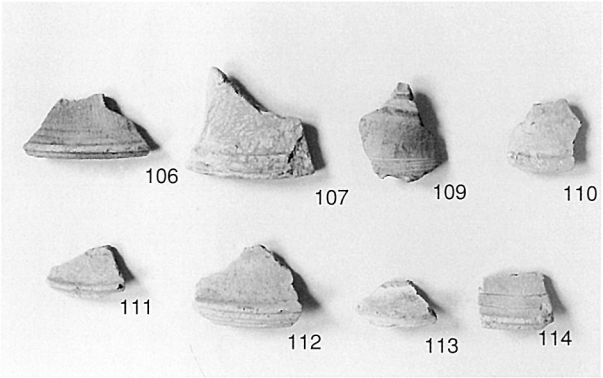

92


98

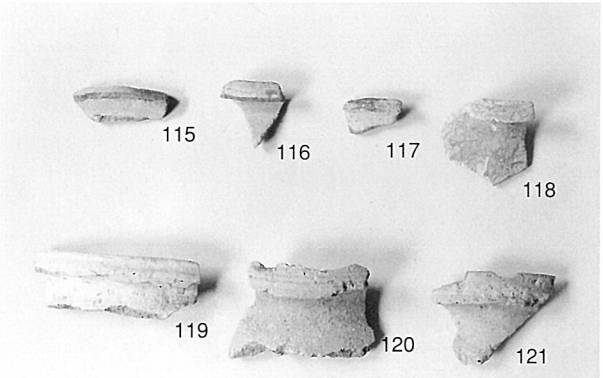

95
96

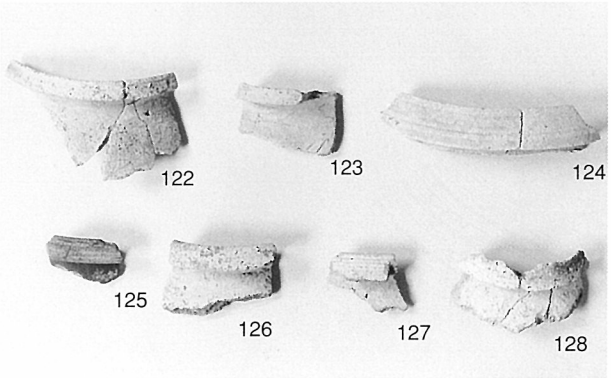

99
100
101
102
103
104
105

97

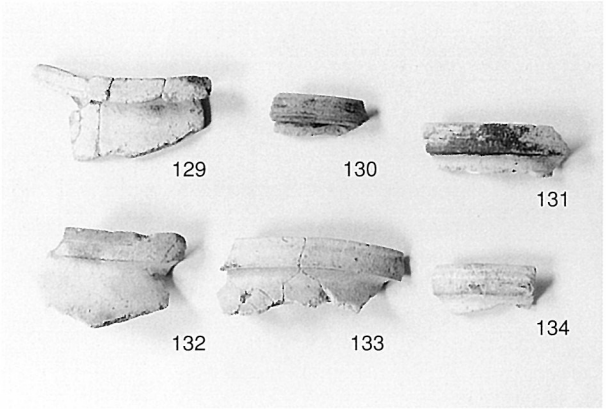

106
107
109
110
111
112
113
114

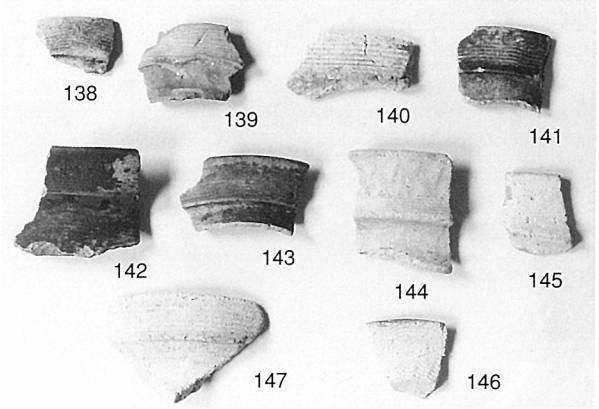
108

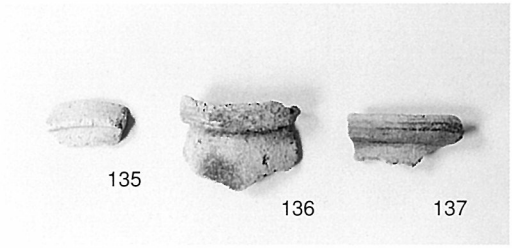

115
116
117
118
119
120
121

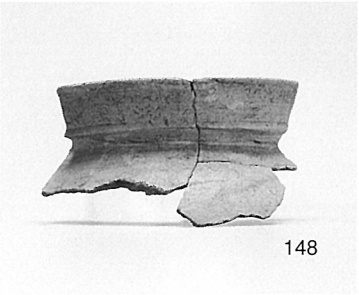

122
123
124
125
126
127
128

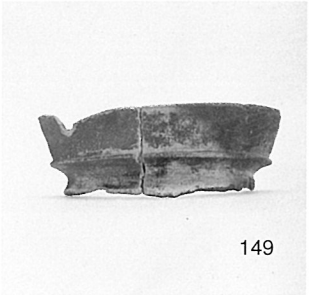
図版7（吉谷亀尾前遺跡）

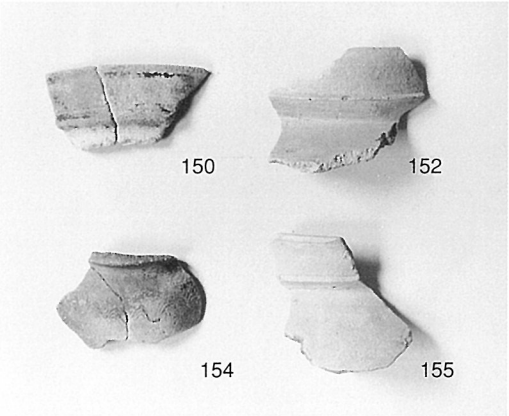

129
130
131
132
133
134

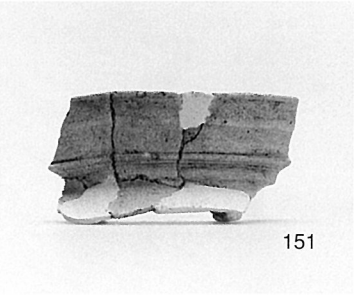

138
139
140
141
142
143
144
145
147
146

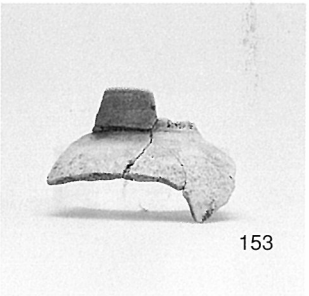

135
136
137

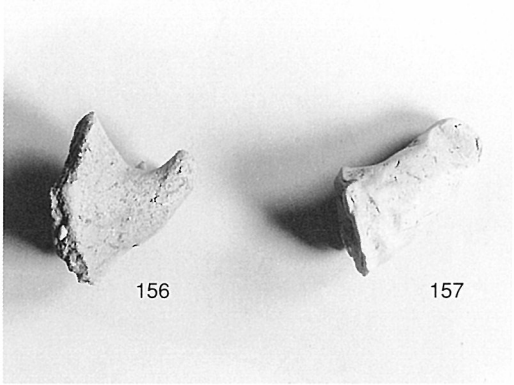

148


149


150
152
154
155

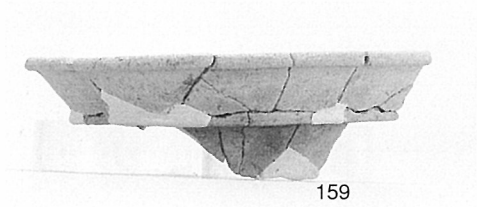

151

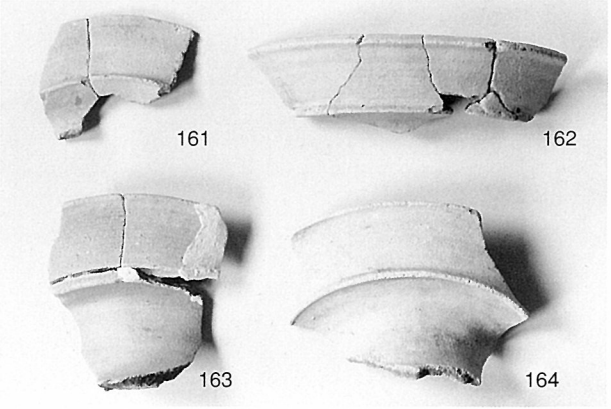

153


156
157

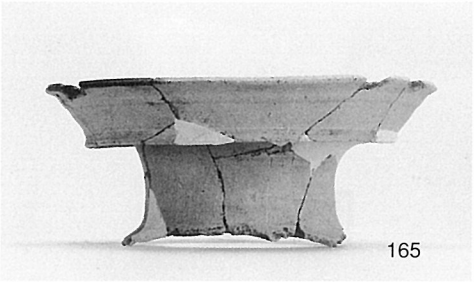
158

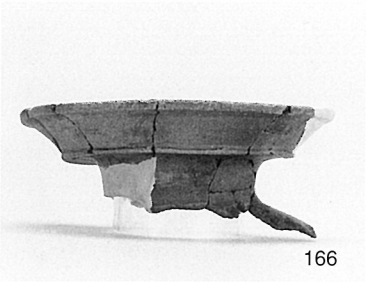
160

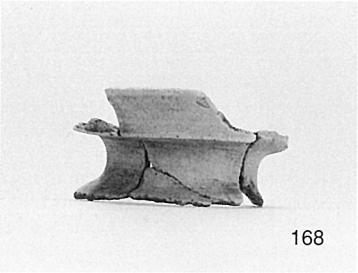

159

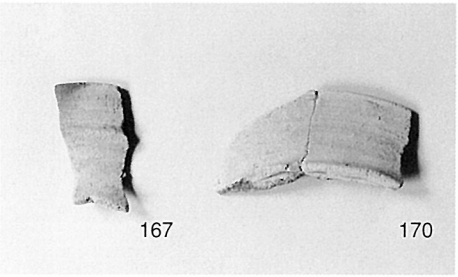

161
162
163
164

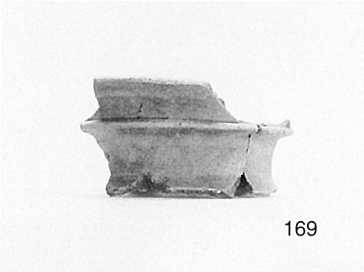
図版8（吉谷亀尾前遺跡）

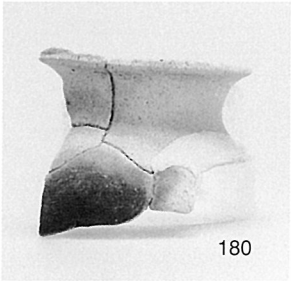

165


166


168

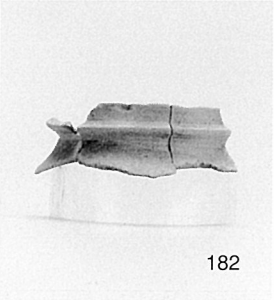

167 170

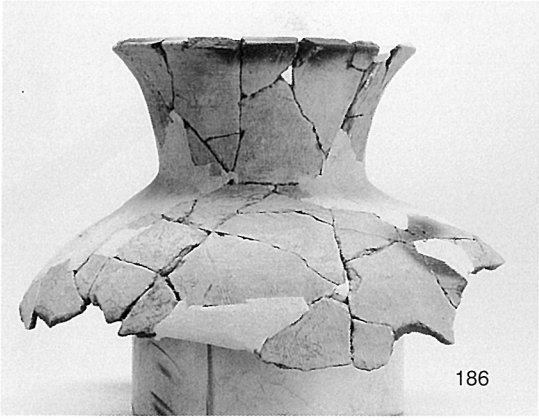

169

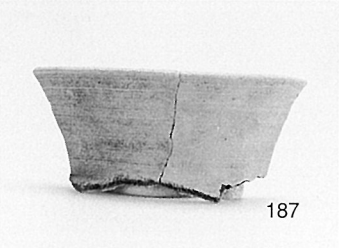

180

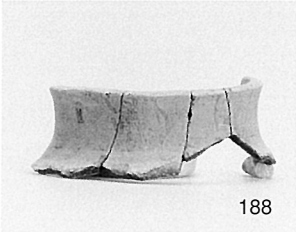
175

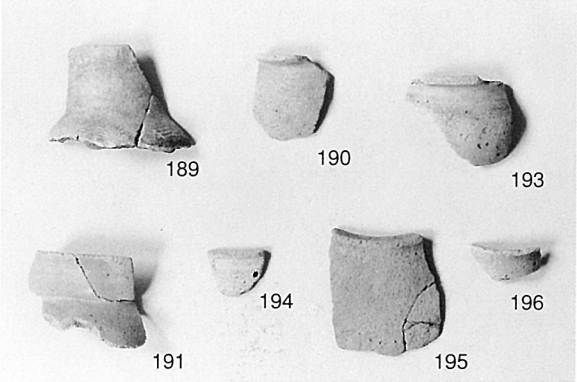
178


182

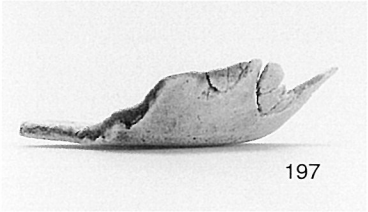

186


187

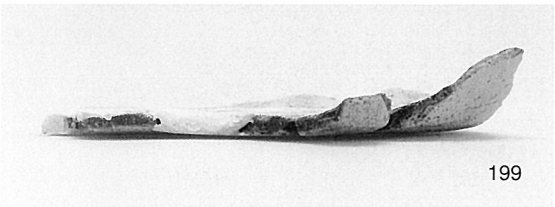

188


189 190 193 194 196 191 195

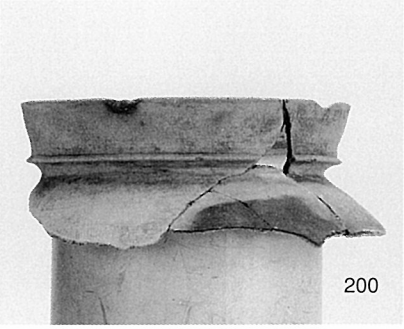
192


197

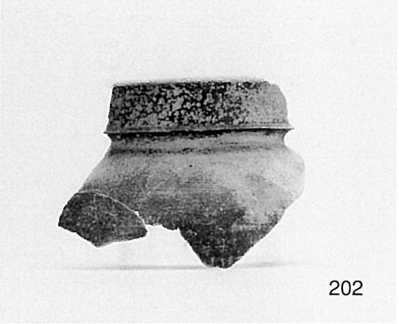
198

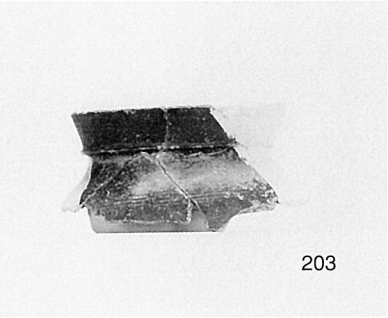

199

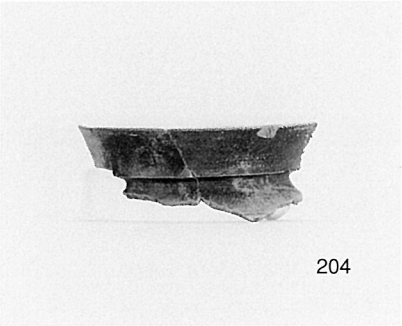
図版9（吉谷亀尾前遺跡）

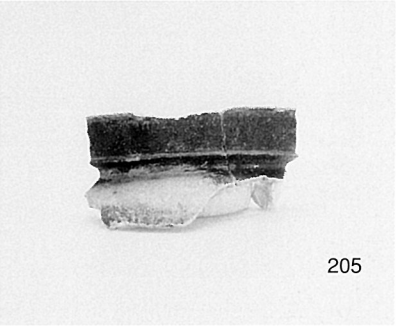

200

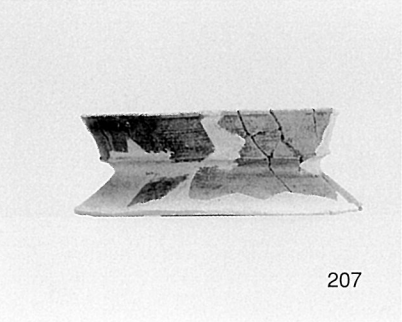
201

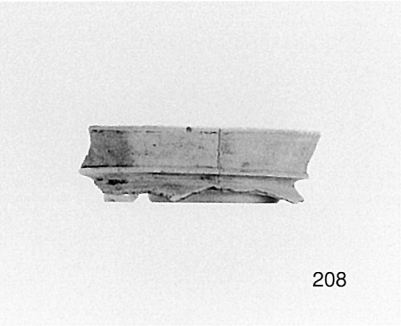

202

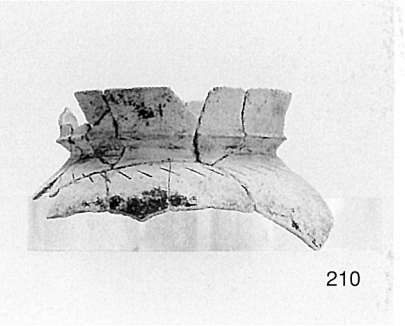

203


204


205


207


208

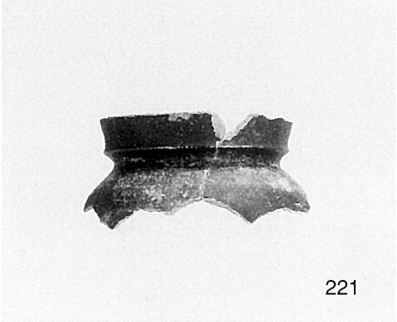

210

217

218

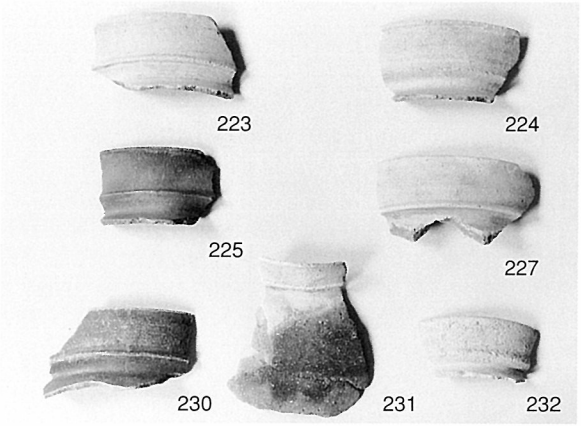
219

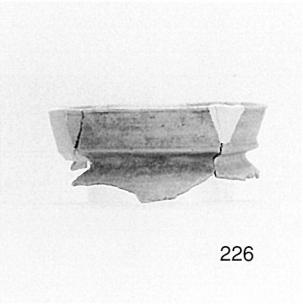
220

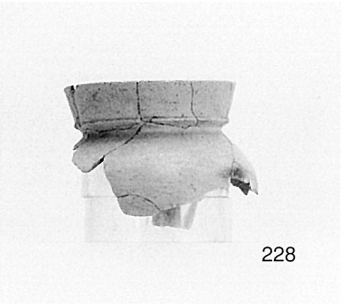

221

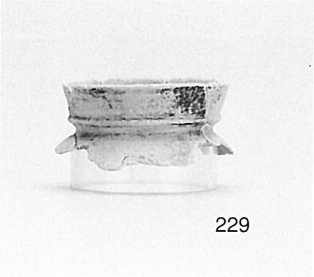
222

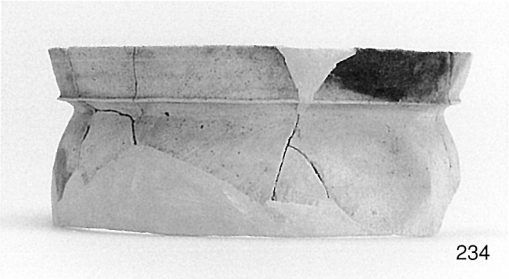
図版10（吉谷亀尾前遺跡）

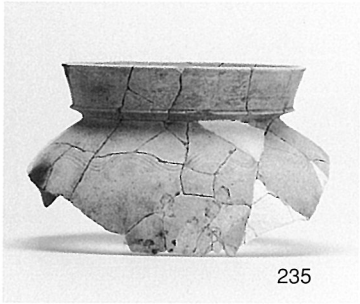


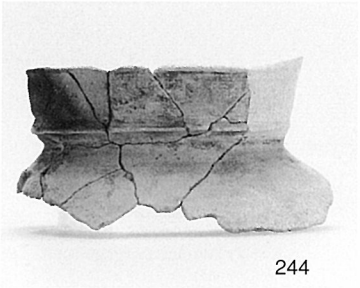


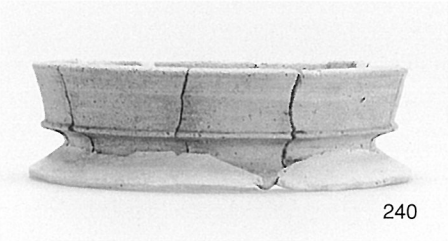


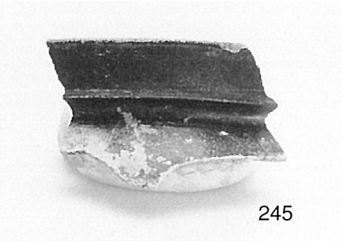


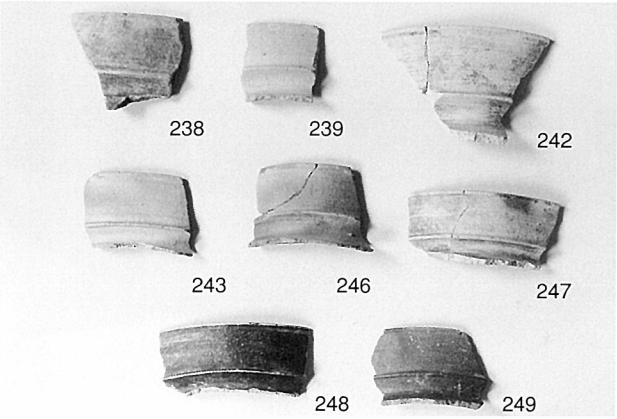


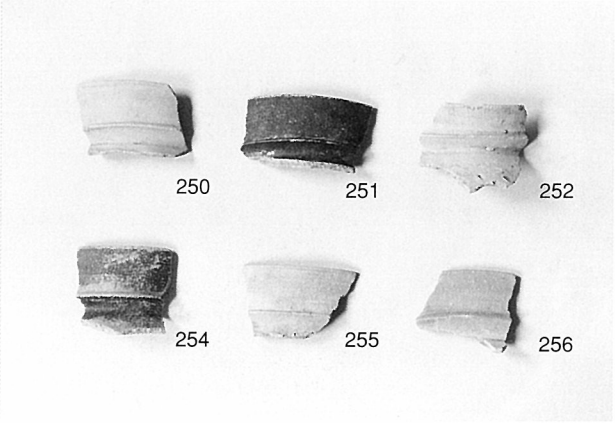




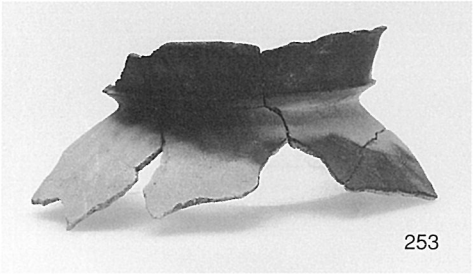


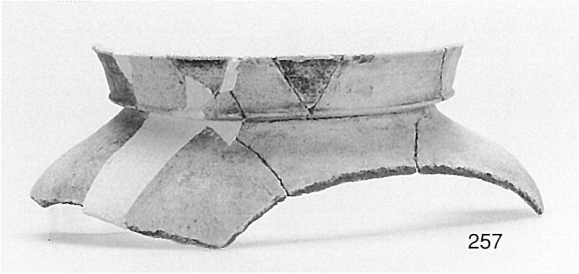


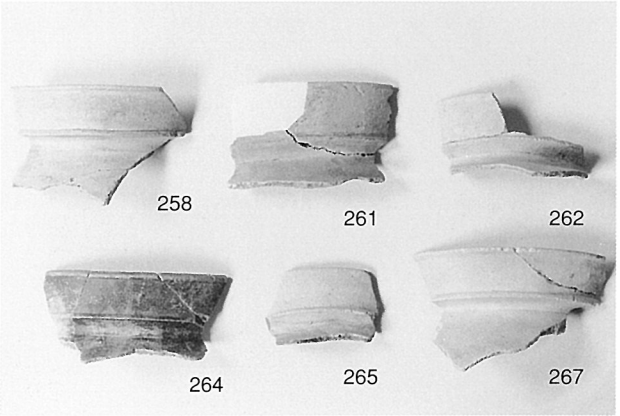


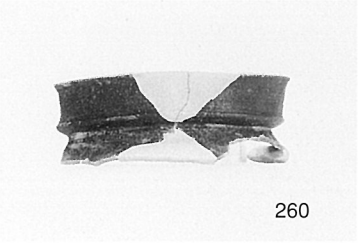


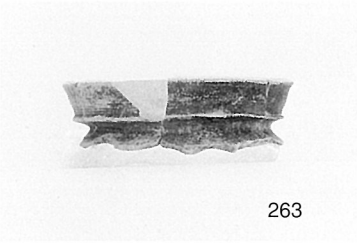
図版11（吉谷亀尾前遺跡）

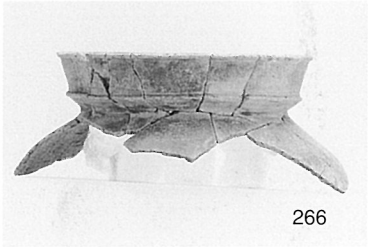


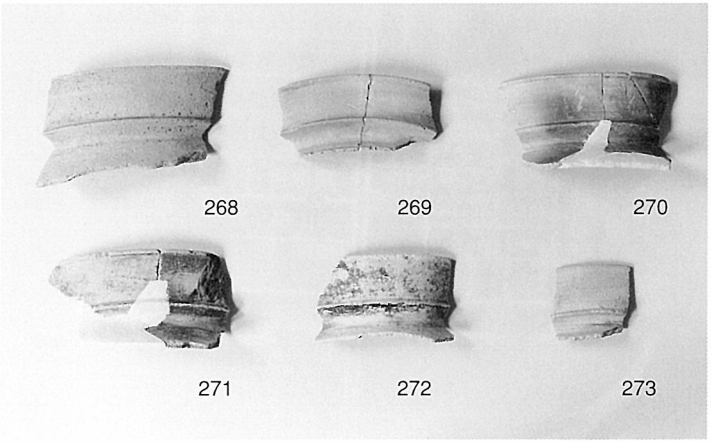


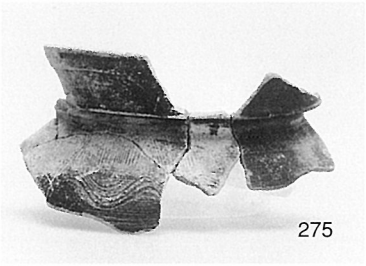


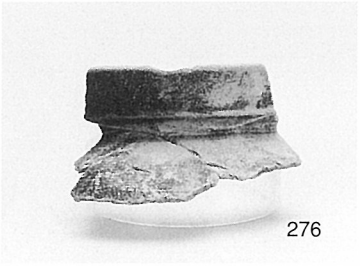




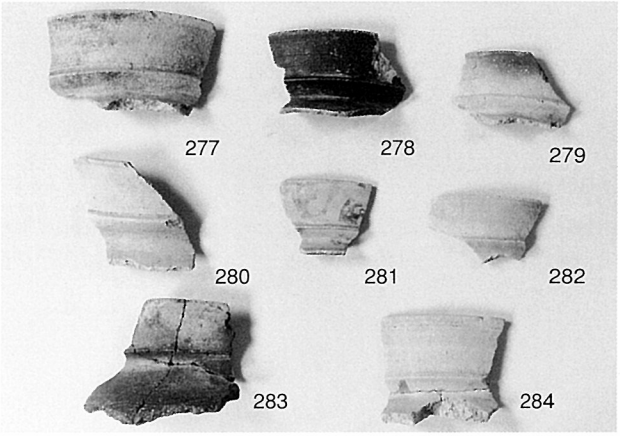


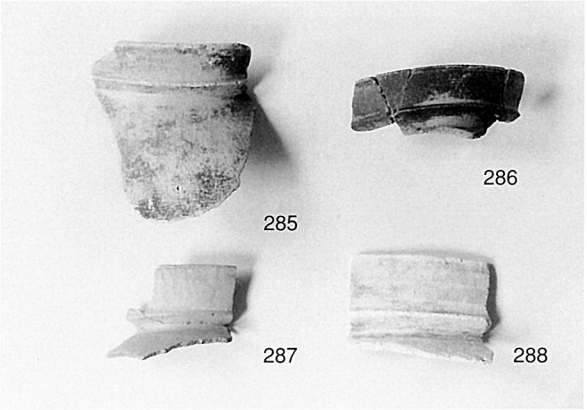


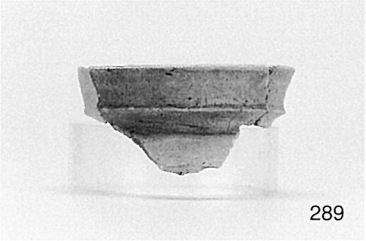


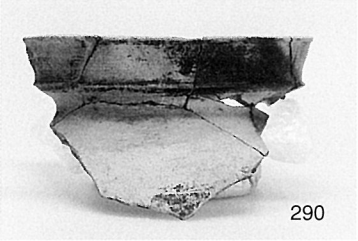


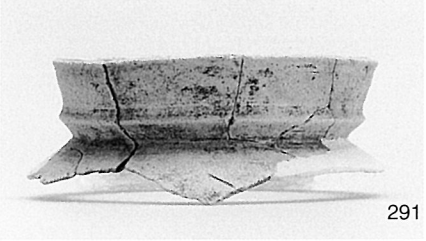
図版12（吉谷亀尾前遺跡）

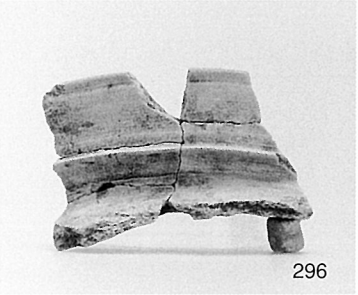


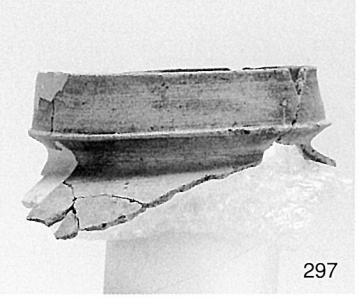


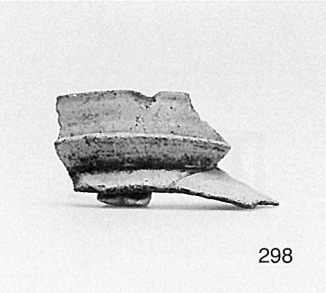


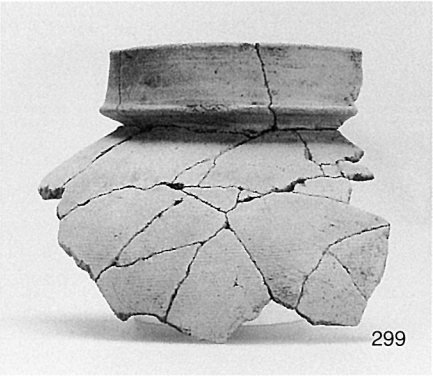


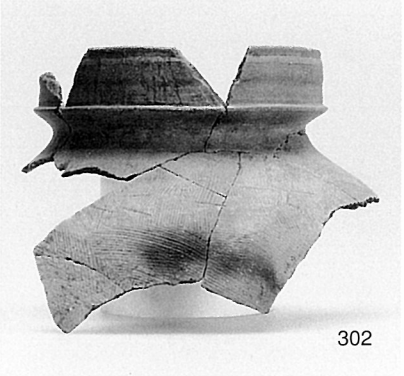


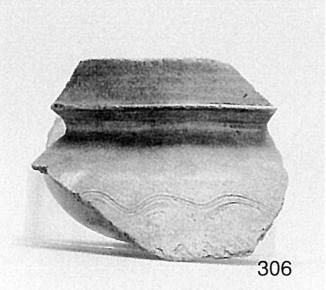


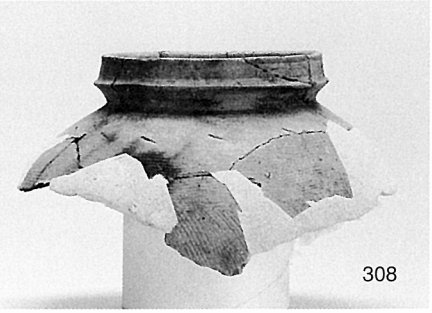






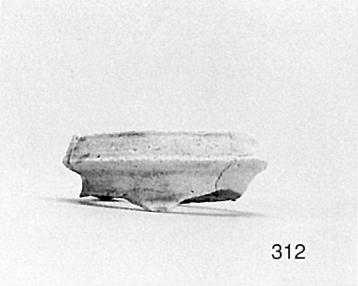




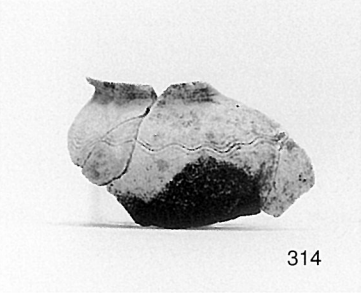


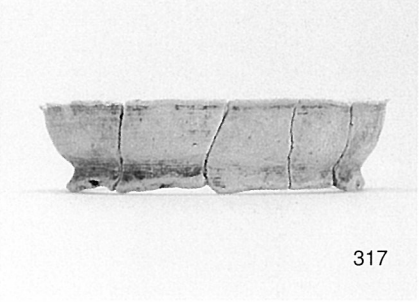
310

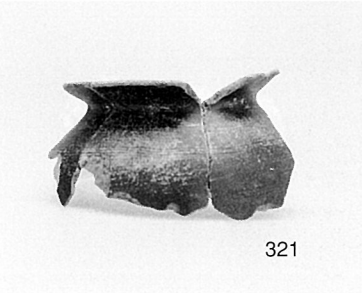
311

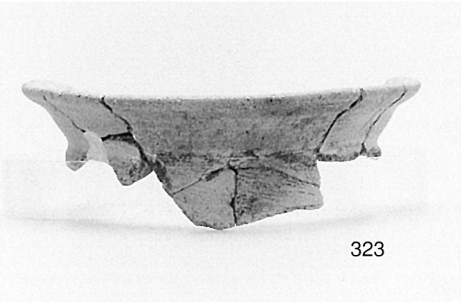

312

313


314

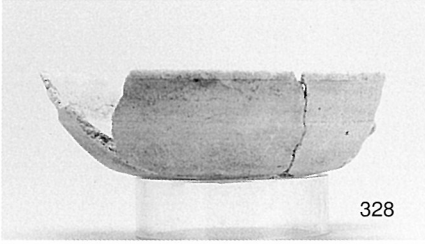

317


321


323

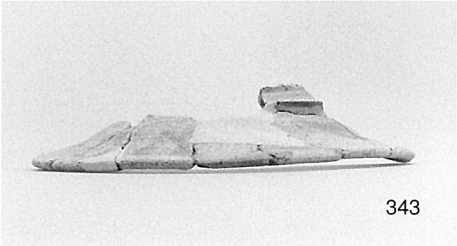
331

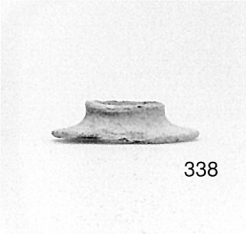
324

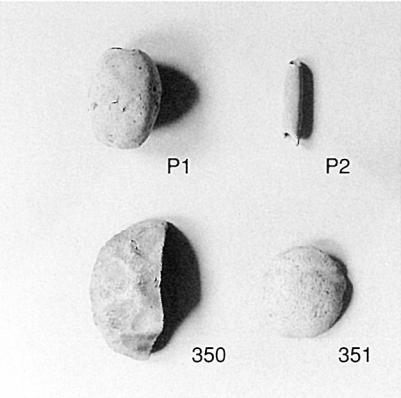

328

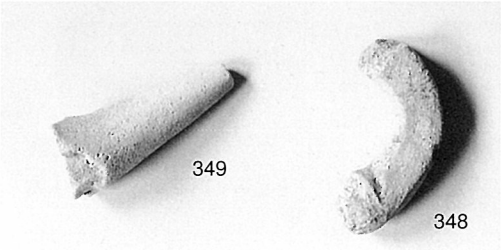
336

337

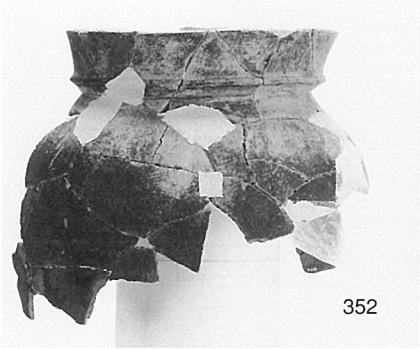

343

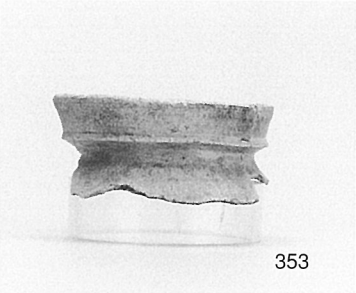

338

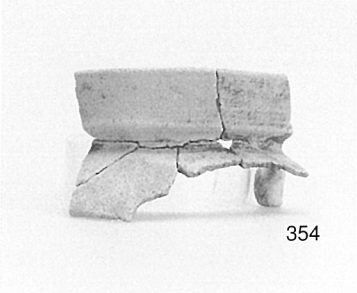


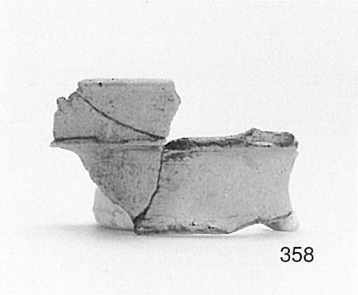


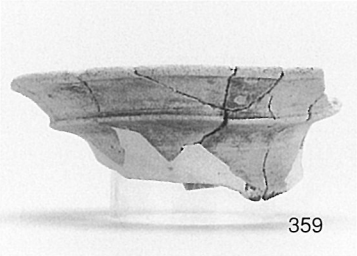
図版14（吉谷亀尾前遺跡）


352


353

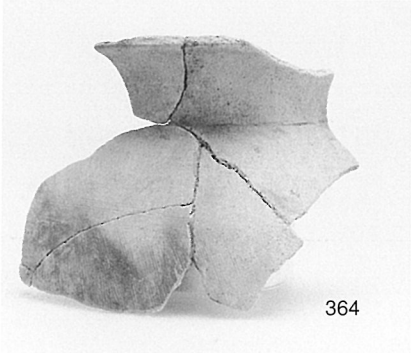

354

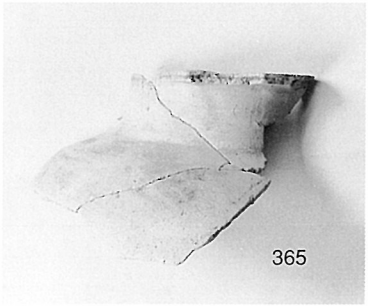

358


359

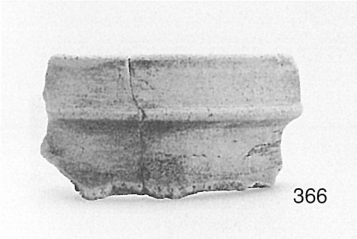
360

362


364

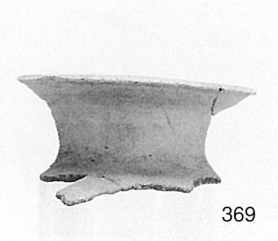

365

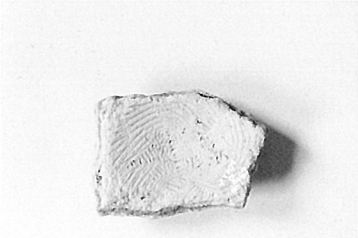
363


366

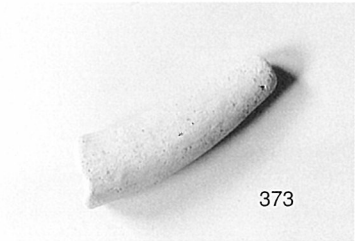
368

371

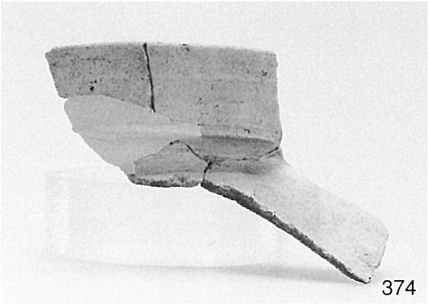

369

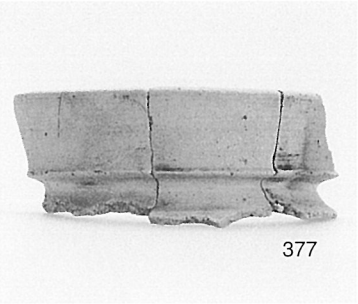


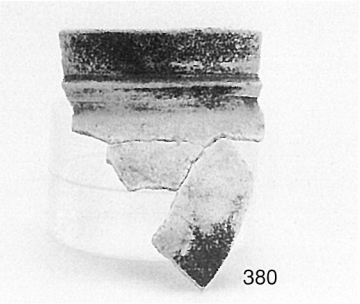
370


373

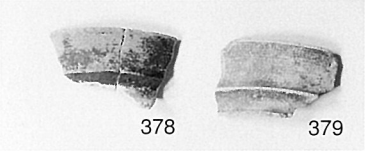
372

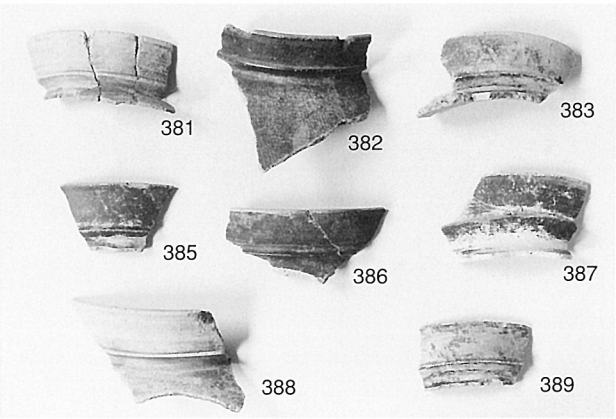

374

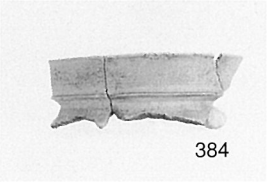

377

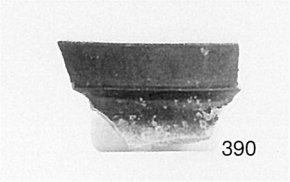

380

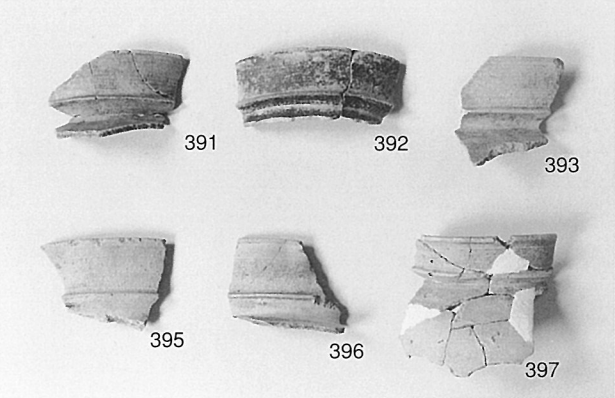
375

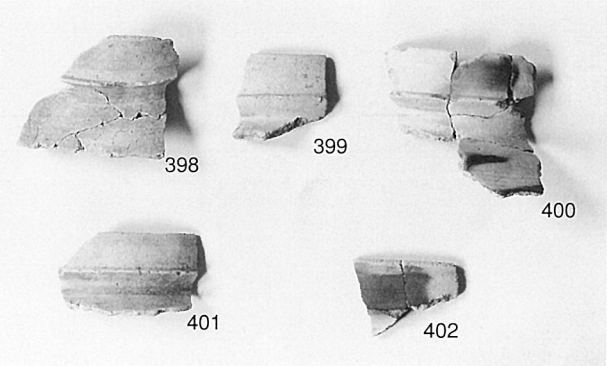

378 379


381 382 383 385 386 387 388 389

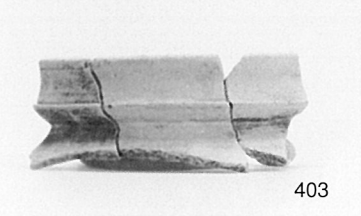

384

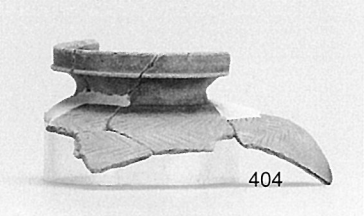

390

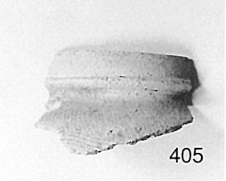

391 392 393 395 396 397

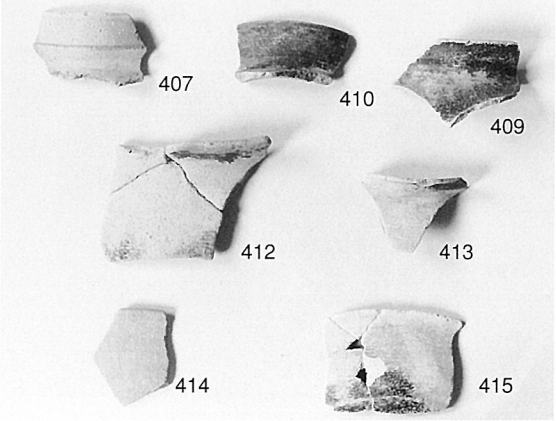

398 399 400 401 402

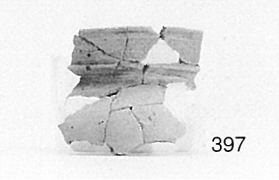
394

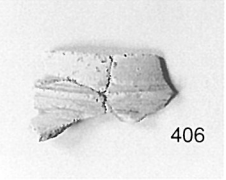

403


404

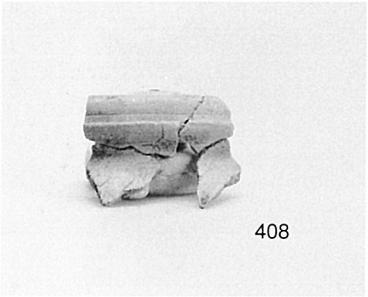

405

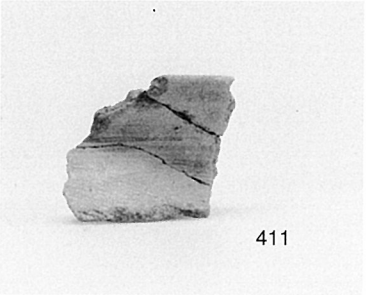

407 410 409 412 413 414 415

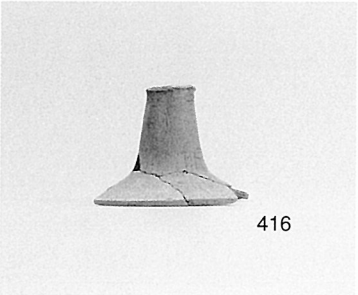

397

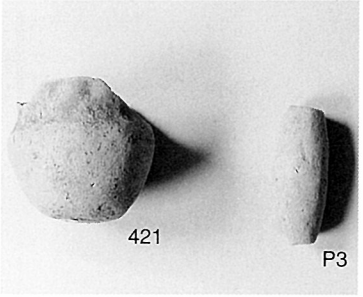

406

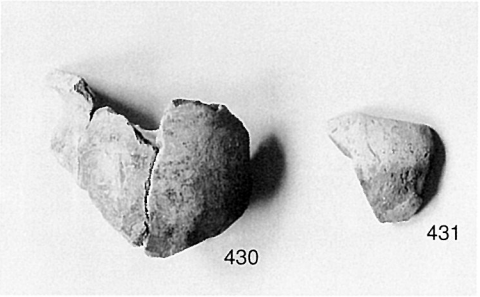
図版16（吉谷亀尾前遺跡）

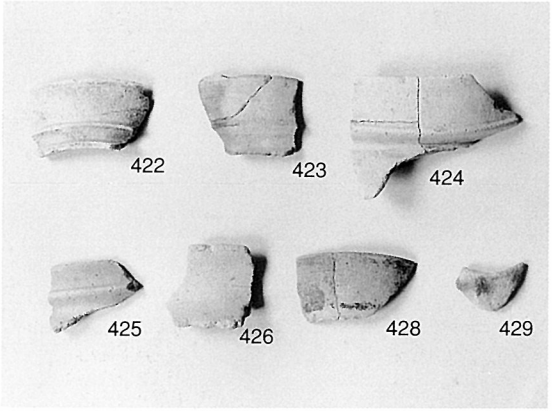


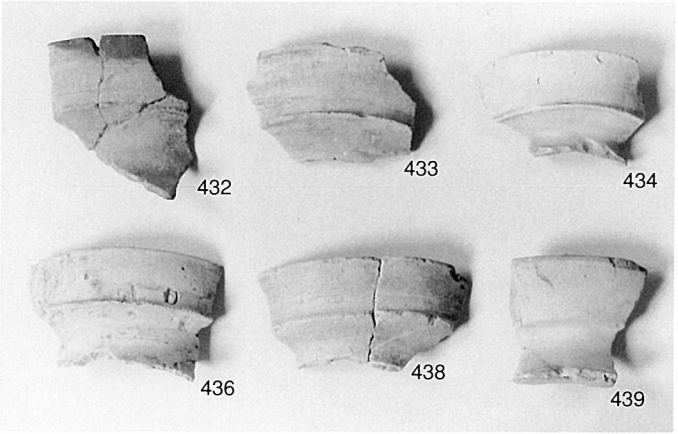


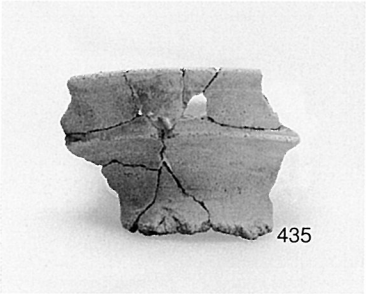


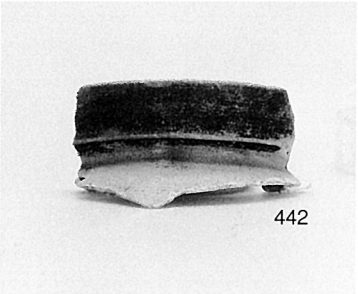


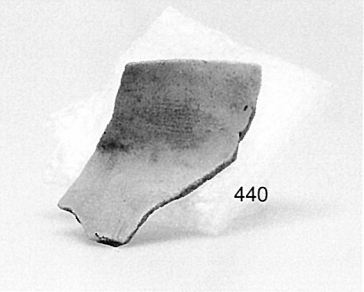


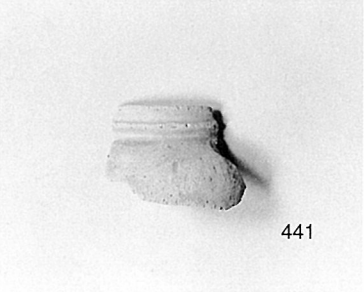


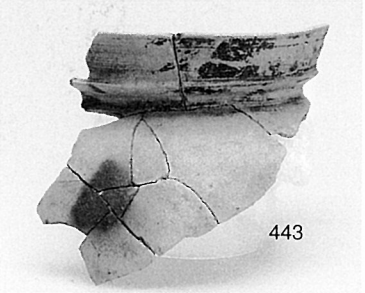


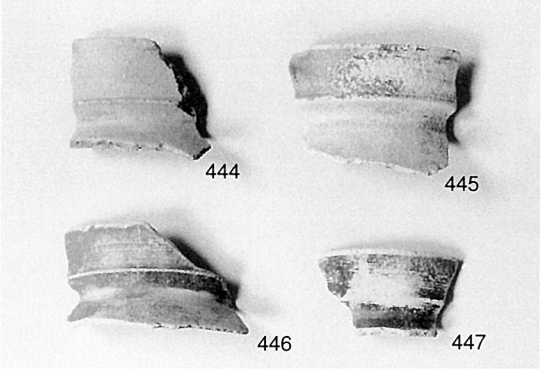


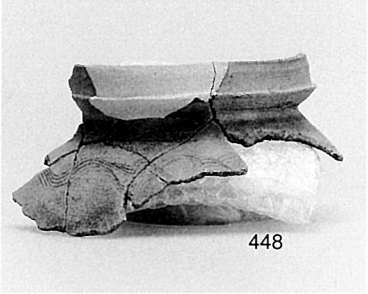


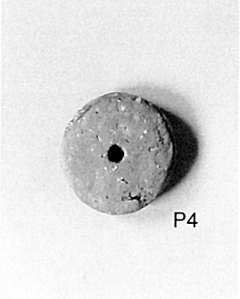


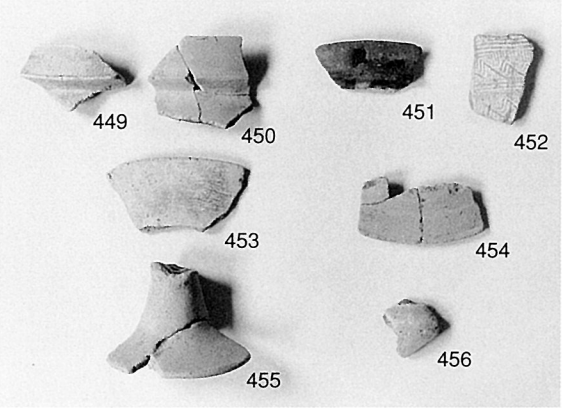


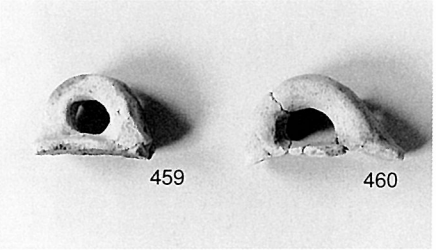



444
445
446
447

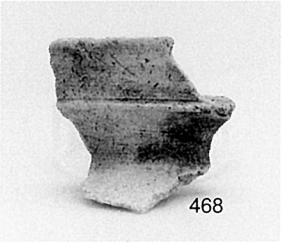

448

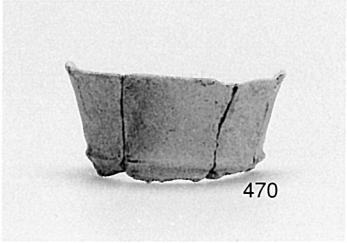

P4

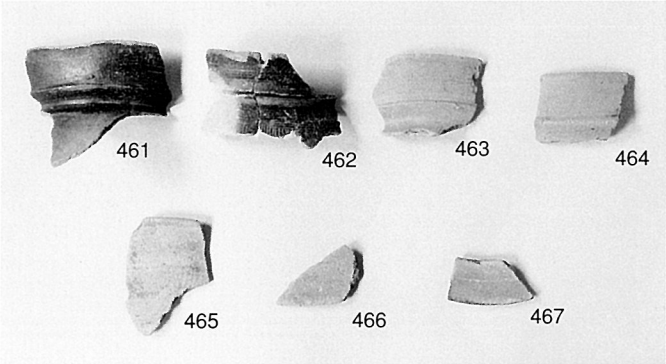

449
450
451
452
453
454
455
456

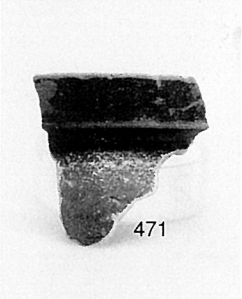

459
460

469

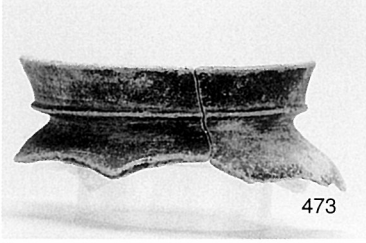

468

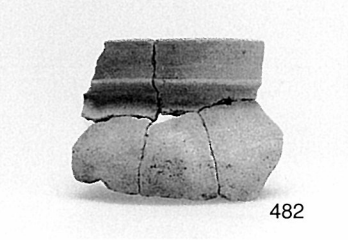

470

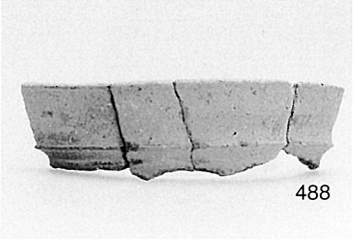

461
462
463
464
465
466
467

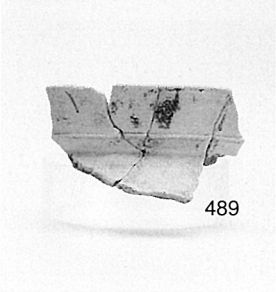

471

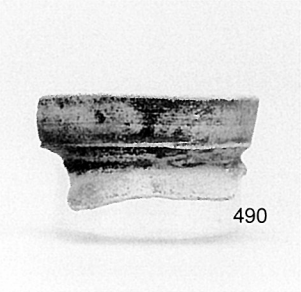
477


473


482


488


489

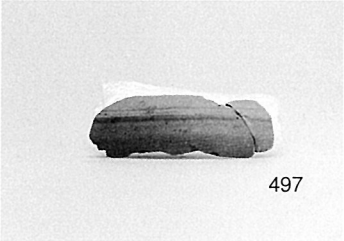

490

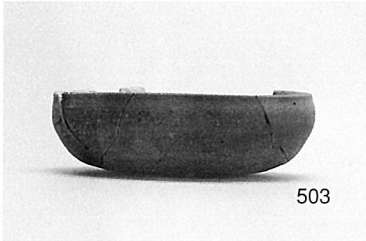
491

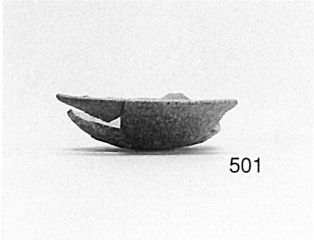
492

図版18（吉谷亀尾前遺跡）

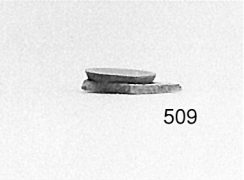
495


497

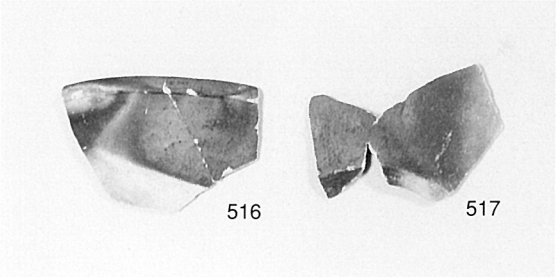

503

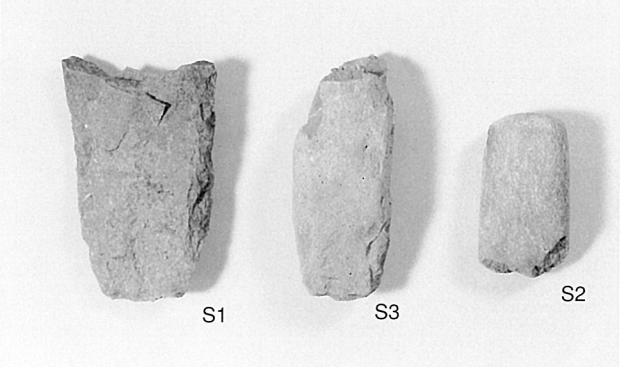

501

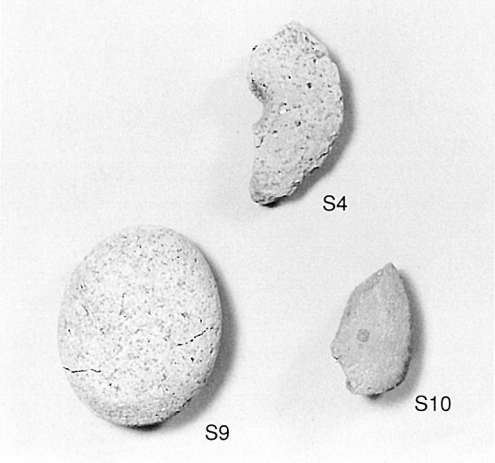
508

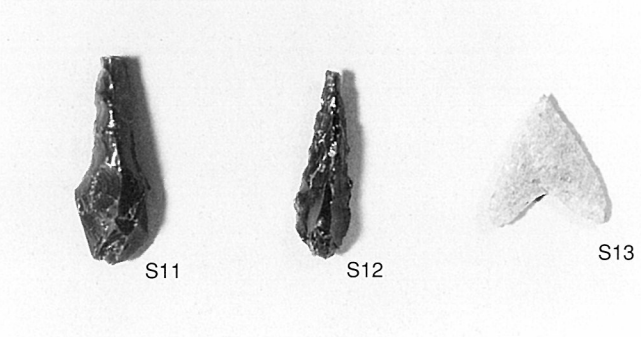

509

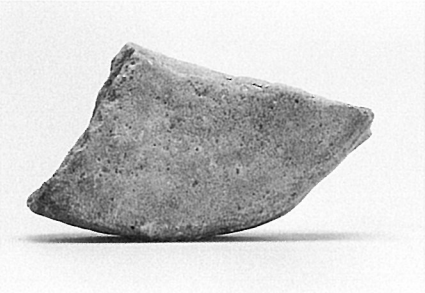
515

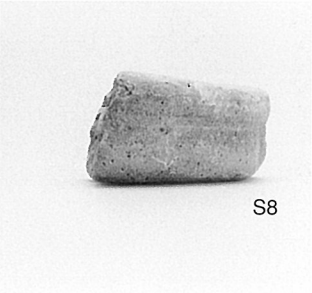

516 517


S1 S3 S2


S4 S9 S10

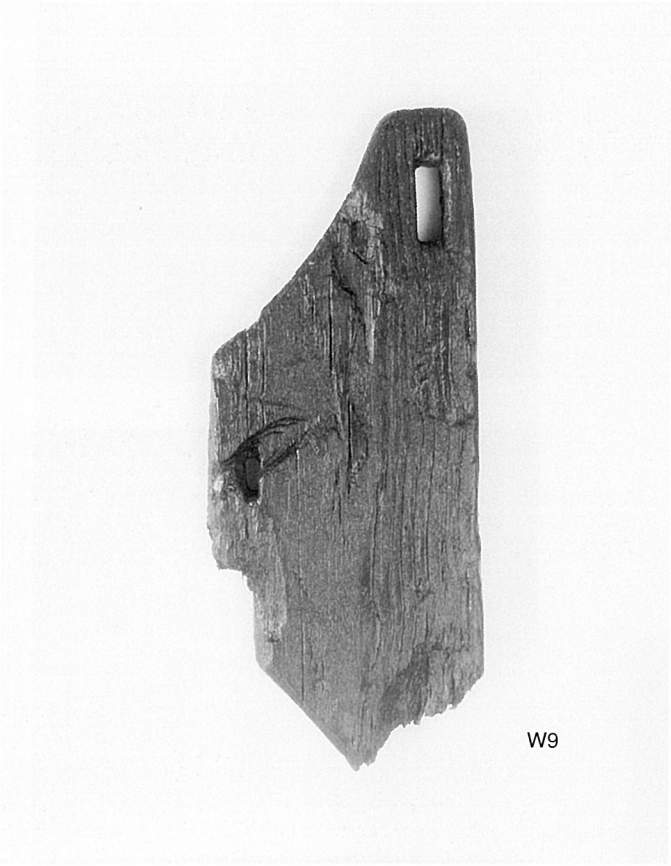

S11 S12 S13

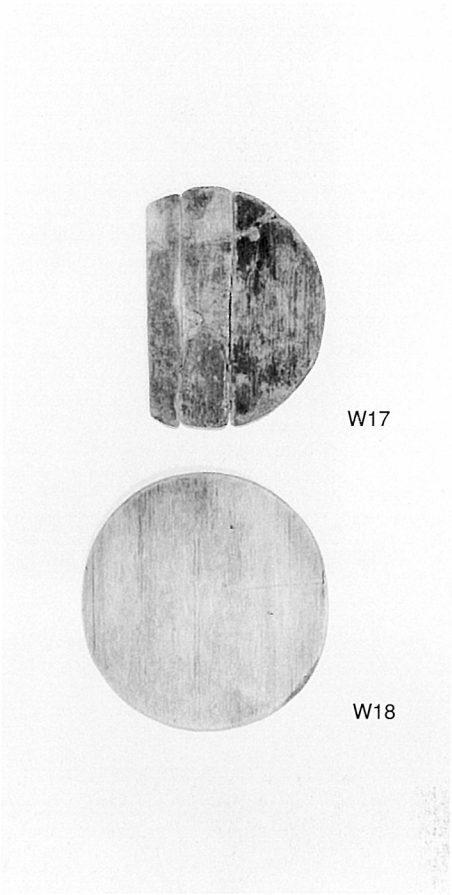


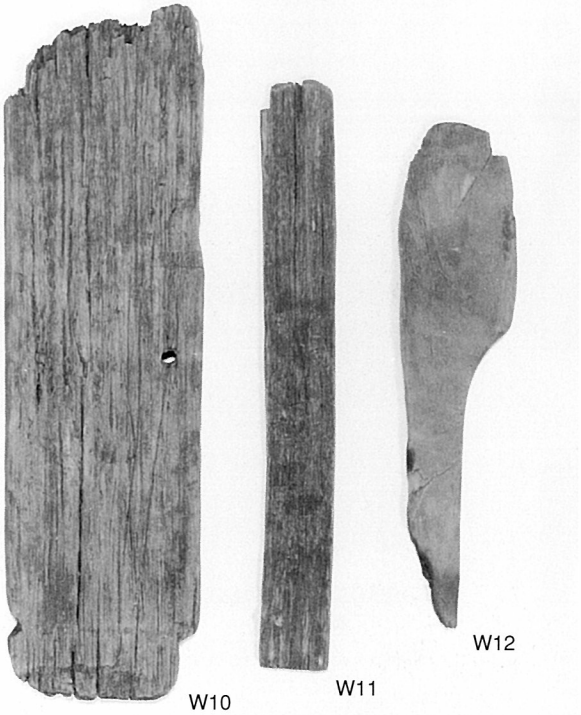

S8

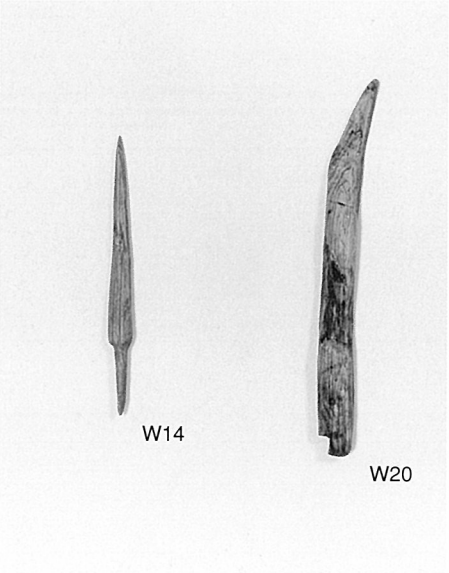
P5

図版19（吉谷亀尾前遺跡）

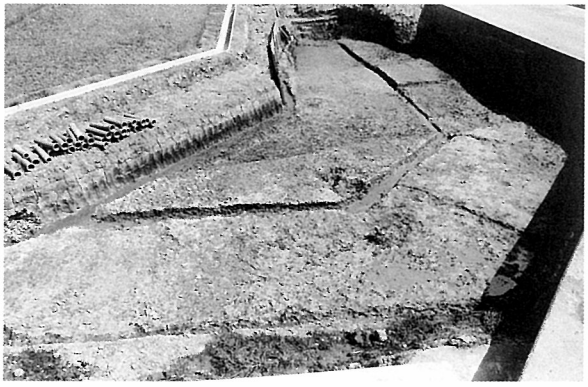






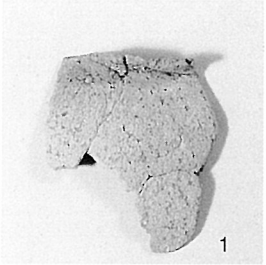


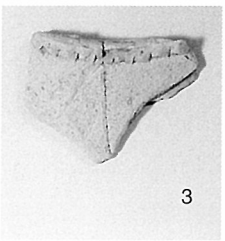
図版1（古市六反田遺跡）

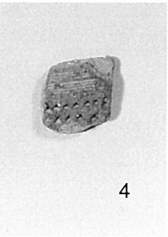


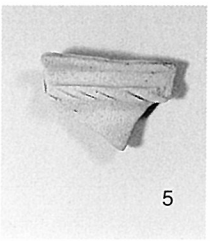
平成16年度調査後状況（南側より）	土層断面
平成16年度調査後状況（北側より）	平成17年度調査前風景
遺物出土状況	遺物出土状況
平成17年度調査後状況（南側より）	作業風景

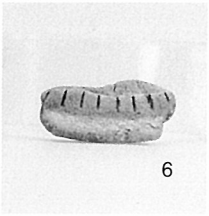
図版2（古市六反田遺跡）

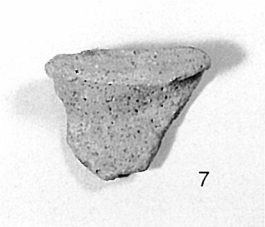

1

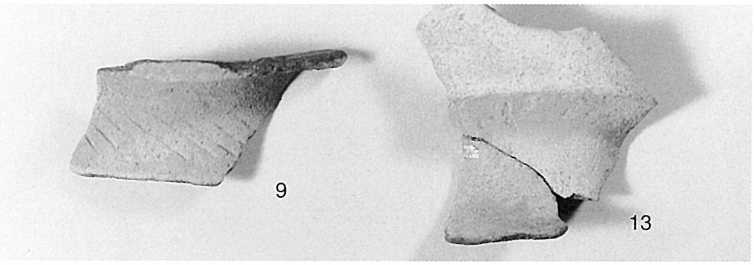

3


4

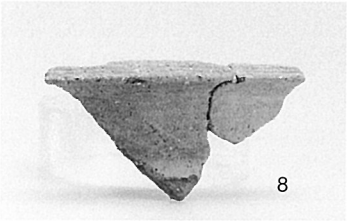

5

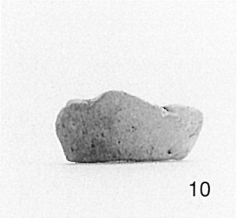

6

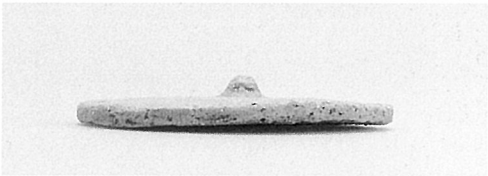

7

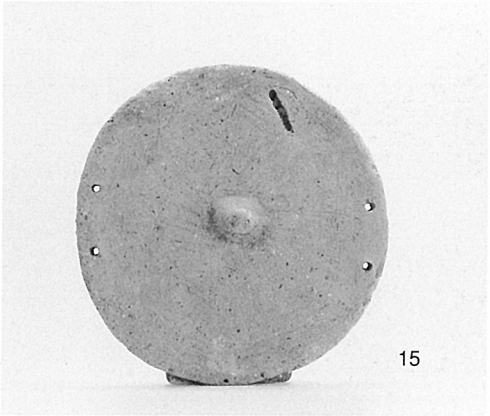

9

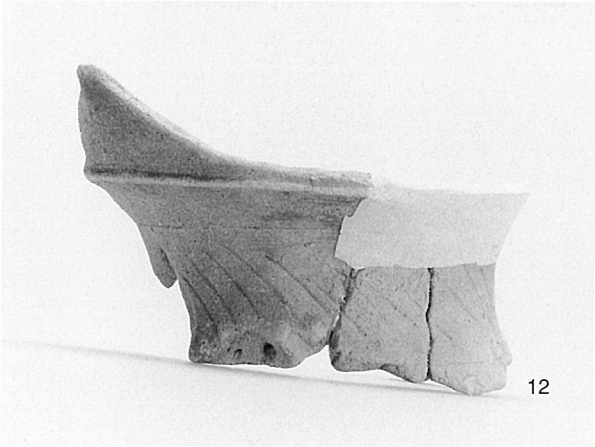
13

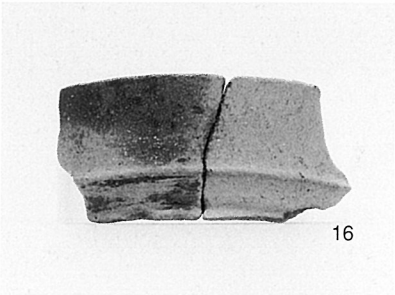

8

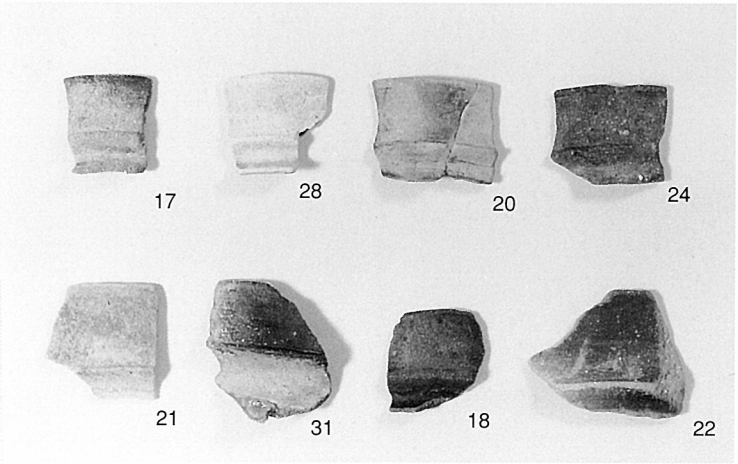

10




15


12


16


17

28

20

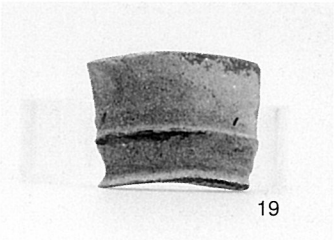
24

21

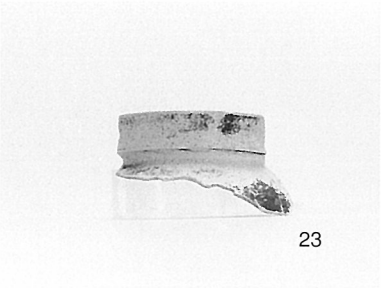
31

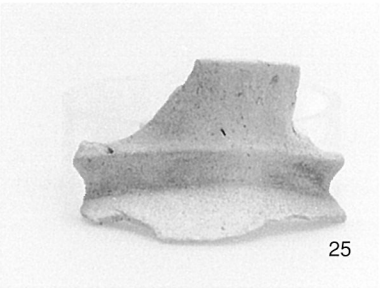
18

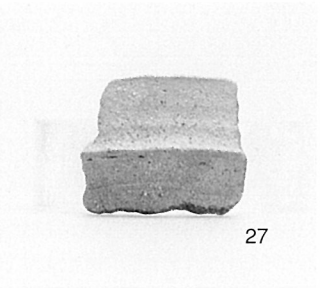
22

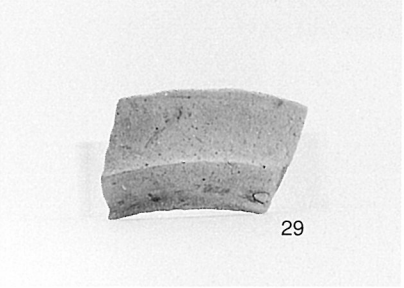

19

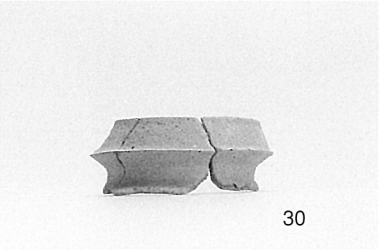
図版3（古市六反田遺跡）

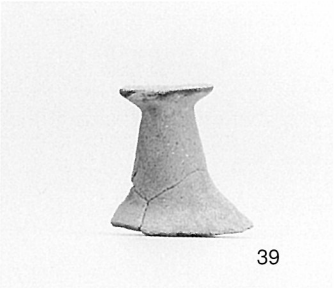


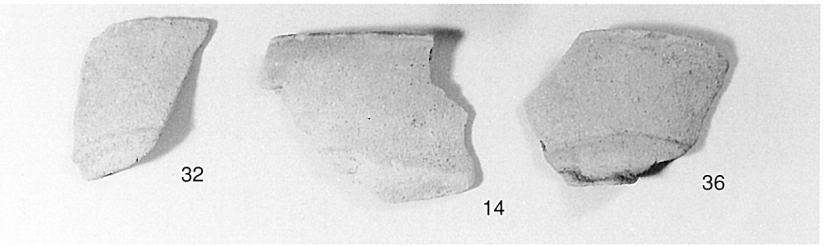


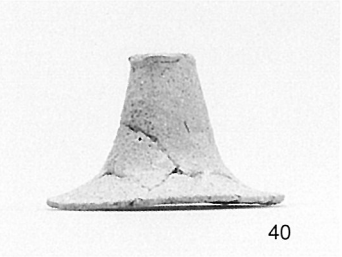


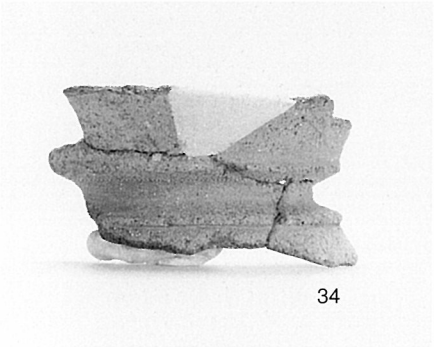


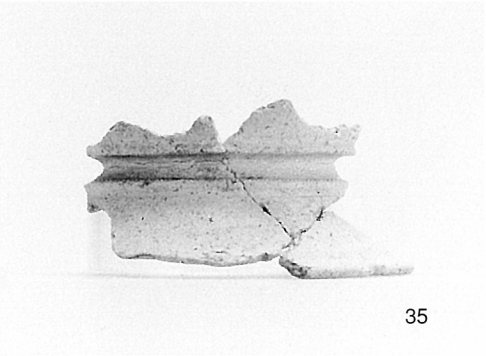


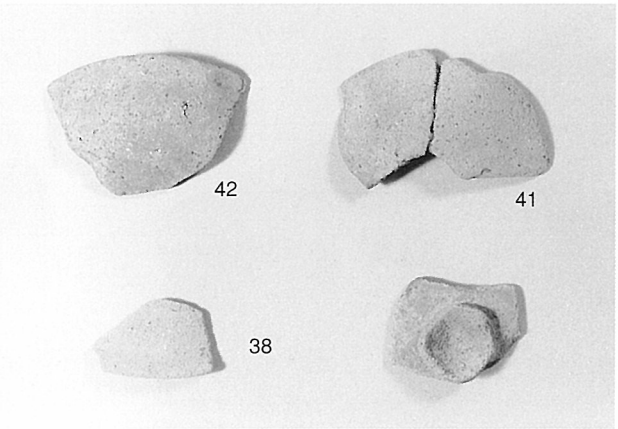


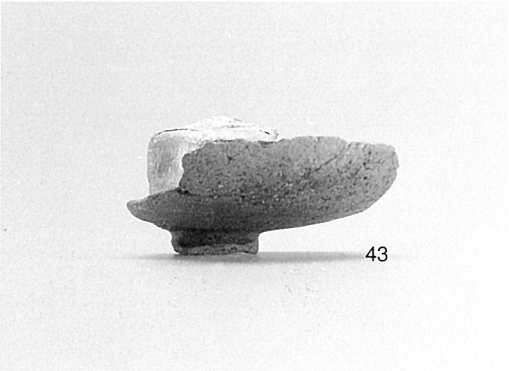




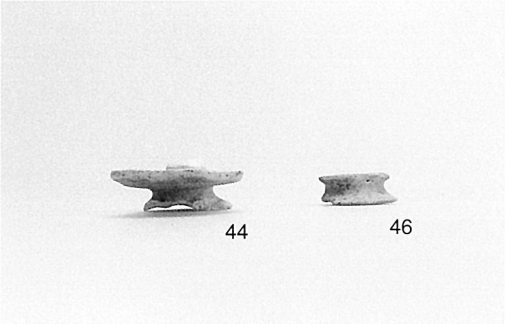


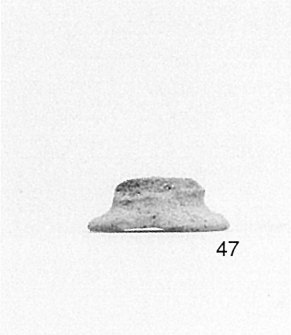


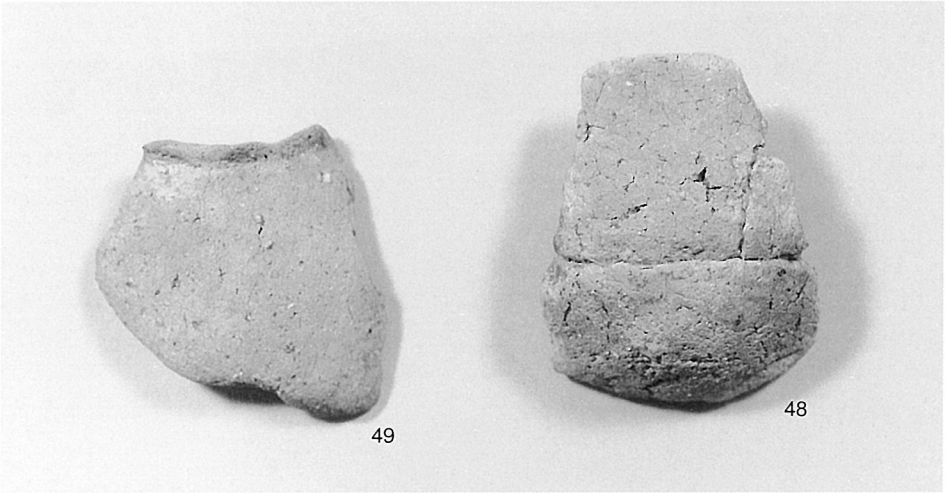




図版4（古市六反田遺跡）







報　告　書　抄　録

ふりがな	よしたにかめおまえいせき・ふるいちろくたんだいせき
書名	吉谷亀尾前遺跡・古市六反田遺跡
副書名	一般県道米子岸本線地方道路交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	(財)米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	51
編著者名	平木裕子
編集機関	財団法人 米子市教育文化事業団 埋蔵文化財調査室
所在地	〒683－0033 鳥取県米子市長砂町935番地1　TEL・FAX0859－22－7209 eメールアドレス　maibun@sanmedia.or.jp
発行年月日	西暦2006年3月31日　平成18年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
吉谷亀尾前遺跡	鳥取県米子市吉谷	31202		35度23分24秒	133度20分46秒	平成16年10月12日～平成16年12月28日	490㎡	道路建設工事
古市六反田遺跡	鳥取県米子市古市	31202		35度23分24秒	133度20分41秒	・平成16年12月22日～平成17年1月11日・平成17年6月1日～平成17年6月17日	250㎡	道路建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉谷亀尾前遺跡	散布地	弥生時代～古墳時代	溝状遺構・池状遺構・土壙	弥生土器、土師器、須恵器、石器、木器	
古市六反田遺跡	散布地	弥生時代～古墳時代	なし	弥生土器、土師器	

要　約

吉谷亀尾前遺跡・古市六反田遺跡は、米子市街地の南西約4kmに位置し、南の丘陵を越えると南部町、西の丘陵を越えると島根県という、県・市町村の境界の地である。

今回の調査では、遺構としては溝状遺構・池状遺構・土壙が確認された。池状遺構は壁面に粘土を貼るなど、水を溜めるための工夫がされている。遺物は弥生土器、土師器など弥生時代から古墳時代の遺物が出土している。特に土師器は多量に出土している。

(財)米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書５１

吉谷亀尾前遺跡・古市六反田遺跡

２００６年3月

編集・発行　財団法人　米子市教育文化事業団

〒６８３－００３３　鳥取県米子市長砂町９３５－１

印　　刷　(有)米子プリント社